

平成30年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて	43
	仕事と生活の調和に関することについて	87
	地域社会に関することについて	121
	男女の人権に関することについて	129
	男女共同参画施策に関することについて	137
	資 料	141
	単純集計	143
	自由意見	165
	調 査 票	175

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

平成30年9月18日現在で長野市に在住する20歳以上75歳未満の男女各1,000人
(計:2,000人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

5 調査時期

平成30年9月28日(金) ～ 平成30年10月15日(月)

6 送付・回収状況

送付数:2,000票

回収数:809票 (回収率:40.5%)

【男性票:338票、女性票:470票 性別無回答:1票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無

F配偶者またはパートナーの就業の有無 G子の有無

(1) 一般的な質問

(2) 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関する質問

(3) 仕事と生活の調和に関する質問

(4) 地域社会に関する質問

(5) 男女の人権に関する質問

(6) 男女共同参画施策に関する質問

(7) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

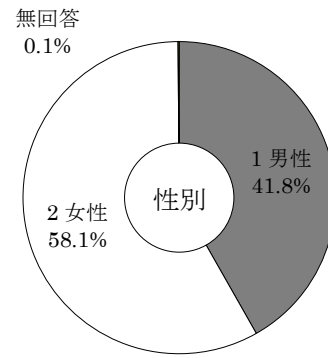
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。

II 回答者の属性

A 性別

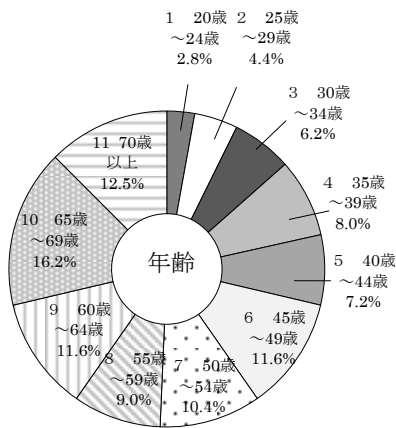
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	338	41.8
2 女性	470	58.1
無回答	1	0.1
合計	809	100.0



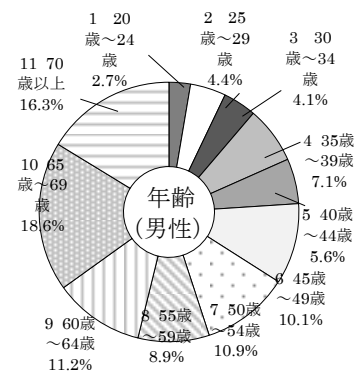
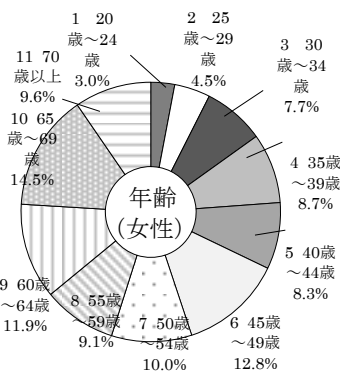
B 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳～24歳	23	14	9	0	2.8	3.0	2.7	0.0
2 25歳～29歳	36	21	15	0	4.4	4.5	4.4	0.0
3 30歳～34歳	50	36	14	0	6.2	7.7	4.1	0.0
4 35歳～39歳	65	41	24	0	8.0	8.7	7.1	0.0
5 40歳～44歳	58	39	19	0	7.2	8.3	5.6	0.0
6 45歳～49歳	94	60	34	0	11.6	12.8	10.1	0.0
7 50歳～54歳	84	47	37	0	10.4	10.0	10.9	0.0
8 55歳～59歳	73	43	30	0	9.0	9.1	8.9	0.0
9 60歳～64歳	94	56	38	0	11.6	11.9	11.2	0.0
10 65歳～69歳	131	68	63	0	16.2	14.5	18.6	0.0
11 70歳以上	101	45	55	1	12.5	9.6	16.3	100.0
合計	809	470	338	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



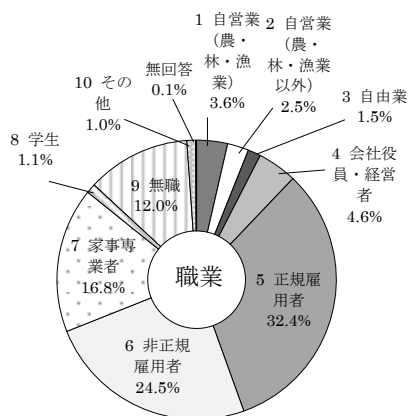
【男女別】



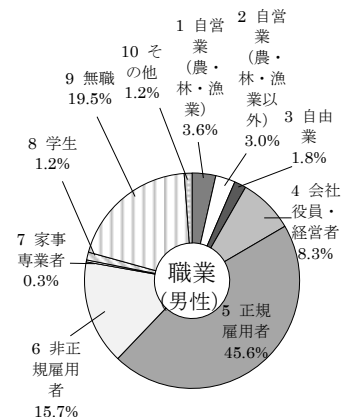
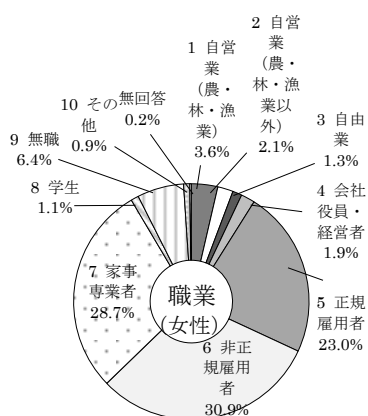
C 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	29	17	12	0	3.6	3.6	3.6	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	20	10	10	0	2.5	2.1	3.0	0.0
3 自由業	12	6	6	0	1.5	1.3	1.8	0.0
4 会社役員・経営者	37	9	28	0	4.6	1.9	8.3	0.0
5 正規雇用者	262	108	154	0	32.4	23.0	45.6	0.0
6 非正規雇用者	198	145	53	0	24.5	30.9	15.7	0.0
7 家事専業者	136	135	1	0	16.8	28.7	0.3	0.0
8 学生	9	5	4	0	1.1	1.1	1.2	0.0
9 無職	97	30	66	1	12.0	6.4	19.5	100.0
10 その他	8	4	4	0	1.0	0.9	1.2	0.0
無回答	1	1	0	0	0.1	0.2	0.0	0.0
合計	809	470	338	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

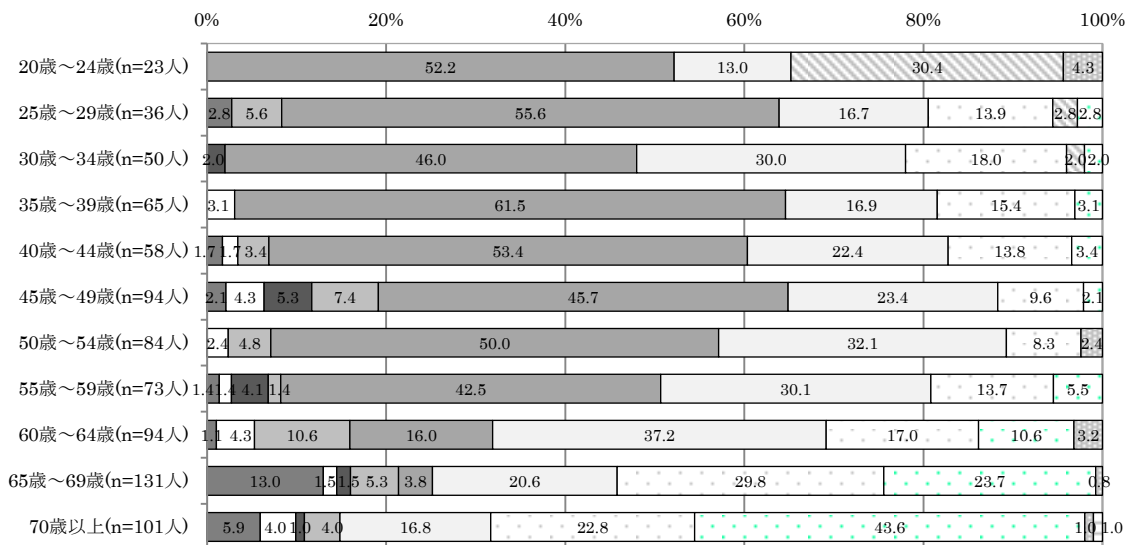


【男女別】



【年代別】

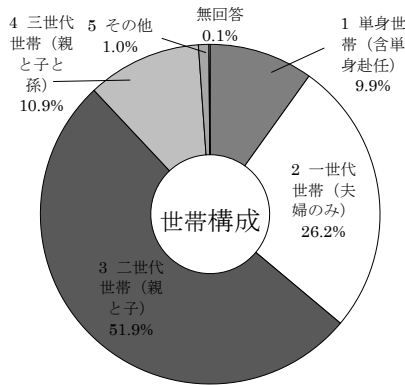
- 自営業 (農・林・漁)
- 正規雇用者
- 無職
- 自営業 (農・林・漁以外)
- 非正規雇用者
- その他
- 自由業
- 家事専業者
- 無回答
- 会社役員・経営者
- 学生



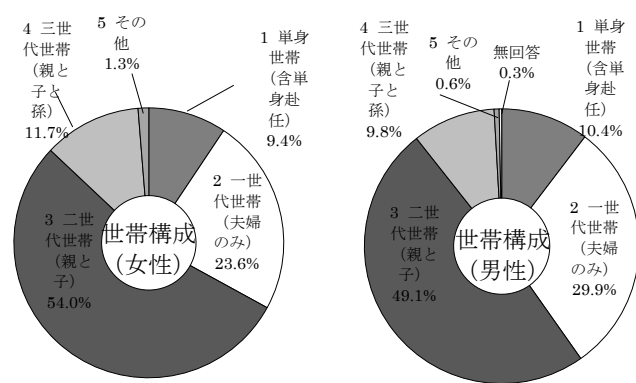
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	80	44	35	1	9.9	9.4	10.4	100.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	212	111	101	0	26.2	23.6	29.9	0.0
3 二世代世帯（親と子）	420	254	166	0	51.9	54.0	49.1	0.0
4 三世代世帯（親と子と孫）	88	55	33	0	10.9	11.7	9.8	0.0
5 その他	8	6	2	0	1.0	1.3	0.6	0.0
無回答	1	0	1	0	0.1	0.0	0.3	0.0
合計	809	470	338	1	100.0	100.0	100.0	100.0

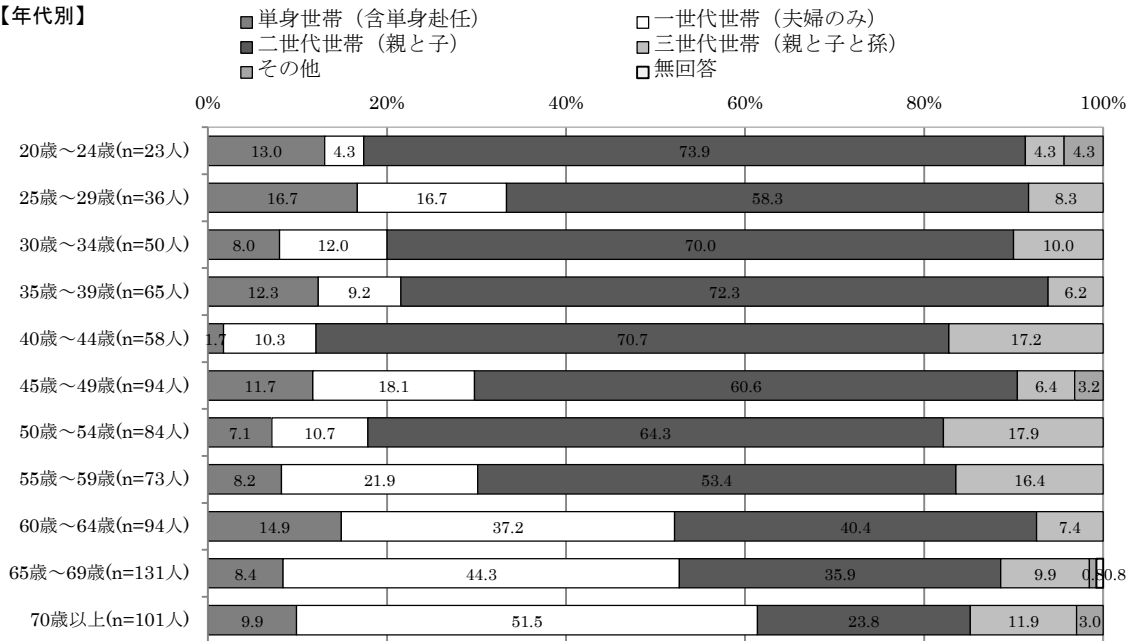
【全体】



【男女別】



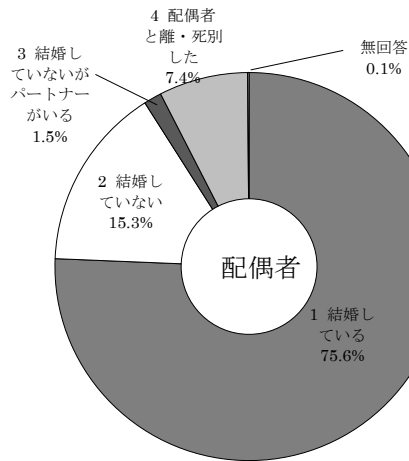
【年代別】



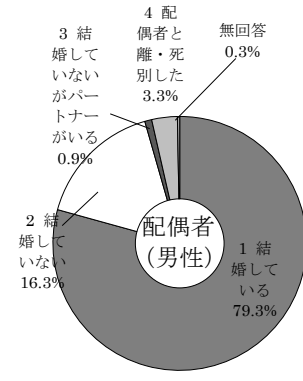
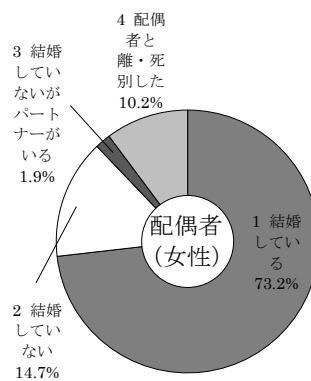
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	612	344	268	0	75.6	73.2	79.3	0.0
2 結婚していない	124	69	55	0	15.3	14.7	16.3	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	12	9	3	0	1.5	1.9	0.9	0.0
4 配偶者と離・死別した	60	48	11	1	7.4	10.2	3.3	100.0
無回答	1	0	1	0	0.1	0.0	0.3	0.0
合計	809	470	338	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

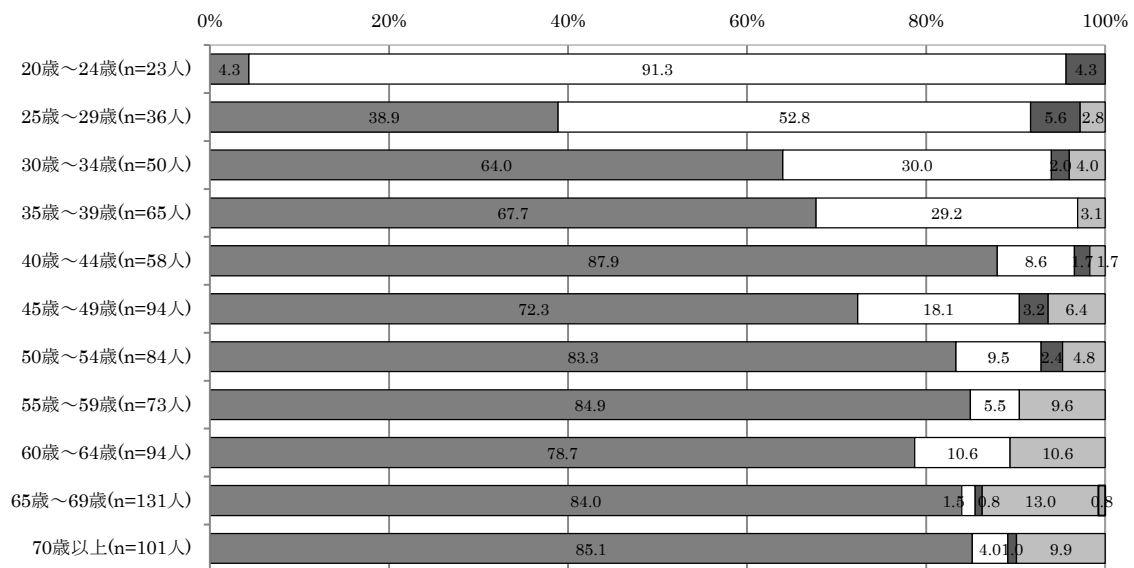


【男女別】



【年代別】

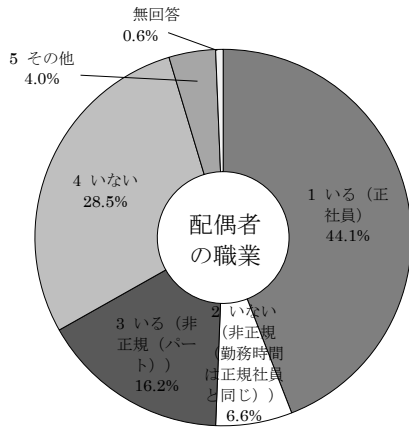
■ 結婚している □ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる □ 配偶者と離・死別した ■ 無回答



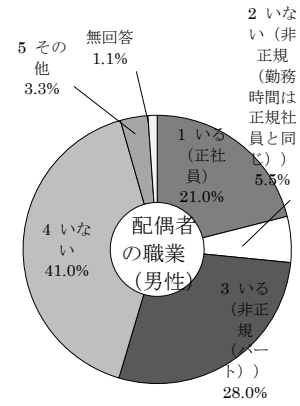
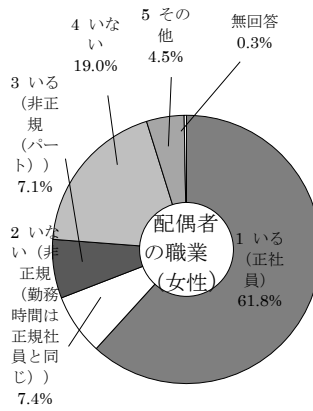
F 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる（正規社員）	275	218	57	0	44.1	61.8	21.0	0.0
2 いる（非正規（勤務時間は正規社員と同じ））	41	26	15	0	6.6	7.4	5.5	0.0
3 いる（非正規（パート））	101	25	76	0	16.2	7.1	28.0	0.0
4 いない	178	67	111	0	28.5	19.0	41.0	0.0
5 その他	25	16	9	0	4.0	4.5	3.3	0.0
無回答	4	1	3	0	0.6	0.3	1.1	0.0
合計	624	353	271	0	100.0	100.0	100.0	100.0

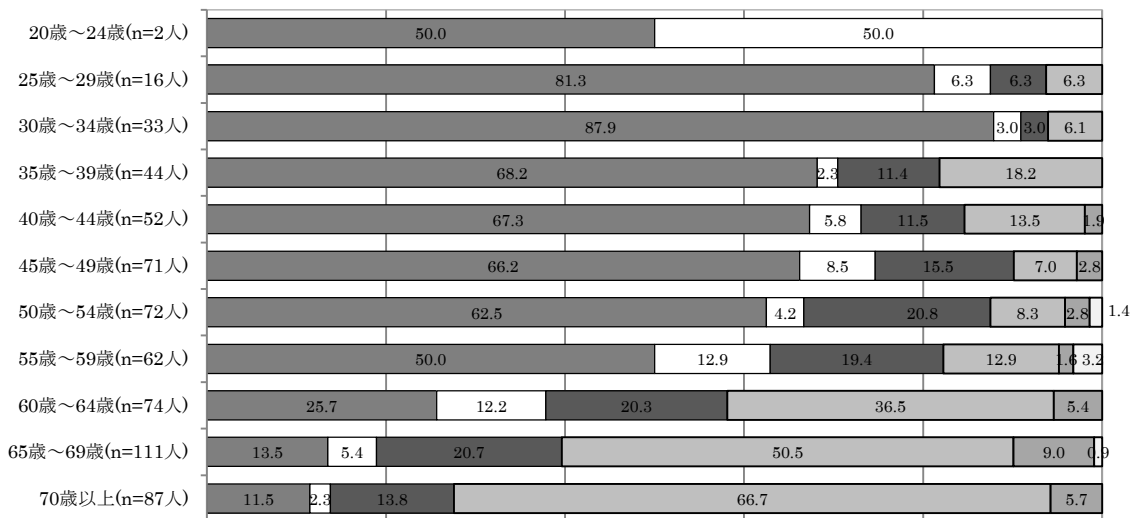
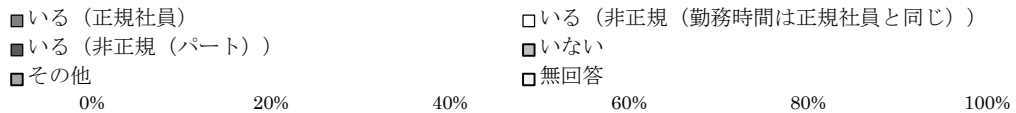
【全体】



【男女別】



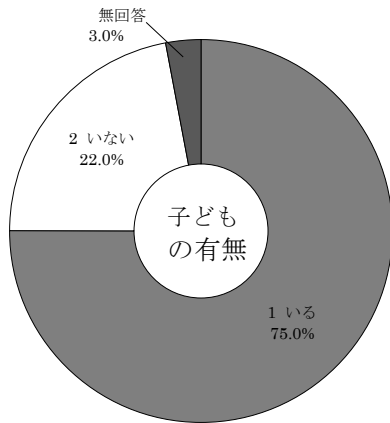
【年代別】



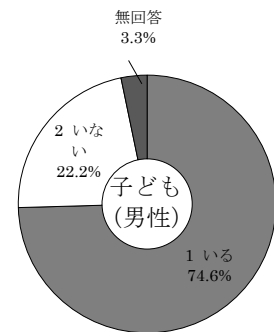
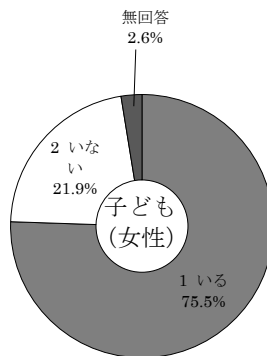
G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	607	355	252	0	75.0	75.5	74.6	0.0
2 いない	178	103	75	0	22.0	21.9	22.2	0.0
無回答	24	12	11	1	3.0	2.6	3.3	100.0
合計	809	470	338	1	100.0	100.0	100.0	100.0

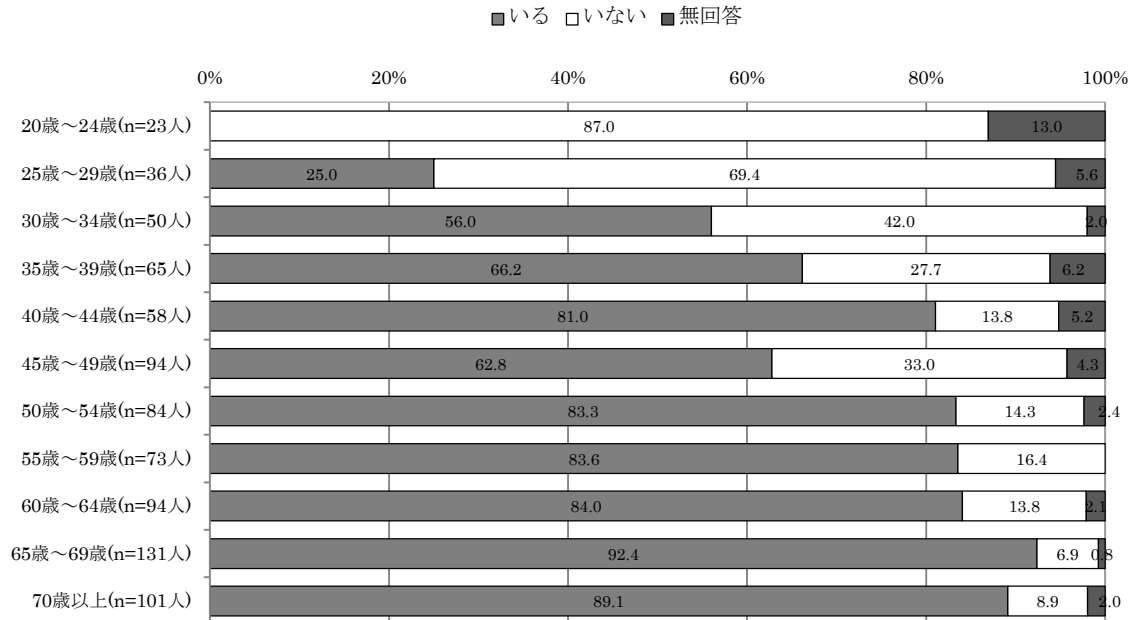
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(51.2%)、「家庭」(44.6%)の2分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が約7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」(44.6%)という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が20.4%、女性が43.6%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が29.0%なのに対し、女性は50.9%が最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「習慣・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」、「女性活躍推進法」の4つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女共同参画社会」(83.3%)となっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女共同参画社会」は全ての年代、性別においても6割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は34.4%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は63.9%となっている。前年に比べ、前者は3.1ポイント減少し、後者は2.0ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別でみると、20歳～24歳、35歳～39歳の女性と、20歳～24歳、50歳代、60歳～64歳の男性で「賛成」がない結果となっている。

(4) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

2 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて

(1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大、女性の活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっている。

(2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関して

は、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、「女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」となっている。

(3) 職場における女性の活躍推進について

職場において女性の活躍推進について尋ねたところ、男女ともに「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多くなっている。

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(61.1%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(58.2%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(52.5%)、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」(49.4%)の4分野であった。

(4) 女性の就労意識について

職業についている女性の方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(32.4%)、「あなた自身は活躍したい」(23.7%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(23.1%)の3分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「退職して仕事に就かない」(47.5%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(38.5%)の2分野であった。

(5) 女性の再就職について

離職されている女性に再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」(43.5%)という回答が最も多くなっている。次いで「正規社員」(14.7%)、「非正規社員」(6.5%)となっている。

「非正規社員」、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」を回答した方に理由を尋ねたところ、「仕事より家庭生活を優先したいから」(67.1%)が最も多い回答となっており、次いで「時間外勤務や休日出勤があるから」(41.2%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(27.1%)となっている。

(6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「結婚・出産」という回答が、全体で54.4%となっているが、男性が9.3%なのに対し、女性は65.9%となり、性別により差がある。

(7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児との両立が難しい」(82.9%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない女性が多い)」(57.4%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(39.8%)となっている。また、女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」(46.6%)が最も多い回答となっており、次いで「職場の理解や協力」(45.9%)、「家族の理解や協力」(34.5%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(89.0%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(64.9%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(63.7%)と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の34.4%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が42.9%と女性の28.3%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多い回答となった。現実の生活では、『仕事』優先が最も多い回答となっている。しかし、『仕事』優先では、男性は34.9%と多く回答しており、女性が18.9%となっている。全体では、『家庭生活』優先が『仕事』優先より若干多いが、どちらも男女間での差が大きくなっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(34.0%)、女性では、「食事のしたく」(75.5%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「洗濯」(40.7%)で、女性では、「ごみ捨て」(16.7%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が4割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性60.7%、女性10.9%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性42.0%、女性6.0%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は21.8%、女性は60.6%と差が大きい。介護に関しては男性が18.4%、女性が20.1%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(67.0%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(64.5%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(62.9%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(31.5%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、48.0%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」(41.9%)、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」(37.5%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約3

割（28.7%）となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（27.4%）と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（14.8%）と続いている。

5 男女の人権に関することについて

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が34.3%に対し、女性は46.2%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が19.5%、女性では4.0%、女性では「受けたことがある」という回答が16.8%、男性は3.8%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で約5割（49.9%）となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（26.0%）、「長野県女性相談センター」（21.1%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、5割（53.4%）を超えている。

6 男女共同参画施策に関することについて

（1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（36.5%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（33.4%）が続いており、合わせて69.9%の方が「増えた方がよい」と考えている。

（2）男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（57.2%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（39.8%）、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」（38.7%）の順で続いている。

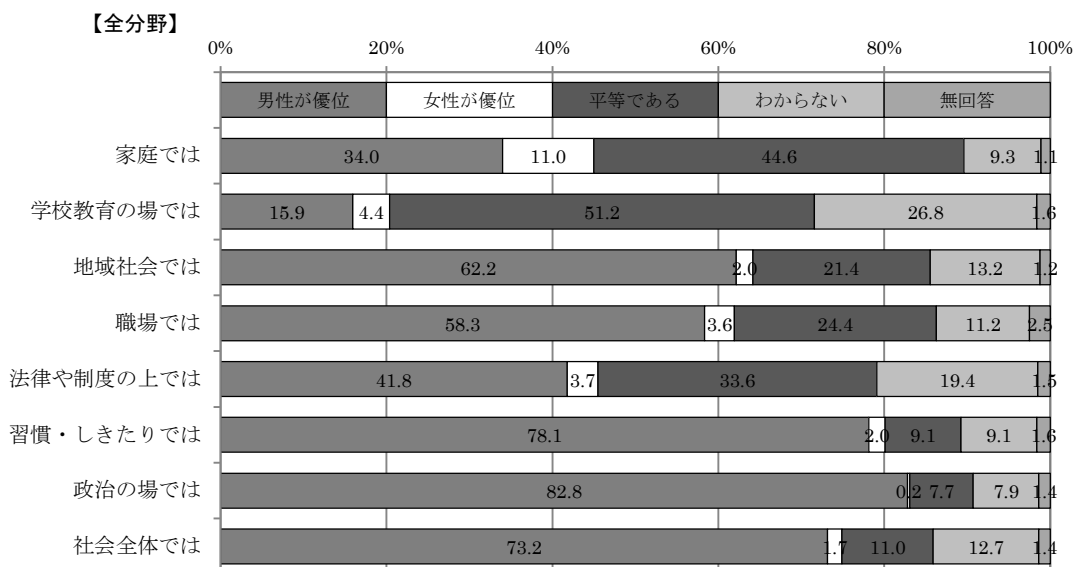
IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育」(51.2%)、「家庭」(44.6%)の2分野となっている。
- ・一方、「政治」(82.8%)、「習慣・しきたり」(78.1%)、「社会全体」(73.2%)では、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上で最も多い回答となっている。なかでも「政治」(82.8%)では8割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

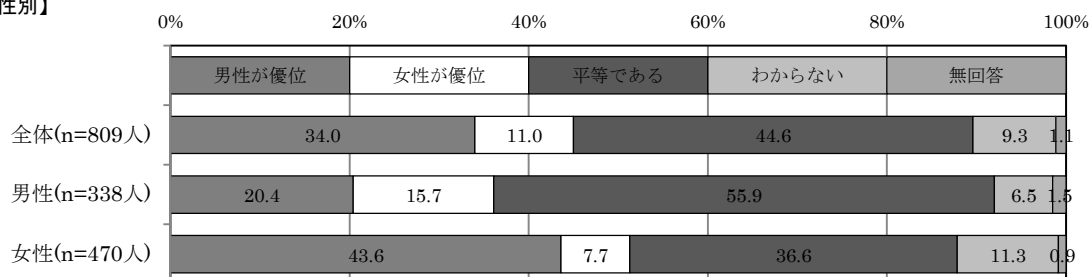
全体 (n=809人)



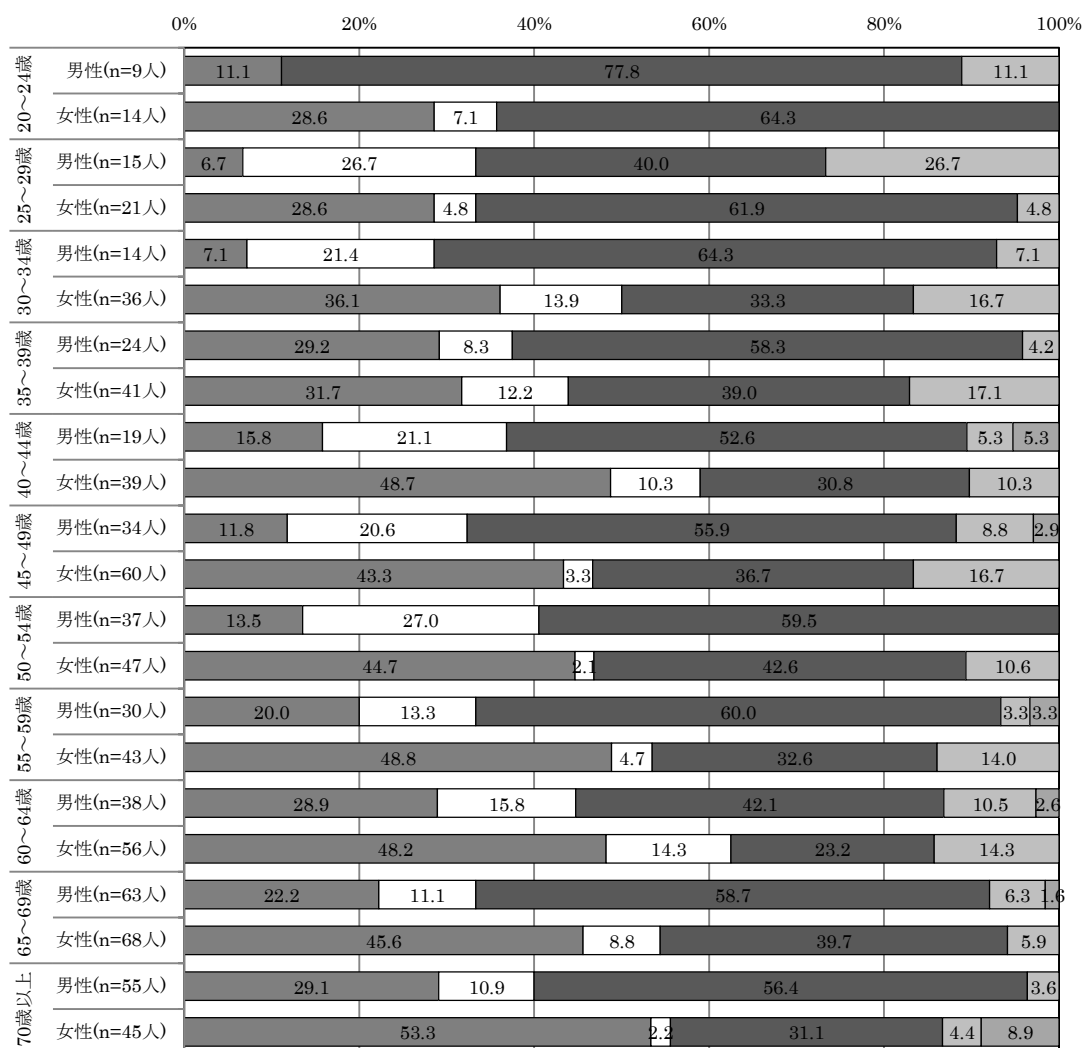
1 家庭では

- ・性別でみると、男性は、「平等である」(55.9%)という回答が最も多く、5割を超えている。女性は「男性が優位」(43.6%)という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、男性では約2割(20.4%)となっているが、女性では約4割(43.6%)となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では70歳以上が最も多く、回答割合が5割(53.3%)を超えている。男性では、全ての年代で「平等である」という回答が最も多い。

【性別】

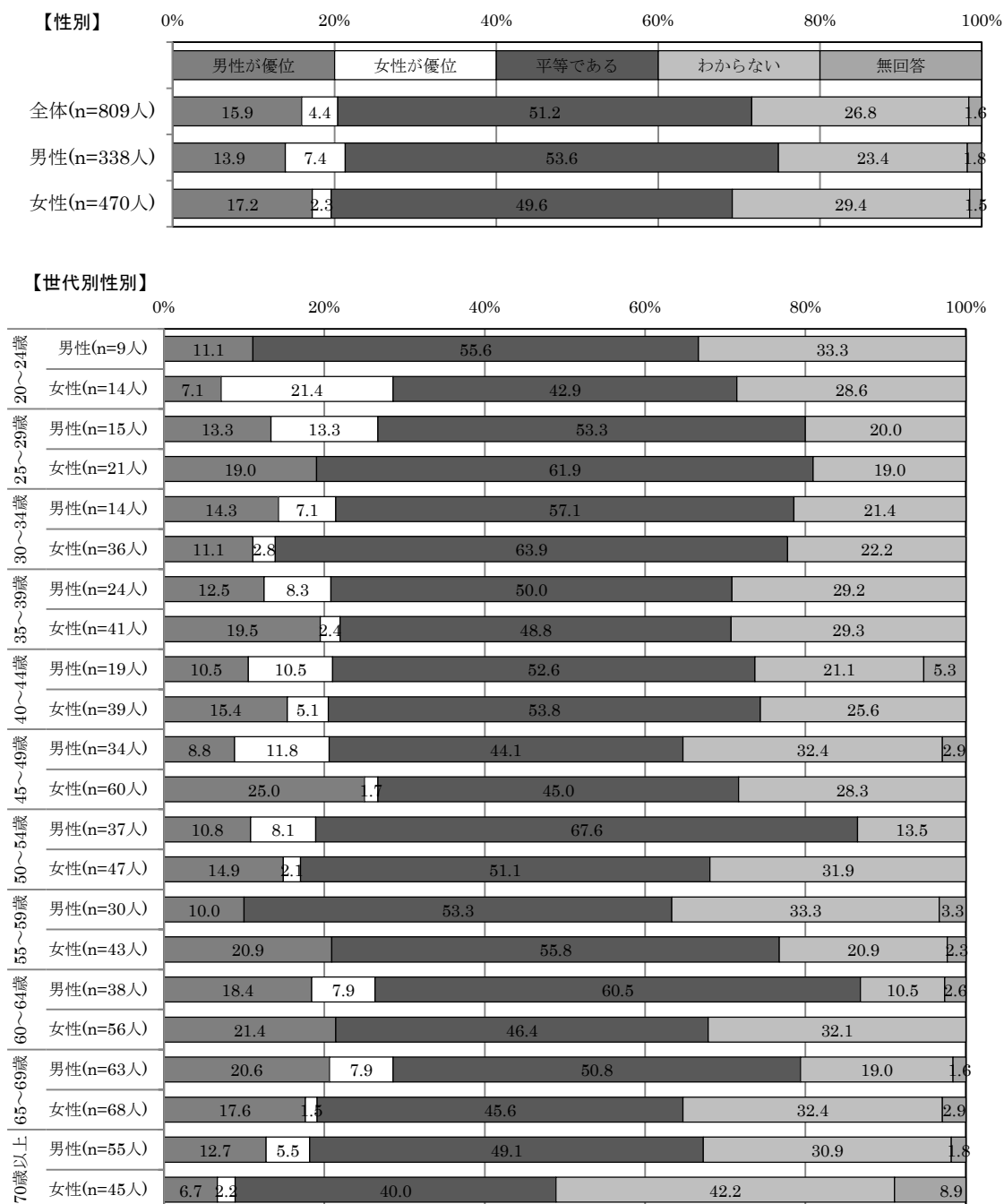


【世代別性別】



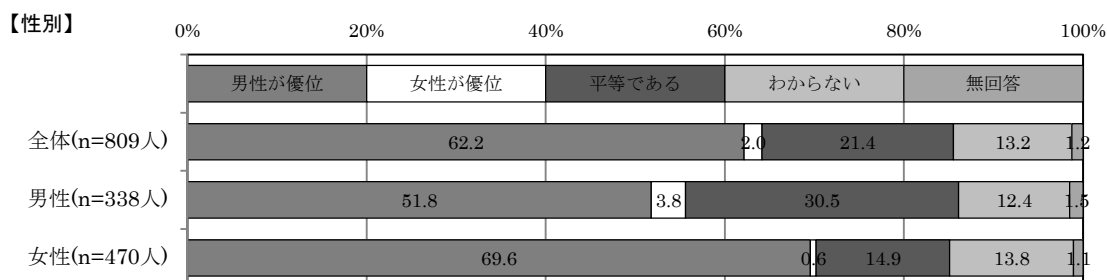
2 学校教育の場では

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（53.6%）、女性（49.6%）とともに約5割となっている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の女性を除いた各世代で「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、45歳～49歳の女性で約3割（25.0%）となり、その他の世代に比べ高い回答割合となっている。また、20歳～24歳男性、25歳～29歳女性、55歳～59歳の男性と女性、60歳～64歳の女性においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。

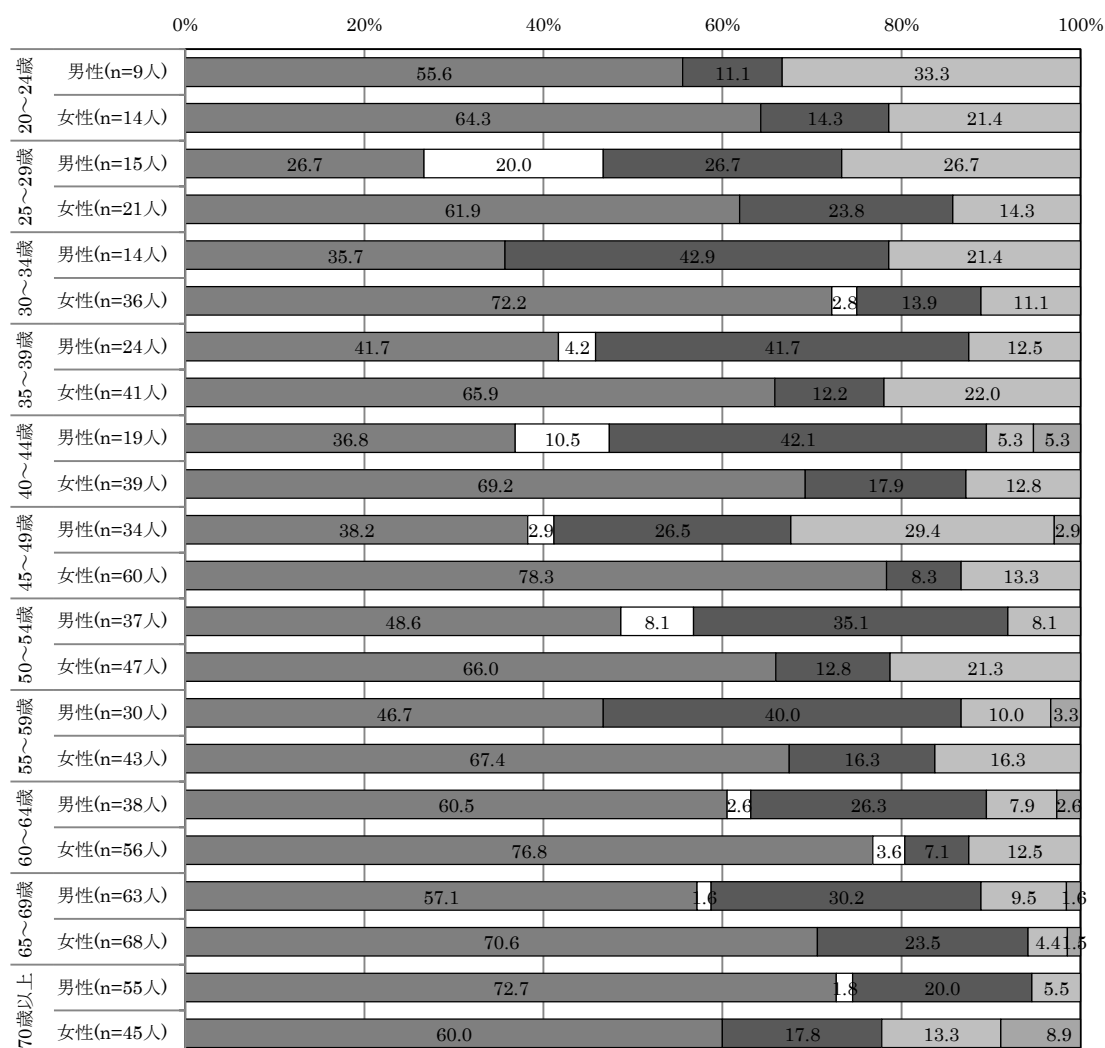


3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約5割（51.8%）、女性は約7割（69.6%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が3割（30.5%）を超えているのに対し、女性は約2割（14.9%）となっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、30歳代、40歳～44歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも45歳～49歳、60歳～64歳の女性においては「男性が優位」という回答が約8割となっている。

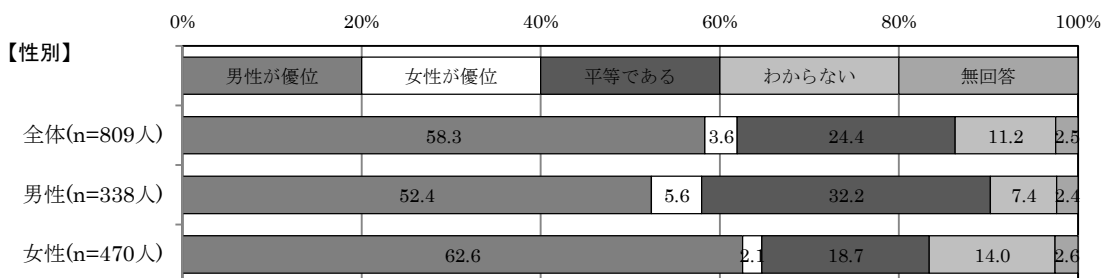


【世代別性別】

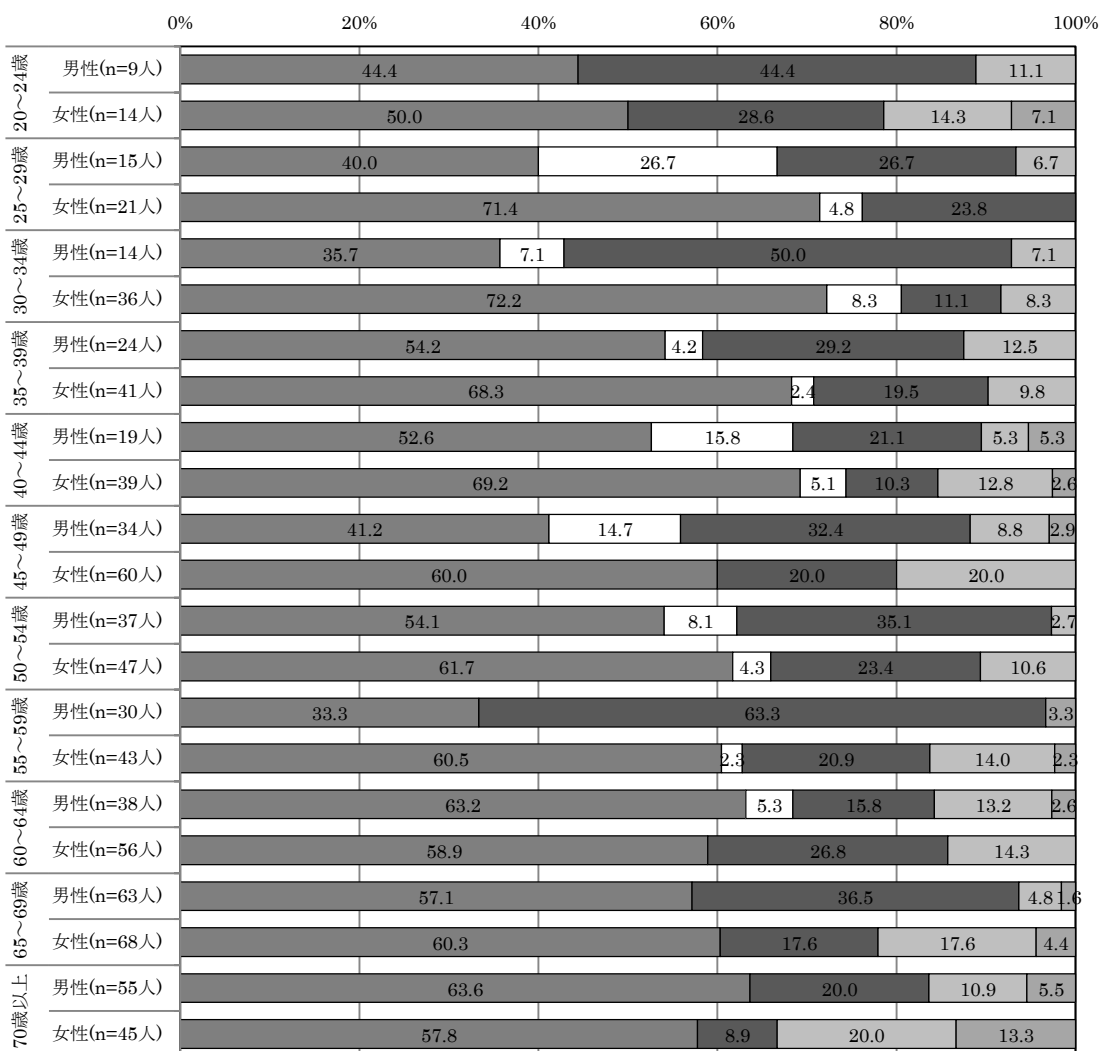


4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性が約5割となっているのに対し、女性は6割を超えている。
- ・世代別性別でみると、55歳～59歳の男性においては「平等である」という回答が最も多く、6割（63.3%）となっている。30歳～34歳の女性では、「男性が優位」という回答が最も多くなっており、7割（72.2%）となっている。

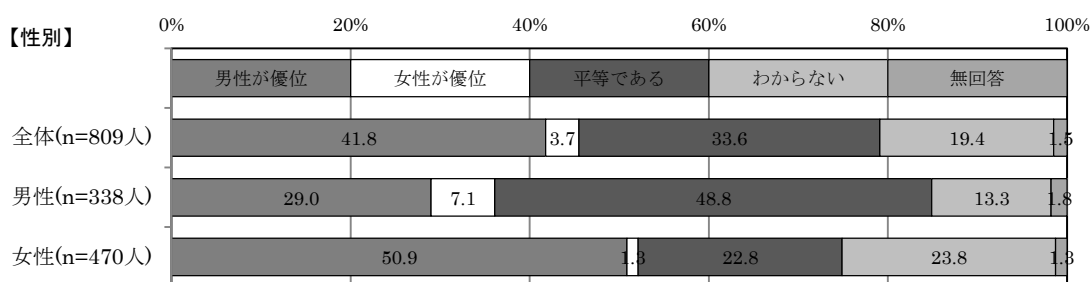


【世代別性別】

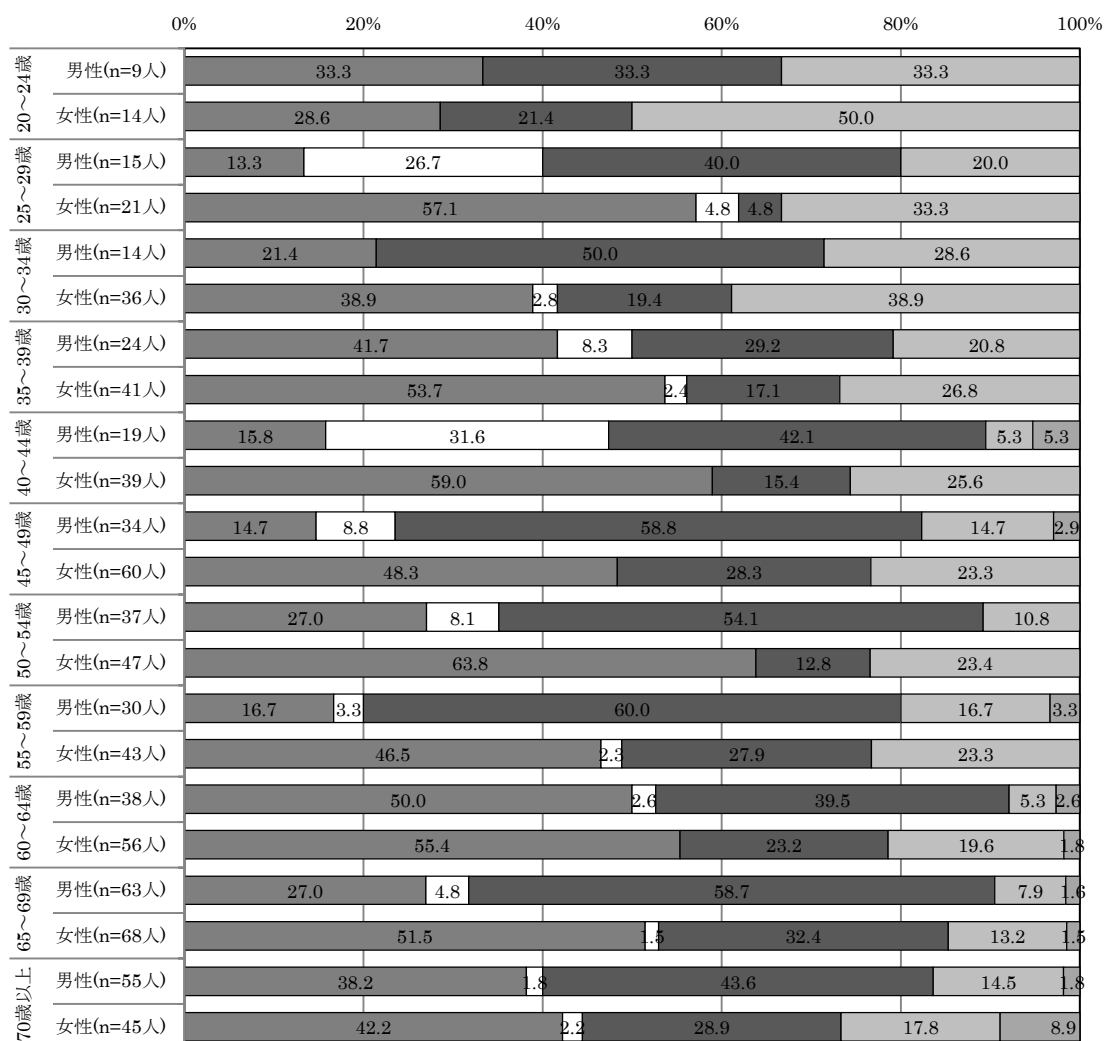


5 法律や制度の上では

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（48.8%）となっている。一方、女性は「男性が優位」（50.9%）という回答が、「平等である」（22.8%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳、35歳～39歳、60歳～64歳以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。20歳～24歳、30歳～34歳で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。
- ・女性においては、35歳～39歳、40歳～44歳、50歳～54歳、60歳代で、「男性が優位」という回答が5割を超えている。20歳～24歳、40歳代、50歳～54歳、60歳～64歳で「女性が優位」という回答はなしとなっている。

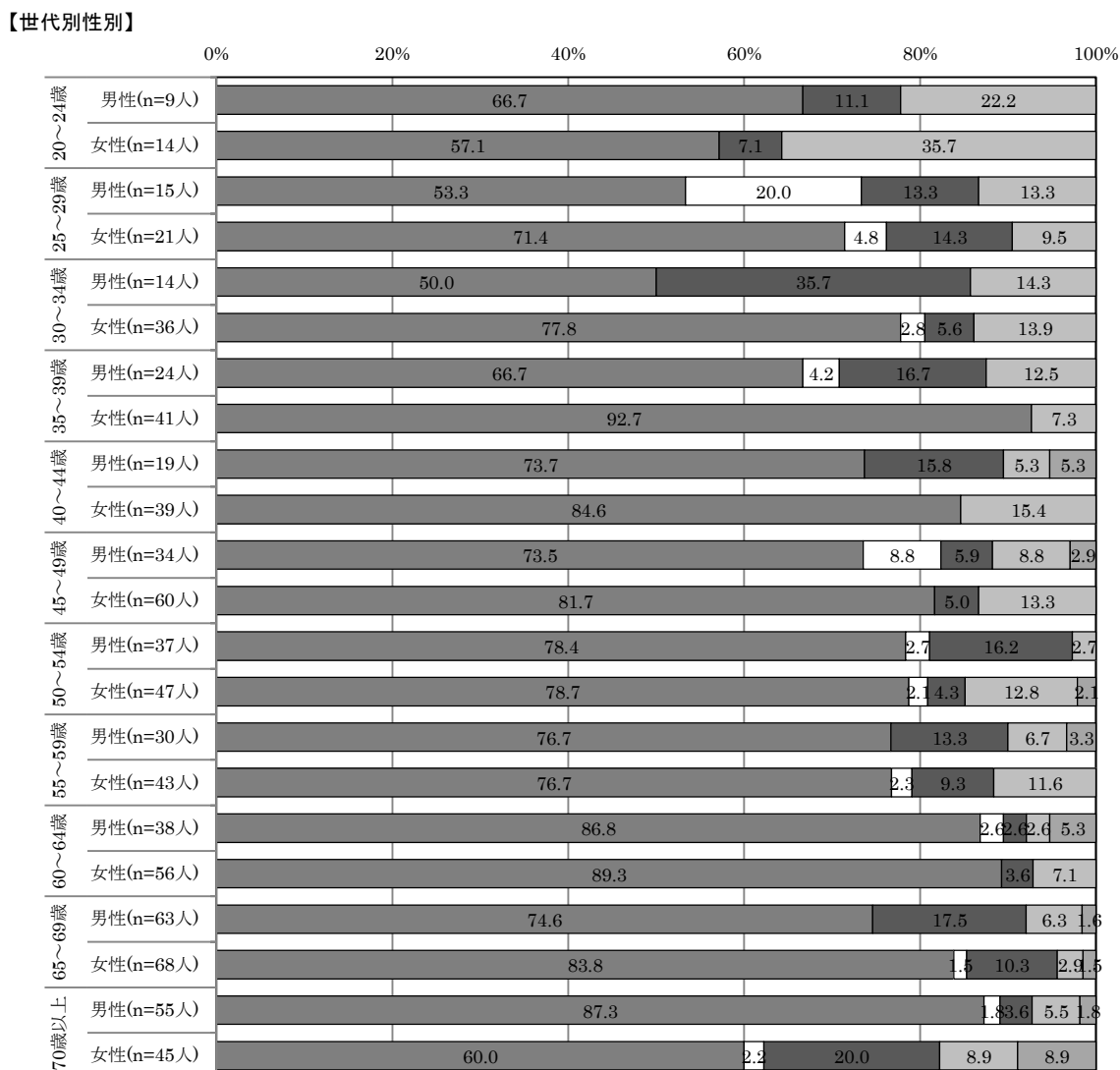
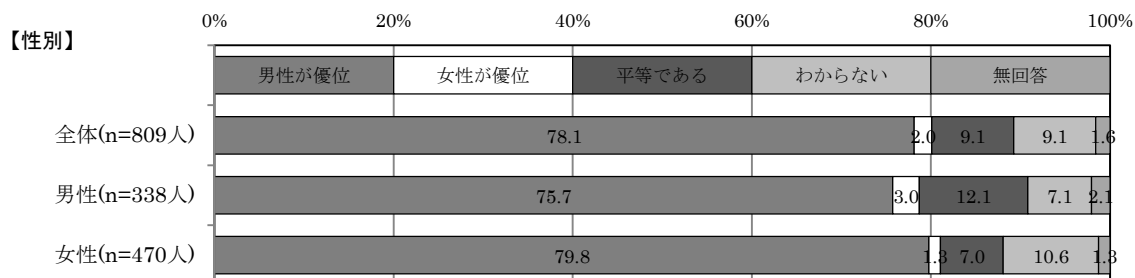


【世代別性別】



6 習慣・しきたりでは

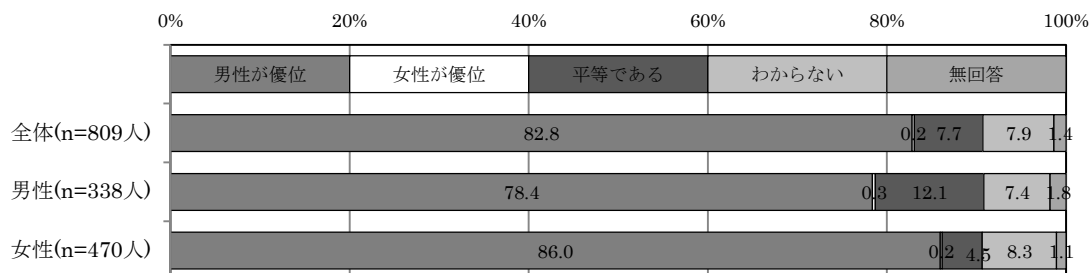
- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（75.7%）、女性（79.8%）となっている。
- ・世代別性別で見ると、女性では、35歳～39歳で、「男性が優位」という回答が9割（92.7%）を超えている。
- ・男性においては、60歳～64歳、70歳以上で「男性が優位」という回答が8割を超えている。



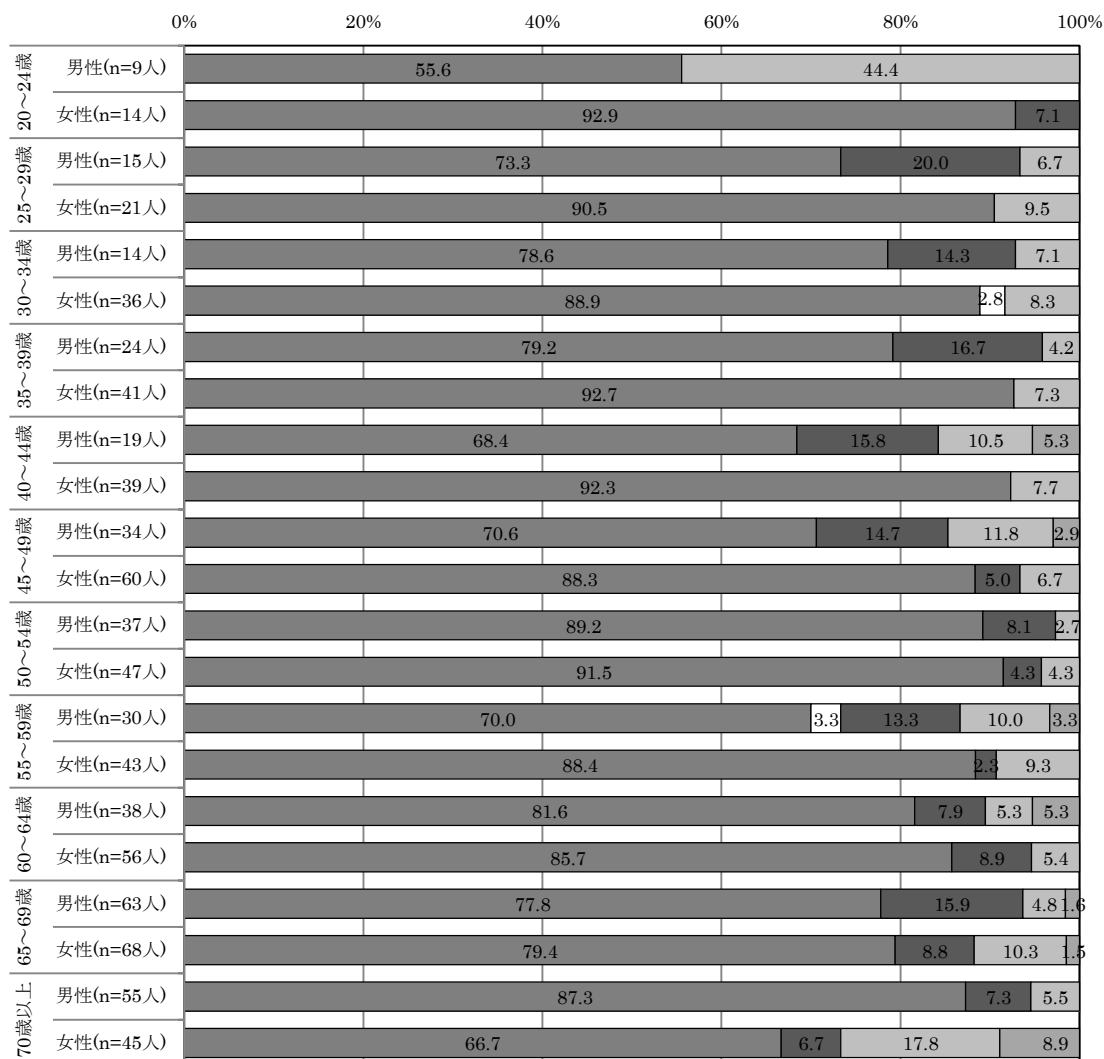
7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約8割（78.4%）、女性は約9割（86.0%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約1割（12.1%）なのに対して、女性は1割未満（4.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

【性別】

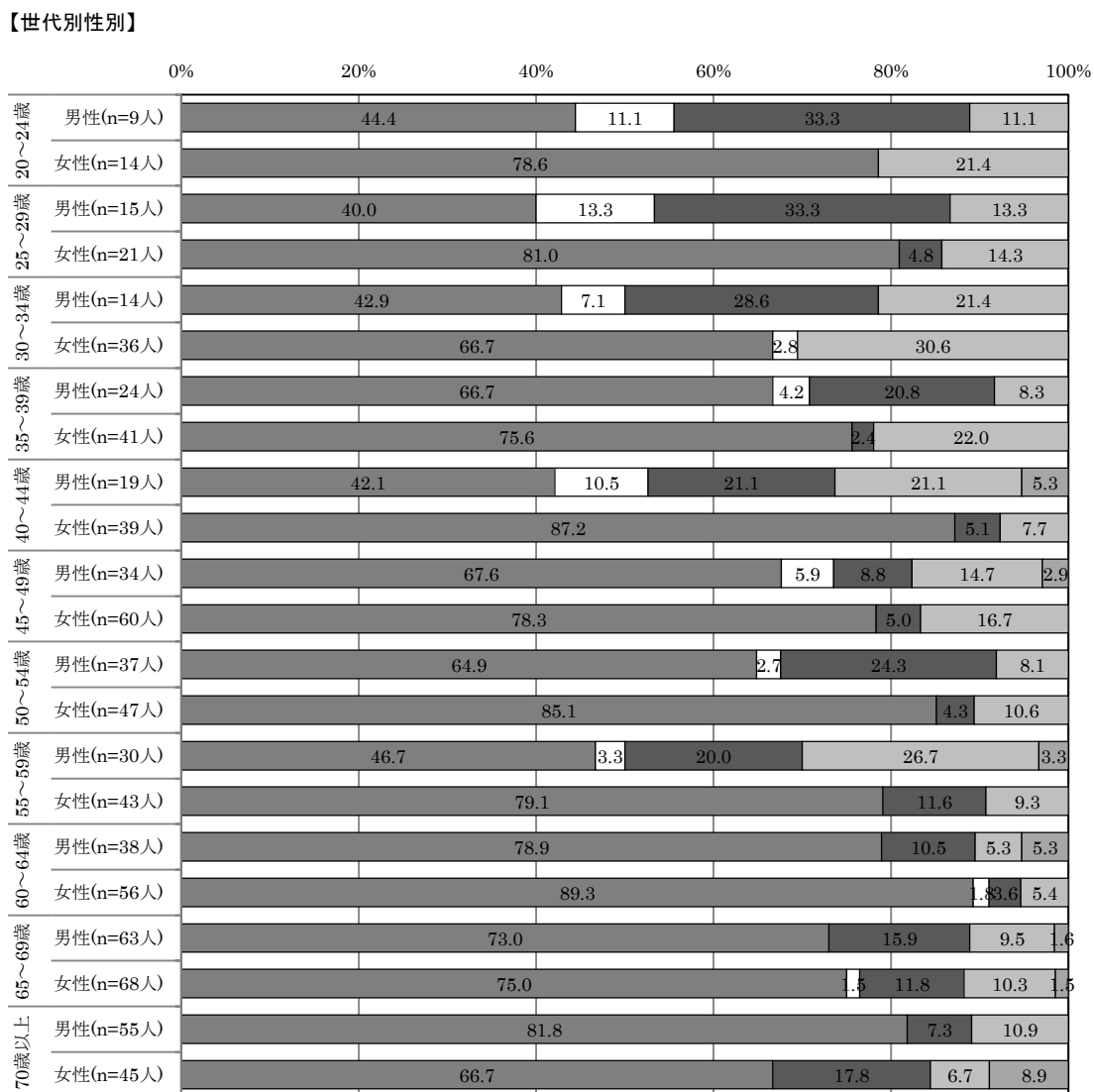
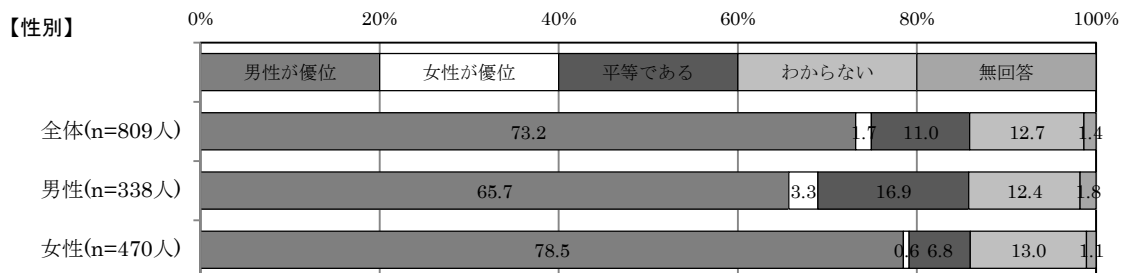


【世代別性別】



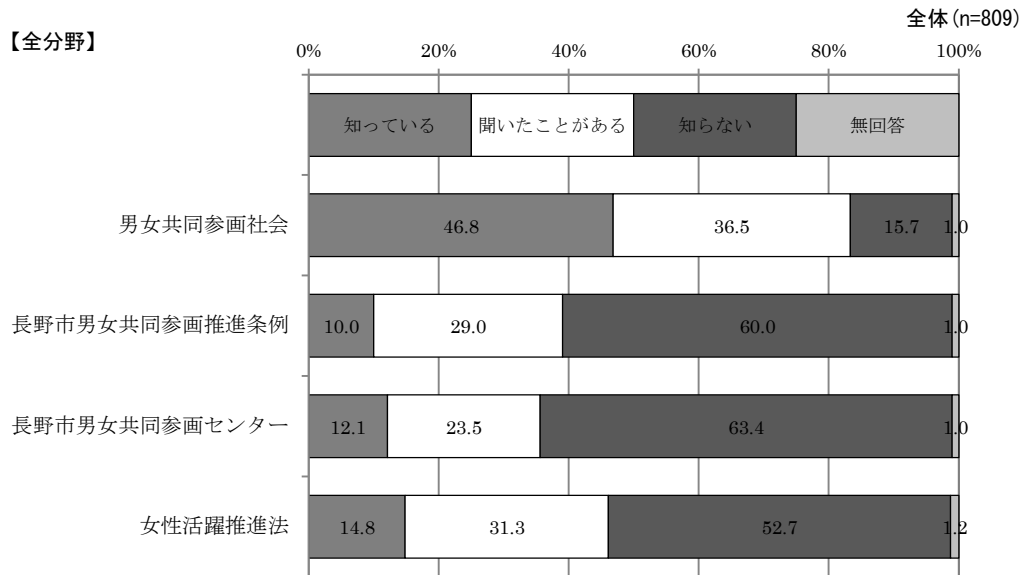
8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多いが、男性が6割（65.7%）、に対し、女性は7割（78.5%）となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（16.9%）、女性が約1割（6.8%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、全ての年代において「男性が優位」という回答が最も多い。



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

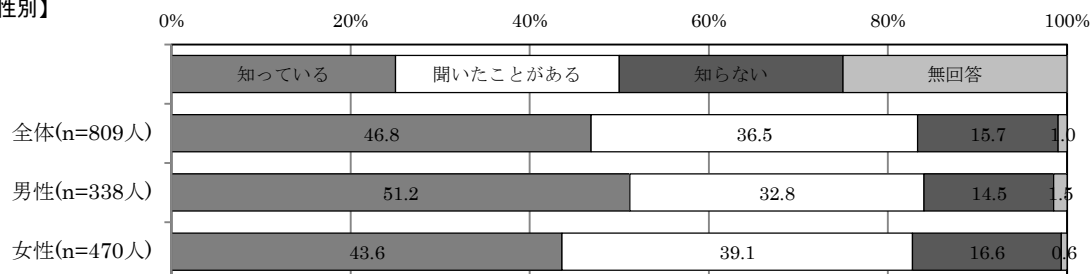
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「男女共同参画社会」が約8割（83.3%）と認知度が高い。「女性活躍推進法」（46.1%）、「長野市男女共同参画推進条例」（39.0%）、「長野市男女共同参画センター」（35.6%）が約4割となっている。



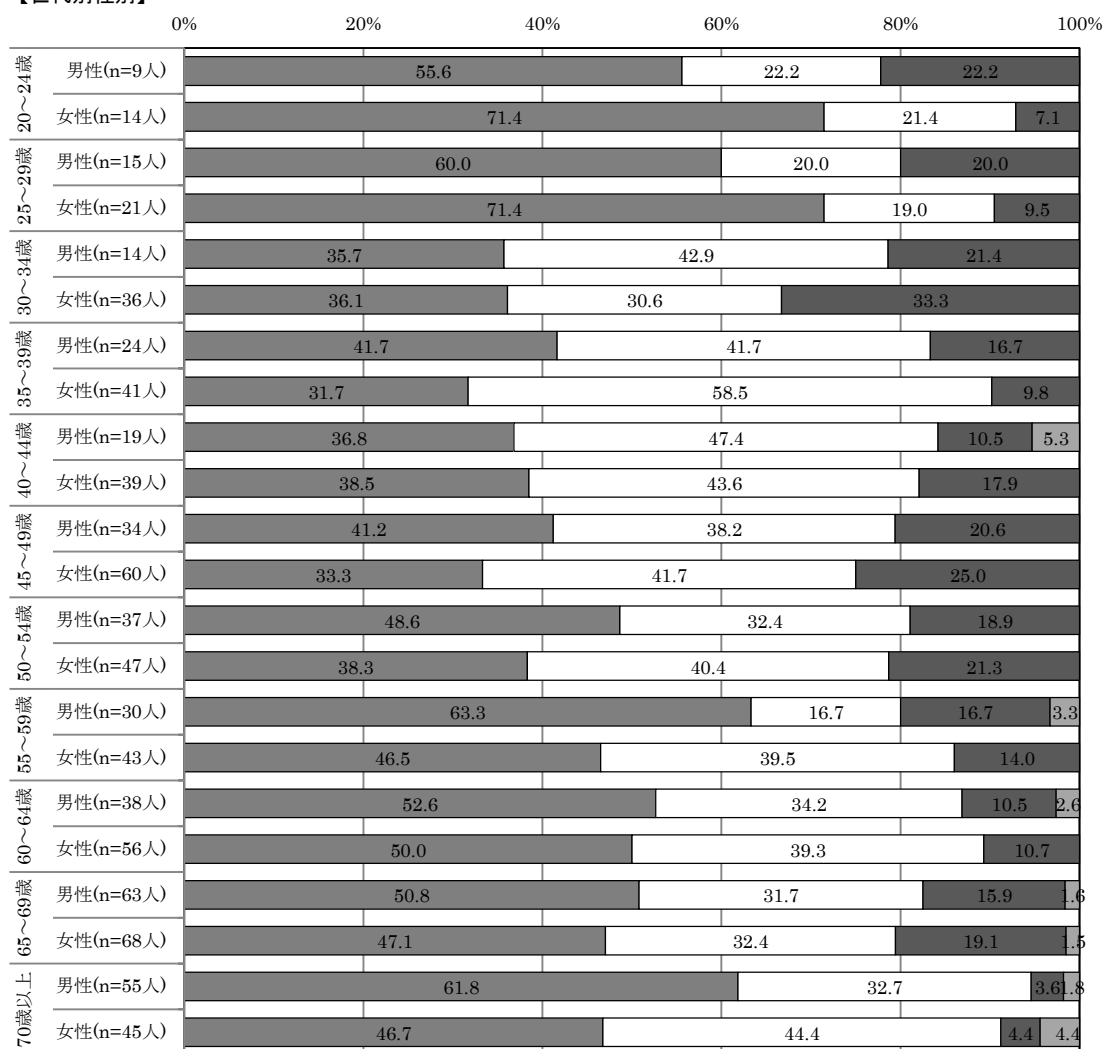
1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、8割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性は70歳以上で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が、約9割（94.5%）となっている。一方、女性は30歳～34歳で、「知らない」という回答が、約3割（33.3%）となっている。

【性別】



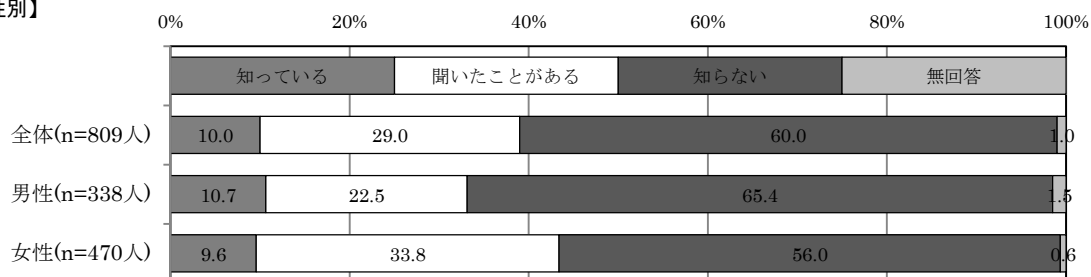
【世代別性別】



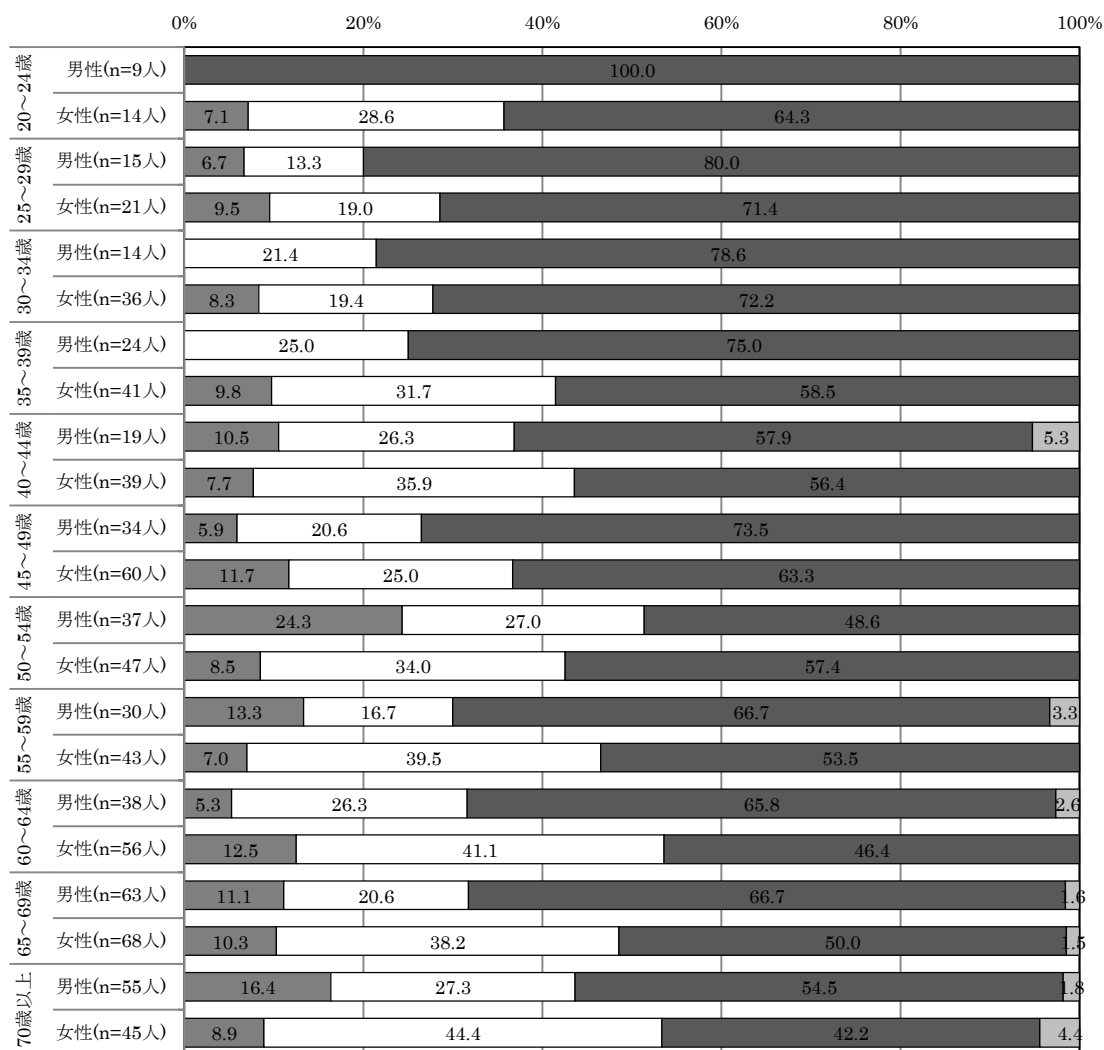
2 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は65.4%、女性は56.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が33.2%、女性が43.4%となっており、若干女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳で、「知らない」という回答が100%となっている。

【性別】



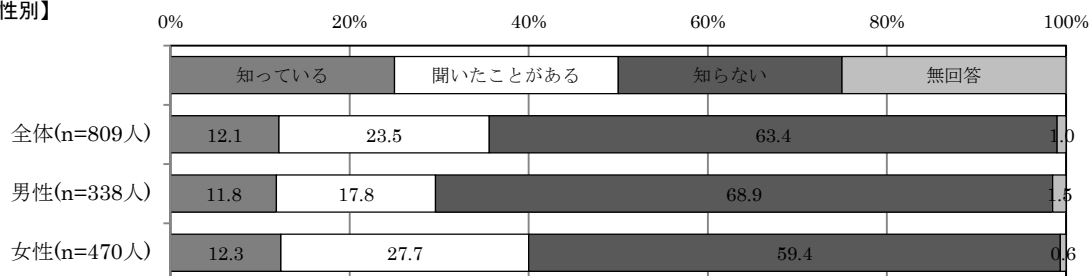
【世代別性別】



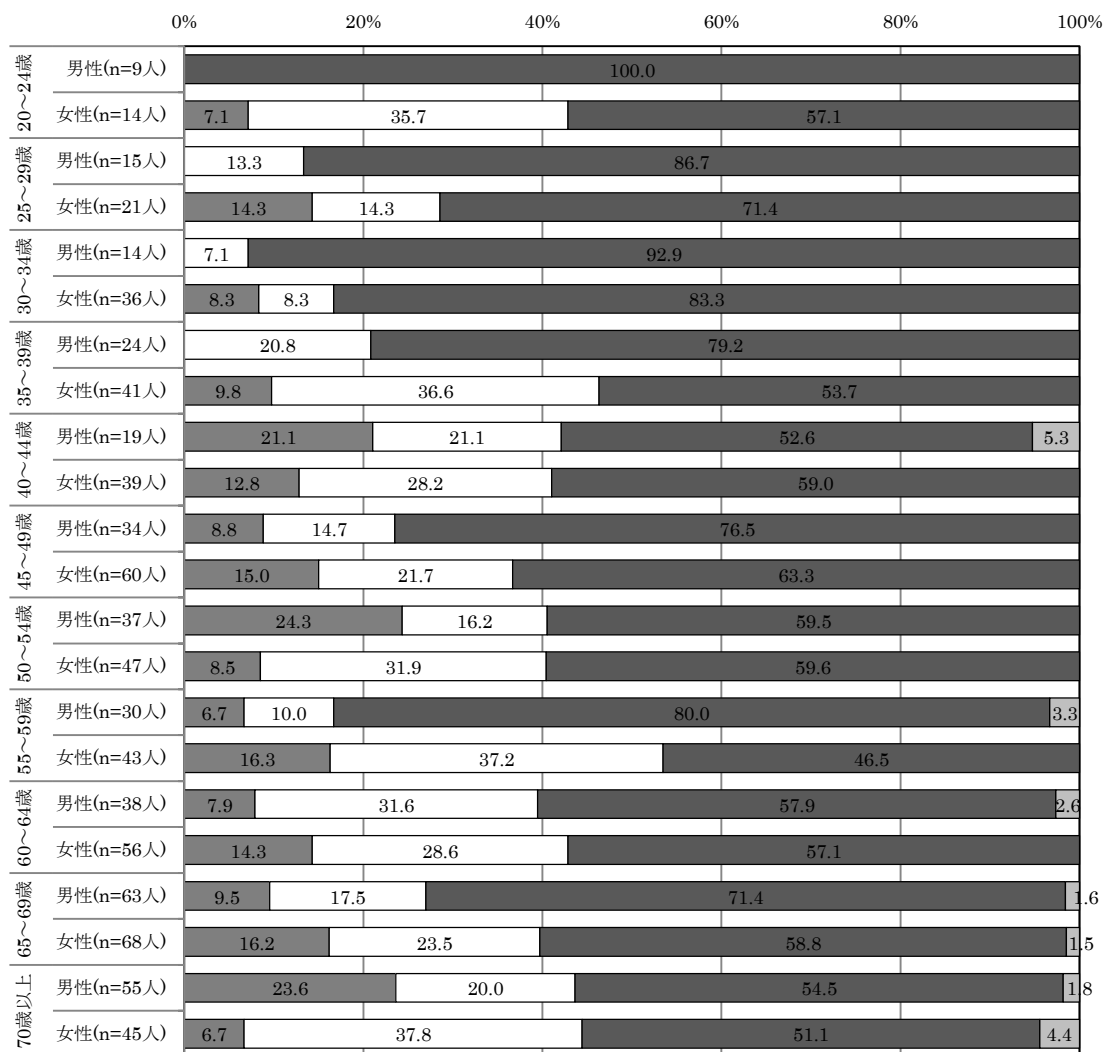
3 長野市男女共同参画センター

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が68.9%、女性が59.4%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が29.6%、女性が40.0%と、若干女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、男性の20歳～24歳で100%となっており、「知っている」という回答割合が最も高いのは男性の50歳～54歳で24.3%となっている。

【性別】

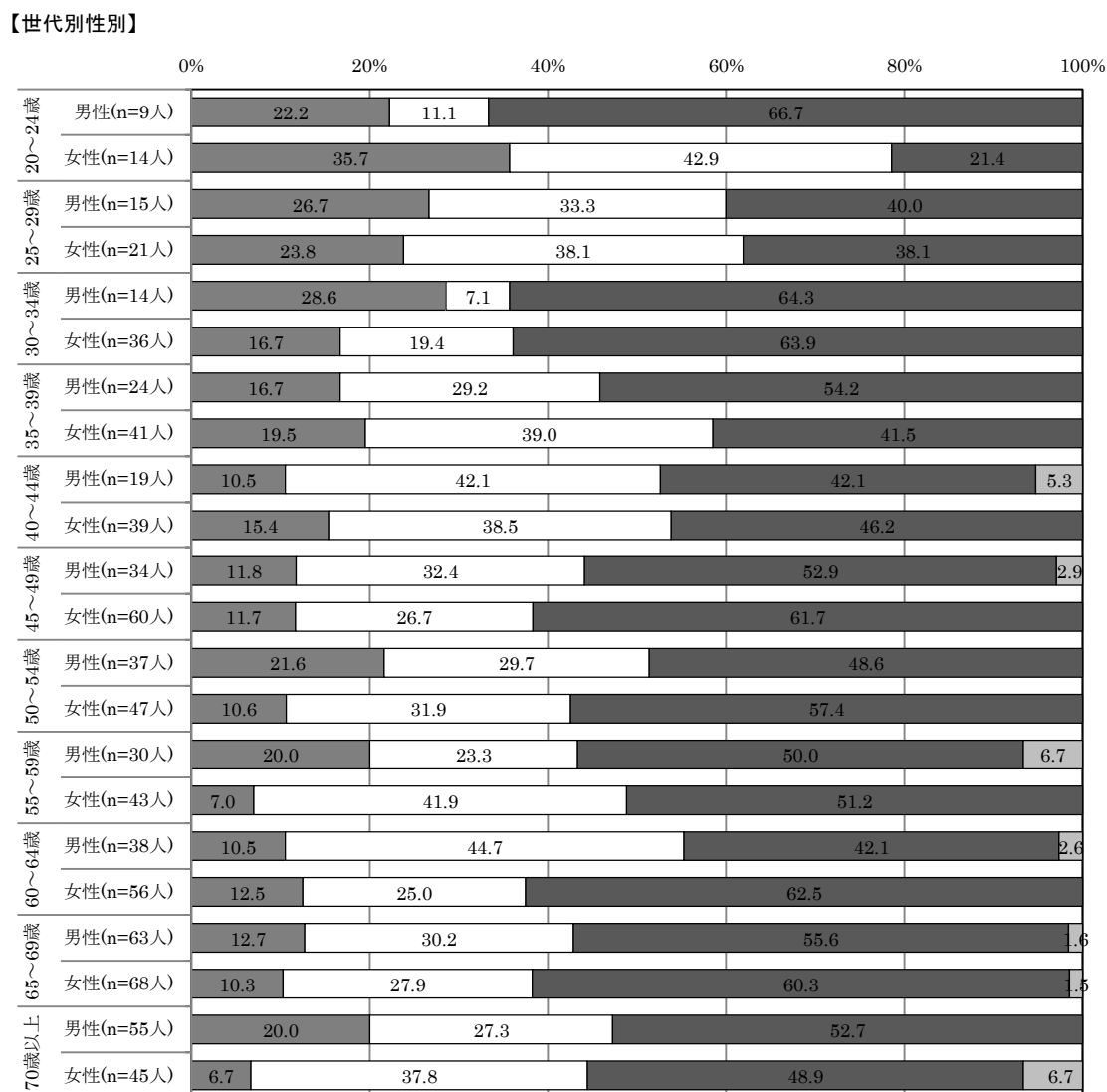
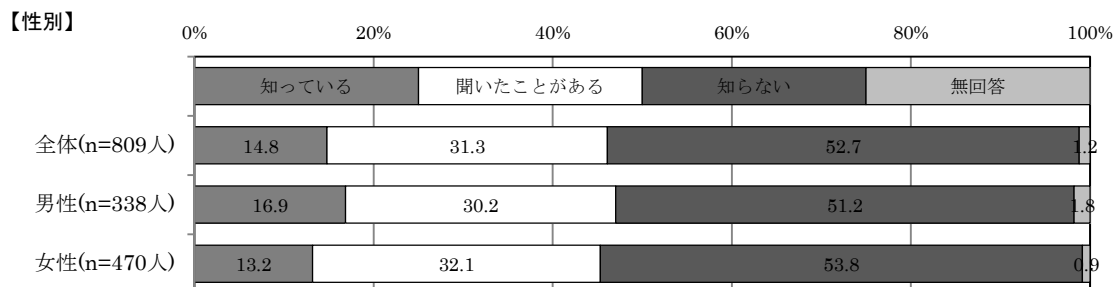


【世代別性別】



4 女性活躍推進法

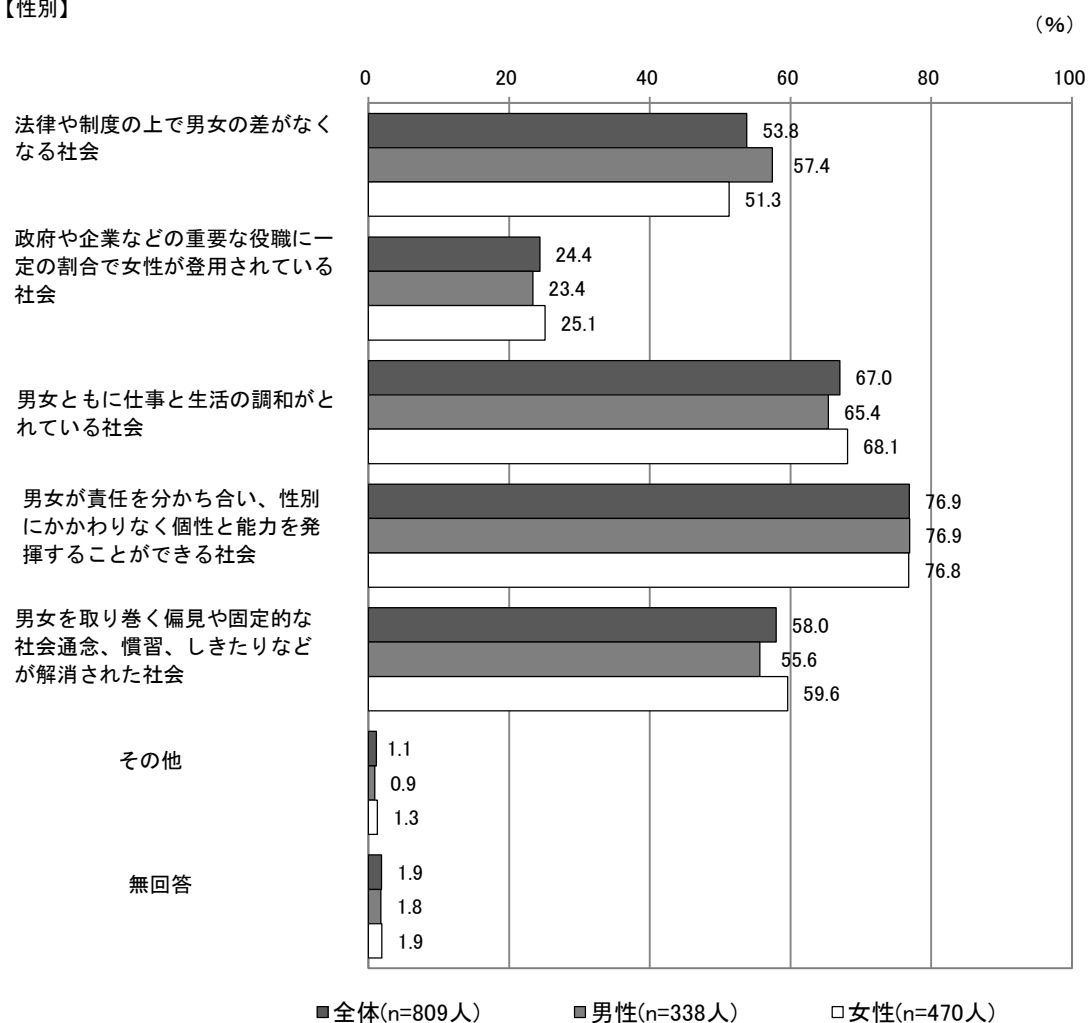
- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が51.2%、女性が53.8%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が47.1%、女性が45.3%と、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が最も高いのは、男性の20歳～24歳で66.7%となっており、「知っている」という回答割合が最も高いのは、女性の20歳～24歳で35.7%となっている。



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
 お考えに近いものを3つまでお選びください。

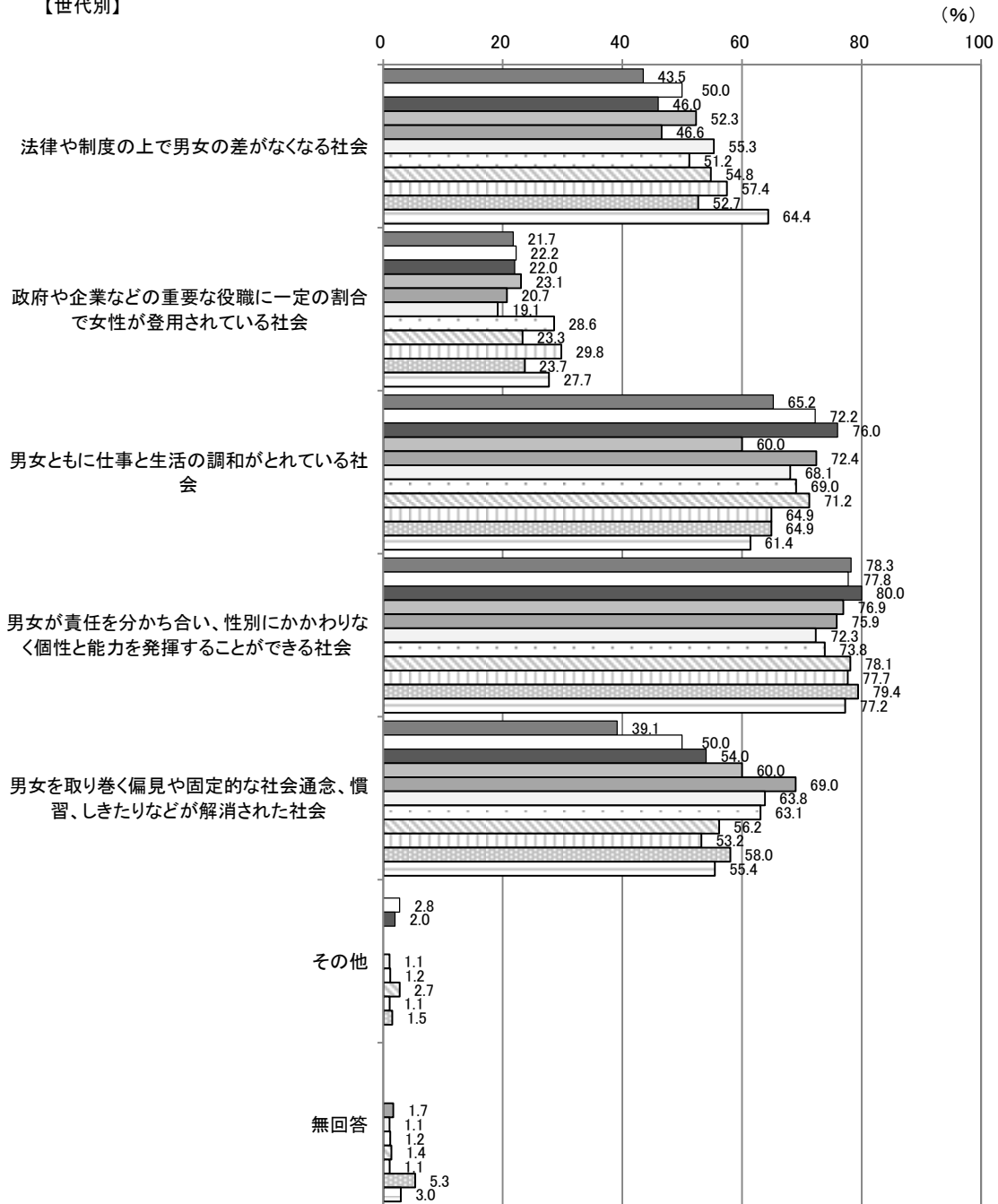
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割（76.9%）で最も多い回答となっている。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（67.0%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（58.0%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（53.8%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性で76.9%、女性で76.8%となっている。

【性別】



- ・世代別でみると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が全ての年代で7割を超えている。「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」という回答は、20歳～24歳では39.1%となっているが、40歳～44歳では69.0%と年代によって差がある。

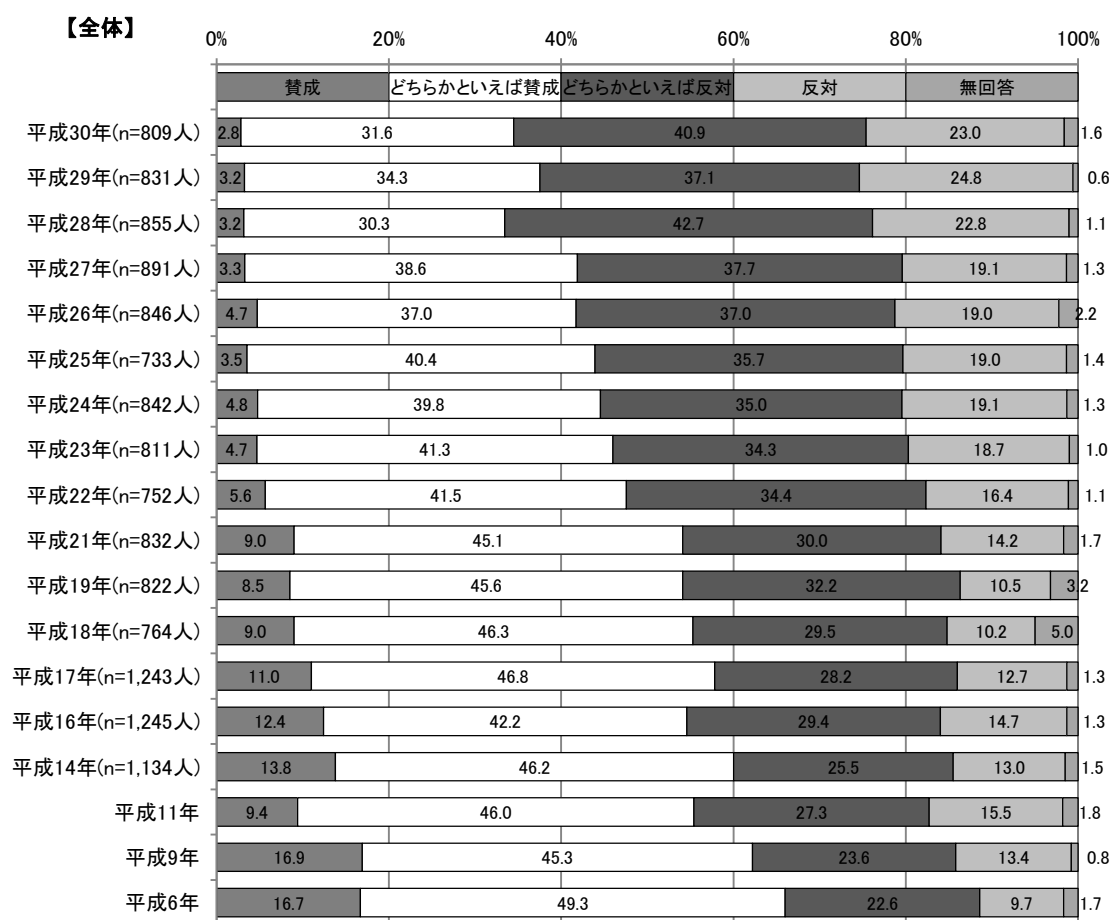
【世代別】



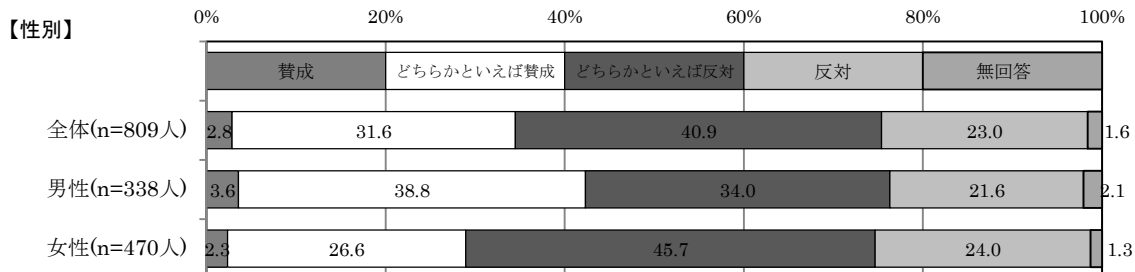
- 20歳～24歳(n=23人) □ 25歳～29歳(n=36人) ■ 30歳～34歳(n=50人) □ 35歳～39歳(n=65人)
- 40歳～44歳(n=58人) □ 45歳～49歳(n=94人) □ 50歳～54歳(n=84人) □ 55歳～59歳(n=73人)
- 60歳～64歳(n=94人) □ 65歳～69歳(n=131人) □ 70歳以上(n=101人)

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について
 どう思いますか。次の中から1つお選びください。

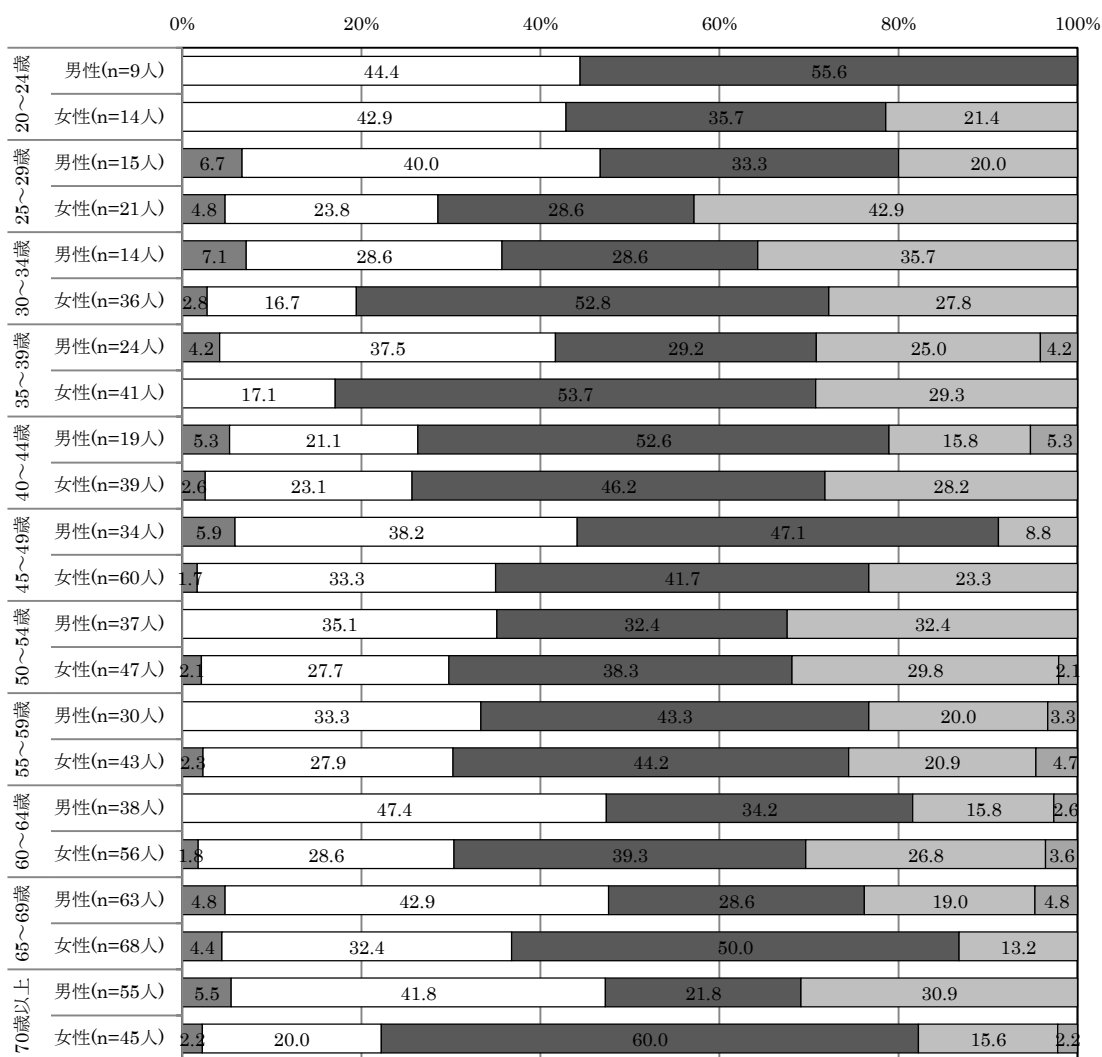
- ・平成30年の調査結果は、「賛成」が2.8%「どちらかといえば賛成」が31.6%、「どちらかといえば反対」が40.9%、「反対」が23.0%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にある。平成30年は平成29年と比べて、「賛成」が0.4ポイント、「どちらかといえば賛成」は2.7ポイント減少となった。「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は2.0ポイントの増加となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が 55.6%、女性が 69.7%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は、65歳～69歳の男性を除いて、5割を超えている。



【世代別性別】



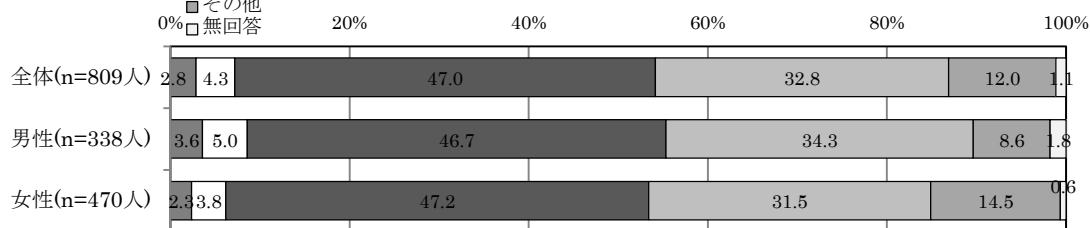
問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

次の中から1つお選びください。

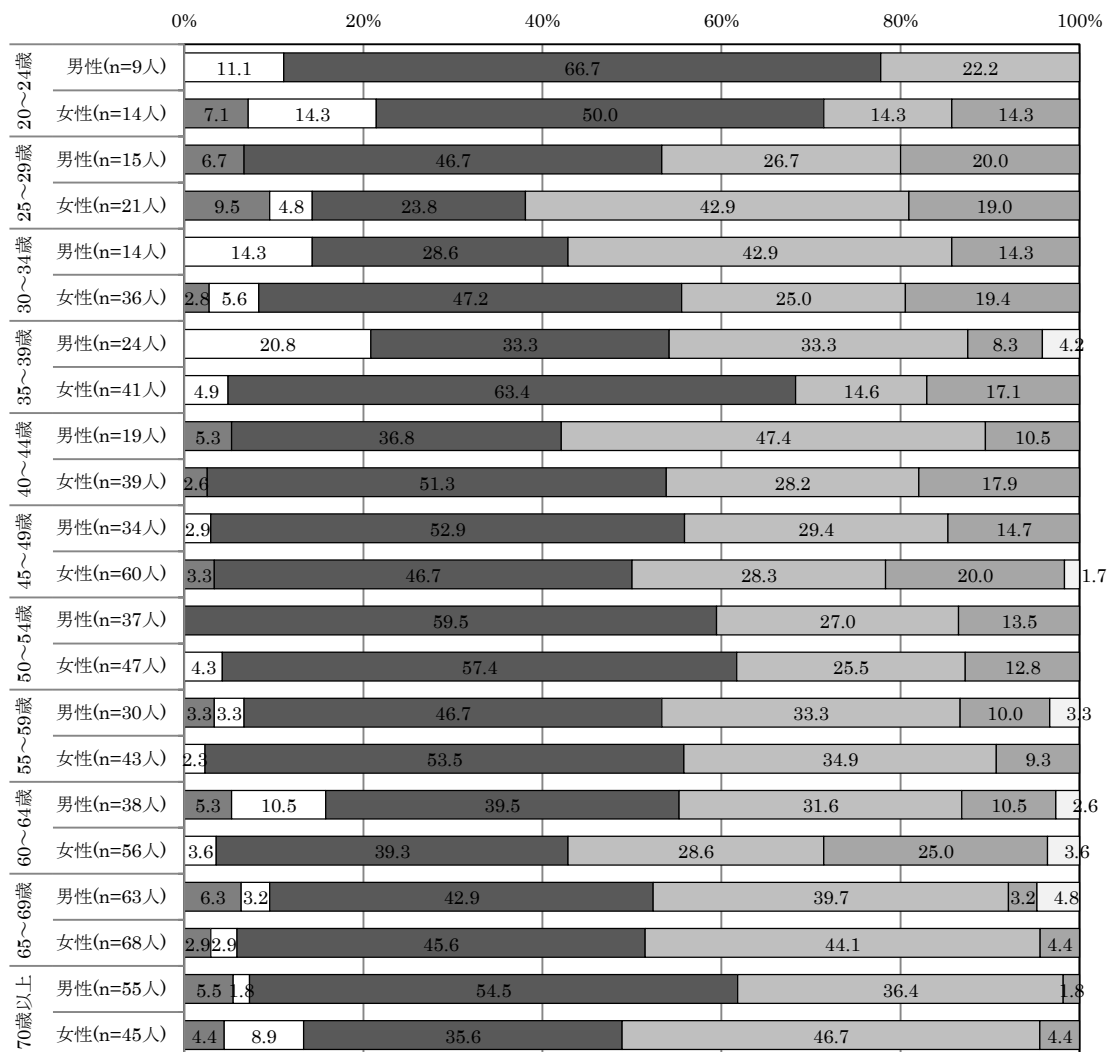
- ・性別でみると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別でみると、男性は20歳～24歳で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。一方、女性は20歳～24歳、35歳～39歳、40歳～44歳、50歳代で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答の割合が5割以上となっている。

【性別】

- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- 無回答



【世代別性別】

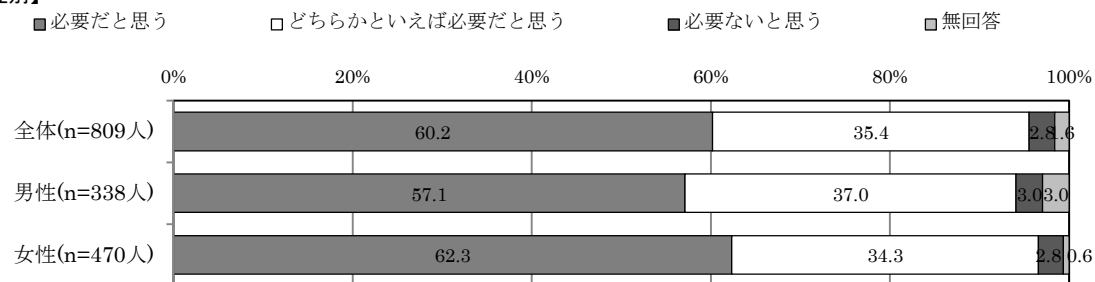


女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関すること
について

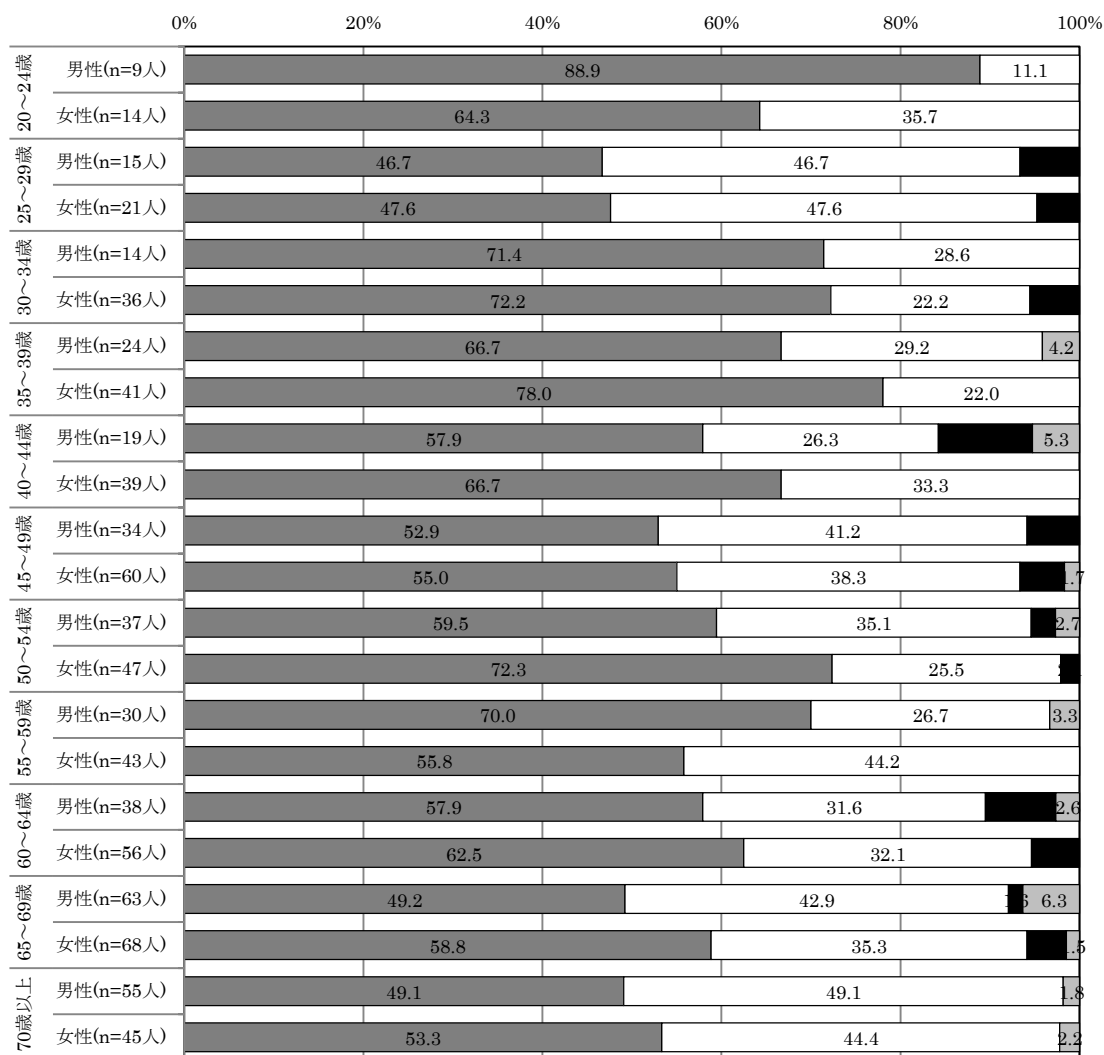
問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は20歳～24歳で、「必要だと思う」が約9割（88.9%）の回答となっている。一方、男女とも20歳～24歳、35歳～39歳、55歳～59歳、70歳以上で、「必要ないと思う」という回答がなしとなっている。

【性別】



【世代別性別】

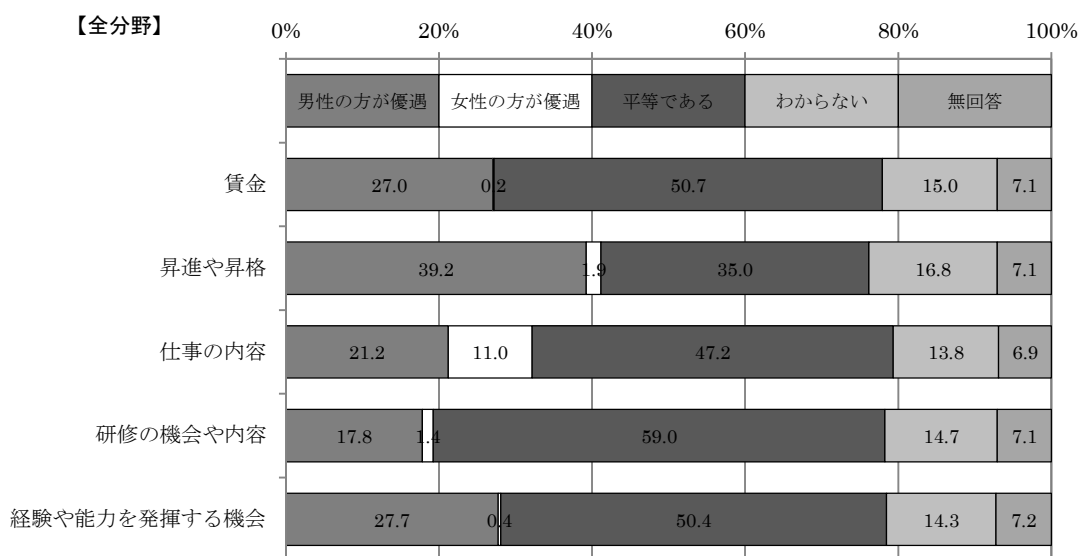


問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

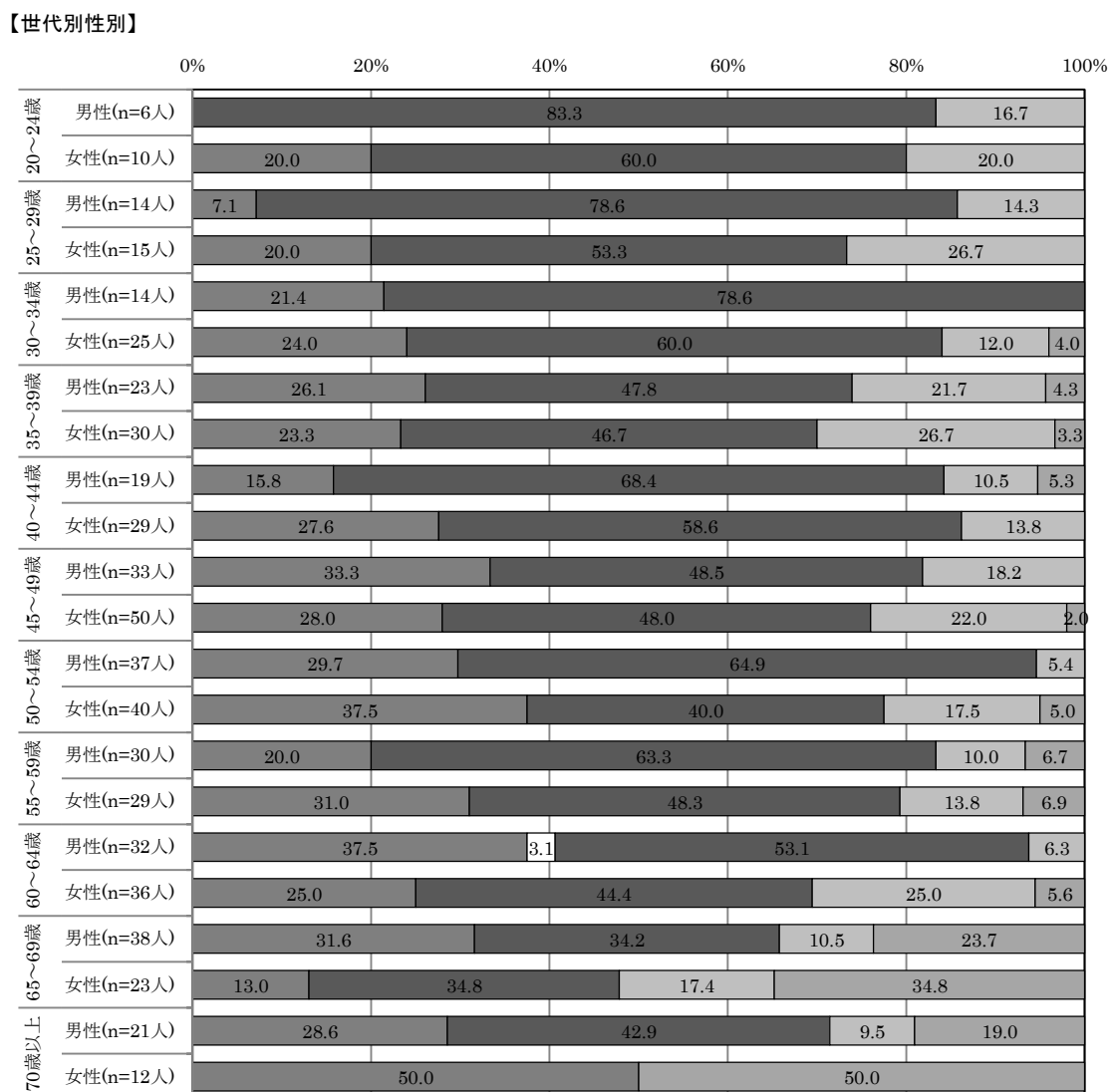
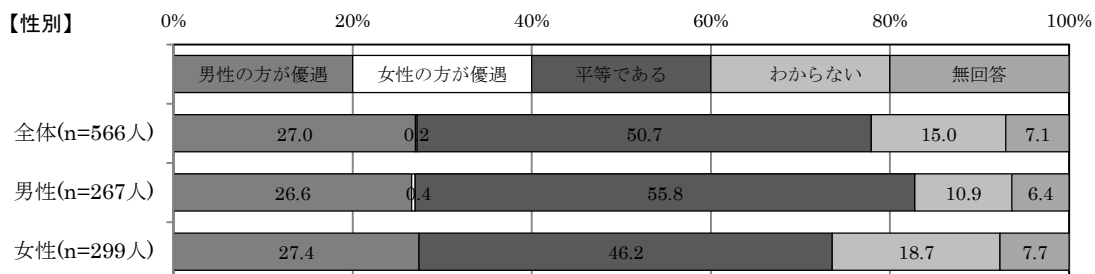
- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（39.2%）で、最も多くなっている。次いで、「経験や能力を発揮する機会」（27.7%）、「賃金」（27.0%）、「仕事の内容」（21.2%）、「研修の機会や内容」（17.8%）の順に続いている。一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（11.0%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっている。



(全体 n=566人)

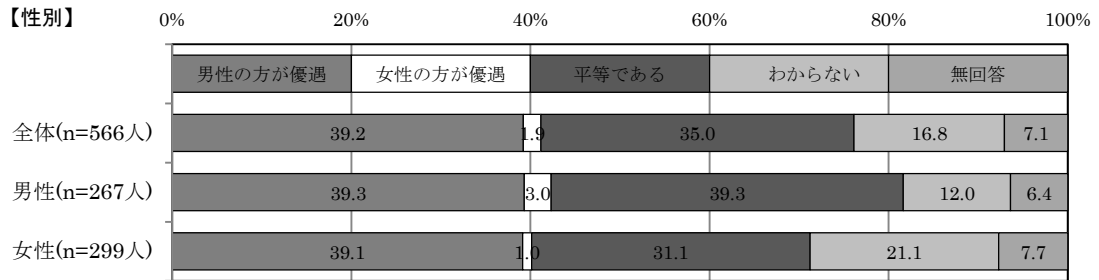
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は55.8%で、女性は46.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答の割合は、20歳代、30歳～34歳の男性で約8割となっている。「男性の方が優遇されている」という回答割合は、70歳以上の女性で5割と、他の年代に比べて高くなっている。

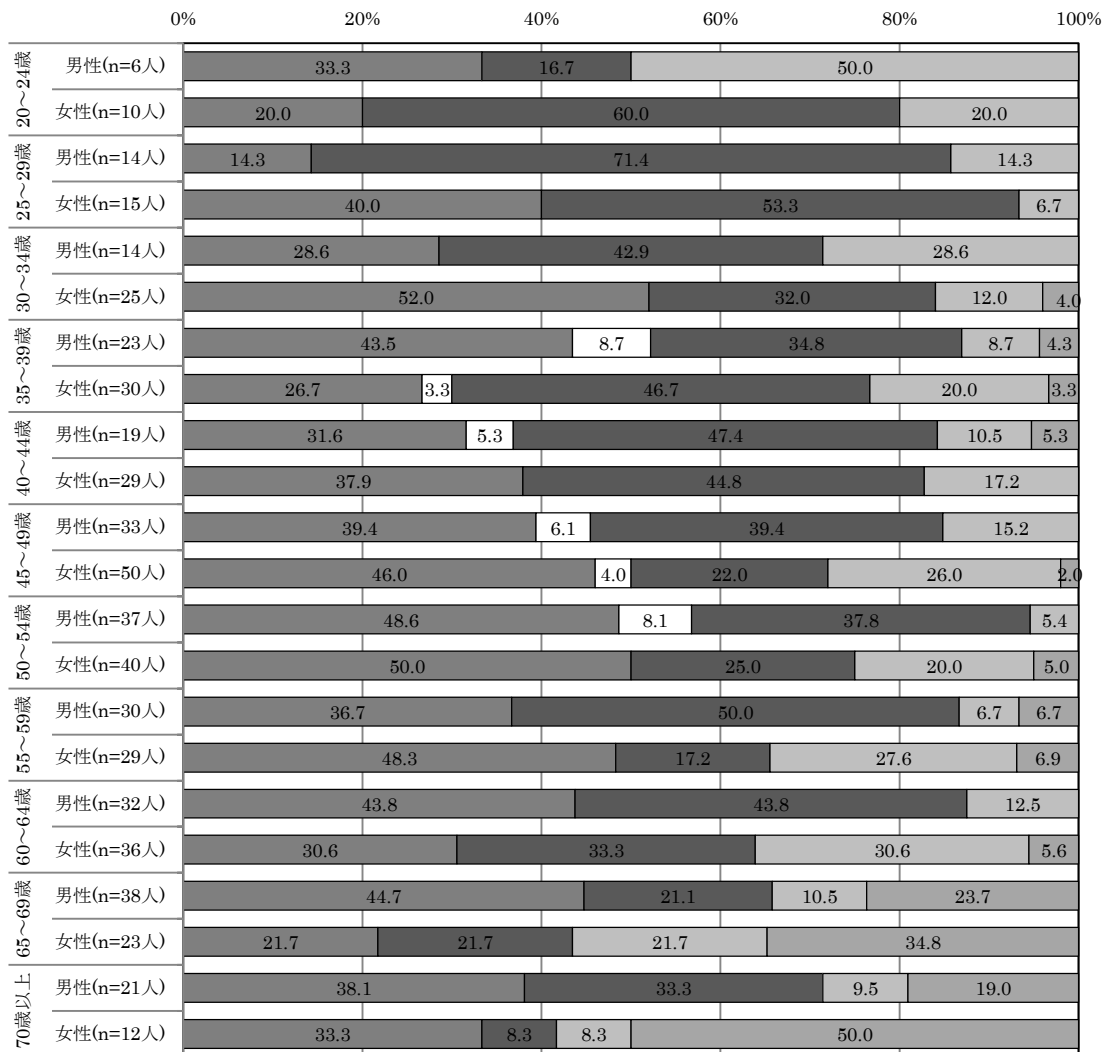


2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男性は、「男性の方が優遇されている」と「平等である」という回答が同じ割合で39.3%となっている。一方女性は「男性の方が優遇されている」が39.1%で、最も多い回答となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が39.3%、女性が31.1%となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。

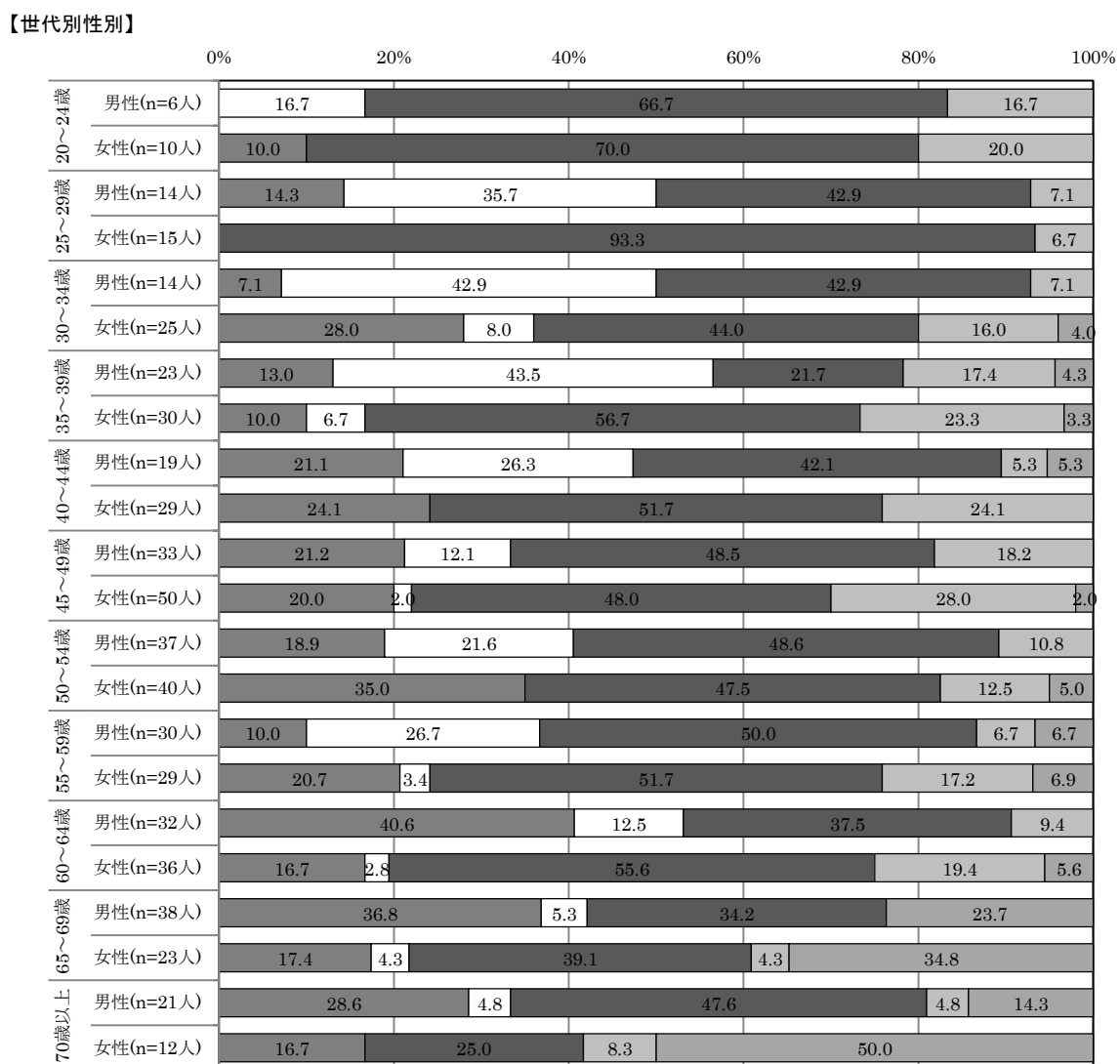
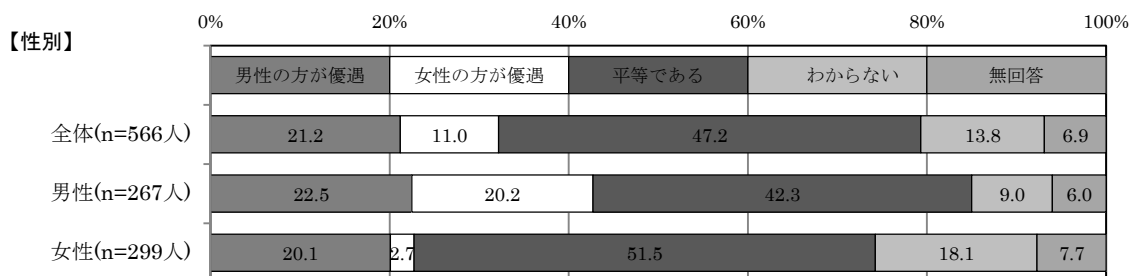


【世代別性別】



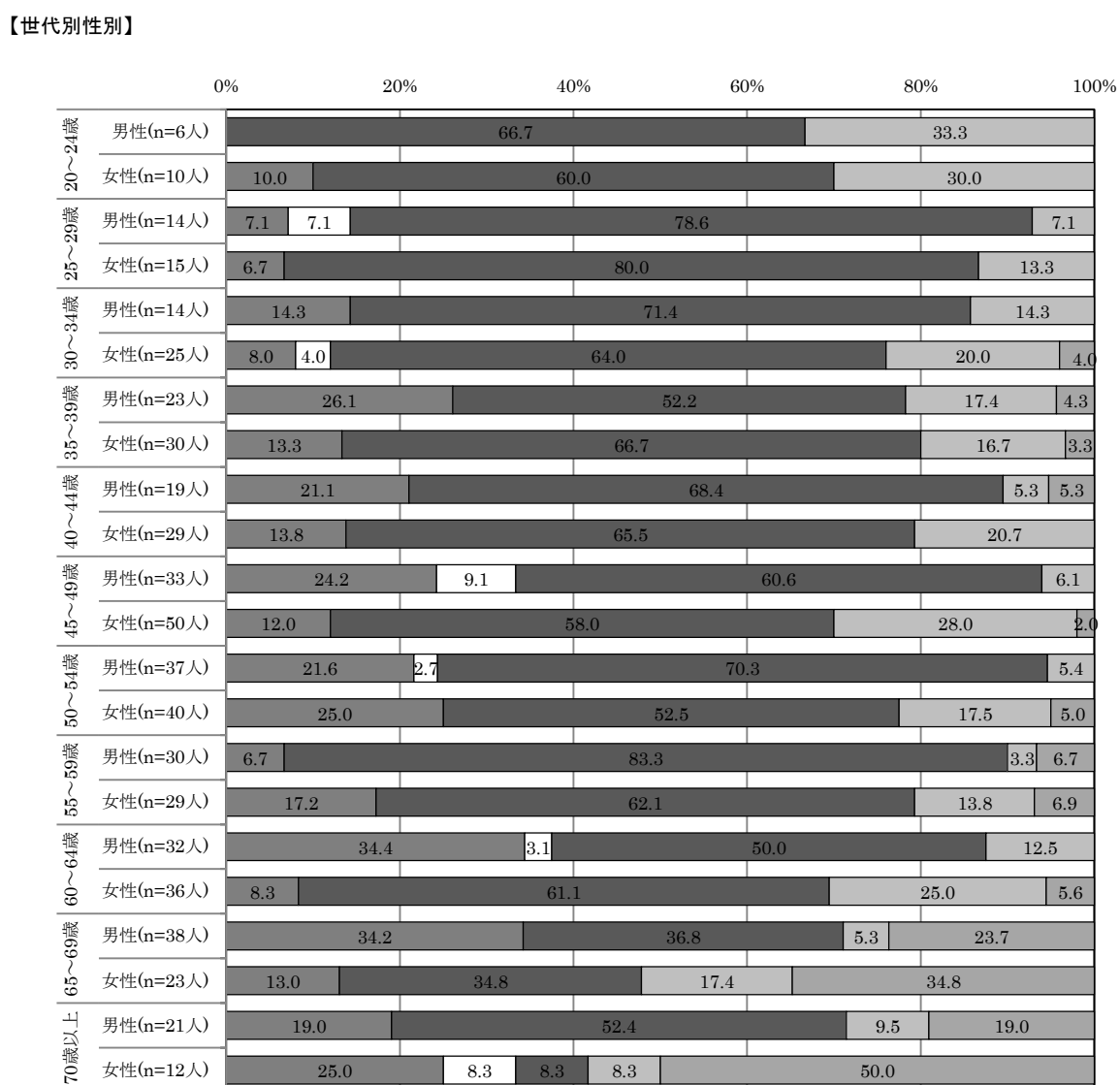
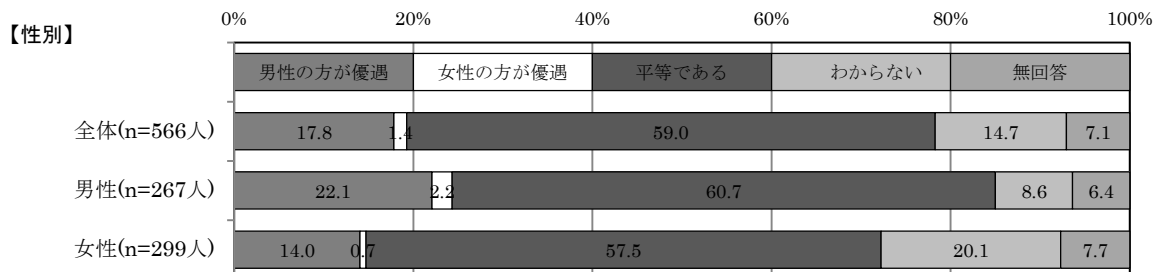
3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が42.3%、女性が51.5%となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が20.2%、女性が2.7%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、男性の60歳代においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。



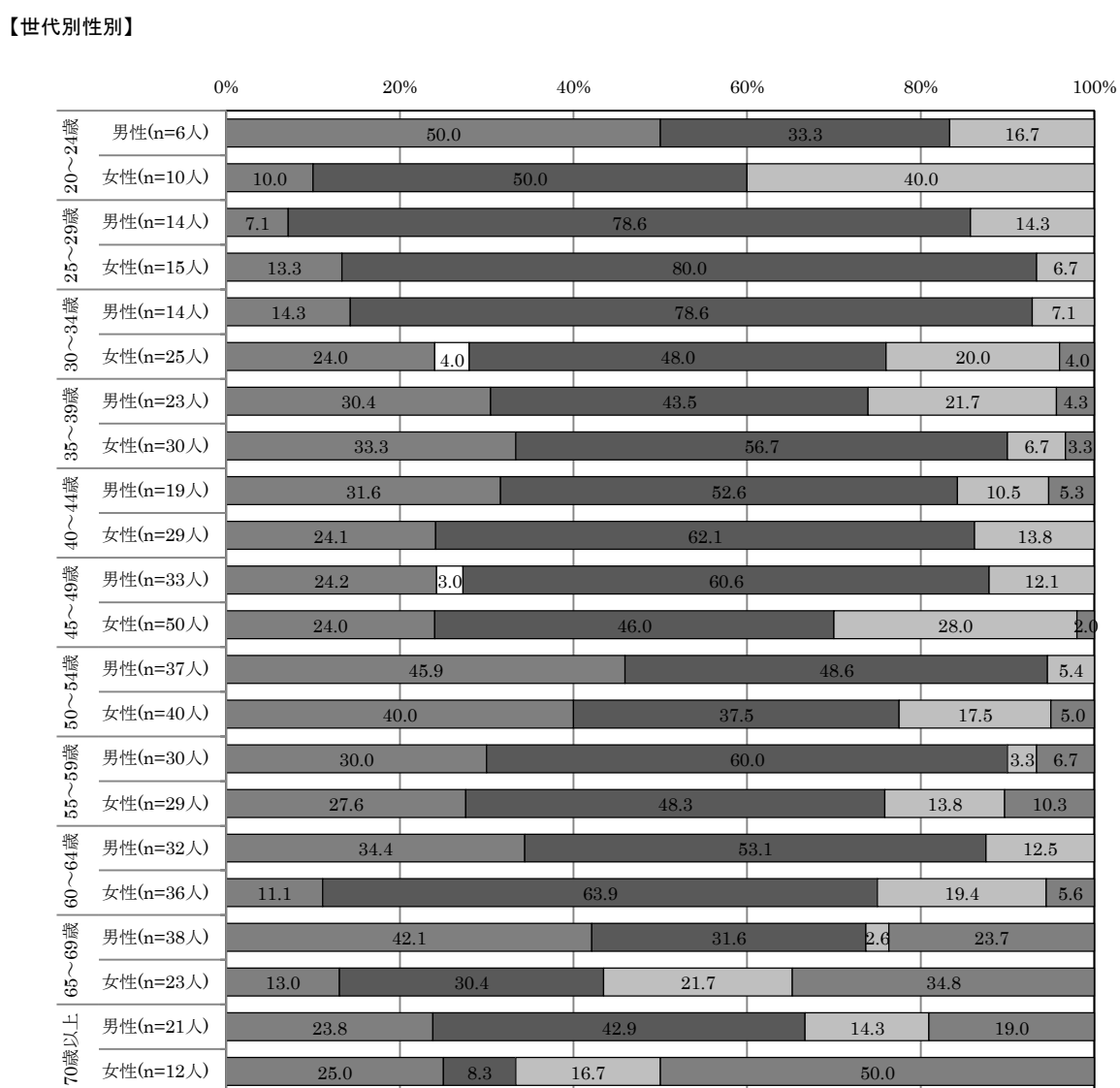
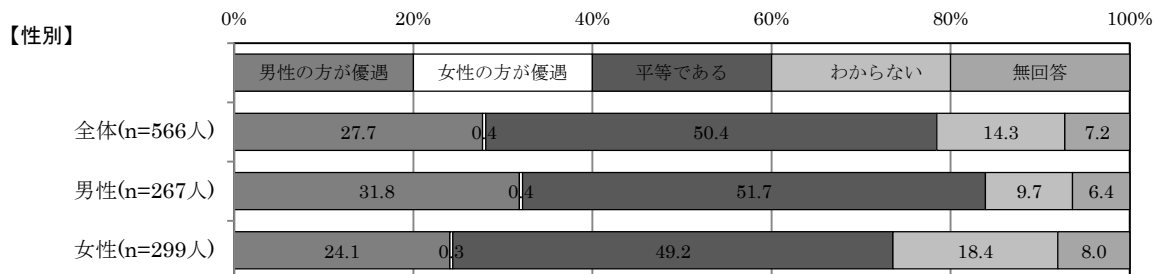
4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が60.7%、女性が57.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の女性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



5 経験や能力を発揮する機会

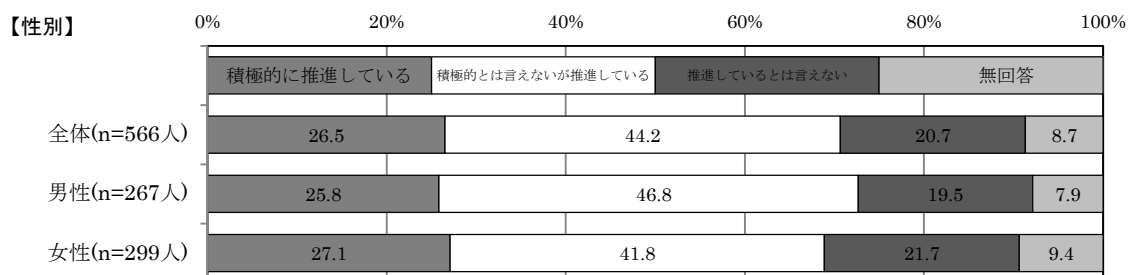
- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が51.7%、女性が49.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性では20歳～24歳、65歳～69歳で、女性では50歳～54歳、70歳以上以外で、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



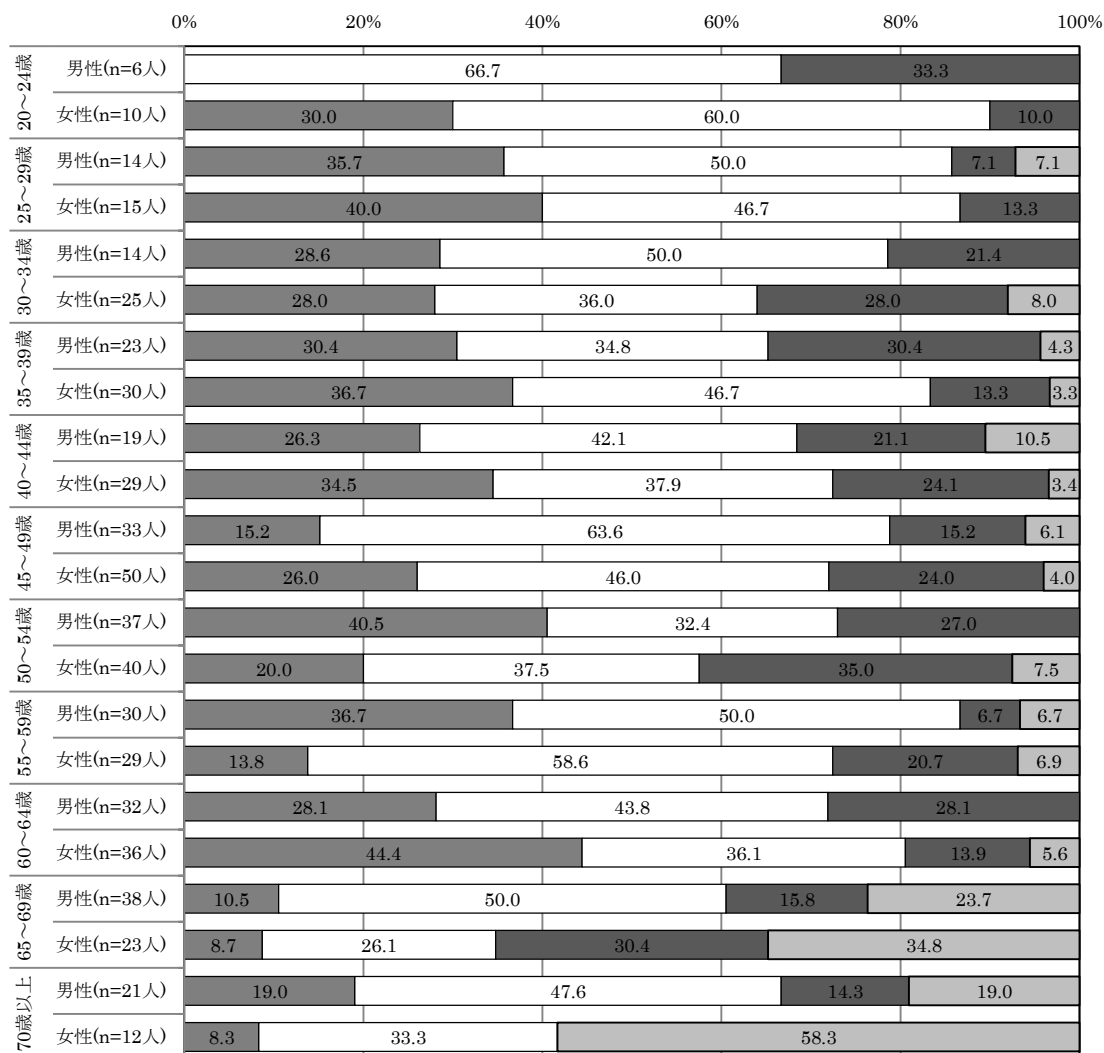
問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。
次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多く、次いで、「積極的に推進している」となっている。
- ・世代別性別でみると、男性は20歳～24歳で、「積極的に推進している」という回答がなしとなっている。一方、女性は60歳～64歳で、「積極的に推進している」という回答が最も多くなっている。



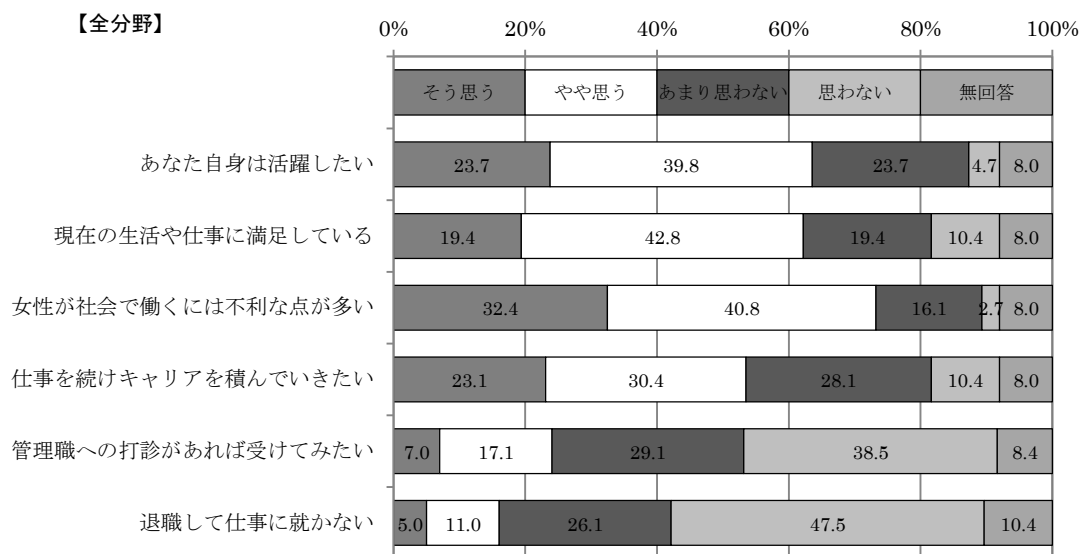
【世代別性別】



問9 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

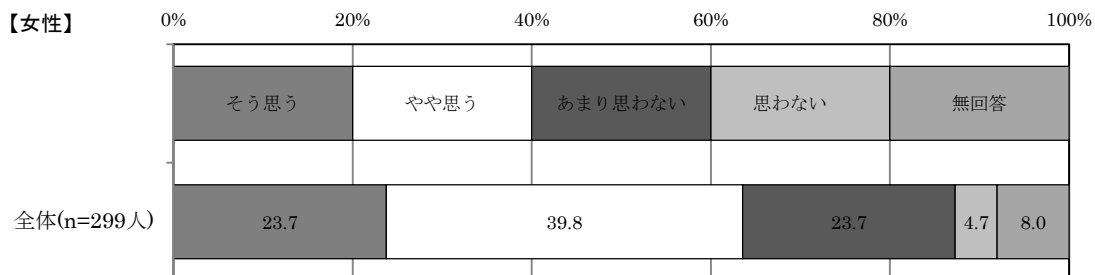
- ・「そう思う」という回答でみると、「女性が社会で働くには不利な点が多い」が約3割(32.4%)で、最も多くなっている。次いで、「あなた自身は活躍したい」(23.7%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(23.1%)、「現在の生活や仕事に満足している」(19.4%)の順が続いている。一方、「思わない」という回答の割合は、「退職して仕事に就かない」が約5割(47.5%)となっている。次いで、「管理職への打診があれば受けてみたい」が約4割(38.5%)となっている。



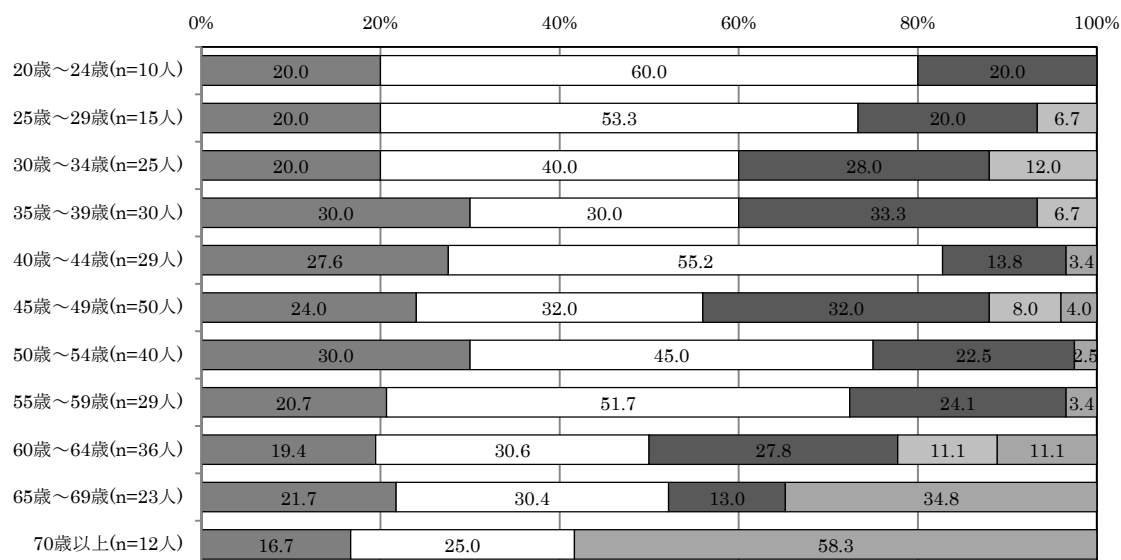
(全体 n=299人)

1 あなた自身は活躍したい

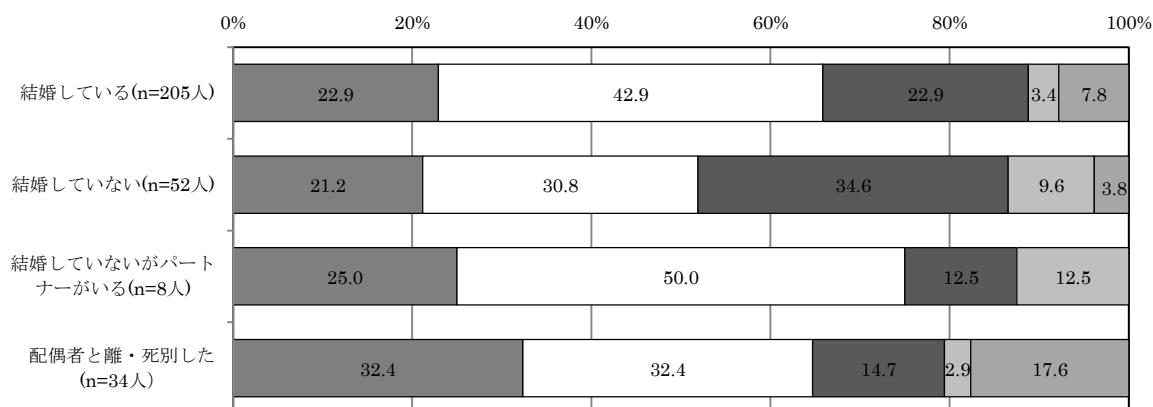
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約4割（39.8%）となっている。
- ・世代別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計でみると、20歳代、40歳～44歳、50歳代で7割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「そう思う」という回答が最も多いのは、「配偶者と離・死別した」（32.4%）となっている。逆に「思わない」という回答が最も多いのは、「結婚していない」（9.6%）となっている。



【女性世代別】

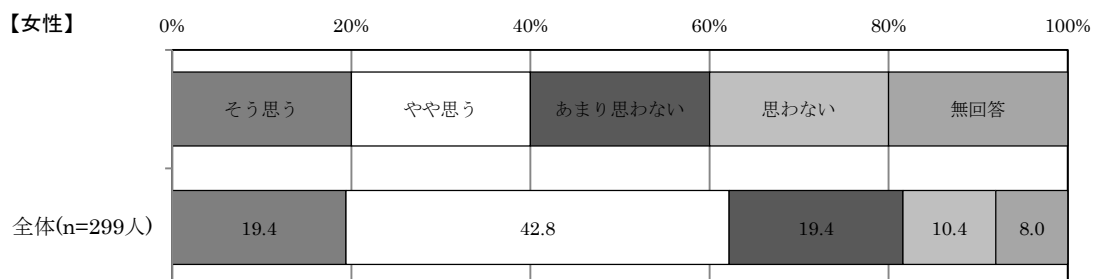


【配偶者の有無】

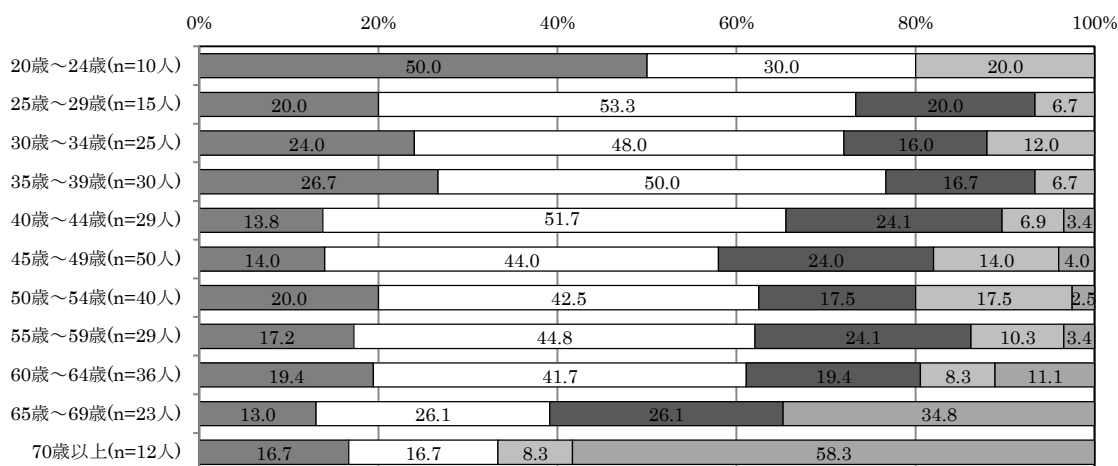


2 現在の生活や仕事に満足している

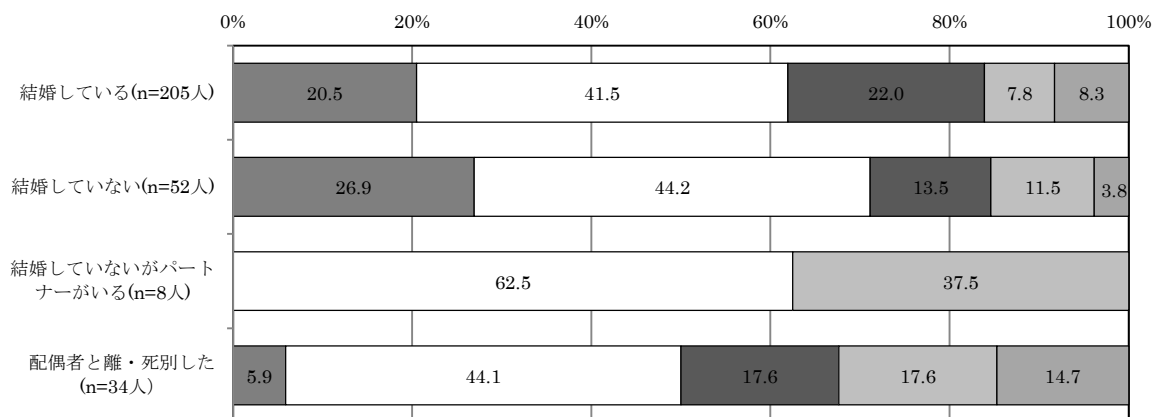
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、42.8%となっている。
- ・世代別でみると、65歳～69歳、70歳以上の年代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が4割未満となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が、「結婚している」、「結婚していない」において回答割合が2割を超えているのに対し、「配偶者と離・死別した」では5.9%と回答割合が1割未満となっている。



【女性世代別】

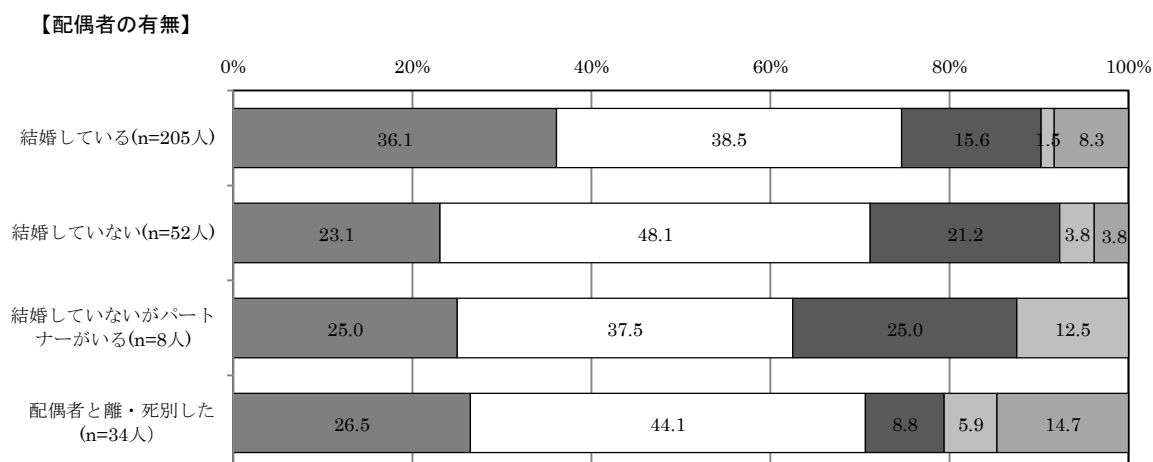
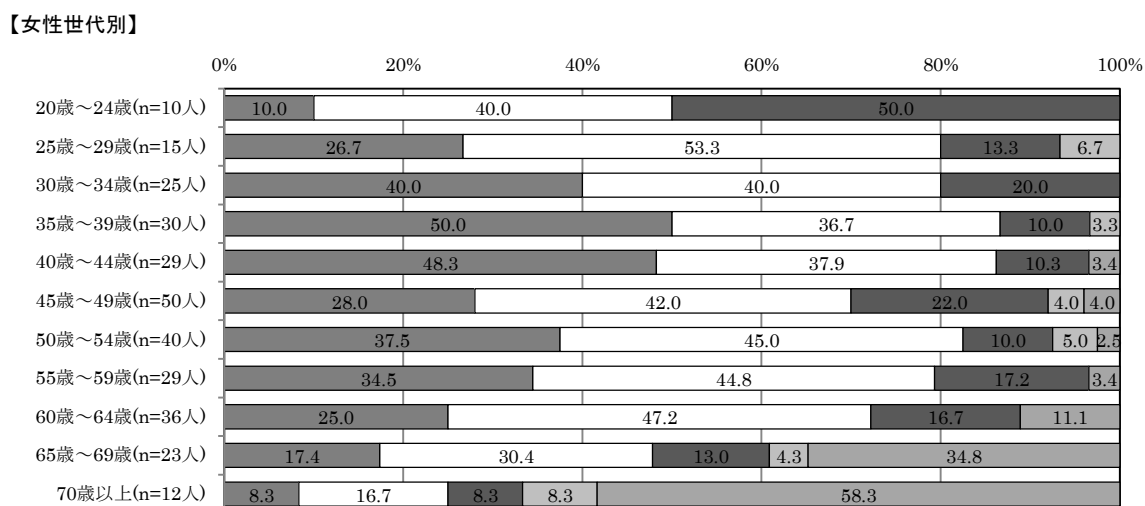
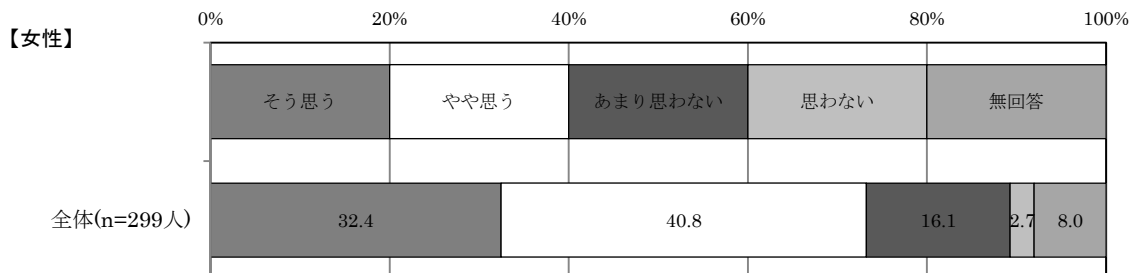


【配偶者の有無】



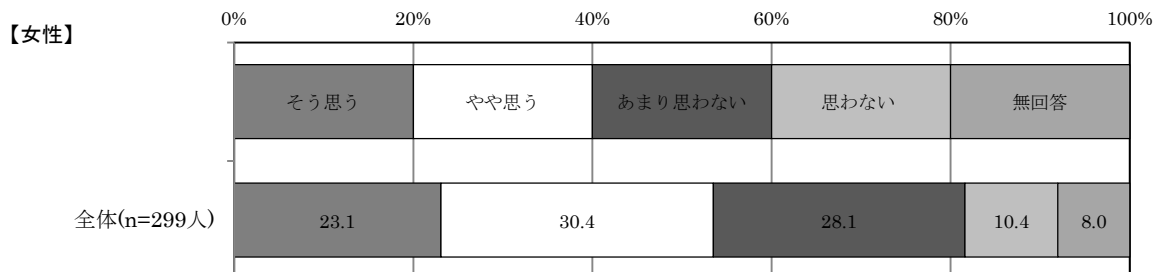
3 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、40.8%となっている。
- ・世代別では、65歳～69歳以上の年代では、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、5割を下回る。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が「結婚している」(36.1%)で最も多い回答となっている。「思わない」という回答が最も多いのは、「結婚していない」(21.2%)となっている。

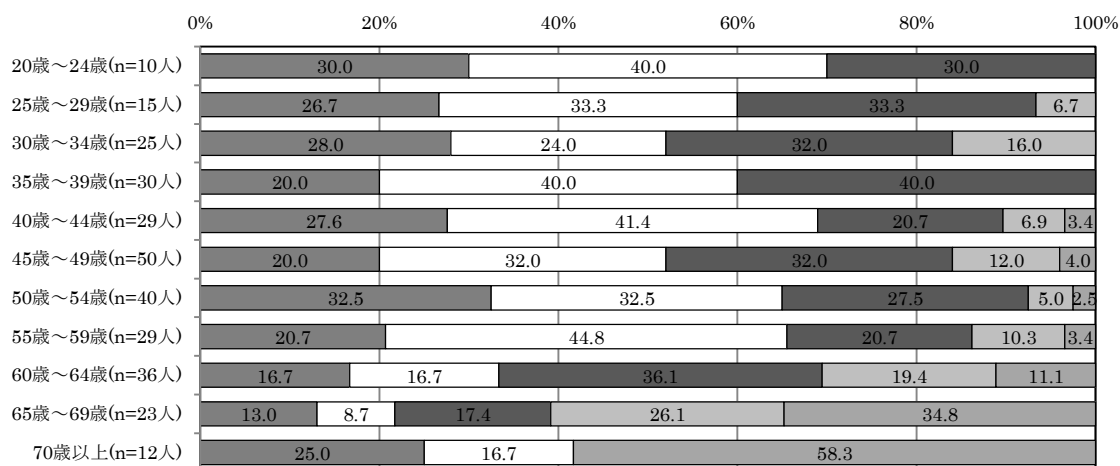


4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

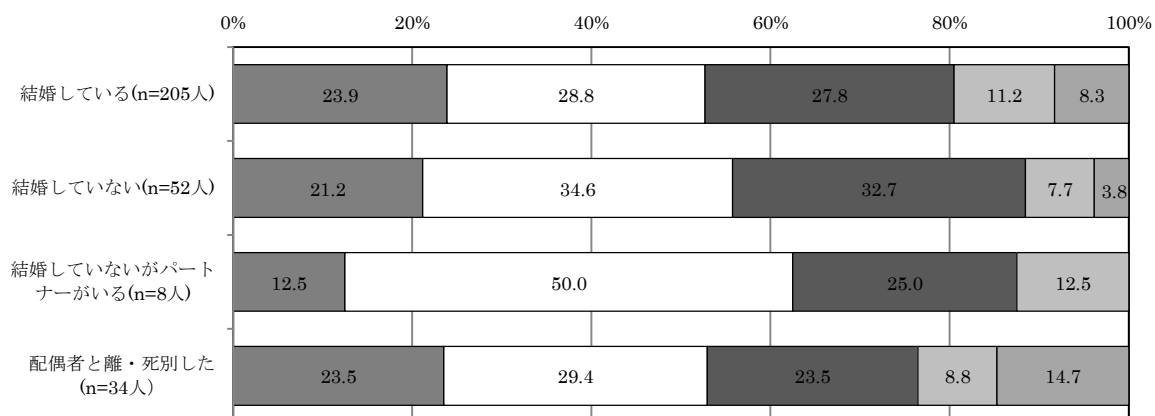
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が30.4%で最も多くなっている。
- ・世代別でみると、60歳代以上以外は、いずれの世代においても「そう思う」、「ややそう思う」という回答割合の合計が5割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、どの方も同じような回答傾向となっている。



【女性世代別】



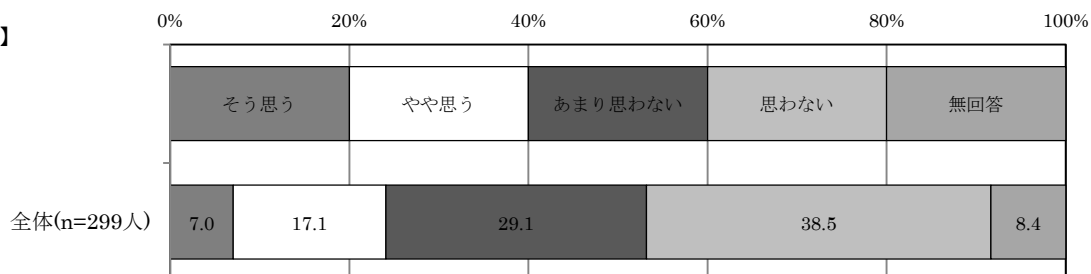
【配偶者の有無】



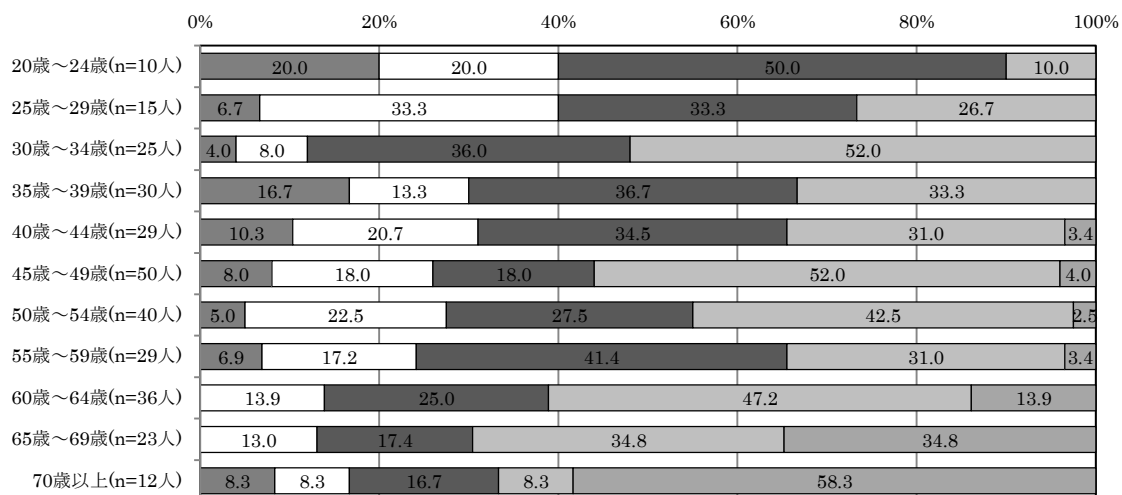
5 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が38.5%で最も多くなっている。
- ・世代別でみると、30歳～34歳、45歳～49歳の年代で、「思わない」という回答が5割を超えている。
- ・配偶者の有無でみると、「思わない」の回答が、「結婚していない」（42.3%）が最も多い回答割合となり、4割を超えている。

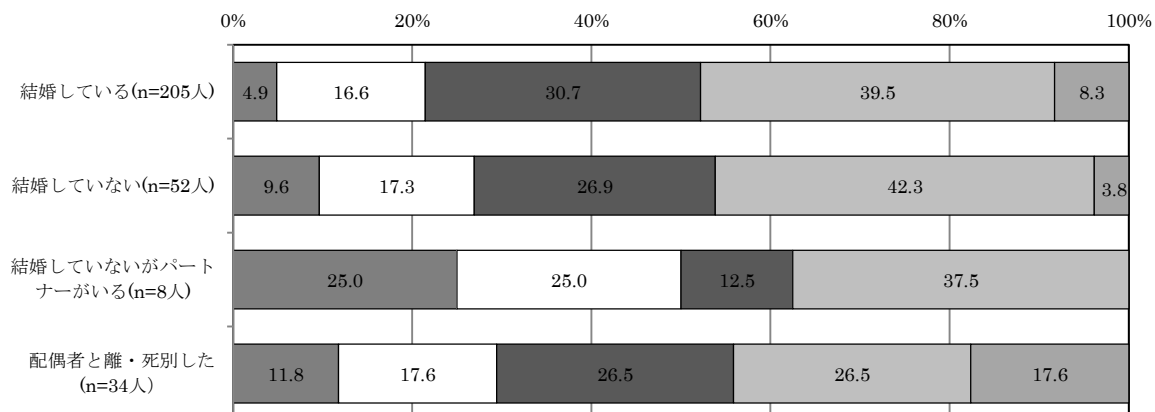
【女性】



【女性世代別】

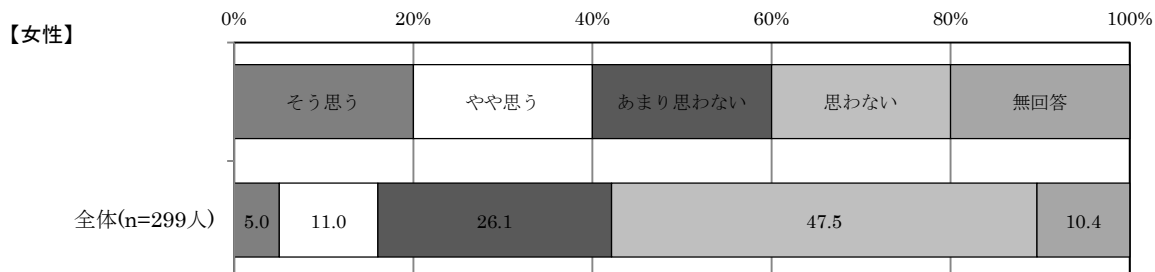


【配偶者の有無】

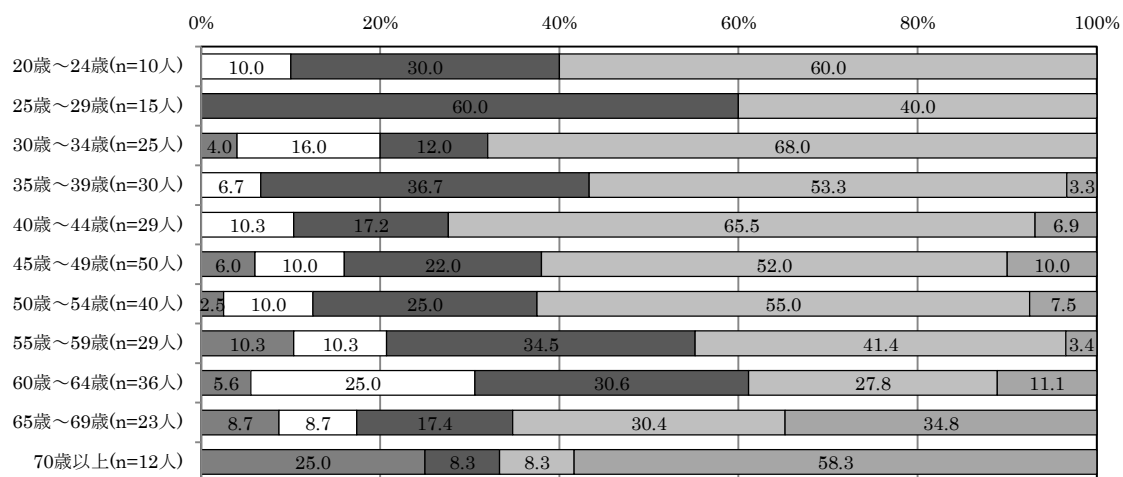


6 退職して仕事に就かない

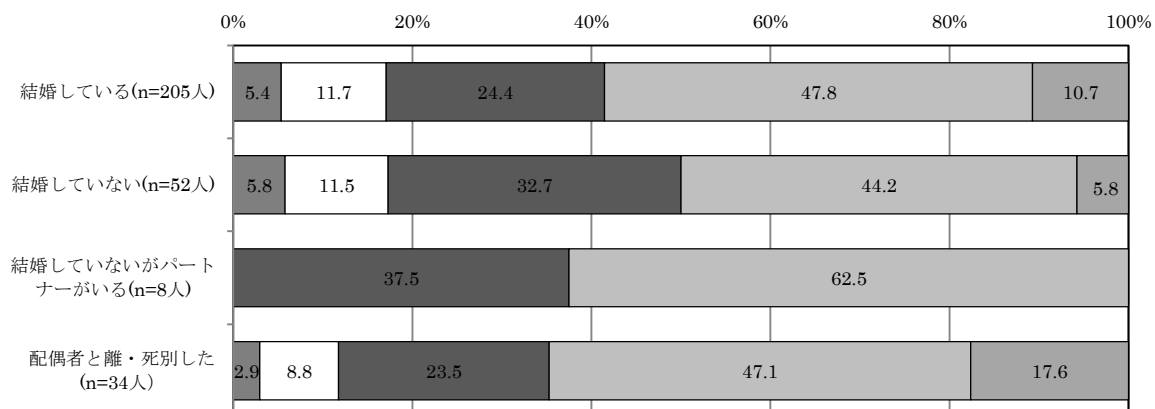
- ・全体でみると、「思わない」という回答が47.5%と約5割となっている。
- ・世代別でみると、25歳～29歳、60歳以上の年代以外で、いずれの年代においても「思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・配偶者の有無でみると、「思わない」という回答が、全ての方の最も多い回答割合となっている。



【女性世代別】



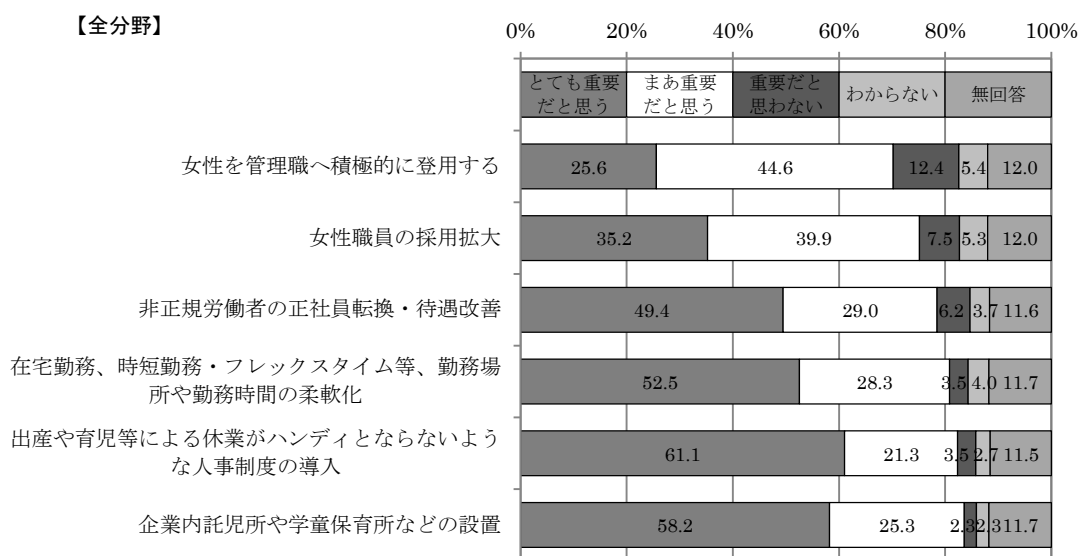
【配偶者の有無】



問 10 職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

女性が活躍するために企業が取り組むべきことは何だと思えますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

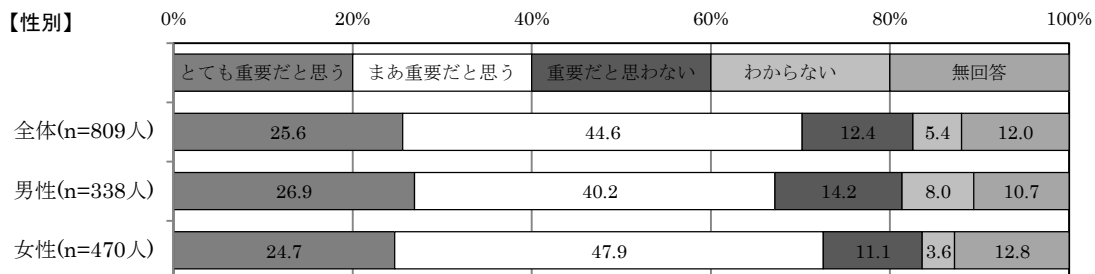
- ・「女性を管理職へ積極的に登用する」、「女性職員の採用拡大」以外で、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」が約6割（61.1%）で、最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」も約6割（58.2%）、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（52.5%）の順が続いている。一方、「重要だと思わない」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」が約1割（12.4%）となっている。それ以外の分野では、1割以下となっている。



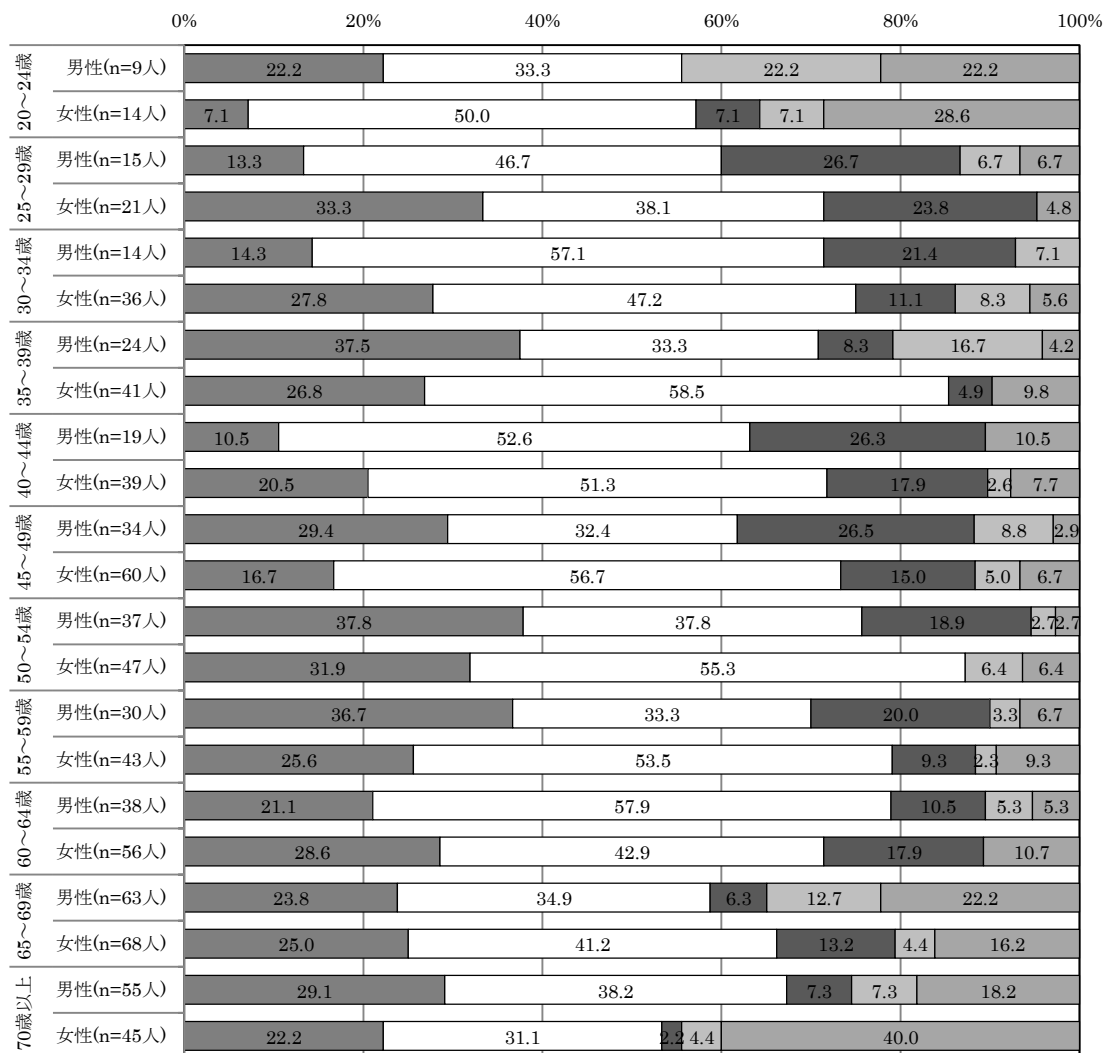
(全体 n=809人)

1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は40.2%で、女性は47.9%となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、35歳～39歳の女性、50歳～54歳の女性では8割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

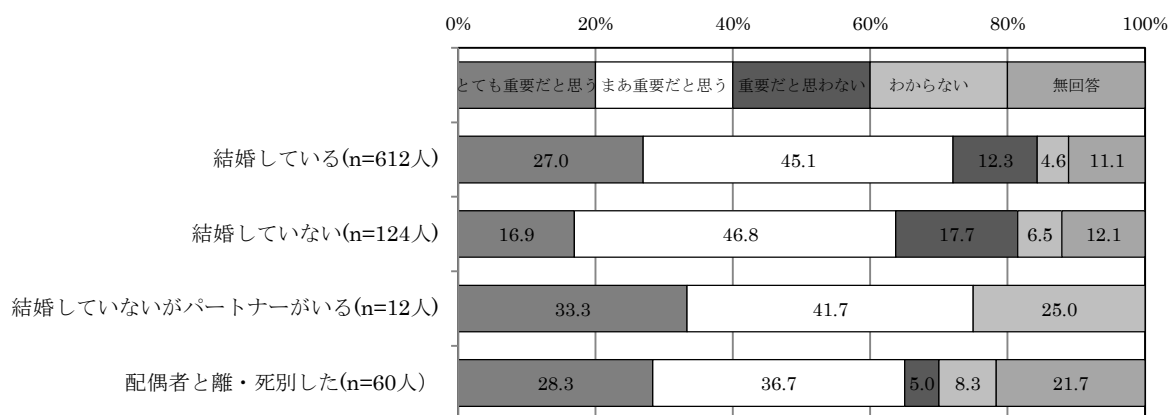


【世代別性別】



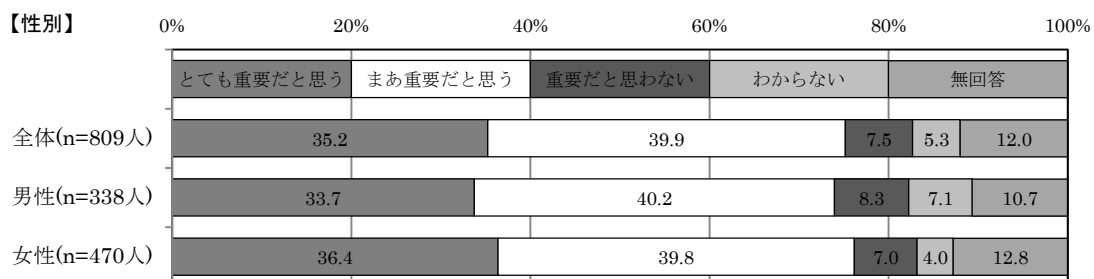
- ・配偶者の有無でみると、「重要だと思わない」という回答が、「結婚していないがパートナーがいる」で回答なしとなっている。一方、「結婚していない」では17.7%となっている。

【配偶者の有無】

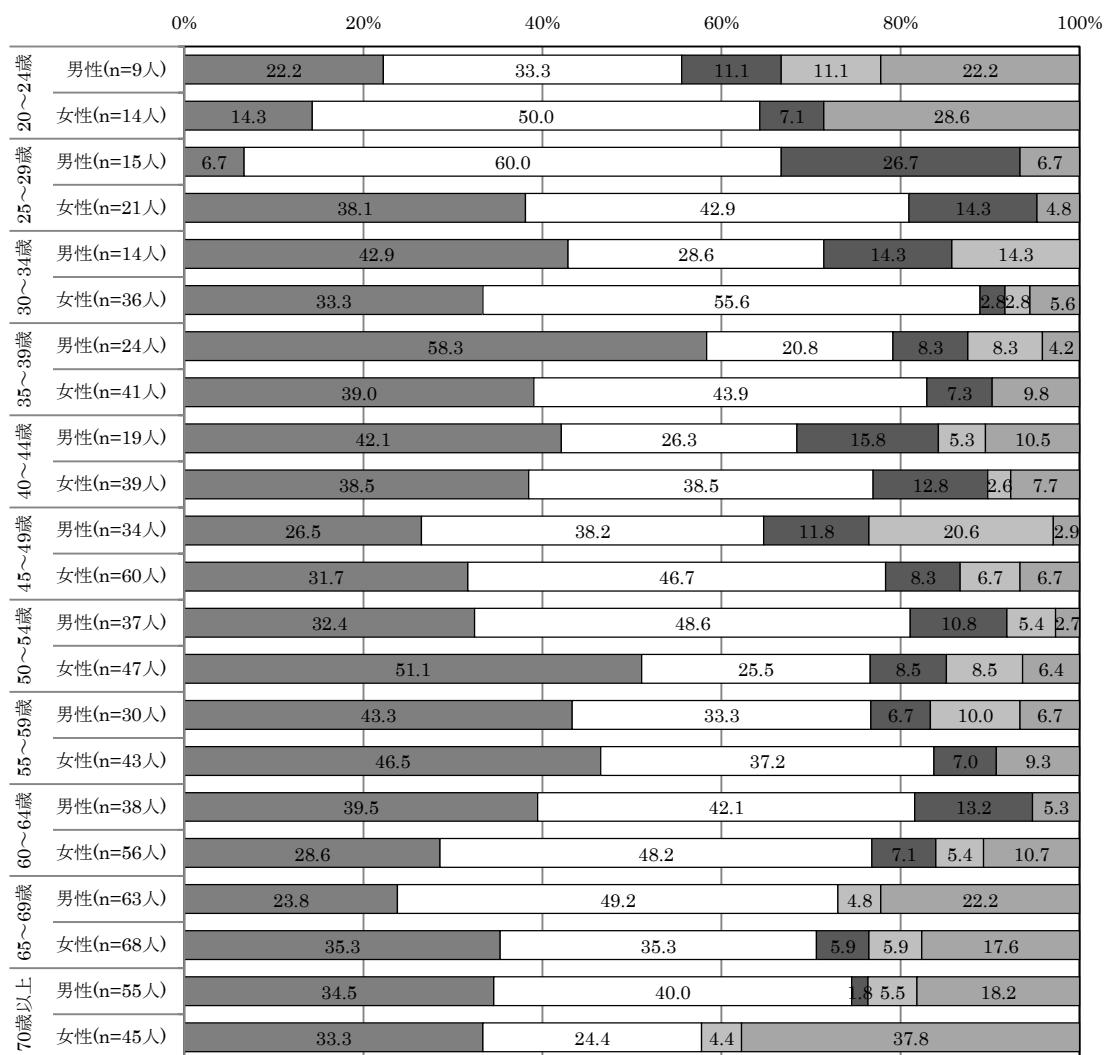


2 女性職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は40.2%で、女性は39.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、「重要だと思わない」という回答が、25歳～29歳の男性が26.7%となり、他の年代よりも回答割合が高くなっている。

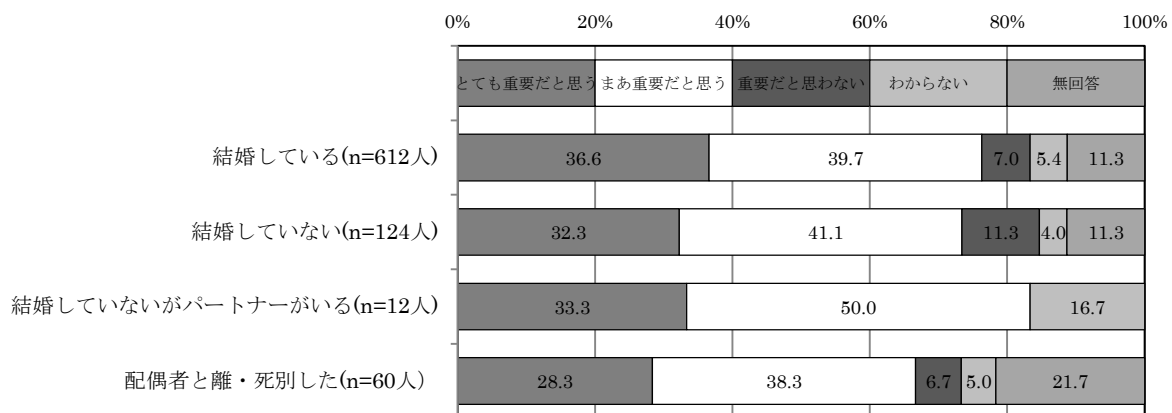


【世代別性別】



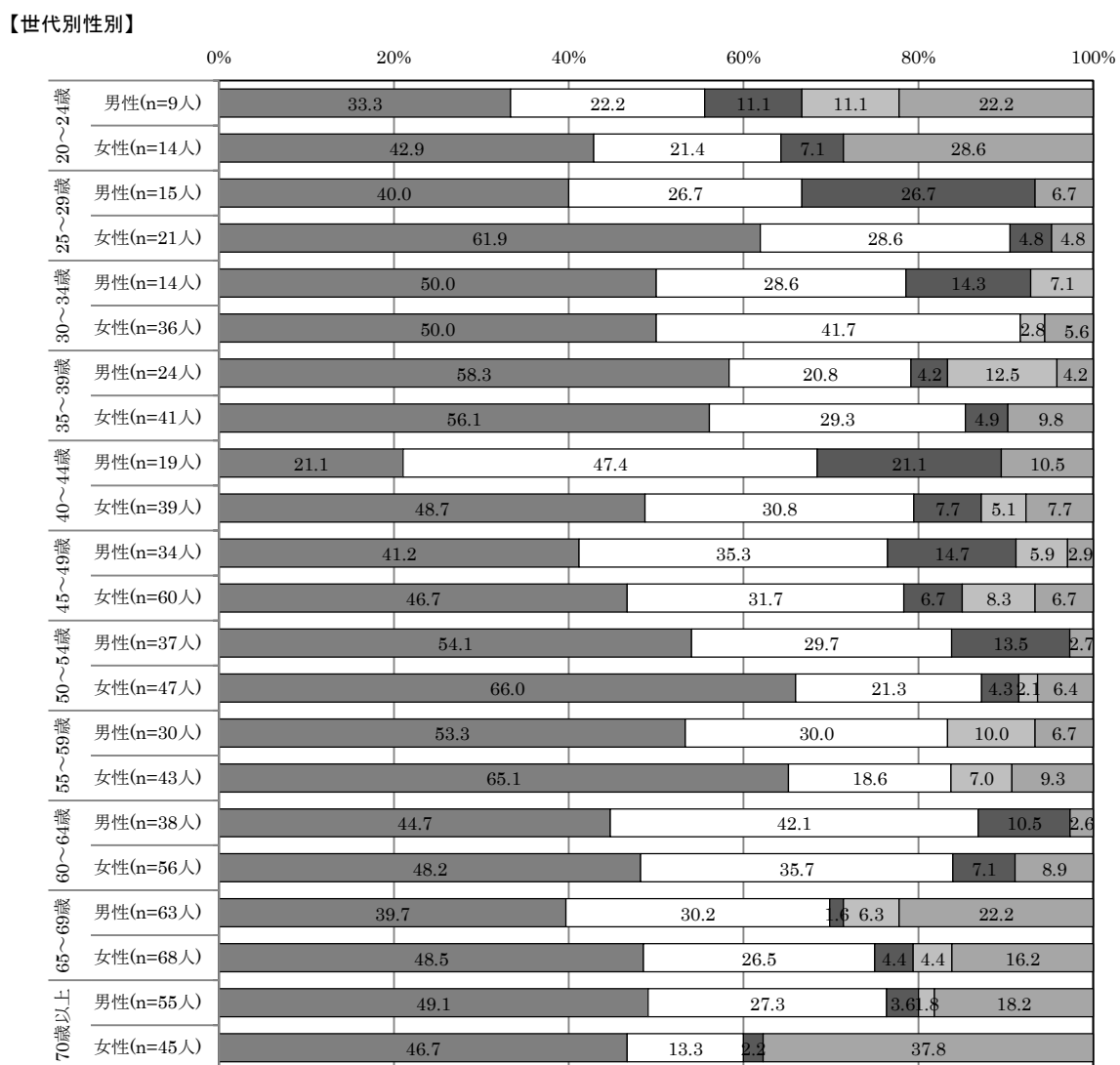
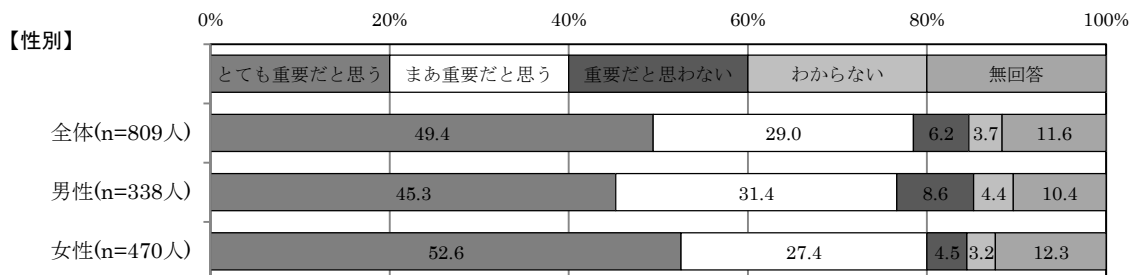
- ・配偶者の有無でみると、「重要だと思わない」という回答が、「結婚していないがパートナーがいる」で回答なしとなっている。

【配偶者の有無】



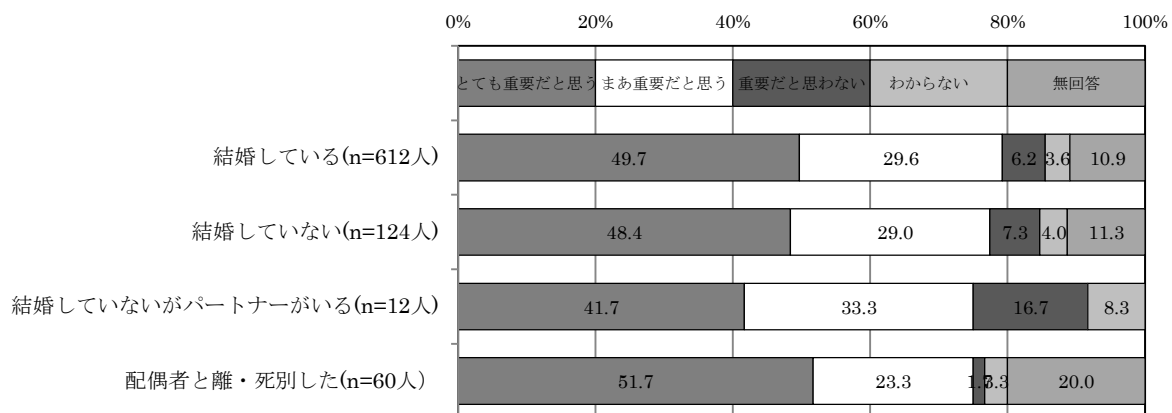
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

- ・性別でみると、男女とも「とても重要だと思う」という回答が最も多く、男性が45.3%、女性が52.6%となっている。
- ・世代別性別では、「とても重要だと思う」という回答が、40歳～44歳の男性を除く全ての年代で最も多い回答となっている。



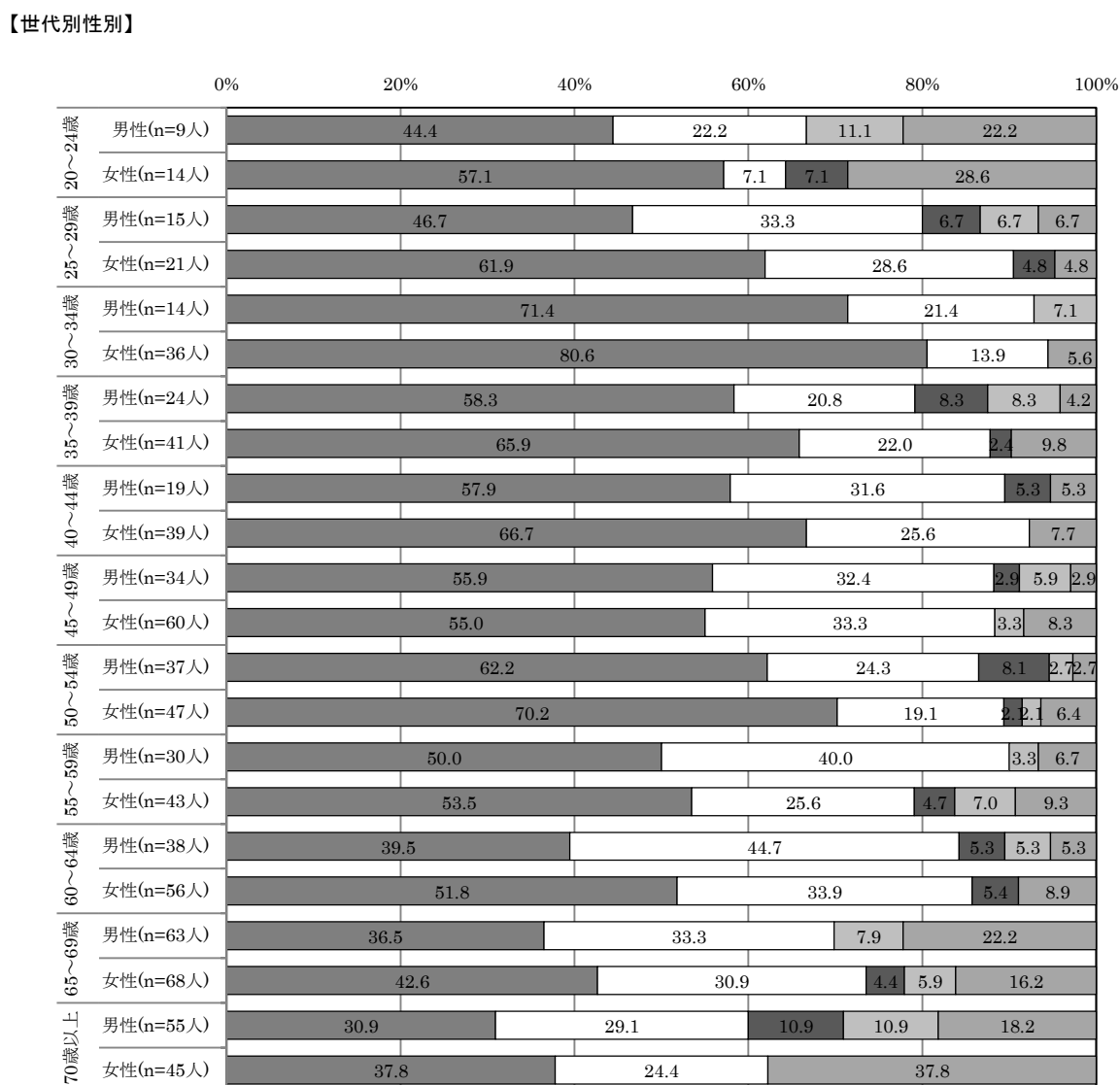
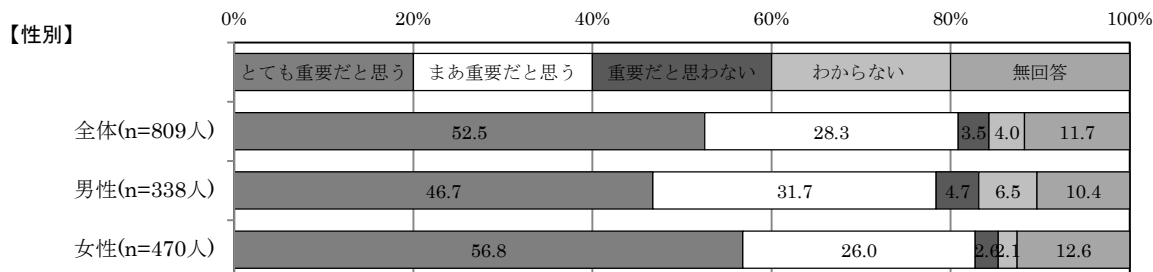
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」という回答が、「配偶者と離・死別した」で51.7%と回答割合が5割を超えている。

【配偶者の有無】



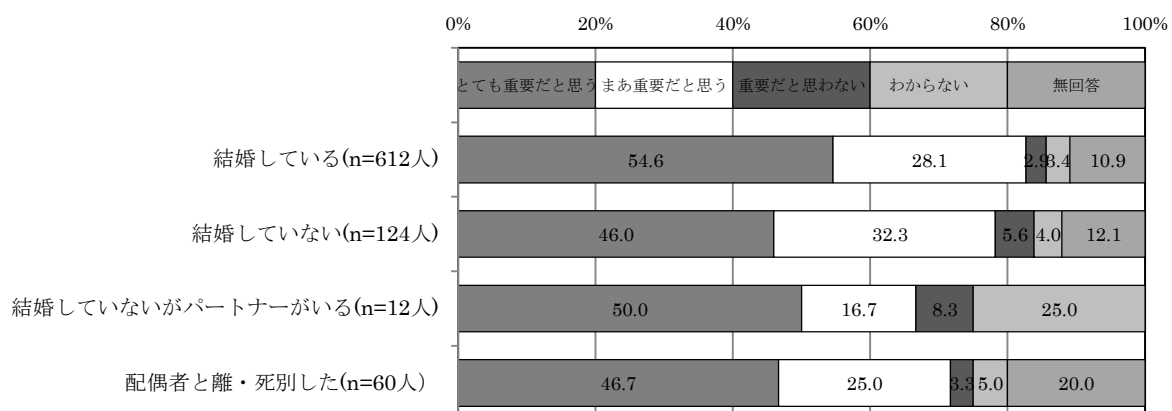
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が46.7%、女性が56.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の女性では、「とても重要だと思う」という回答が8割を超えており、特に高い回答割合となっている。



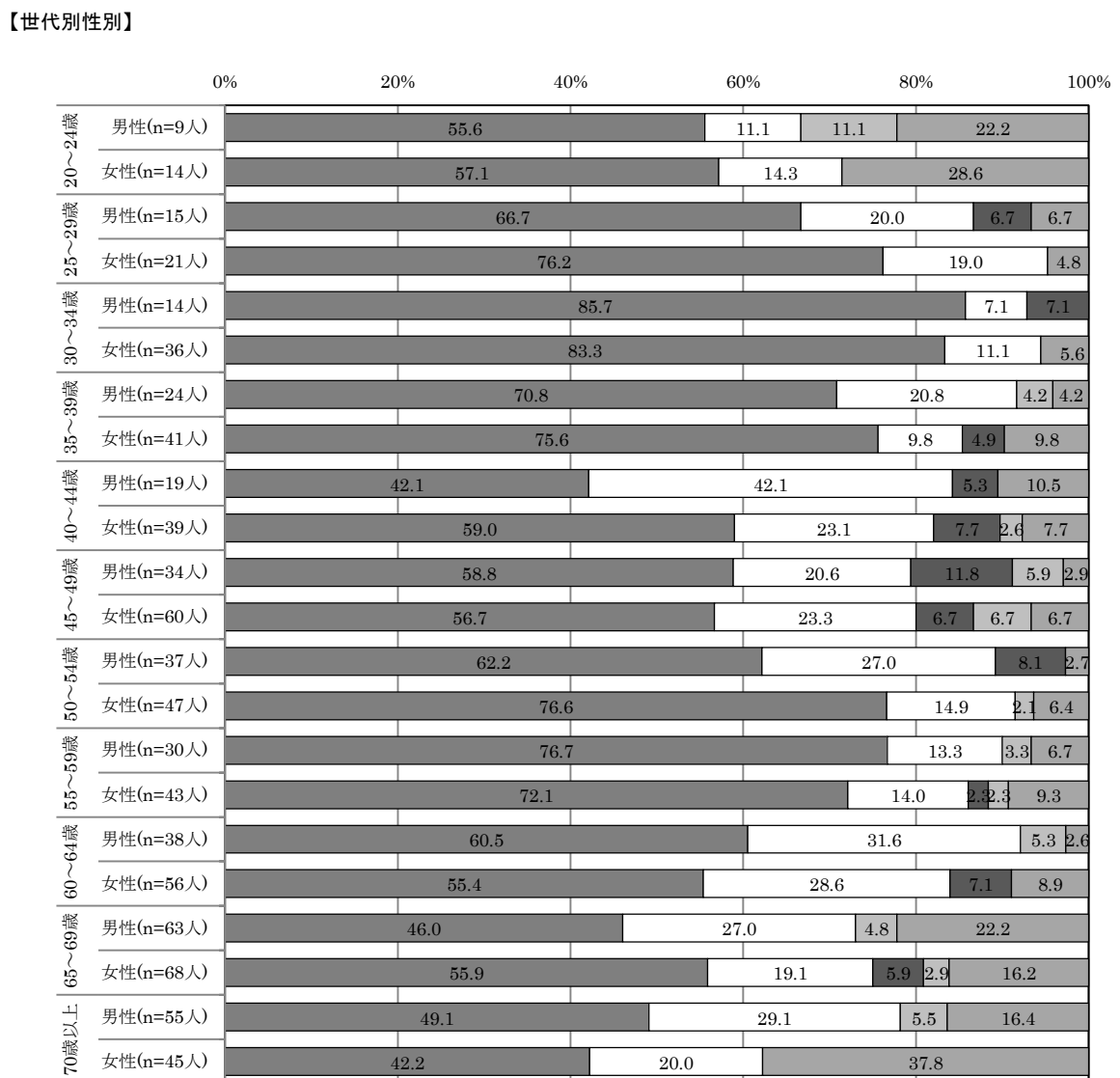
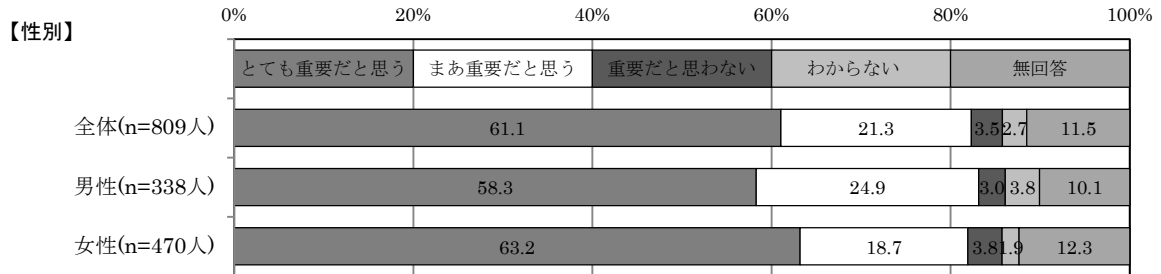
- ・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が「結婚している」で82.7%と8割を超えている。

【配偶者の有無】



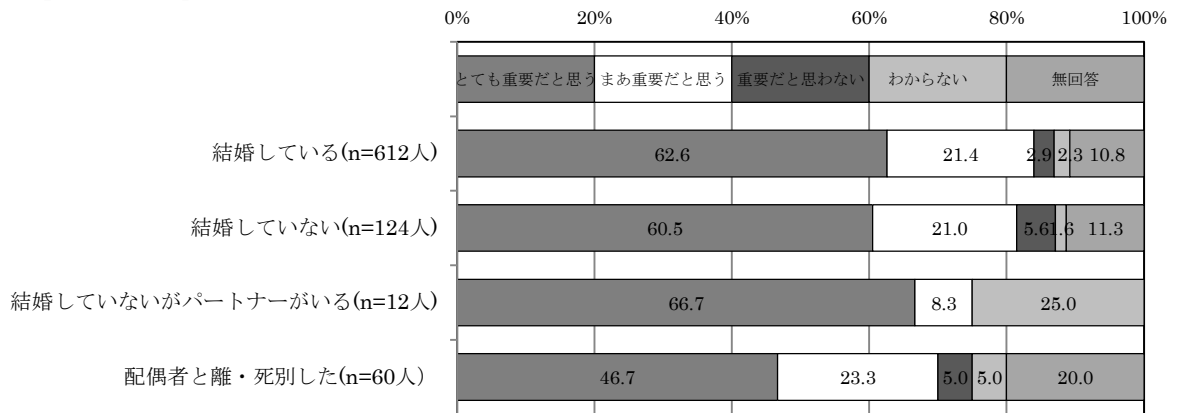
5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が58.3%、女性が63.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性では40歳～44歳の年代で、女性では70歳以上の年代で、他の年代に比べて「とても重要だと思う」という回答割合が低い傾向になっている。



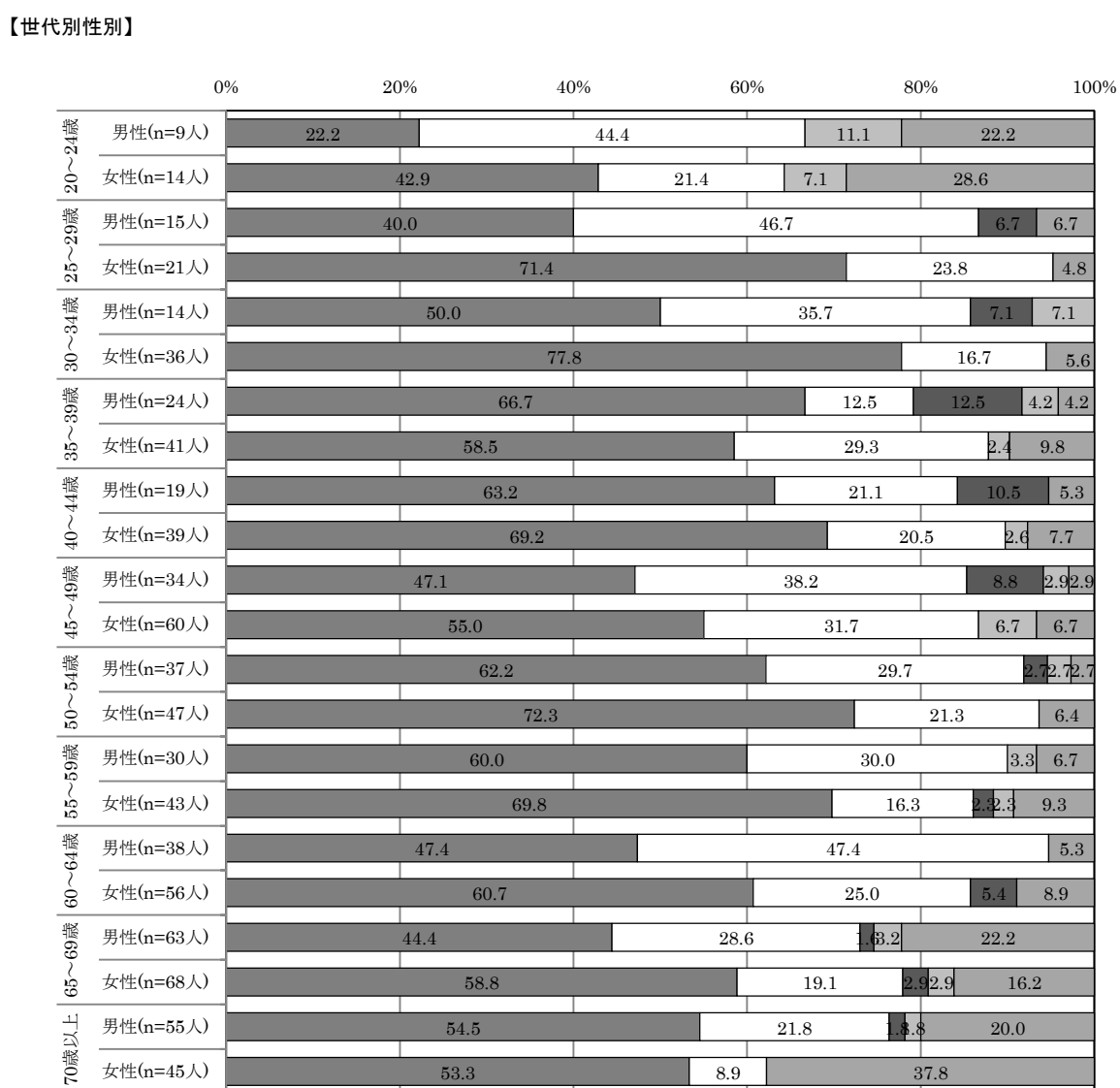
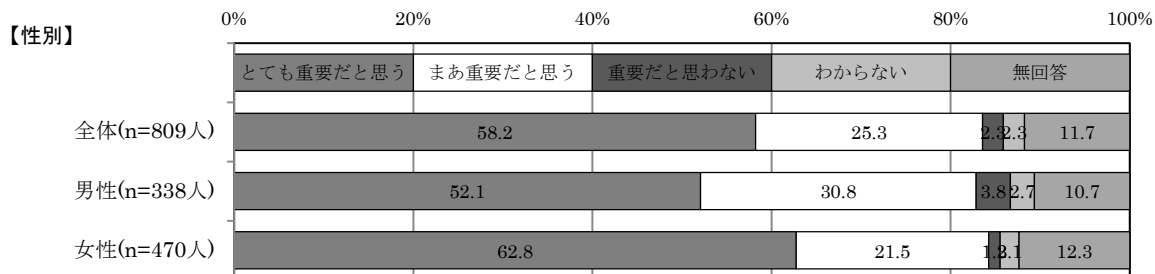
・配偶者の有無でみると、「とても重要だと思う」とう回答が、「配偶者と離・死別した」で46.7%と他に比べて回答割合が低い傾向になっている。

【配偶者の有無】



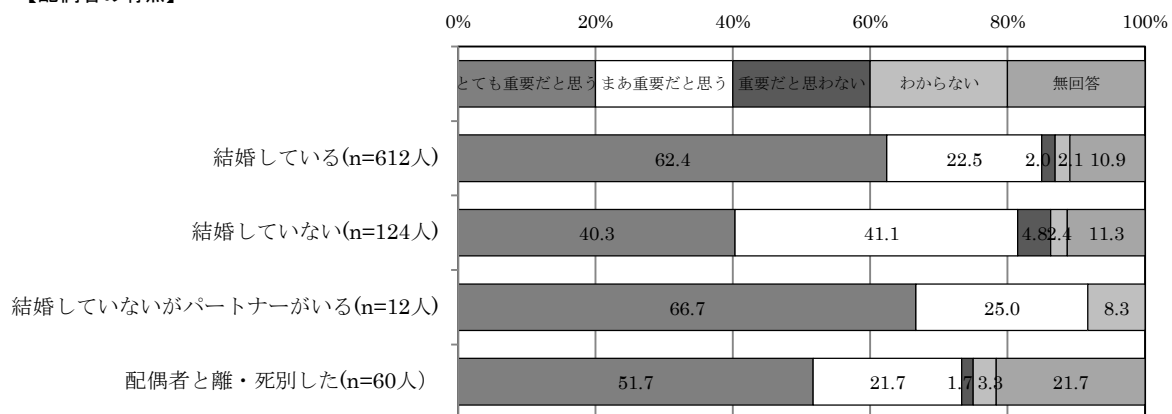
6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が52.1%、女性が62.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性の20歳代の年代以外で、いずれの年代においても「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。



- ・配偶者の有無でみると、「重要だと思わない」という回答が、どの方も5%未満と低い回答割合となっている。

【配偶者の有無】

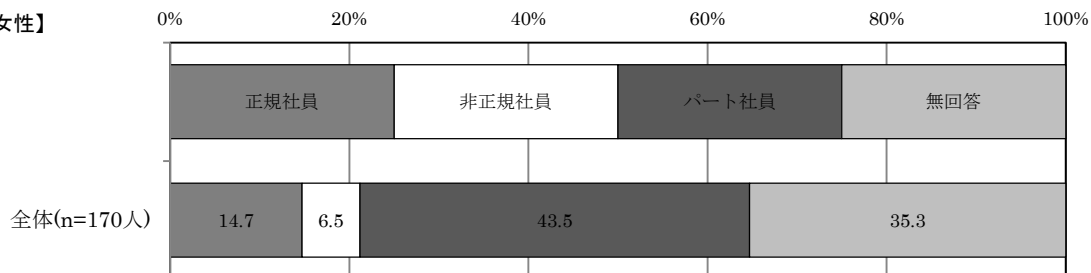


問 11 離職されている女性の方におたずねします。

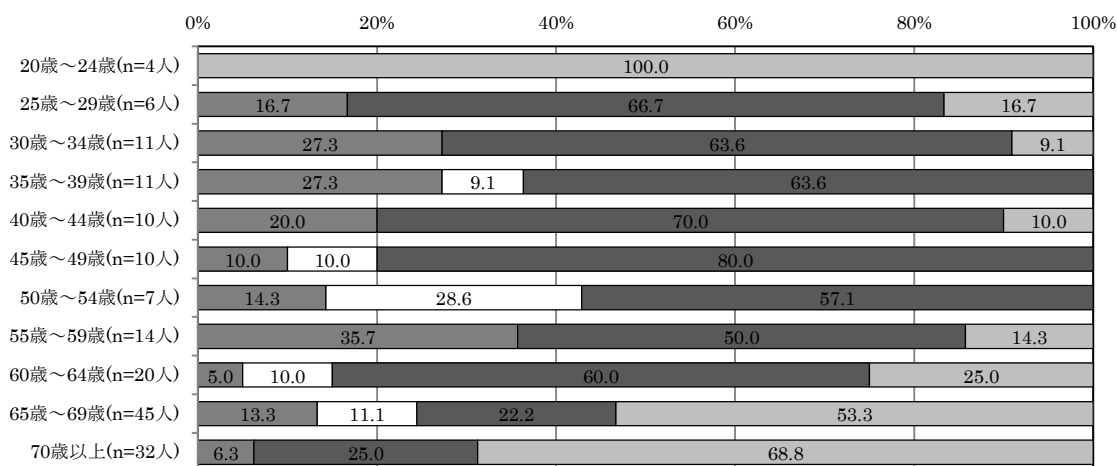
再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が最も多く、次いで、「正規社員」となっている。
- ・世代別性別でみると、40歳代で、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」という回答が7割を超え、多い傾向にある。
- ・配偶者の有無でみると、「正規社員」という回答が、「結婚していない」で41.2%と他に比べて回答割合が高い傾向になっている。

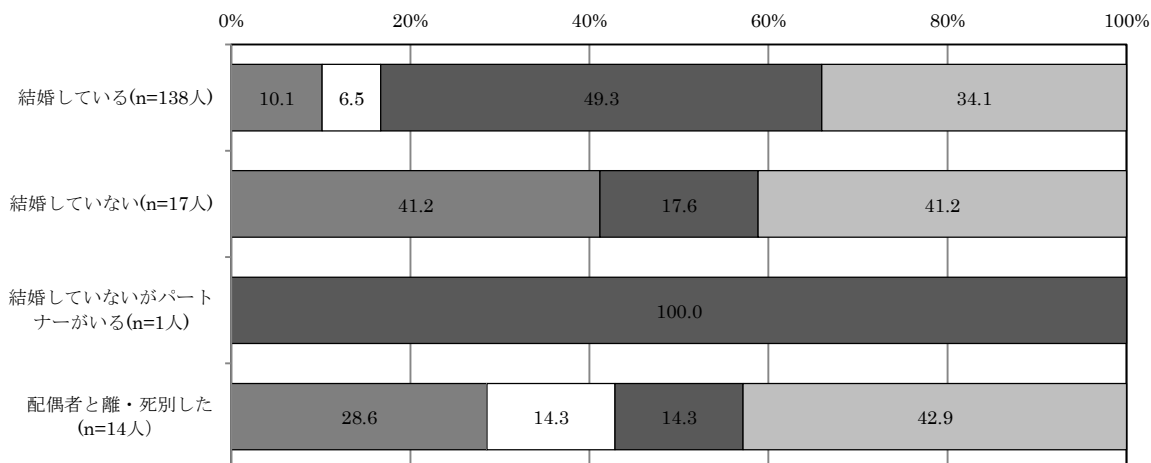
【女性】



【女性世代別】

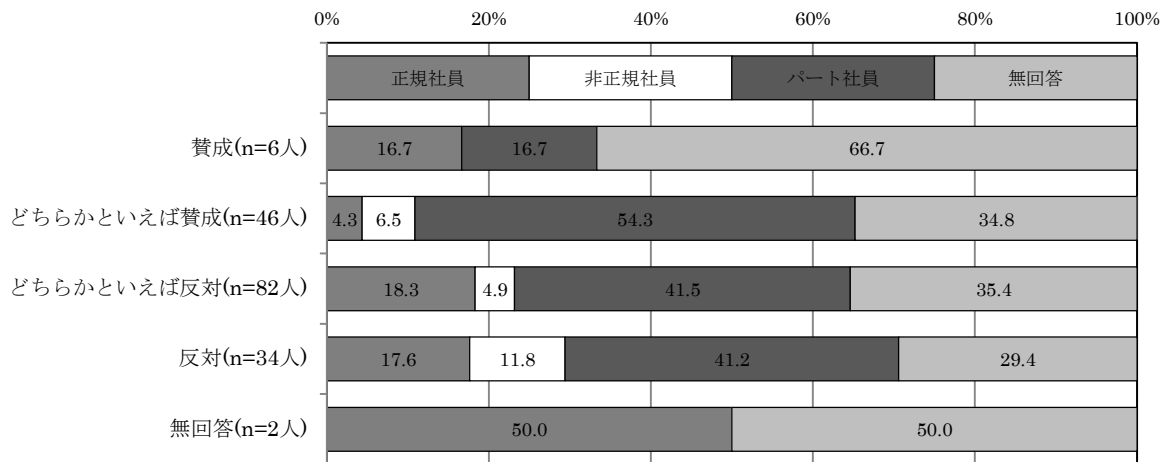


【配偶者の有無】



- ・男女の役割の固定についてみると、「正規社員」という回答が「どちらかといえば賛成」で4.3%と他に比べて回答割合が低い傾向になっている。

【男女の役割の固定について】



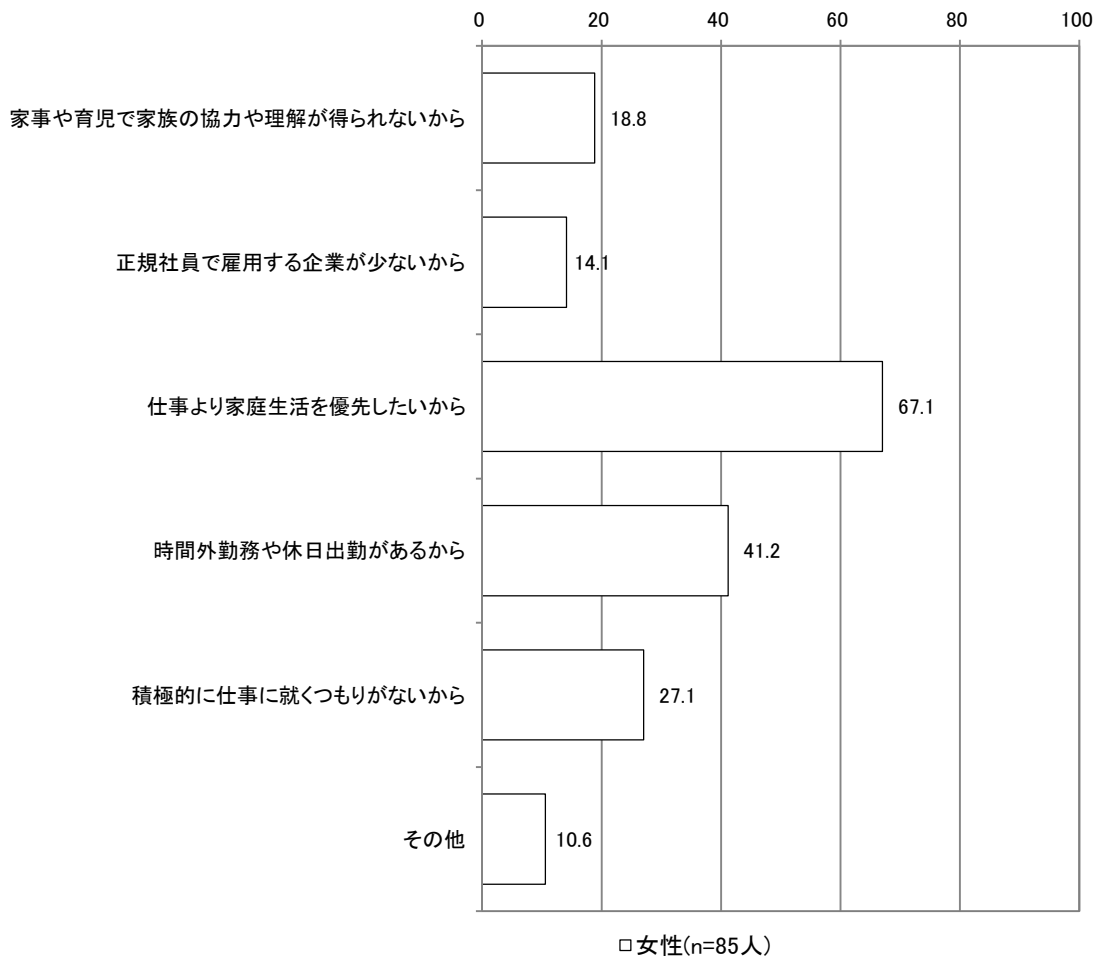
問 12 問 11 で 2 または 3 を選ばれた方におたずねします。

その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」(67.1%) が最も多い回答となっている。次いで、「時間外勤務や休日出勤があるから」(41.2%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(27.1%) の順で続いている。

(%)

【女性】



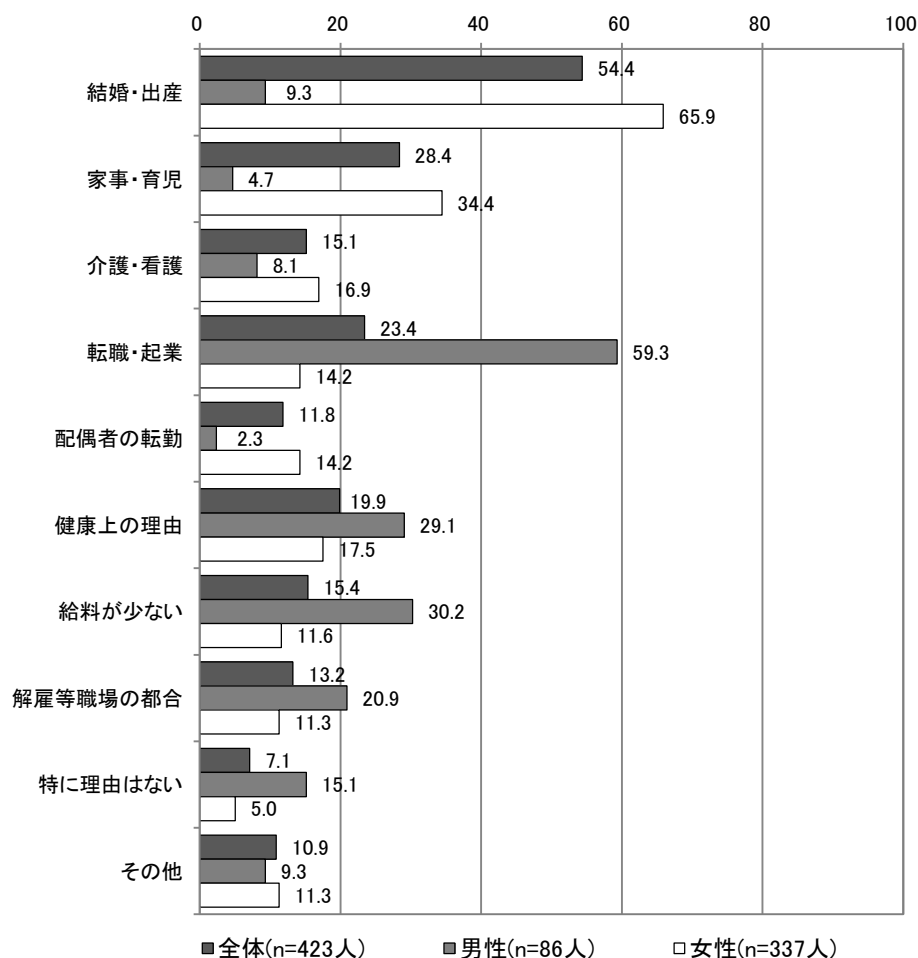
問 13 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚・出産」（54.4%）が最も多い回答となっている。次いで、「家事・育児」（28.4%）、「転職・起業」（23.4%）の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」（59.3%）、「給料が少ない」（30.2%）、「健康上の理由」（29.1%）の順となっている。女性は、「結婚・出産」（65.9%）、「家事・育児」（34.4%）、「健康上の理由」（17.5%）の順となっている。
（※無回答は、離職経験のない方として集計している）。

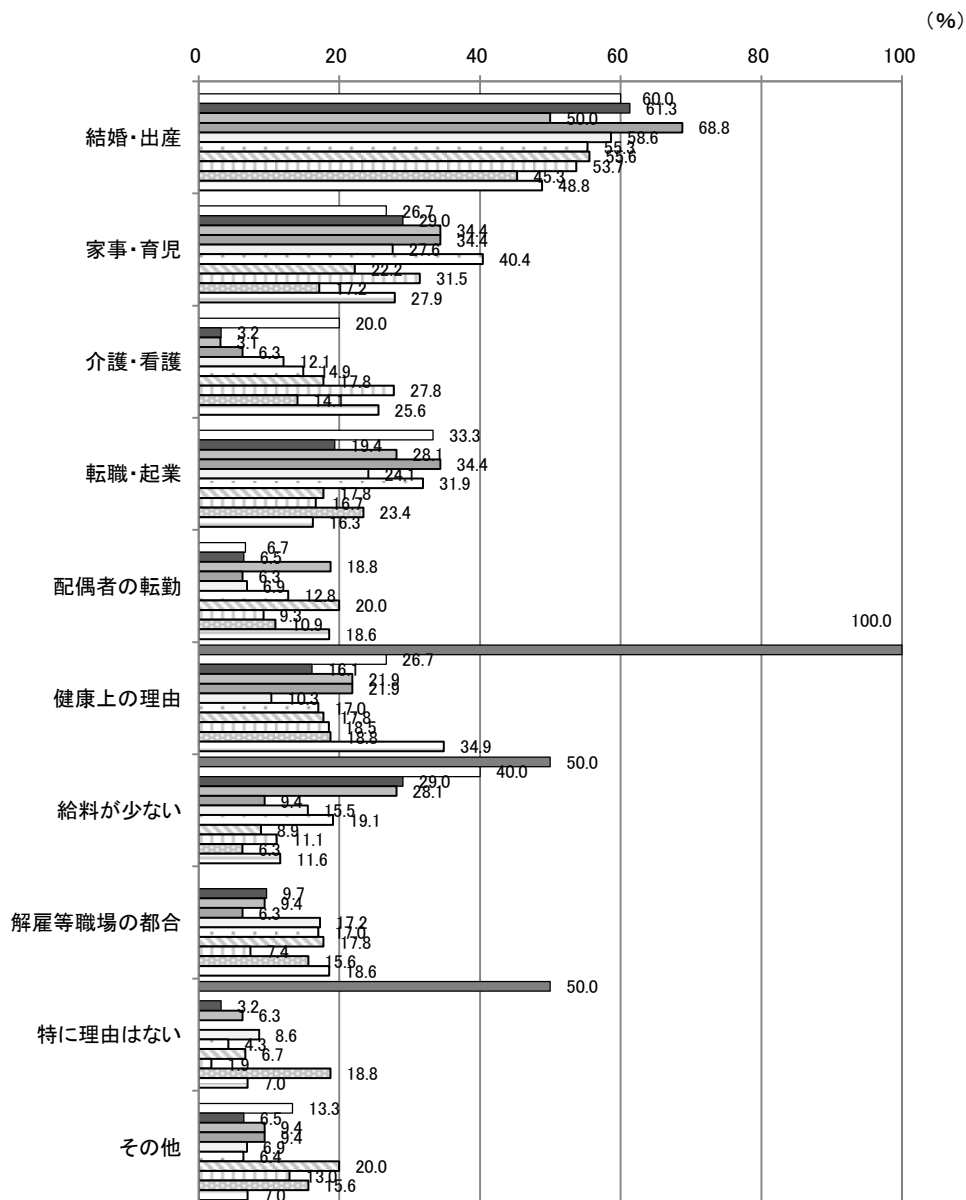
(%)

【性別】



- ・年代別でみると、「家事・育児」、「介護・看護」という回答では、年代が高くなると、回答割合も高くなる傾向となっている。一方、「給料が少ない」という回答では、年代が高くなると回答割合が低くなる傾向となっている。

【年代別】



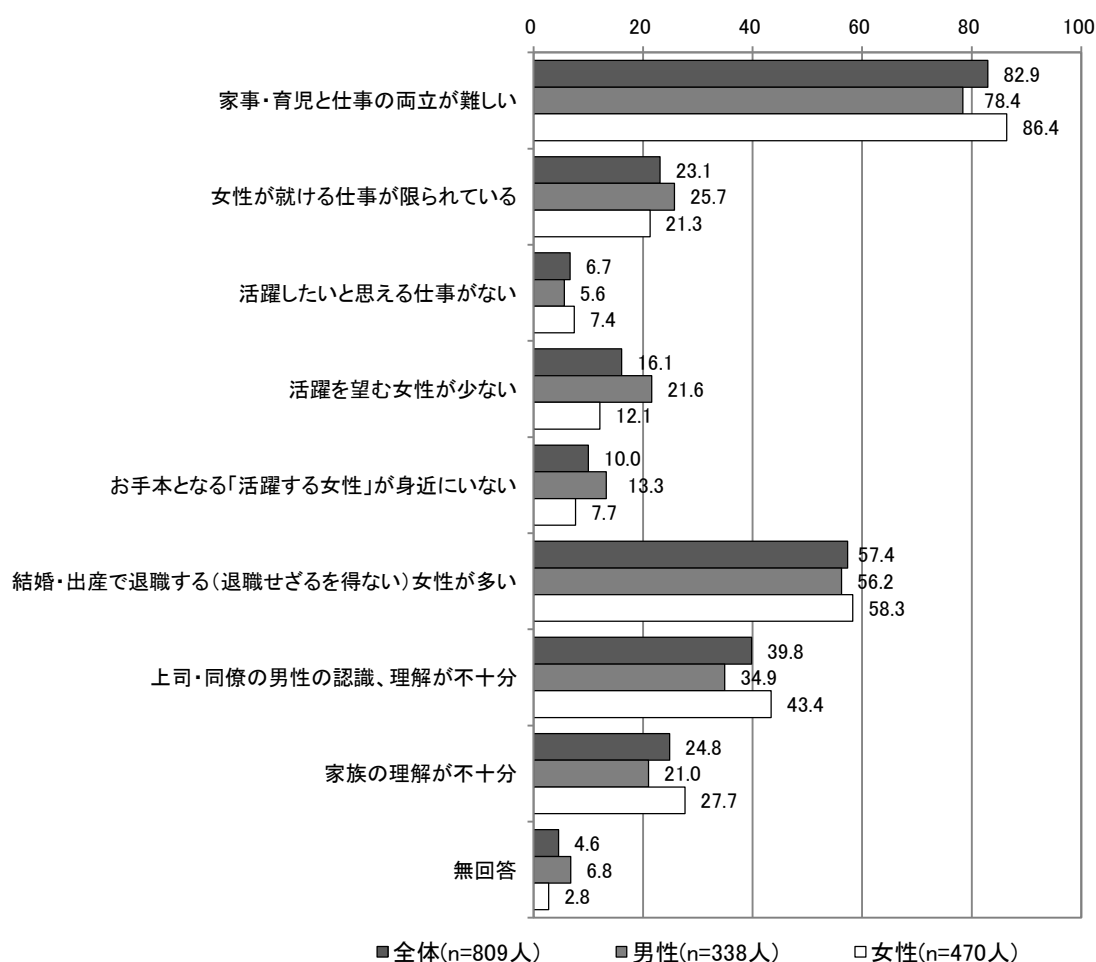
- 20歳～24歳(n=2人)
- 25歳～29歳(n=15人)
- 30歳～34歳(n=31人)
- 35歳～39歳(n=32人)
- 40歳～44歳(n=32人)
- 45歳～49歳(n=58人)
- 50歳～54歳(n=47人)
- 55歳～59歳(n=45人)
- 60歳～64歳(n=54人)
- 65歳～69歳(n=64人)
- 70歳以上(n=43人)

問 14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(82.9%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(57.4%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(39.8%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(78.4%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(56.2%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(34.9%)の順となっている。女性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(86.4%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(58.3%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(43.4%)、「家族の理解が不十分」(27.7%)の順となっている。

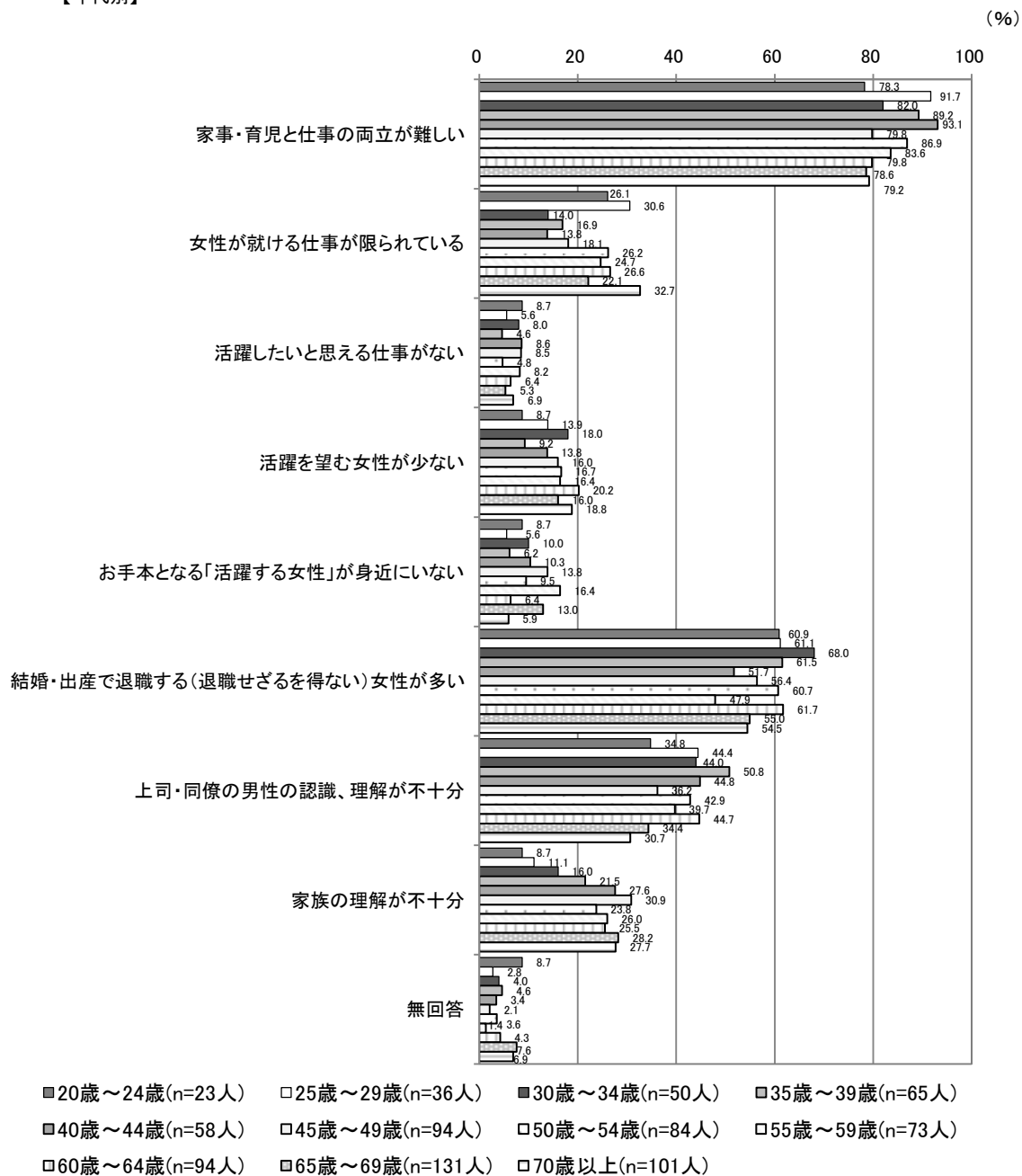
(%)

【性別】



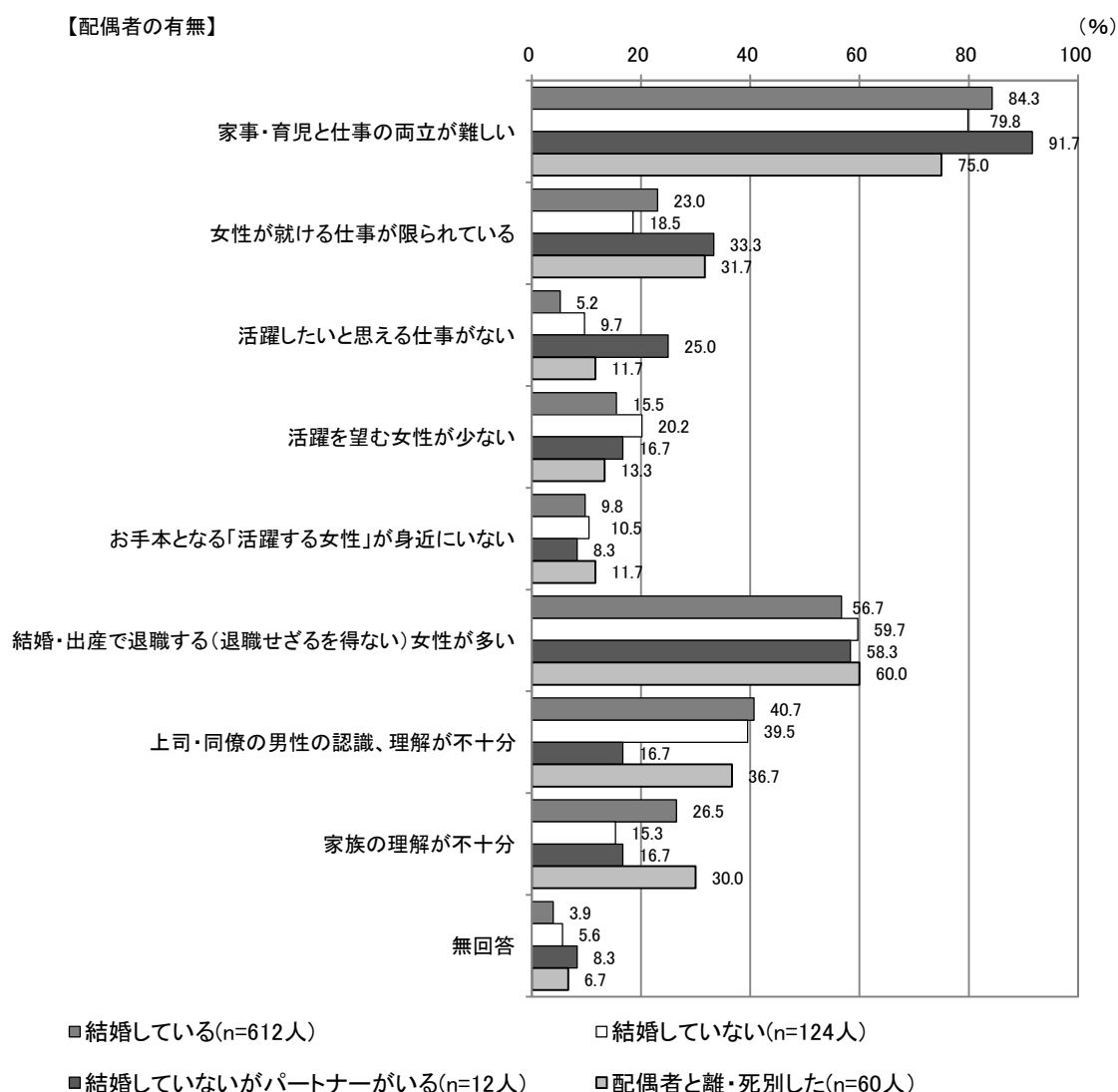
- ・年代別でみると、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」という回答では、55歳～59歳で他の年代に比べて回答割合が低い傾向となっている。「家族の理解が不十分」という回答では、20歳～49歳までの年代で、回答割合が増加傾向となっている。

【年代別】



・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(84.3%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(56.7%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(40.7%)となっている。「結婚していない」では、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(79.8%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(59.7%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(39.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(91.7%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(58.3%)、「女性が就ける仕事に限られている」(33.3%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(75.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(60.0%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(36.7%)となっている。

【配偶者の有無】

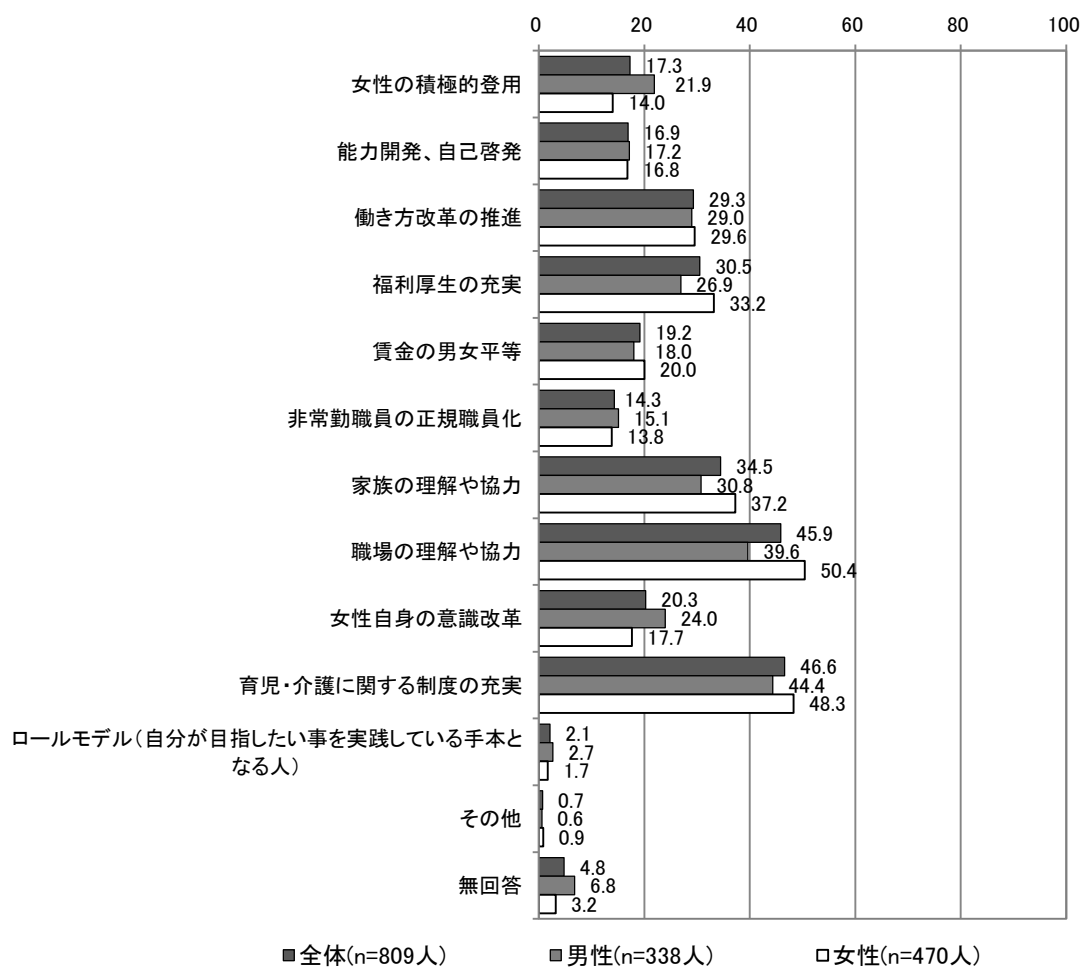


問 15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

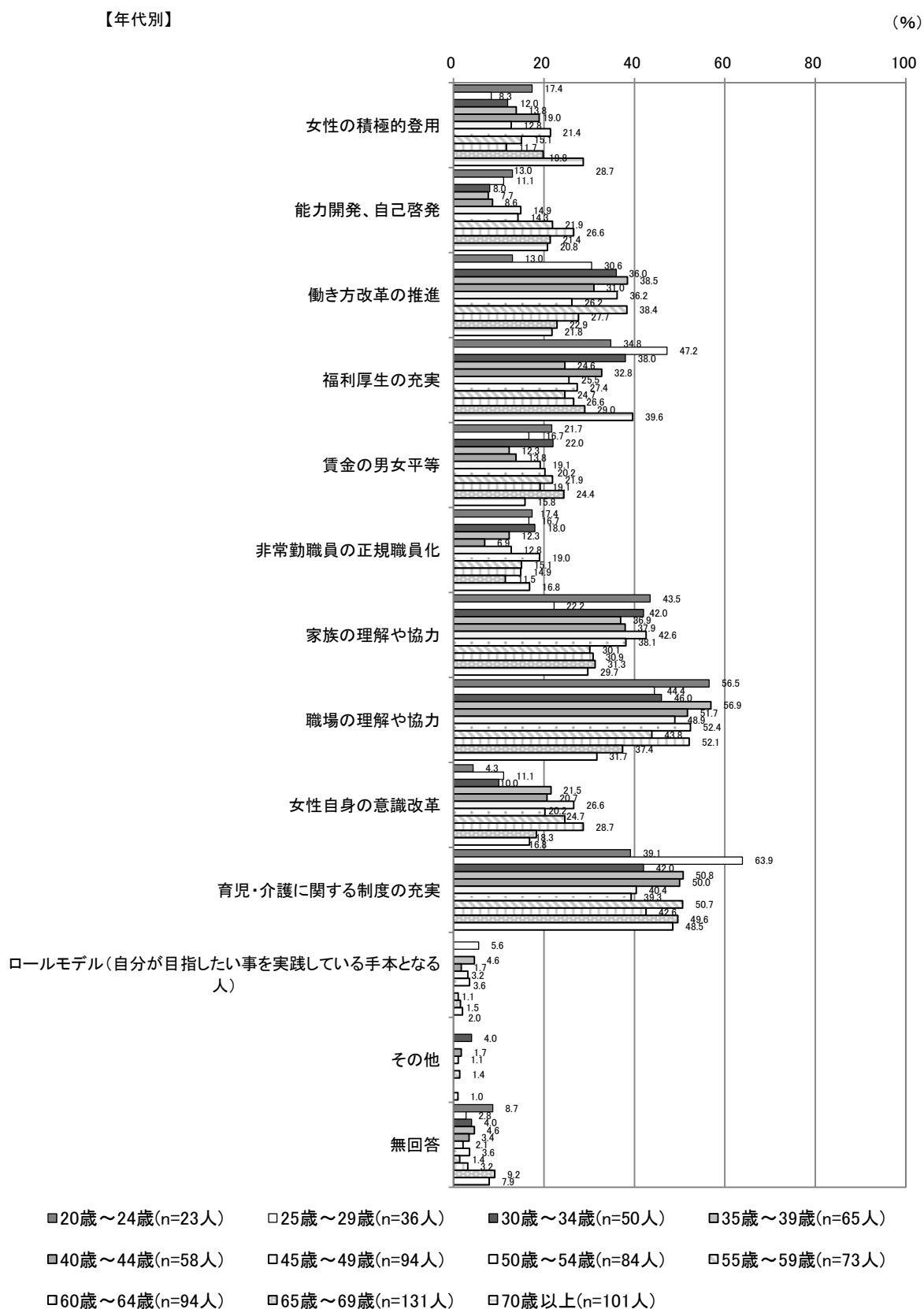
- 全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」(46.6%)が最も多い回答となっている。次いで、「職場の理解や協力」(45.9%)「家族の理解や協力」(34.5%)、「福利厚生」の充実(30.5%)の順で続いている。
- 性別でみると、男性は、「育児・介護に関する制度の充実」(44.4%)、「職場の理解や協力」(39.6%)、「家族の理解や協力」(30.8%)の順となっている。女性は、「職場の理解や協力」(50.4%)、「育児・介護に関する制度の充実」(48.3%)、「家族の理解や協力」(37.2%)の順となっている。

(%)

【性別】



- ・年代別でみると、「働き方改革の推進」では、20歳～24歳で13.0%となっており、他の年代に比べ回答割合が低い傾向となっている。「育児・介護に関する制度の充実」では25歳～29歳で63.9%となっており、他の年代に比べ回答割合が高い傾向となっている。

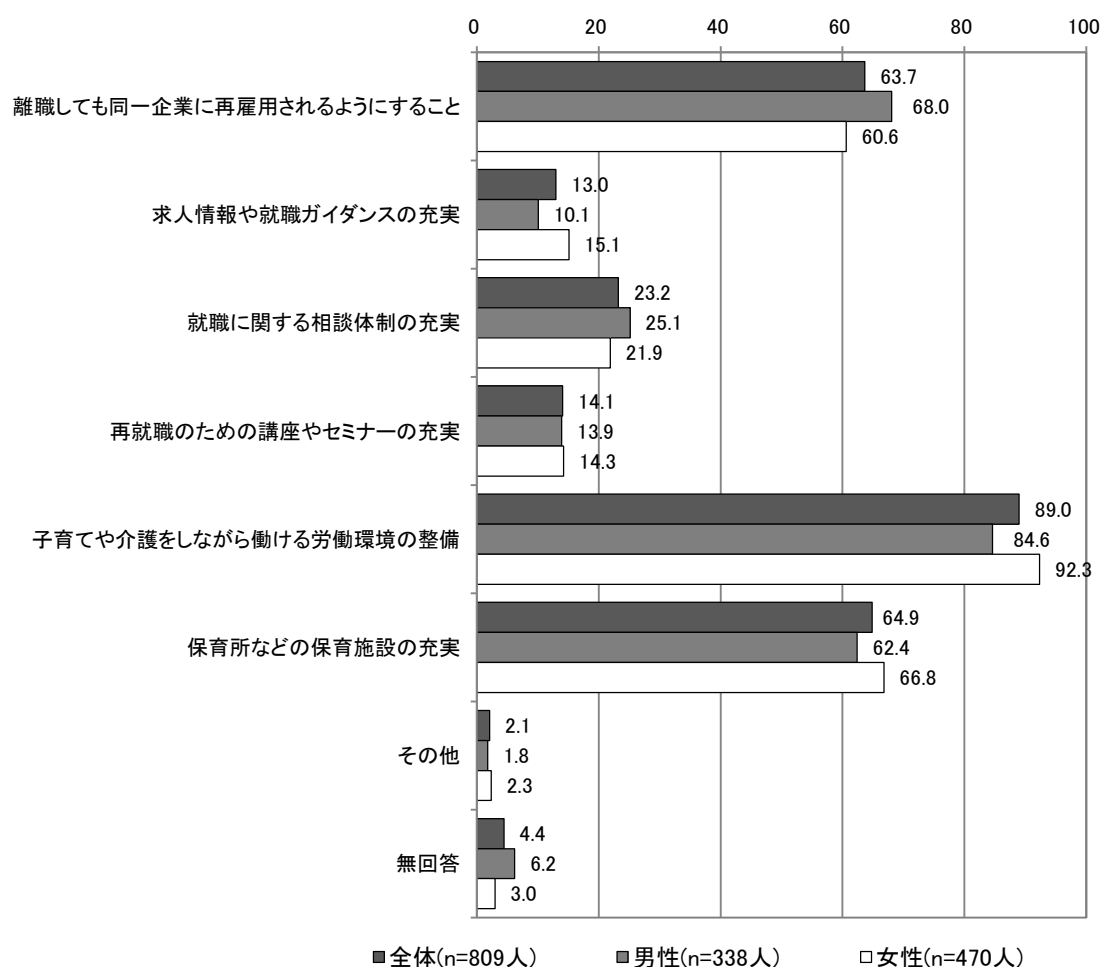


問 16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(89.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(64.9%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(63.7%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(84.6%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(68.0%)、「保育所などの保育施設の充実」(62.4%)の順となっている。一方、女性は、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(92.3%)、「保育所などの保育施設の充実」(66.8%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(60.6%)の順となっている。

(%)

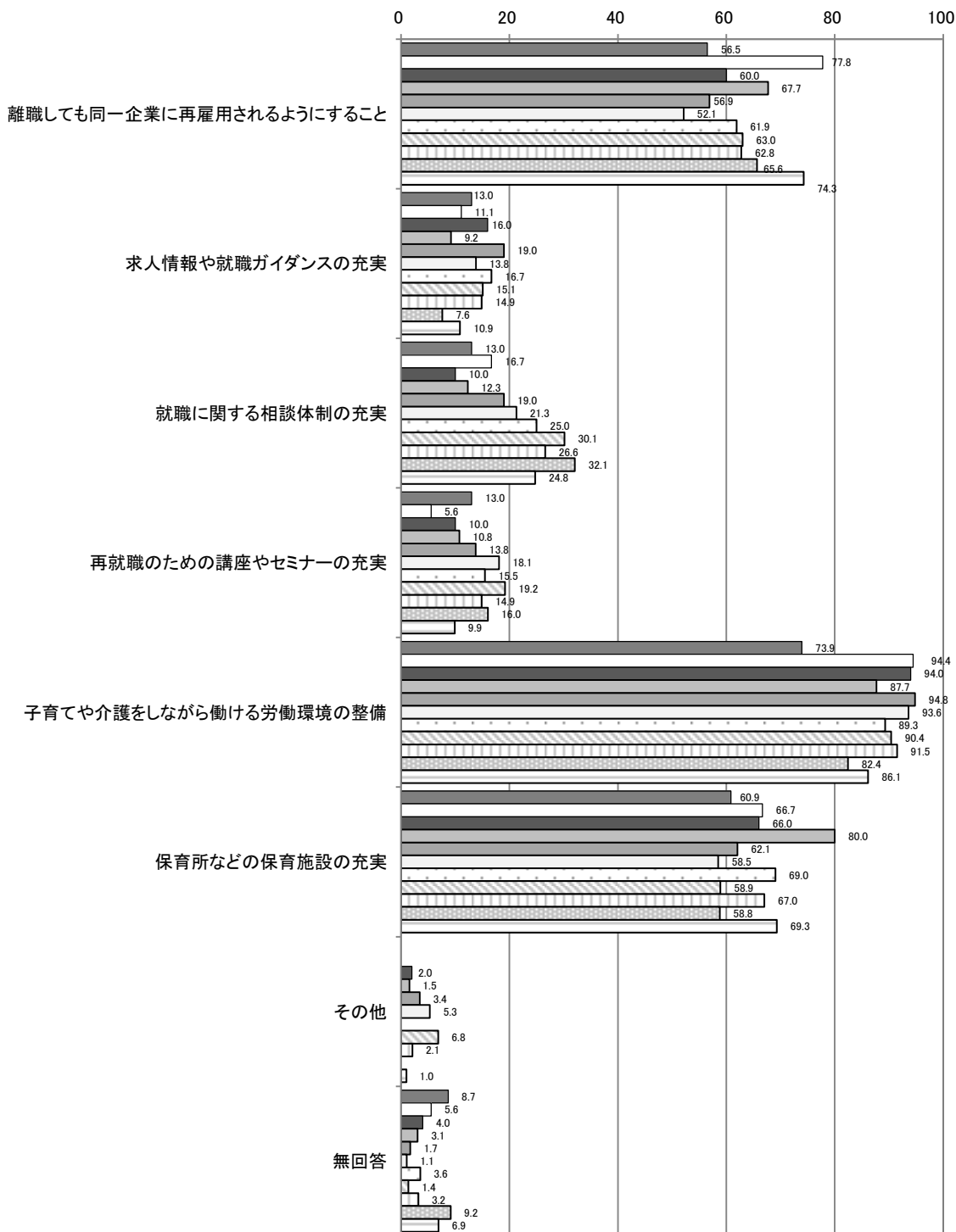
【性別】



- ・年代別でみると、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」という回答では、25歳～29歳、70歳以上で回答割合が7割を超えている。「保育所などの保育施設の充実」という回答では、35歳～39歳（80.0%）と他の年代と比べて回答割合が高い傾向となっている。

【年代別】

(%)



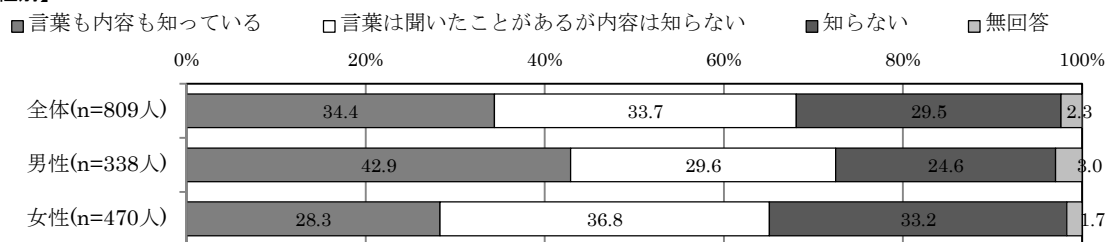
- 20歳～24歳(n=23人) □ 25歳～29歳(n=36人) ■ 30歳～34歳(n=50人) □ 35歳～39歳(n=65人)
- 40歳～44歳(n=58人) □ 45歳～49歳(n=94人) □ 50歳～54歳(n=84人) □ 55歳～59歳(n=73人)
- 60歳～64歳(n=94人) □ 65歳～69歳(n=131人) □ 70歳以上(n=101人)

仕事と生活の調和に関することについて

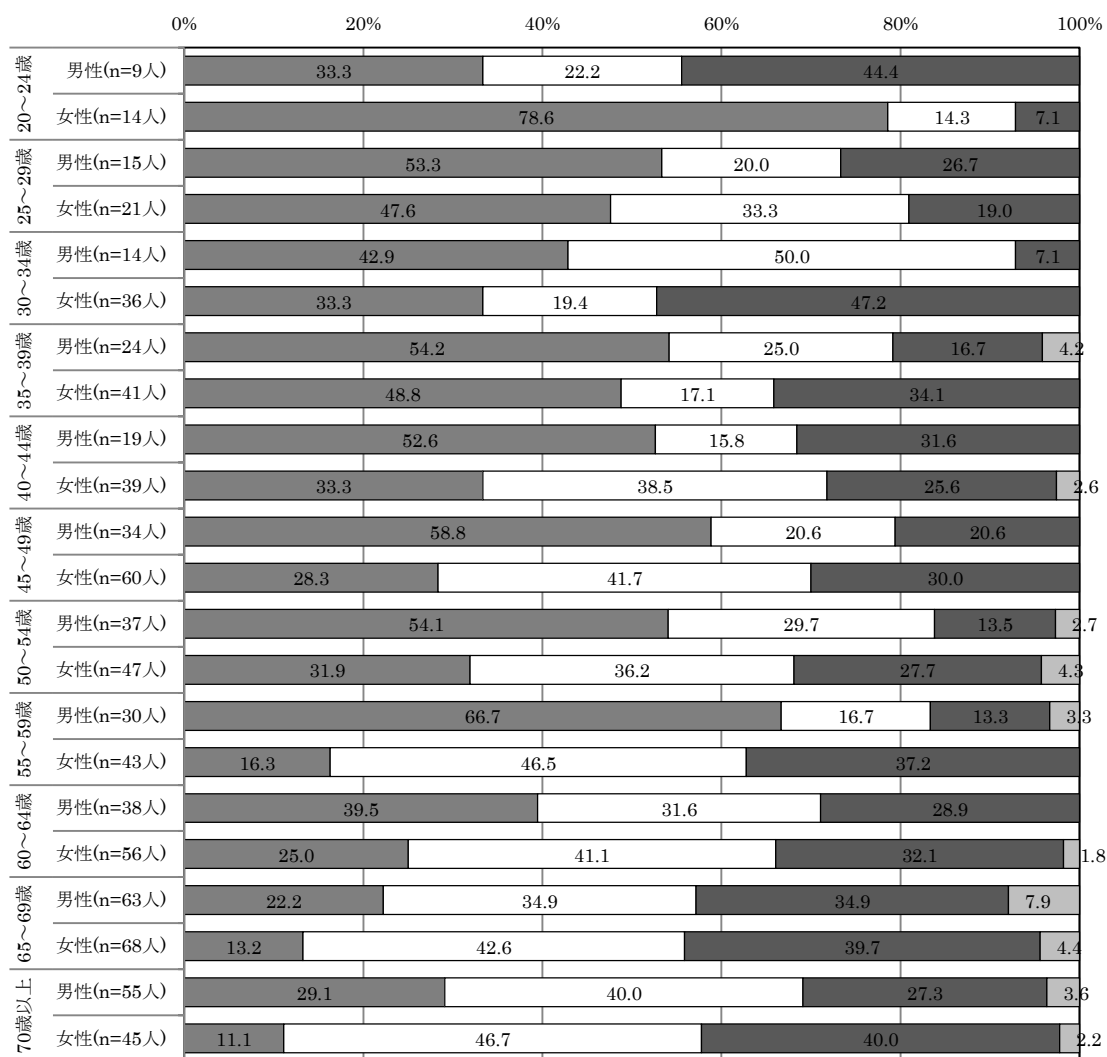
問 17 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、約4割（42.9%）であるのに対し、女性では「知らない」が約3割（33.2%）となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が42.9%、女性が28.3%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では55歳～59歳、女性では20歳～24歳で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が高くなっている。

【性別】



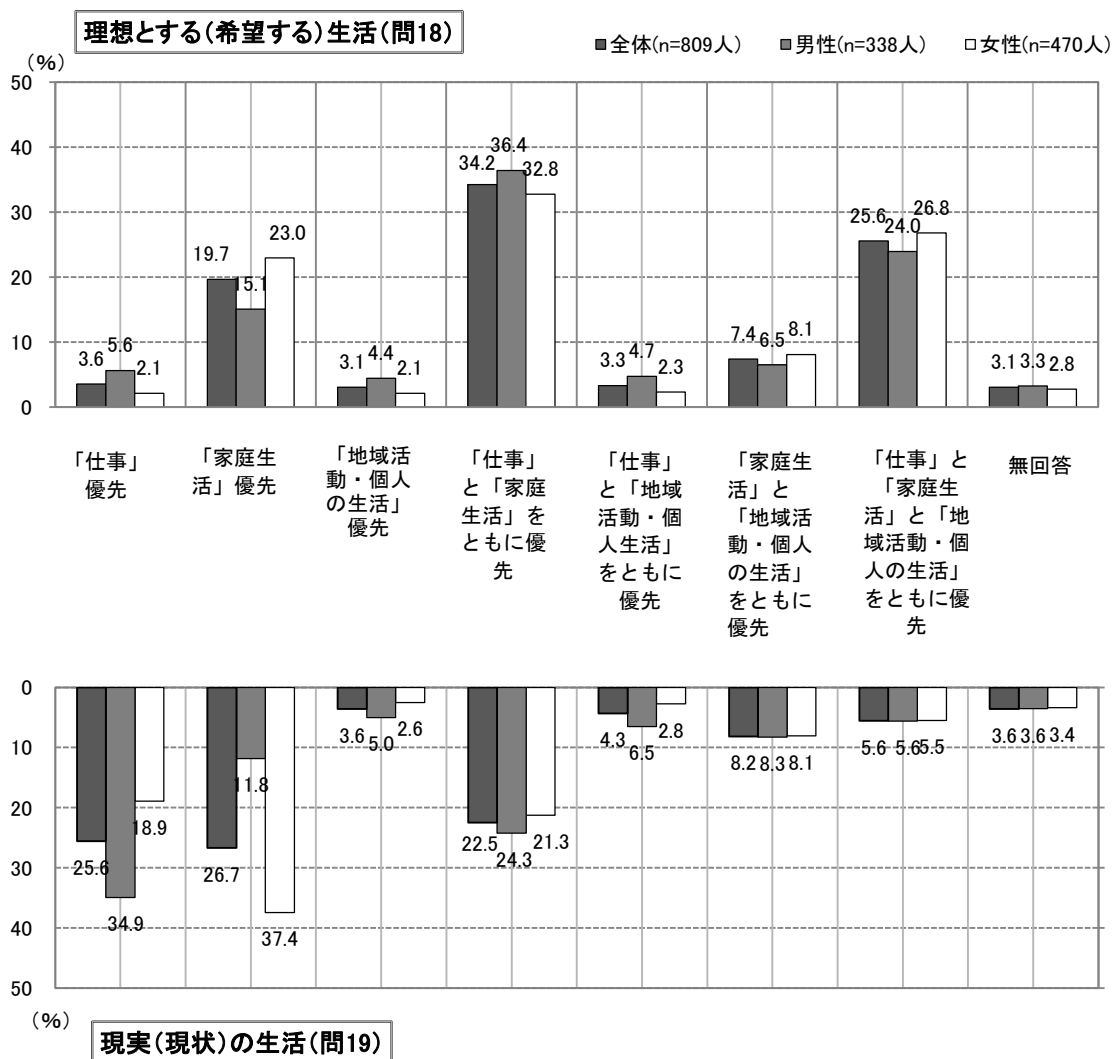
【世代別性別】



問 18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問 19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体で見ると、問 18 の理想とする生活については『仕事』と『家庭生活』をともに優先という回答が最も多く、約3割（34.2%）となっている。次に、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先（25.6%）、『家庭生活』優先（19.7%）の順が続いている。
- ・一方、問 19 の現実の生活では、『家庭生活』優先（26.7%）という回答が最も多く、次いで、『仕事』優先（25.6%）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先（22.5%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった『仕事』と『家庭生活』をともに優先が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先という回答は、現実の生活では5番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては『家庭生活』優先以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は『仕事』優先、女性は『家庭生活』優先が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

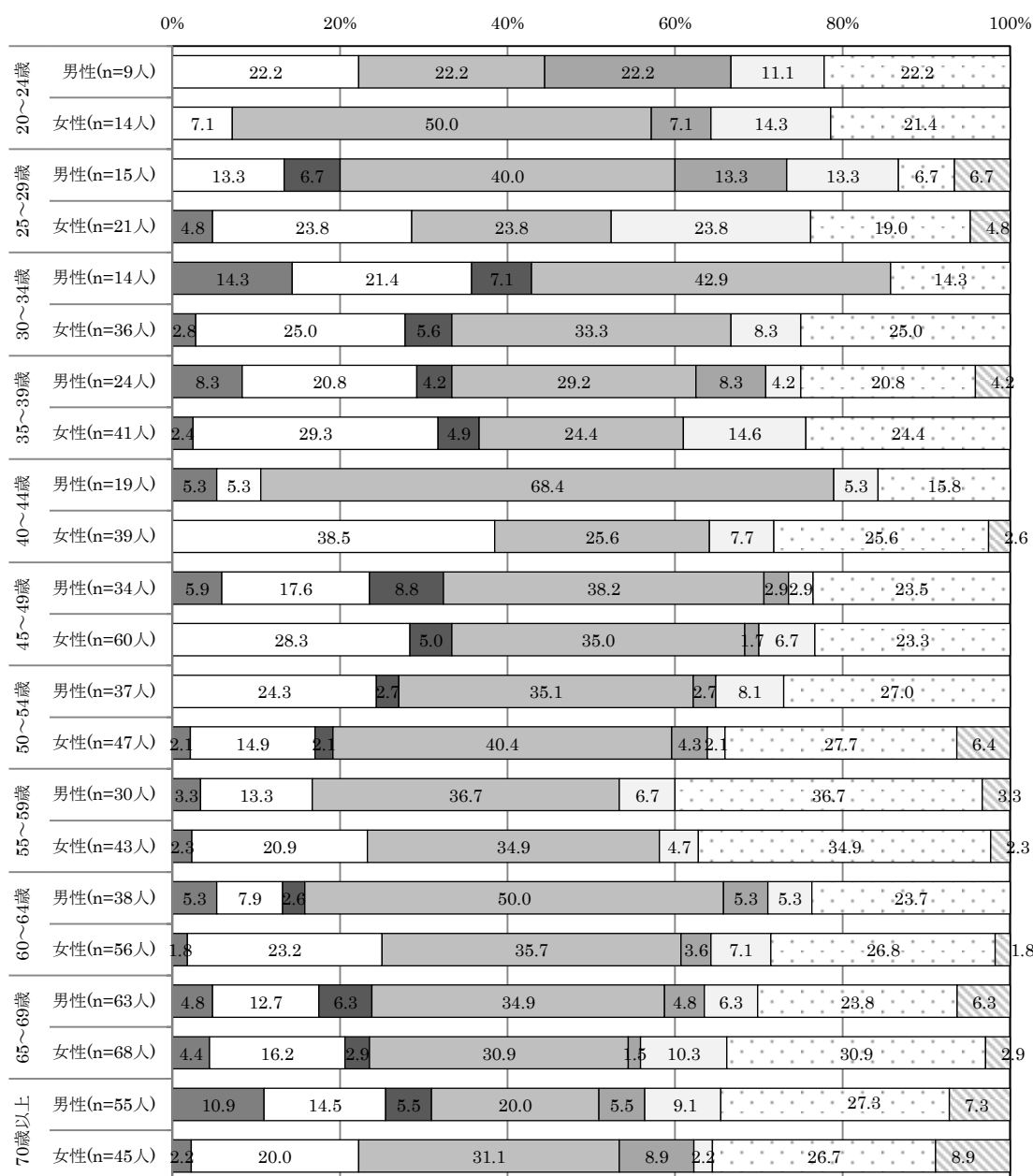


問 18 理想とする（希望する）生活 世代別性別

・世代別性別でみると、男性では30歳～34歳で「『仕事』優先」という回答が14.3%と他の回答を上回り、1番多い回答となっている。それ以外の年代では、男女ともに「『仕事』と『家庭生活』とともに優先」という回答や、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答が多い傾向にある。

【世代別性別】

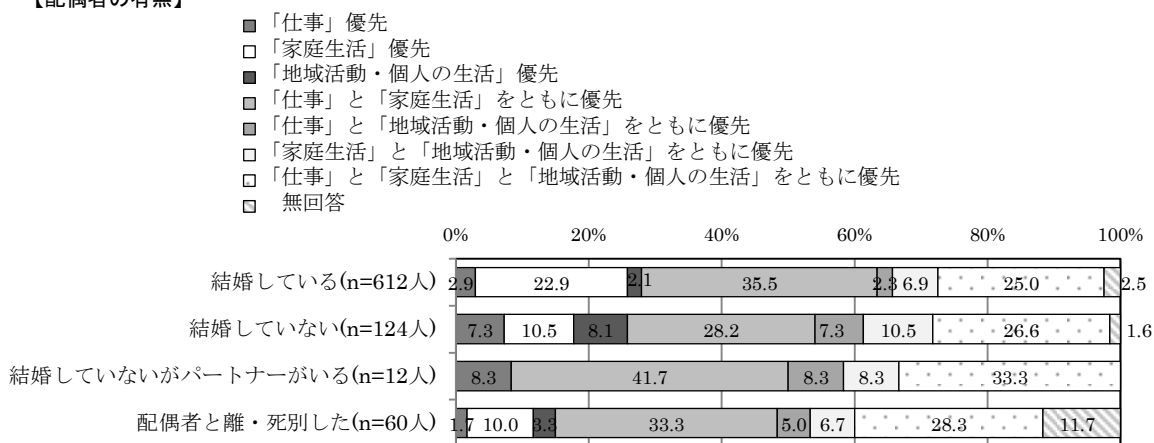
- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



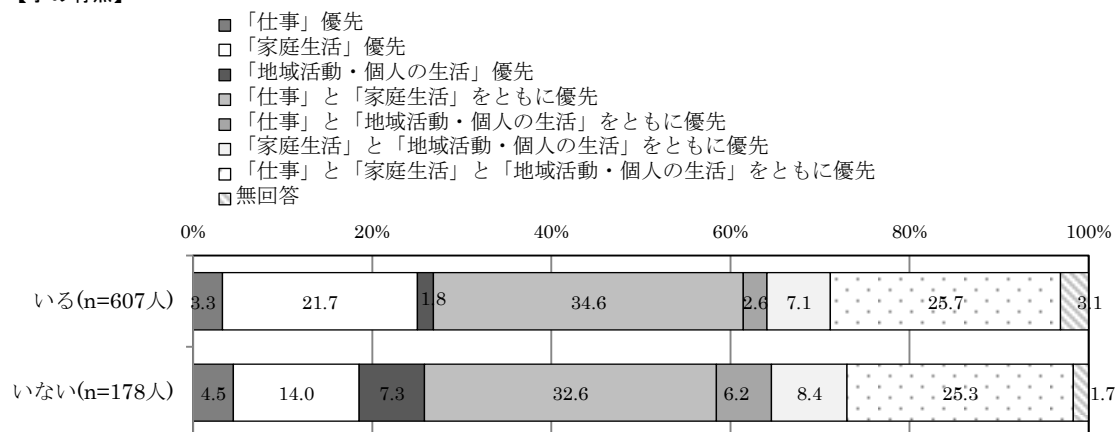
・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(35.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.0%)、「『家庭生活』優先」(22.9%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(28.2%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(26.6%)、「『家庭生活』優先」と「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が(10.5%)と同じ回答割合となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(41.7%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(33.3%)、「『仕事』優先」、「『仕事』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が(8.3%)と同じ回答割合となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(28.3%)、「『家庭生活』優先」(10.0%)となっている。

・子の有無でみると、「いる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(34.6%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.7%)、「『家庭生活』優先」(21.7%)となっている。「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(32.6%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.3%)、「『家庭生活』優先」(14.0%)となっている。

【配偶者の有無】



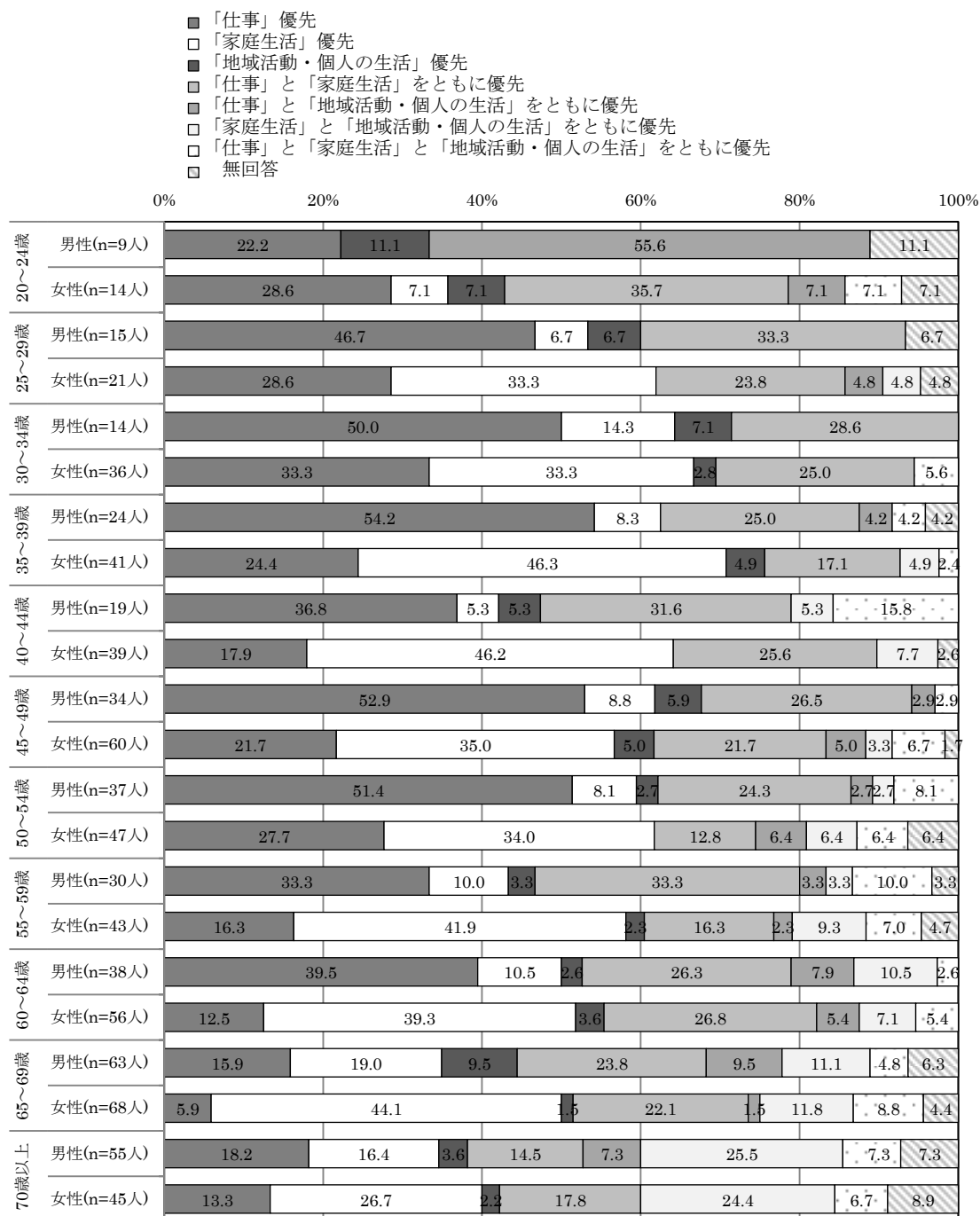
【子の有無】



問 19 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別で見ると、男性は、20歳～24歳、65歳～69歳、70歳以上以外の年代で、「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性は、20歳～24歳以外の年代で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、70歳以上で増加している。

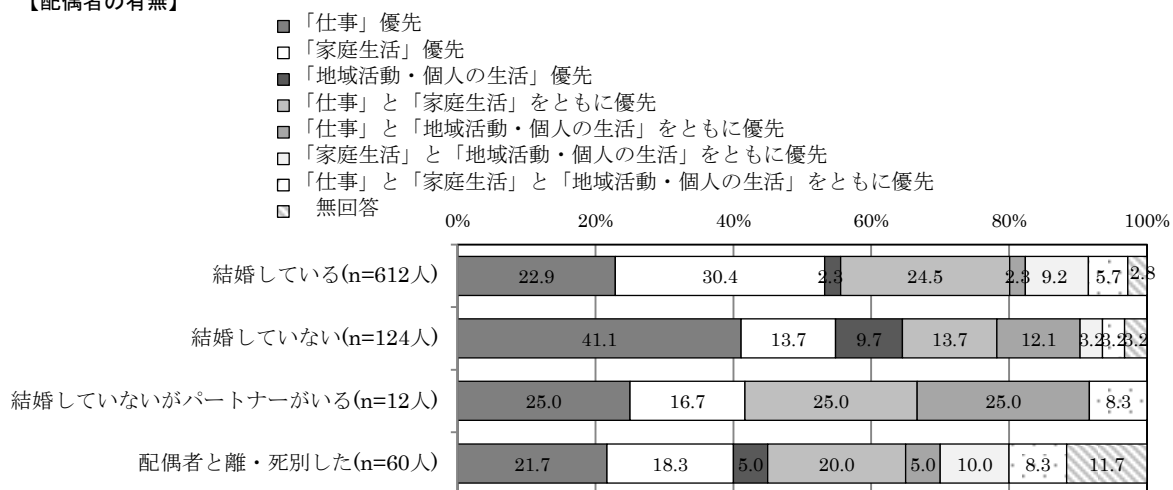
【世代別性別】



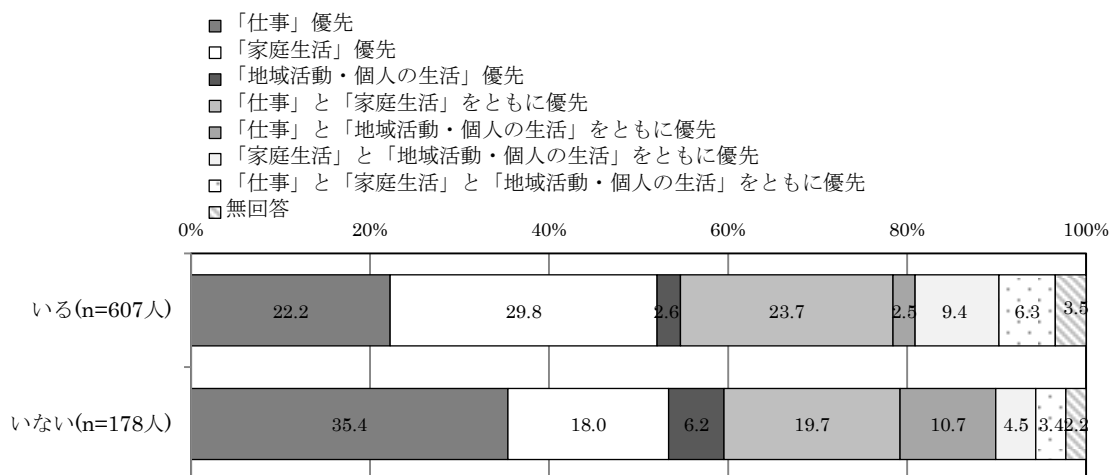
・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」（30.4%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』ともに優先」（24.5%）、「『仕事』優先」（22.9%）となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」（41.1%）が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（13.7%）で同じ回答割合となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」と「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が（25.0%）で同じ回答割合となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』優先」（21.7%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（20.0%）、「『家庭生活』優先」（18.3%）となっている。

・子の有無でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」（29.8%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.7%）、「『仕事』優先」（22.2%）となっている。「いない」では、「『仕事』優先」（35.4%）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（19.7%）、「『家庭生活』優先」（18.0%）となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

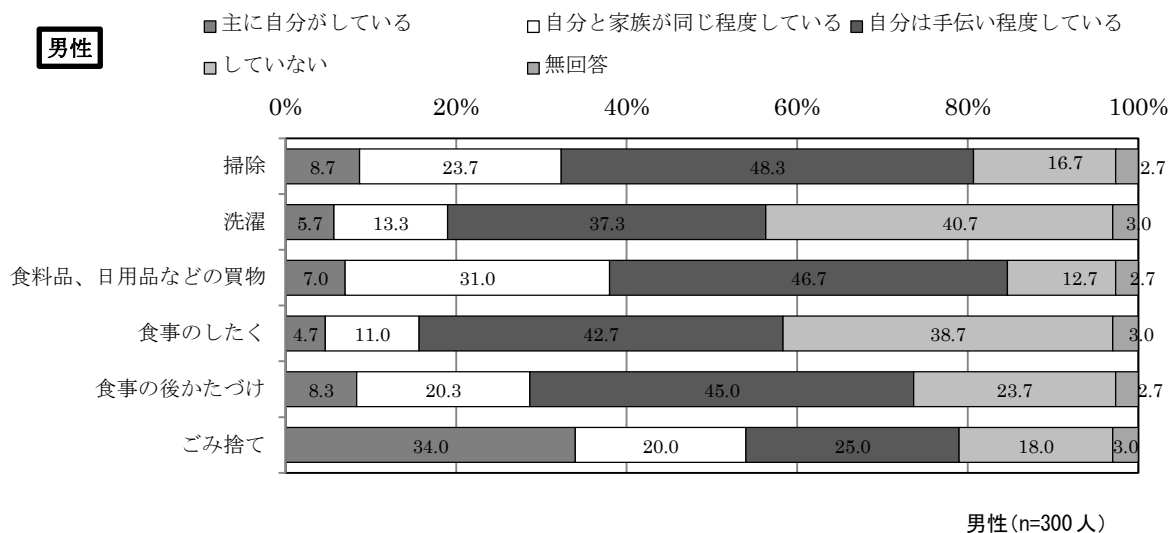


問 20 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。
 (※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 720 人とする)

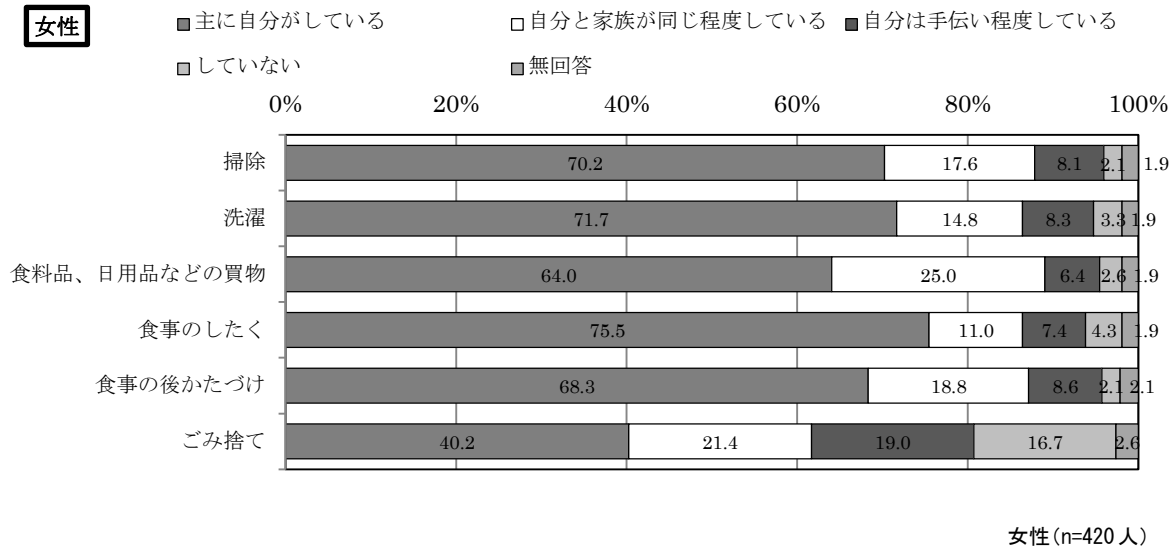
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約3割(34.0%)となっている。次いで、「掃除」(8.7%)、「食事の後かたづけ」(8.3%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割(75.5%)となっている。次いで、「洗濯」(71.7%)、「掃除」(70.2%)となっている。

【性別】

男性



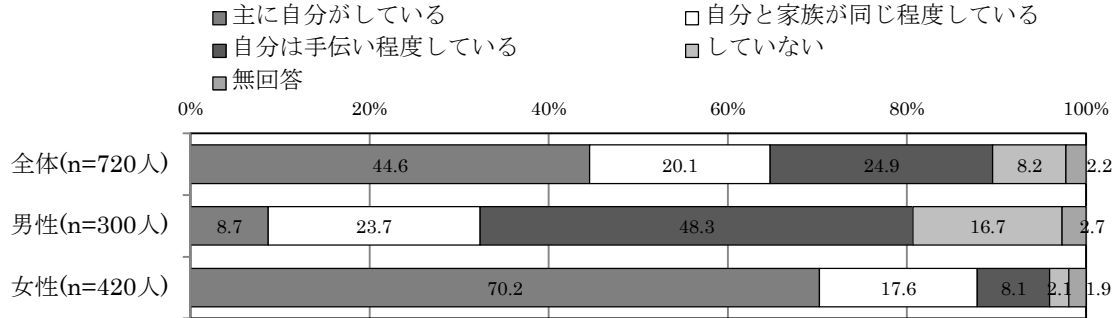
女性



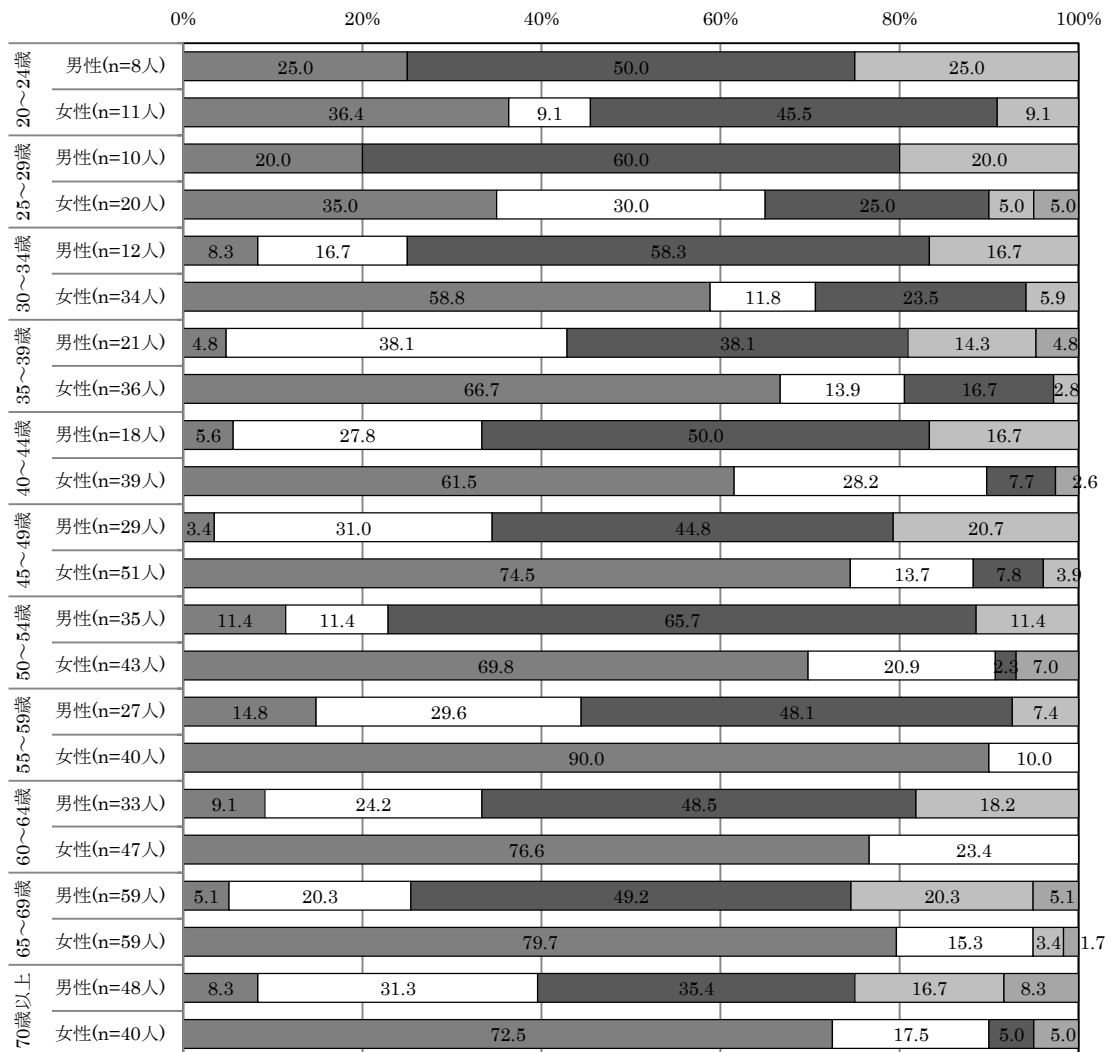
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(48.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が最も多いのは、20歳～24歳の男性25.0%となっている。

【性別】

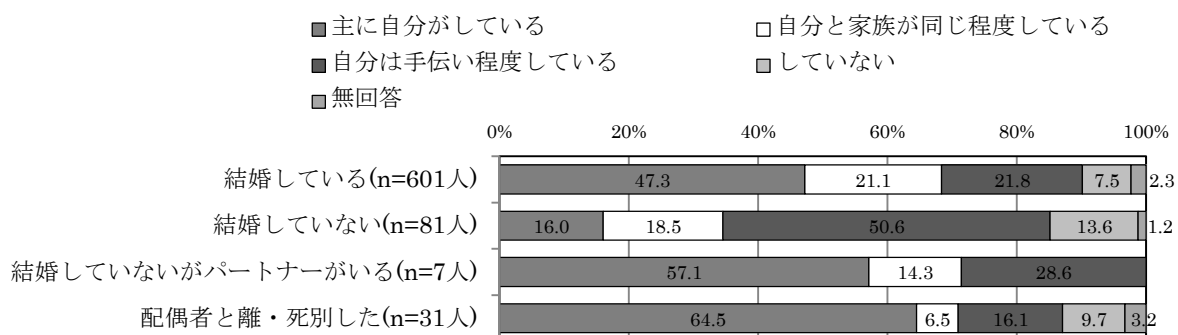


【世代別性別】

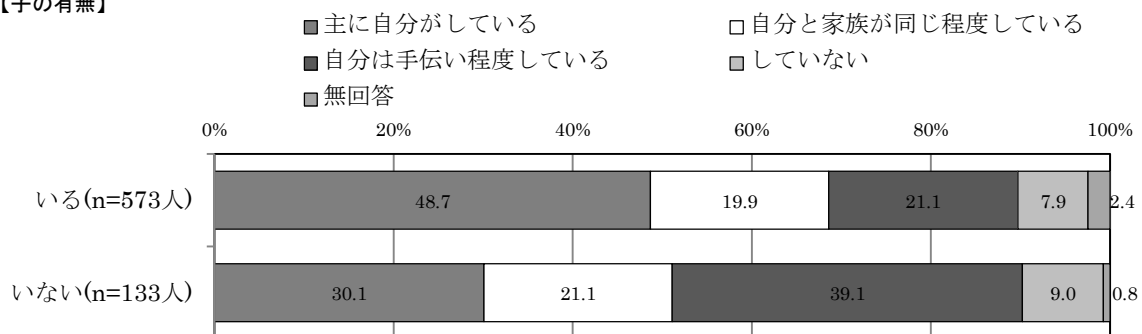


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(47.3%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(21.8%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.1%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(50.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(18.5%)、「主に自分がしている」(16.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(57.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(28.6%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.3%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(64.5%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(16.1%)、「していない」(9.7%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.7%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(21.1%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.9%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(39.1%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(30.1%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.1%)となっている。

【配偶者の有無】

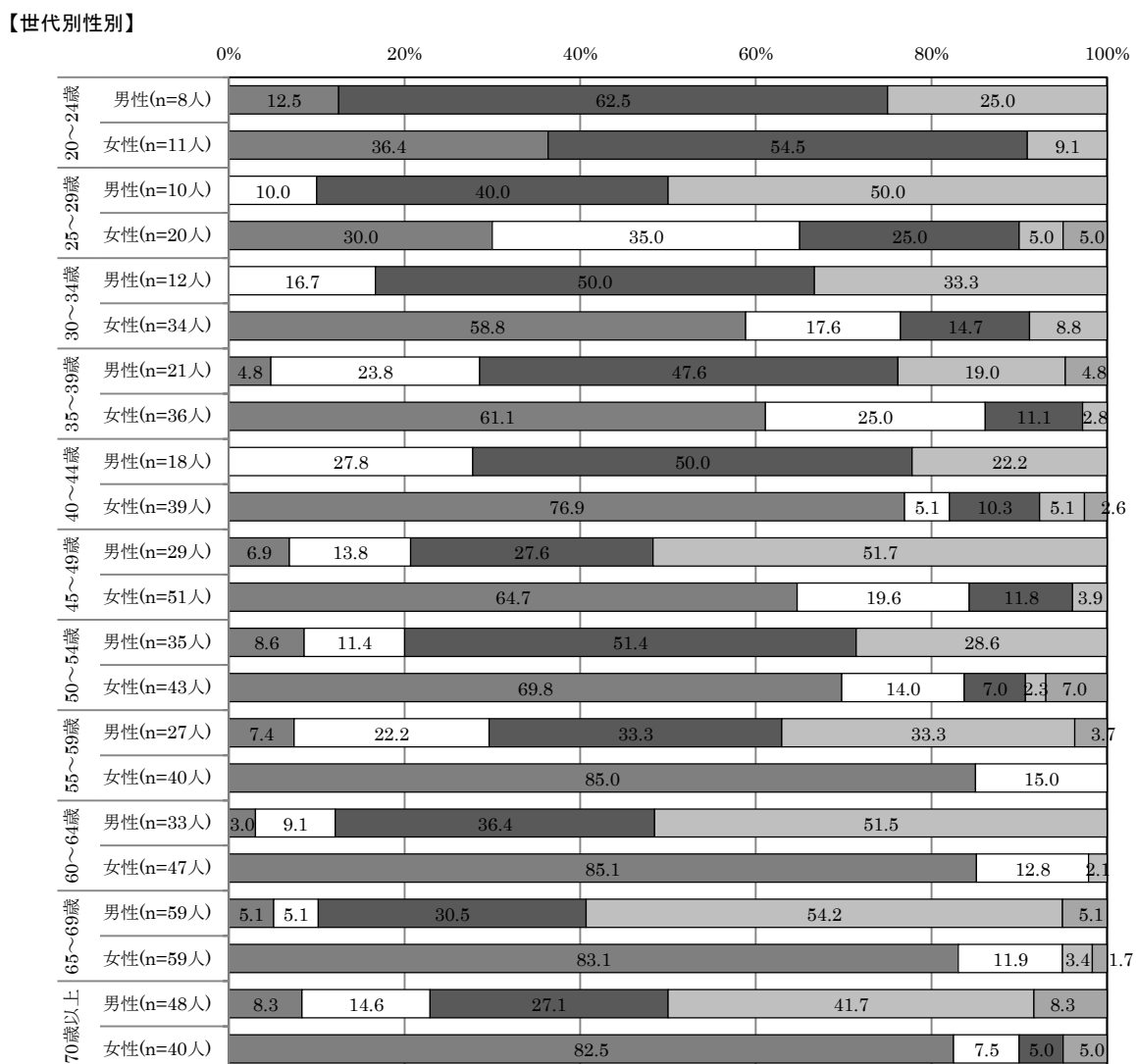
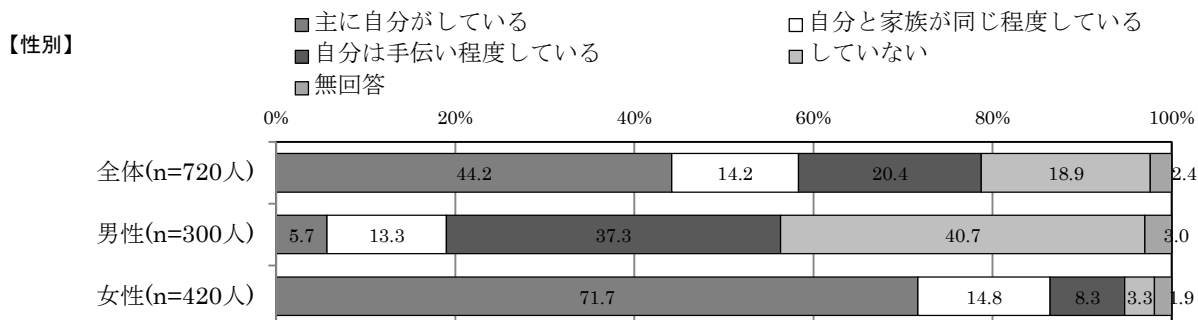


【子の有無】



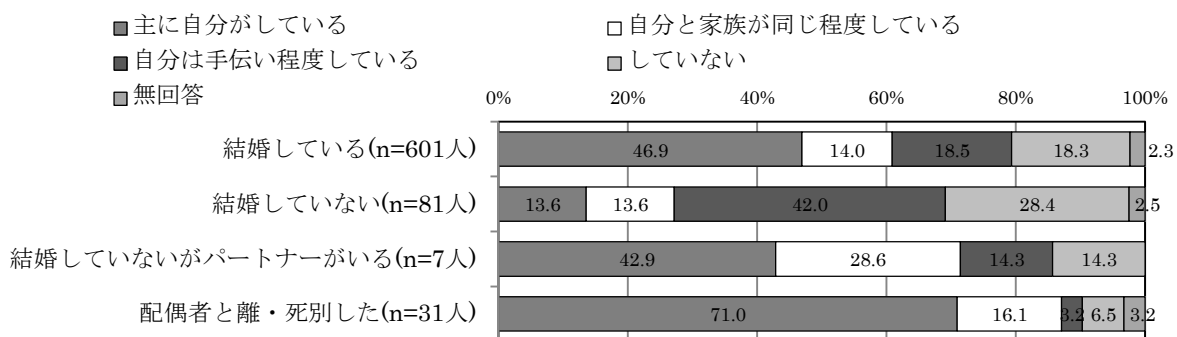
2 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(71.7%)という回答が最も多く、男性は「していない」(40.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、45歳～49歳、60歳代の男性では、「していない」という回答割合が5割を超えている。

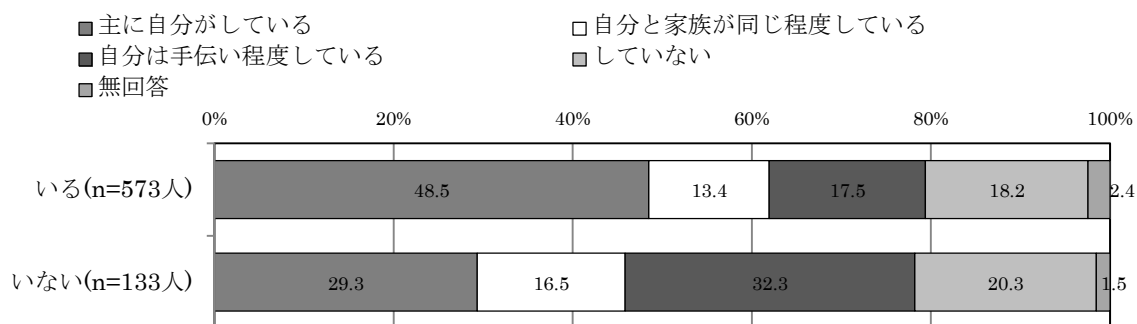


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(18.5%)、「していない」(18.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(42.0%)という回答が最も多く、次いで「していない」(28.4%)、「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」(13.6%)が同じ割合となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)、「自分は手伝い程度している」(14.3%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(71.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(16.1%)、「していない」(6.5%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.5%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.2%)、「自分は手伝い程度している」(17.5%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(32.3%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(29.3%)、「していない」(20.3%)となっている。

【配偶者の有無】



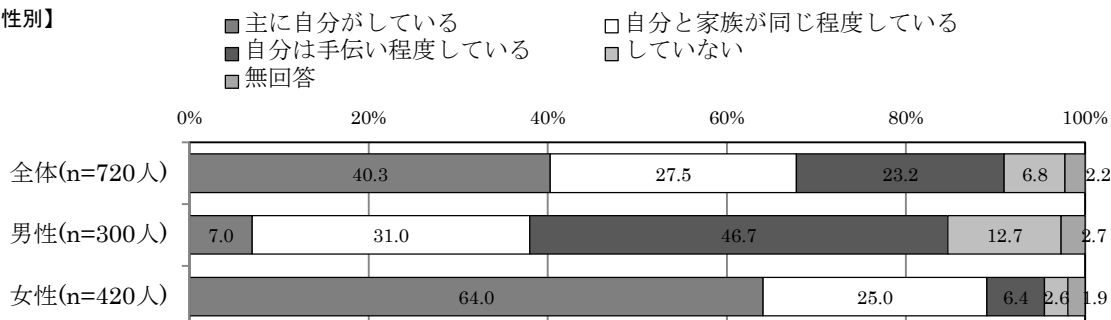
【子の有無】



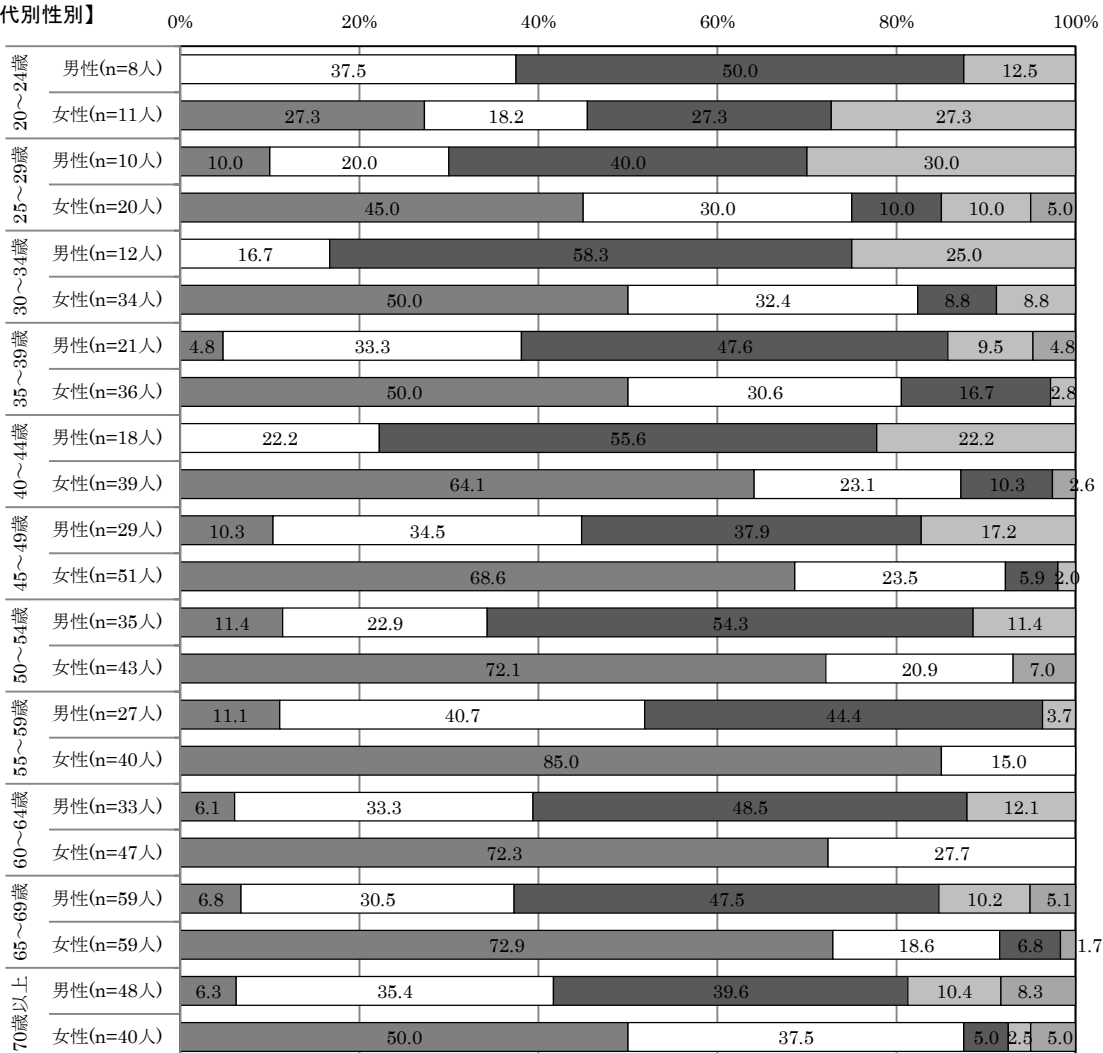
3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(64.0%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(46.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は全ての年代で、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方女性は、「主に自分がしている」という回答が、20歳～24歳では約3割だが、30歳代以降の年代では約5～9割となっている。

【性別】

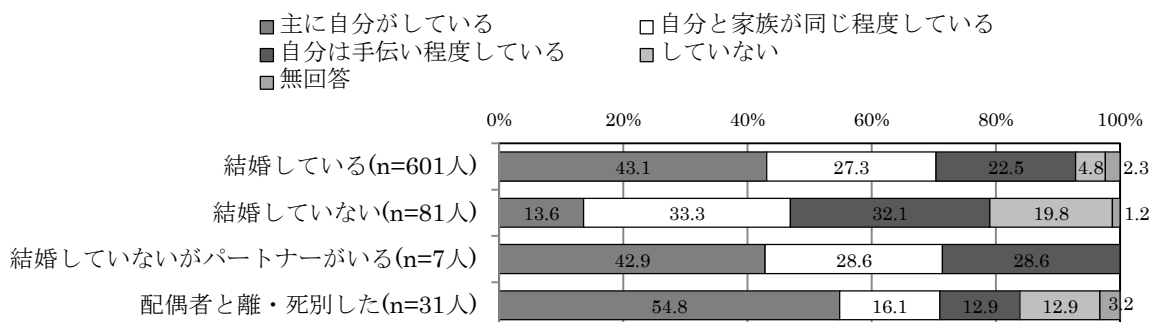


【世代別性別】

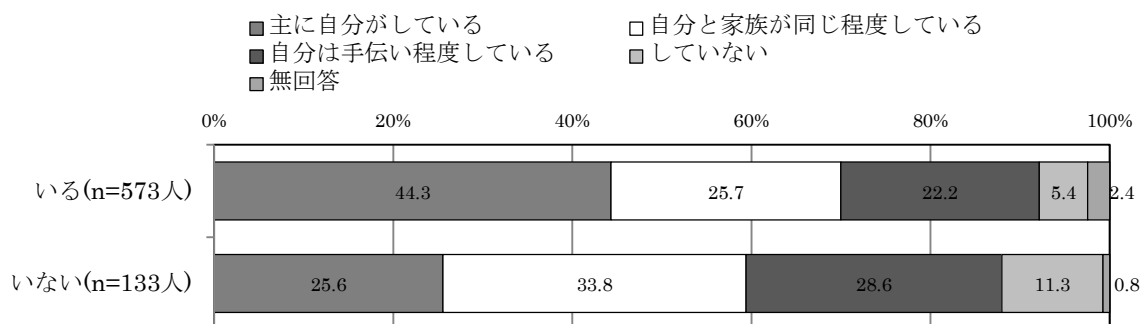


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.3%)、「自分は手伝い程度している」(22.5%)となっている。「結婚していない」では、「自分と家族が同じ程度している」(33.3%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(32.1%)、「していない」(19.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」と「自分は手伝い程度している」(28.6%)で同じ回答割合となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(54.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(16.1%)、「自分は手伝い程度している」と「していない」(12.9%)で同じ回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(44.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.7%)、「自分は手伝い程度している」(22.2%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(33.8%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(28.6%)、「主に自分がしている」(25.6%)となっている。

【配偶者の有無】

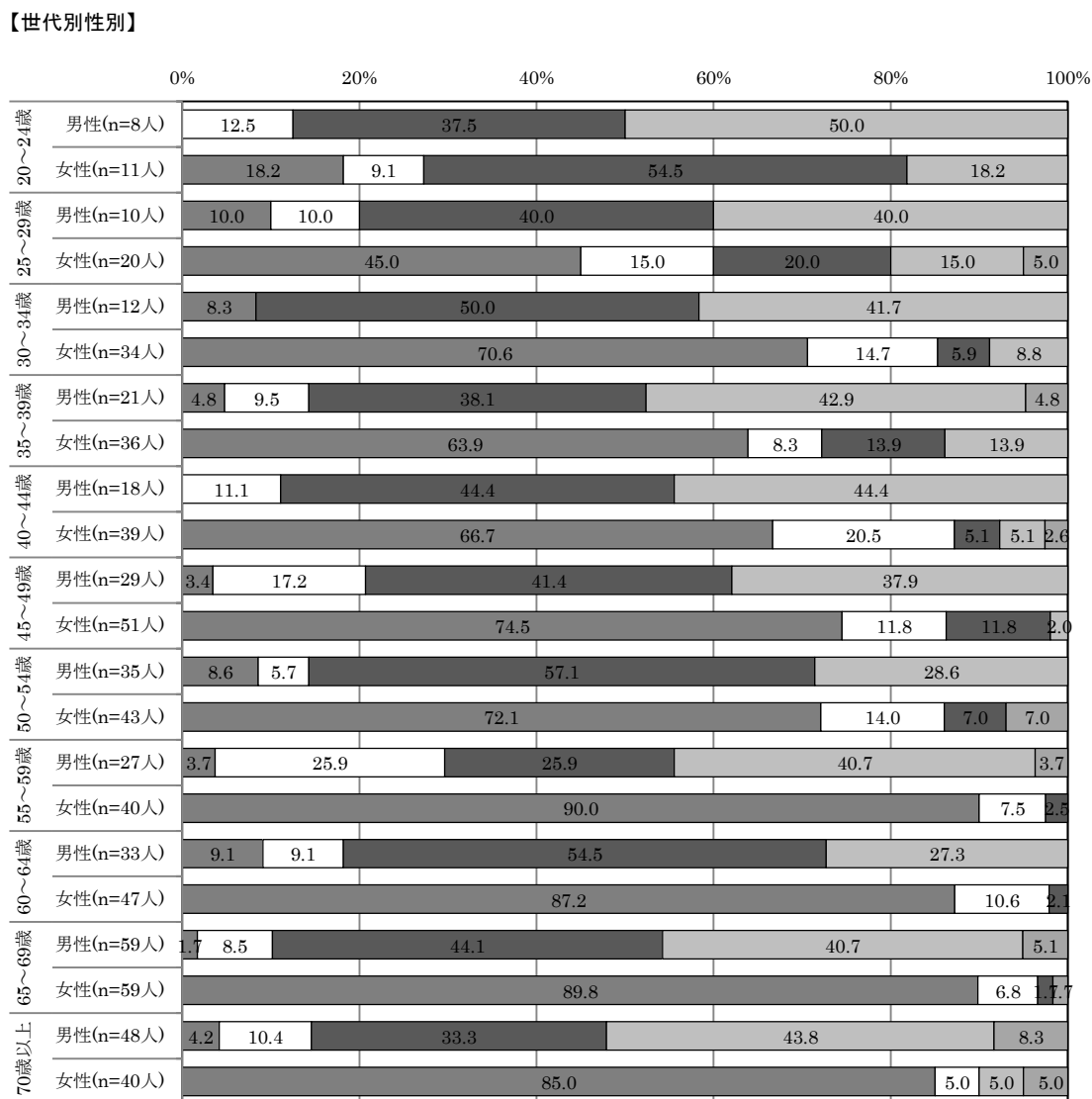
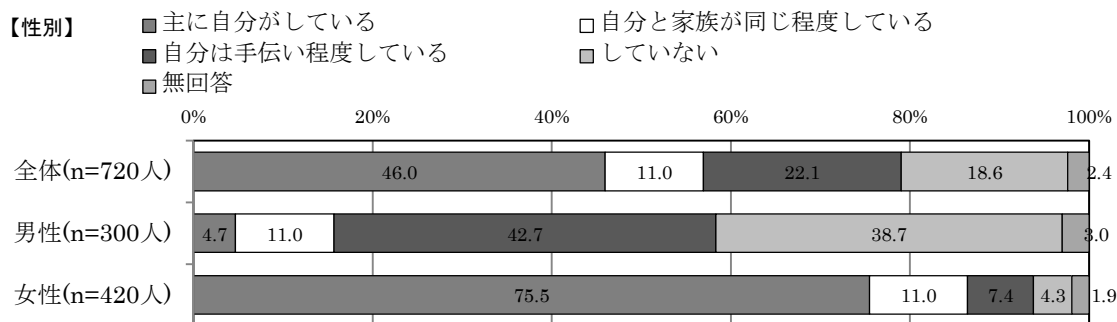


【子の有無】



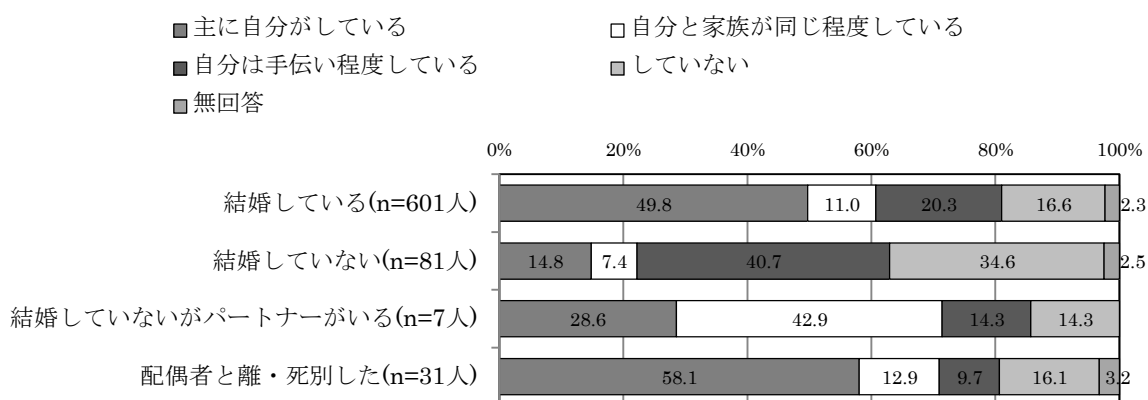
4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(75.5%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(42.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、20歳～24歳、35歳～39歳、55歳～59歳、70歳以上の年代では、「していない」という回答が最も多く、約4～5割という回答割合になっている。

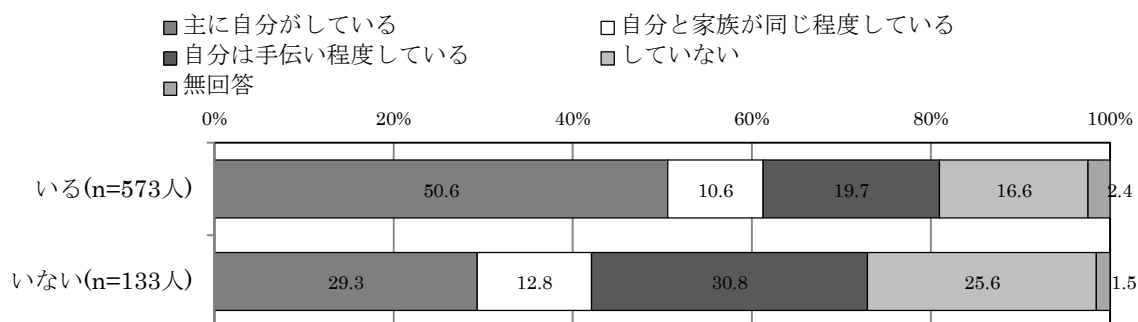


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.8%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(20.3%)、「していない」(16.6%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(40.7%)という回答が最も多く、次いで「していない」(34.6%)、「主に自分がしている」(14.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分と家族が同じ程度している」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(28.6%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(58.1%)という回答が最も多く、次いで「していない」(16.1%)、「自分と家族が同じ程度している」(12.9%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(50.6%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(19.7%)、「していない」(16.6%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(30.8%)という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(29.3%)、「していない」(25.6%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

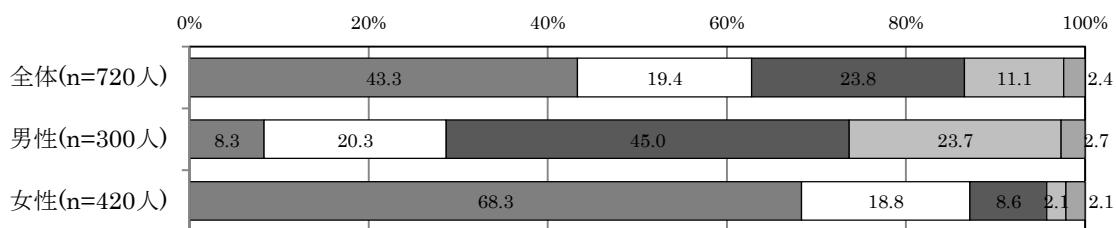


5 食事の後かたづけ

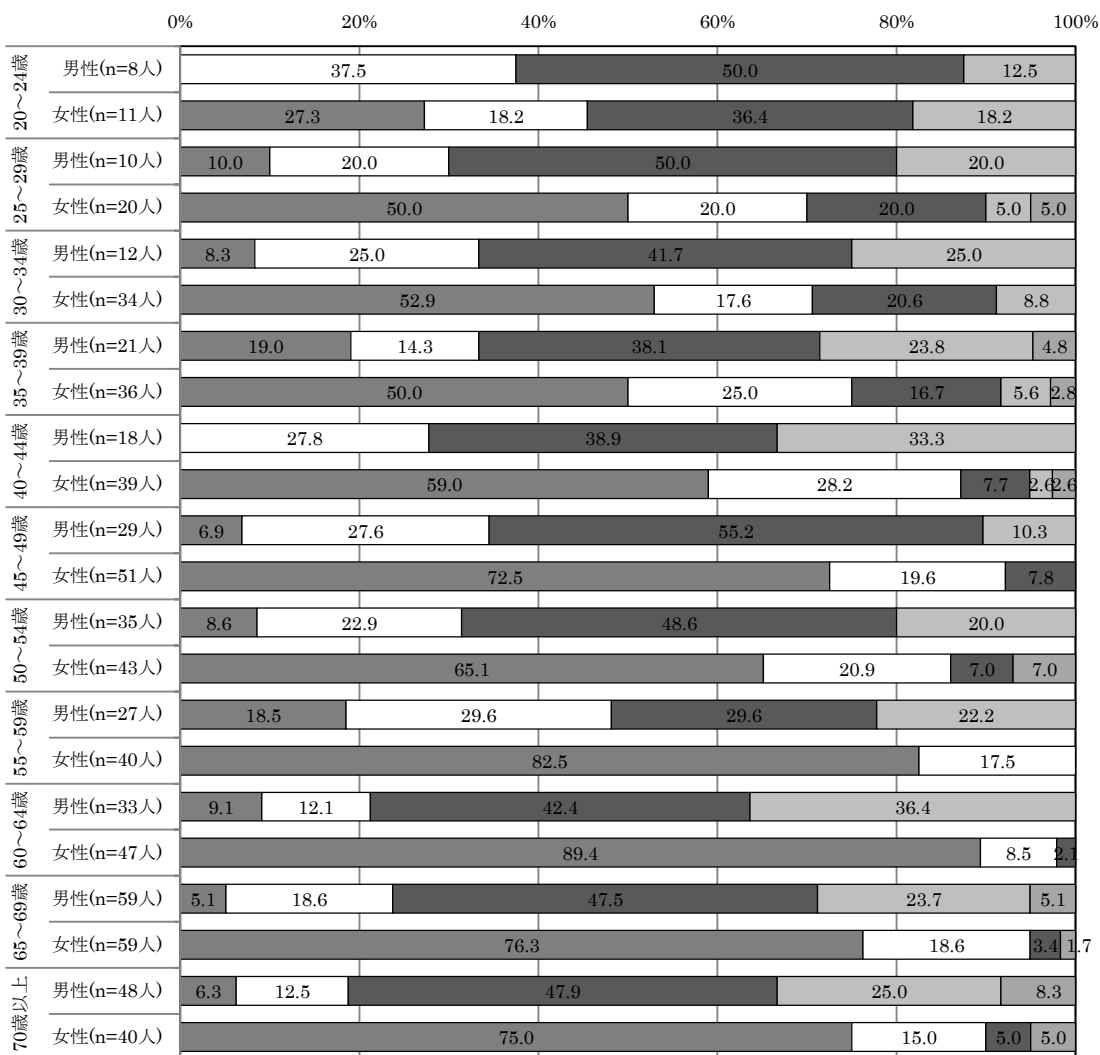
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(68.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(45.0%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳、40歳～44歳で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】

主に自分がしている
 自分と家族が同じ程度している
 自分は手伝い程度している
 していない
 無回答

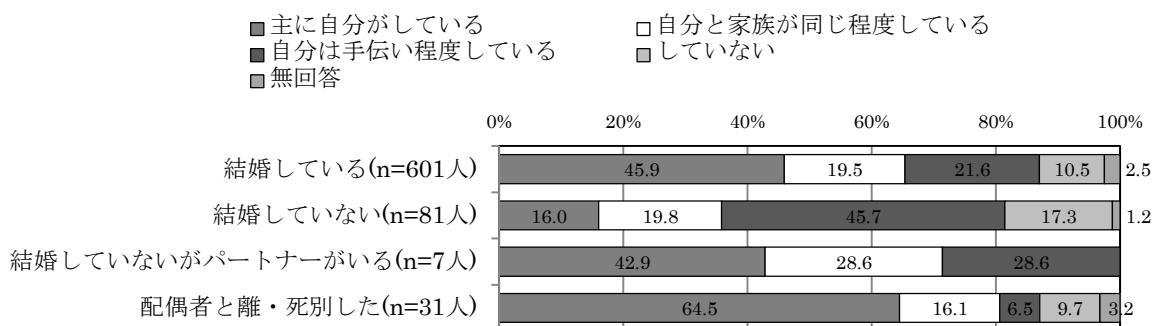


【世代別性別】

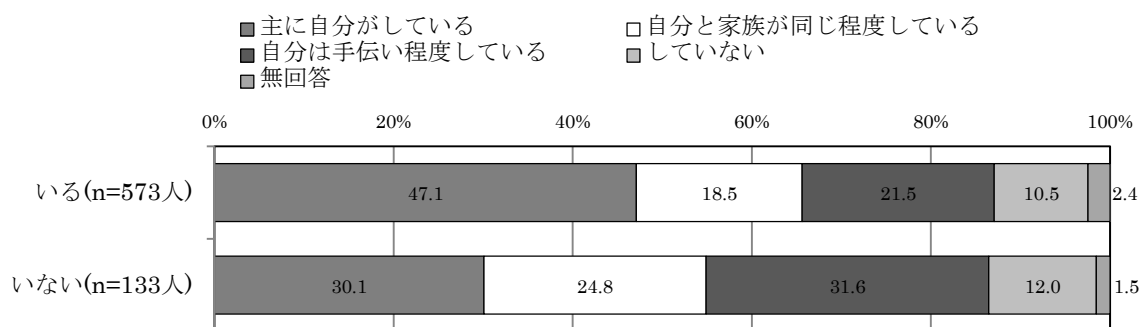


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(45.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(21.6%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.5%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(45.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(19.8%)、「していない」(17.3%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(42.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」、「自分は手伝い程度している」(28.6%)で同じ回答割合となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(64.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(16.1%)、「していない」(9.7%)、となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(47.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(21.5%)、「自分と家族が同じ程度している」(18.5%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(31.6%)という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(30.1%)、「自分と家族が同じ程度している」(24.8%)となっている。

【配偶者の有無】



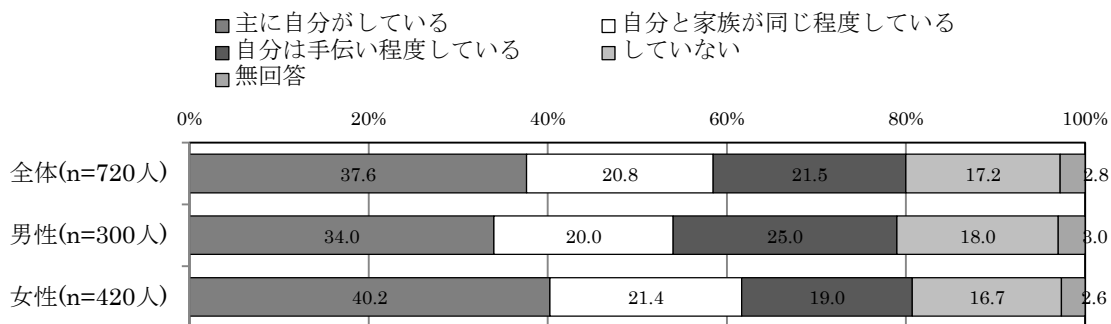
【子の有無】



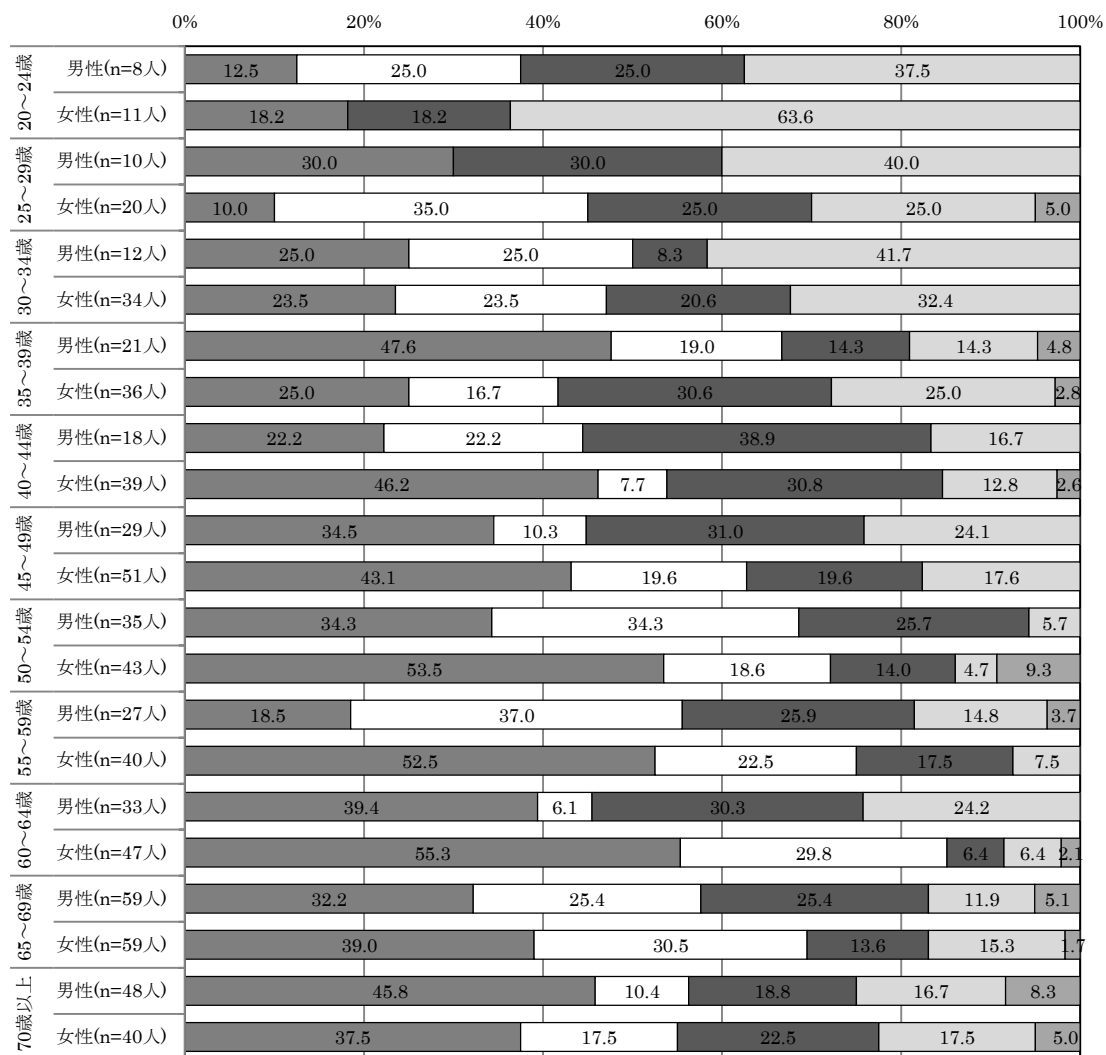
6 ごみ捨て

- ・性別で見ると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は40.2%、男性は34.0%となっている。
- ・世代別性別で見ると、25～29歳、30歳代、70歳以上では、「主に自分がしている」という回答が女性よりも男性の方が多くなっている。

【性別】

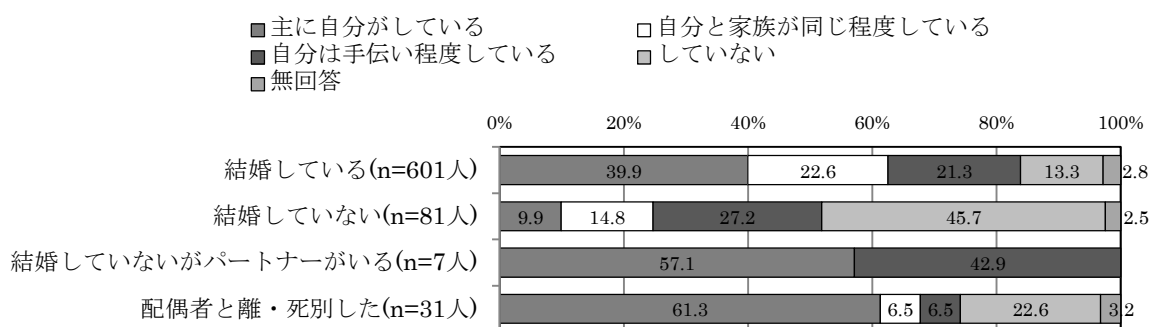


【世代別性別】

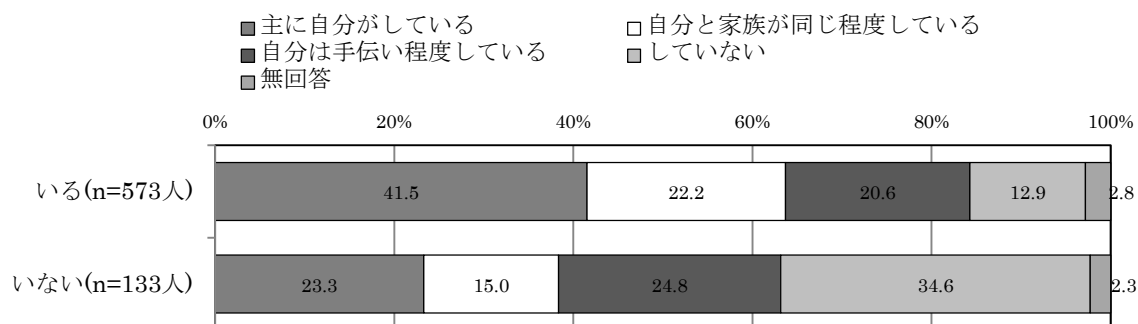


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(39.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.6%)、「自分は手伝い程度している」(21.3%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(45.7%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(27.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(14.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(57.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(42.9%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(61.3%)という回答が最も多く、次いで「していない」(22.6%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(41.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.2%)、「自分は手伝い程度している」(20.6%)となっている。「いない」では、「していない」(34.6%)という回答が最も多く、次いで、「自分は手伝い程度している」(24.8%)、「主に自分がしている」(23.3%)となっている。

【配偶者の有無】



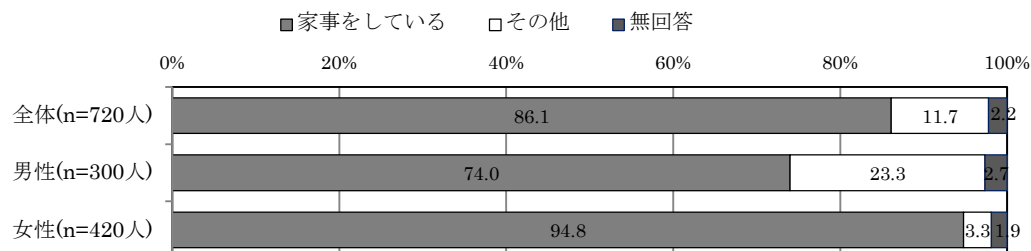
【子の有無】



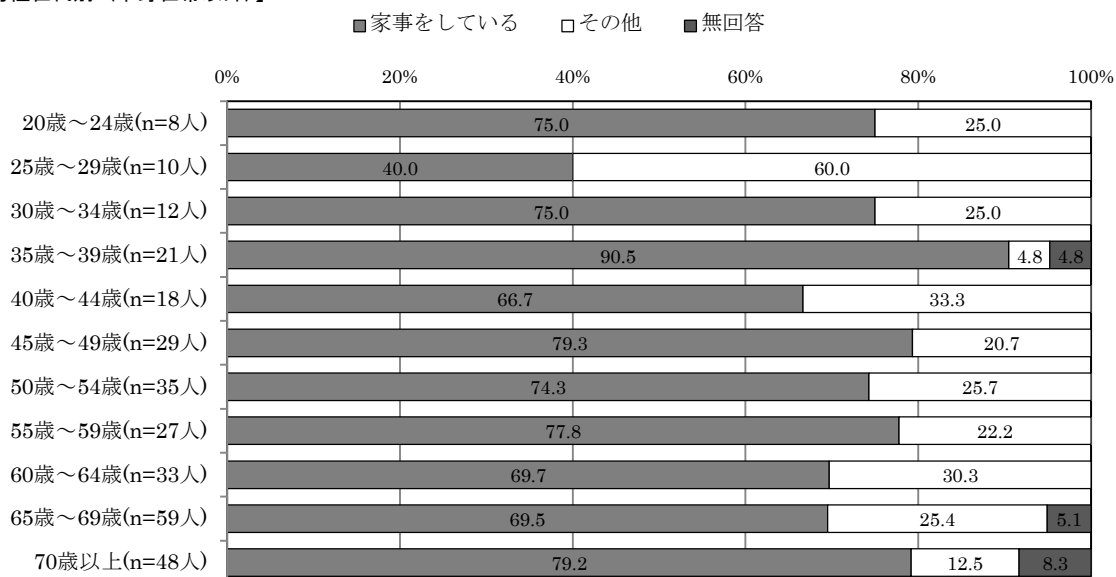
<家事への参画度>

- ・問 20 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 86.1%が「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 74.0%、女性は 94.8%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2割低くなっている。

【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



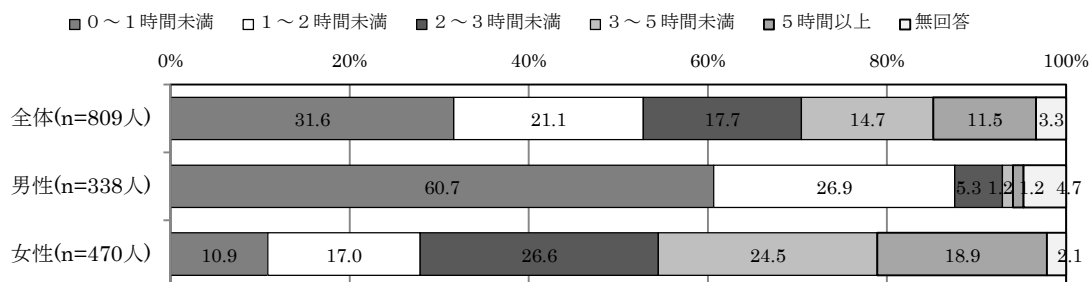
【女性世代別（単身世帯以外）】



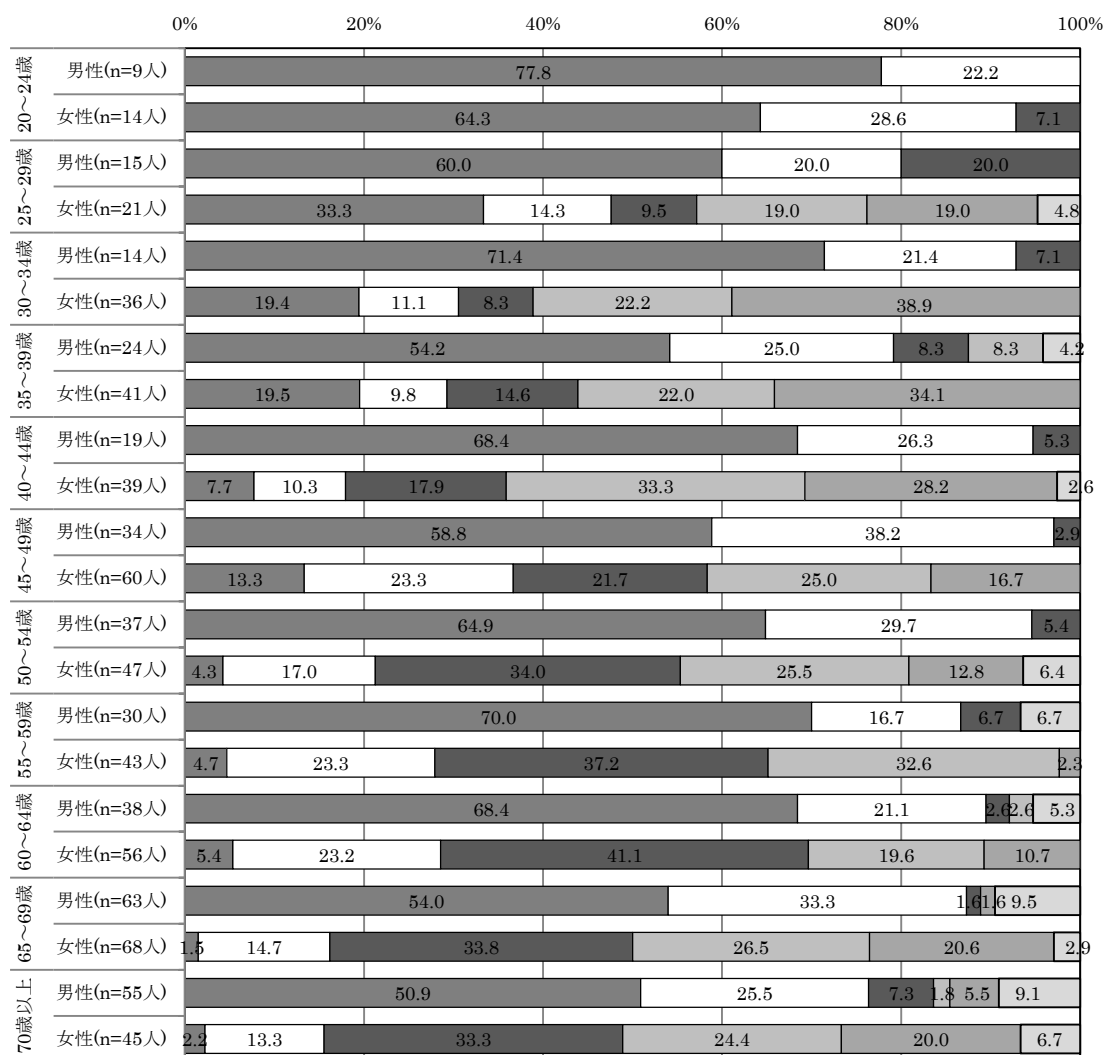
問 21 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（60.7%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は10.9%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、男性の全ての年代で「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】

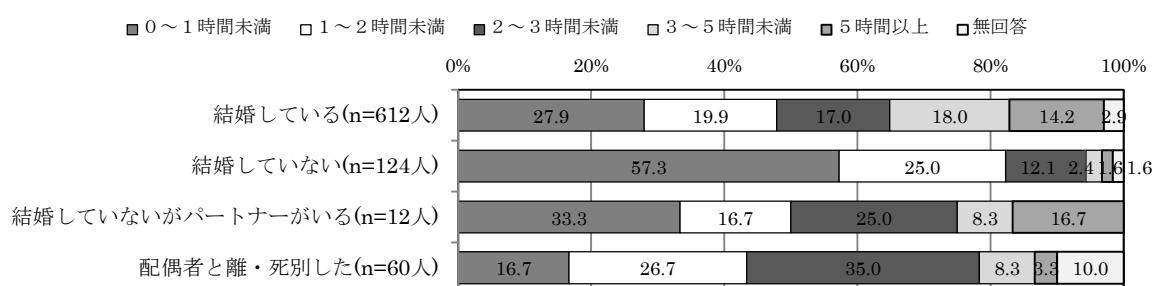


【世代別性別】

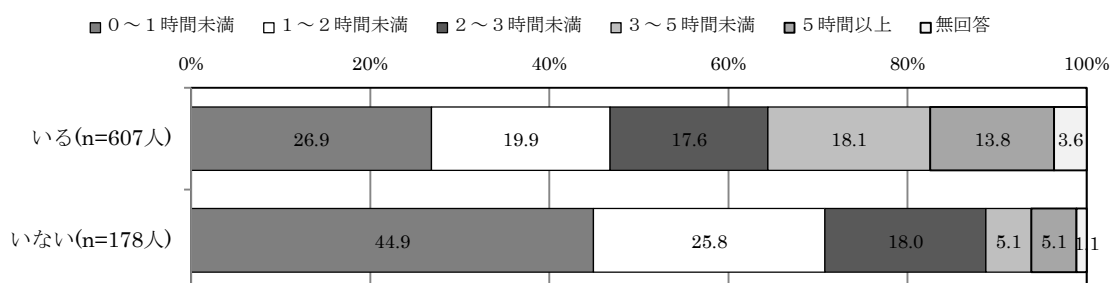


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(27.9%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(19.9%)、「3～5時間未満」(18.0%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(57.3%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(25.0%)、「2～3時間未満」(12.1%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「0～1時間未満」(33.3%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(25.0%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(35.0%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(26.7%)、「0～1時間未満」(16.7%)となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「0～1時間未満」(26.9%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(19.9%)、「3～5時間未満」(18.1%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(44.9%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(25.8%)、「2～3時間未満」(18.0%)となっている。

【配偶者の有無】



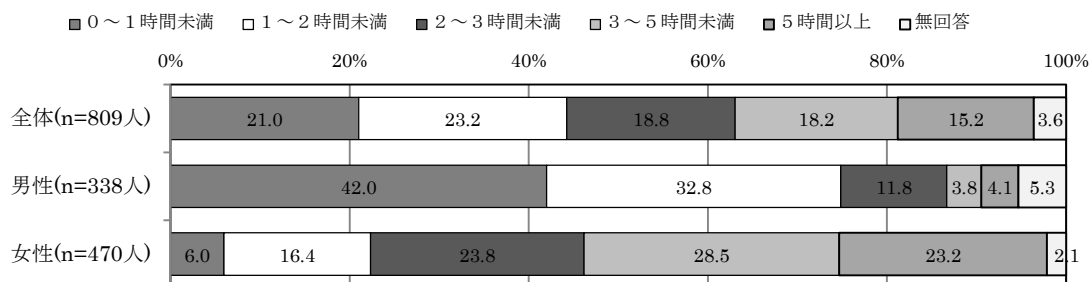
【子の有無】



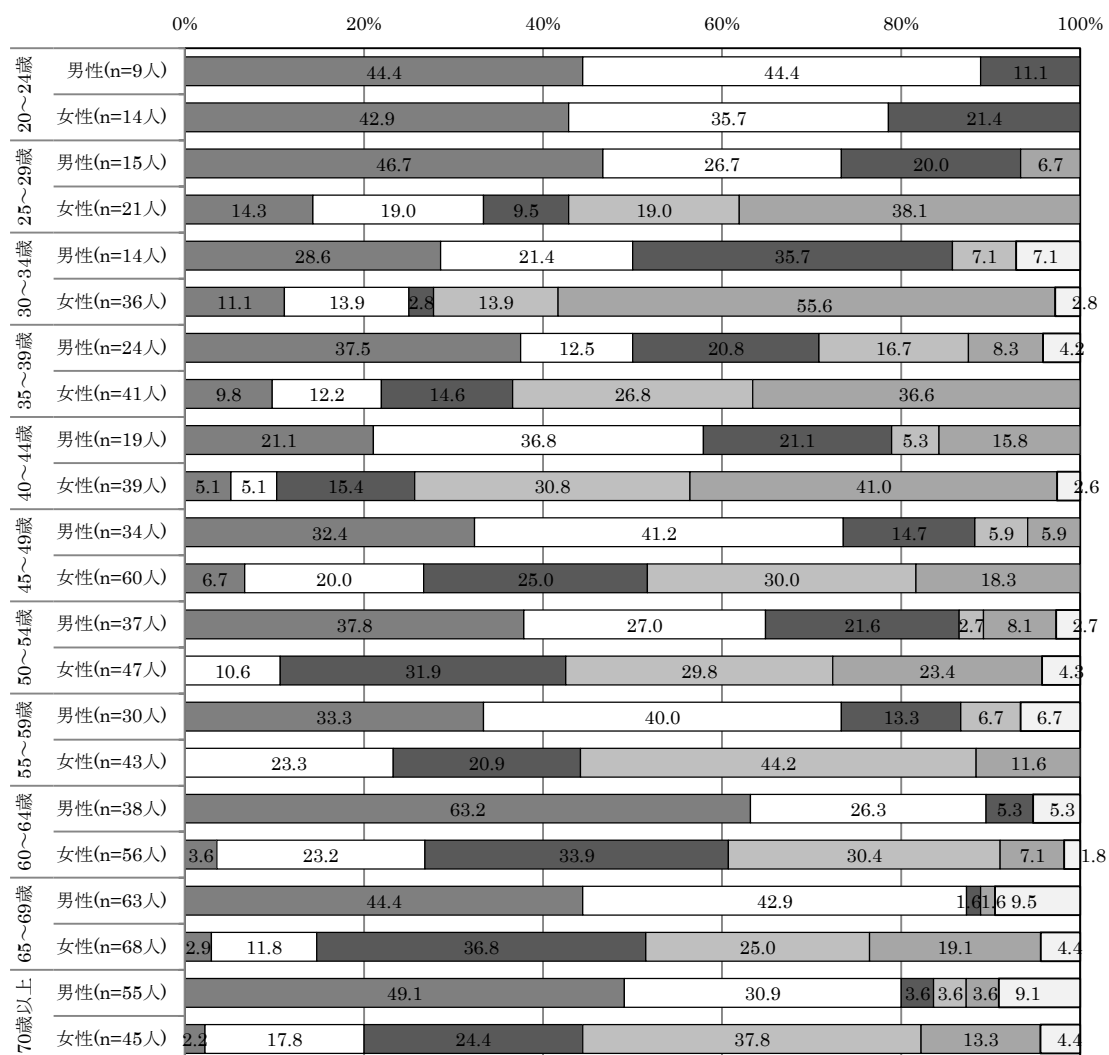
問 22 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（42.0%）という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では30歳～34歳では「2～3時間未満」が一番多く、40歳代、55歳～59歳では「1～2時間未満」が最も多い回答となっている。一方、女性は35歳以上の年代で「0～1時間未満」の回答割合が、1割未満となっている。

【性別】

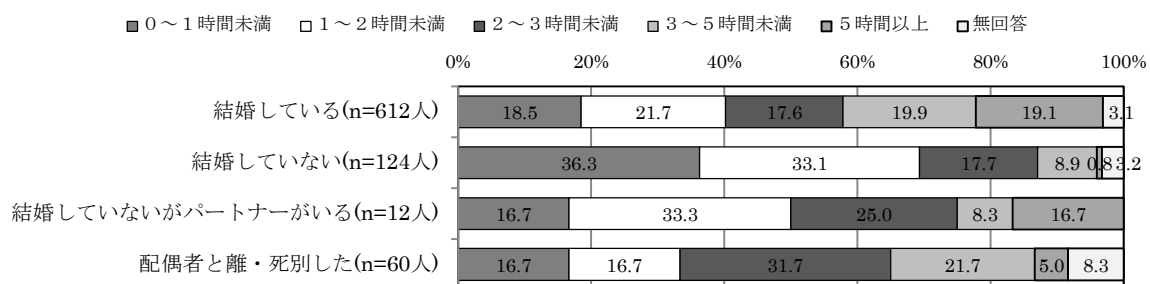


【世代別性別】

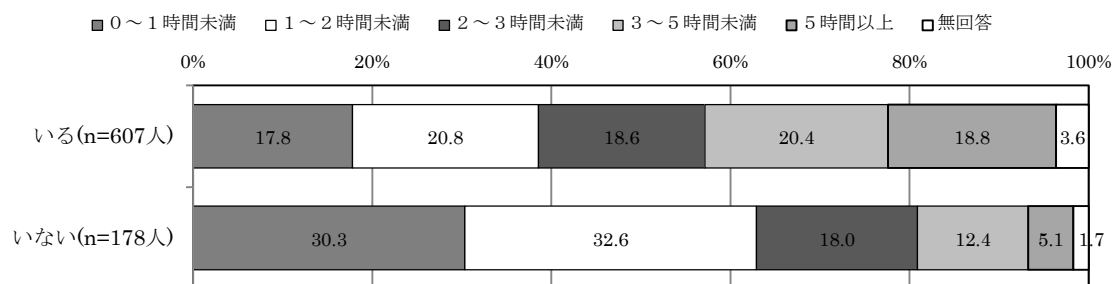


- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(21.7%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(19.9%)、「5時間以上」(19.1%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(36.3%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(33.1%)、「2～3時間未満」(17.7%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(33.3%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(25.0%)となっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(31.7%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(21.7%)、「0～1時間未満」と「1～2時間未満」(16.7%)が同じ回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「いる」では、「1～2時間未満」(20.8%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(20.4%)、「5時間以上」(18.8%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(32.6%)という回答が最も多く、次いで、「0～1時間未満」(30.3%)、「2～3時間未満」(18.0%)となっている。

【配偶者の有無】



【子の有無】

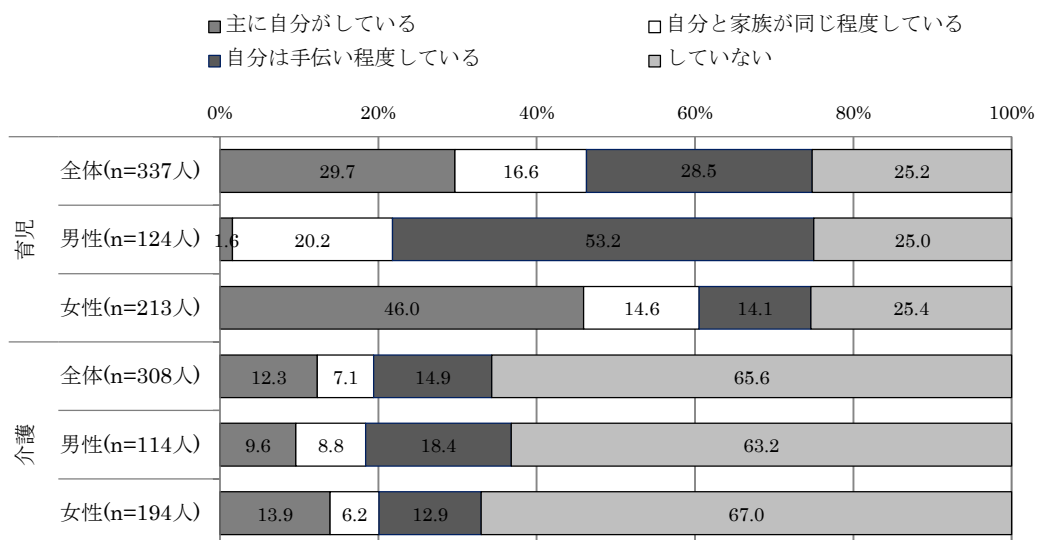


問 23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（46.0%）で、男性の回答1.6%と比べ大きな差がある。
 - ・介護では、男性は、「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」の回答割合の合計が約2割（18.4%）となり、女性も約2割（20.1%）で育児に比べ性別による差は小さくなっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

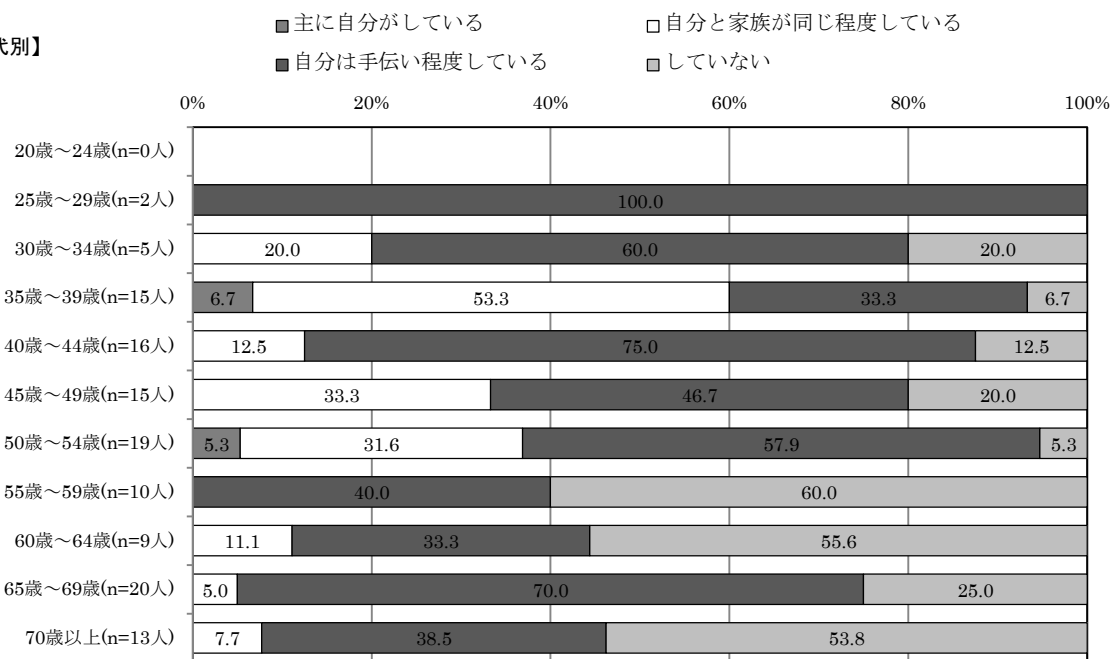
【全分野】



1 育児（お孫さんを含む）

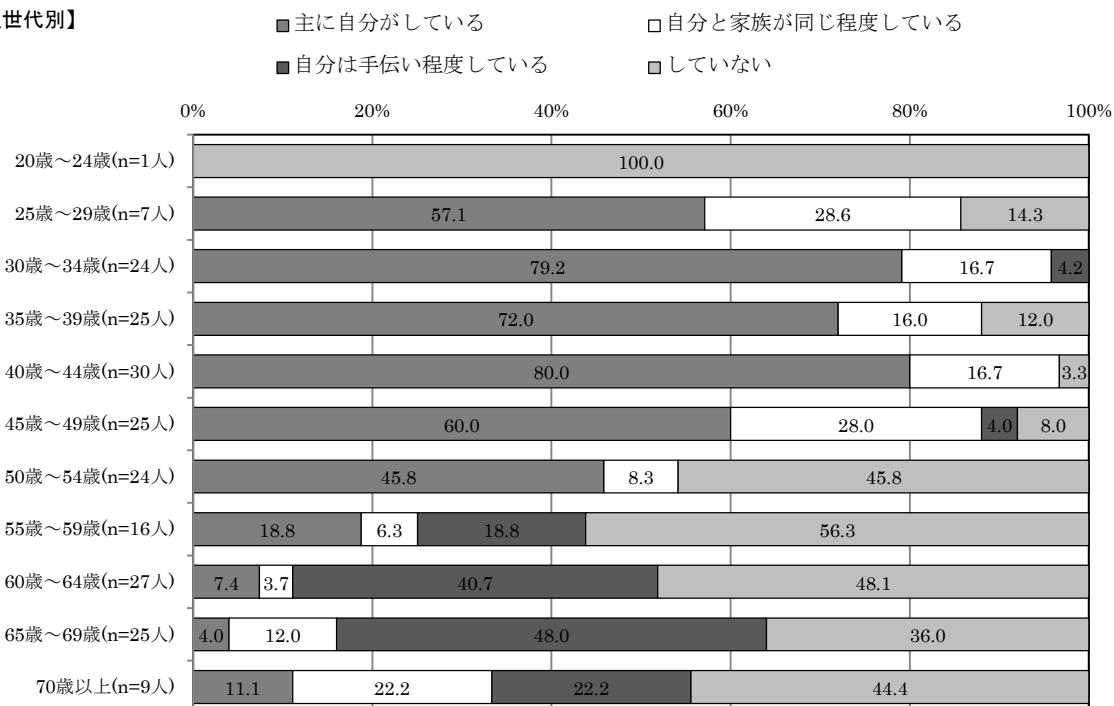
- ・男性では35歳～39歳では、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計が6割となっている。他の年代では、0から約4割となっている。35歳～39歳、50歳～54歳以外の年代の男性では、「主に自分がしている」という回答はなしとなっている。
- ・一方、女性では「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、25歳～29歳、30歳代、40歳代で、約8割から9割となっている。

【男性世代別】



男性 (n=124人)

【女性世代別】

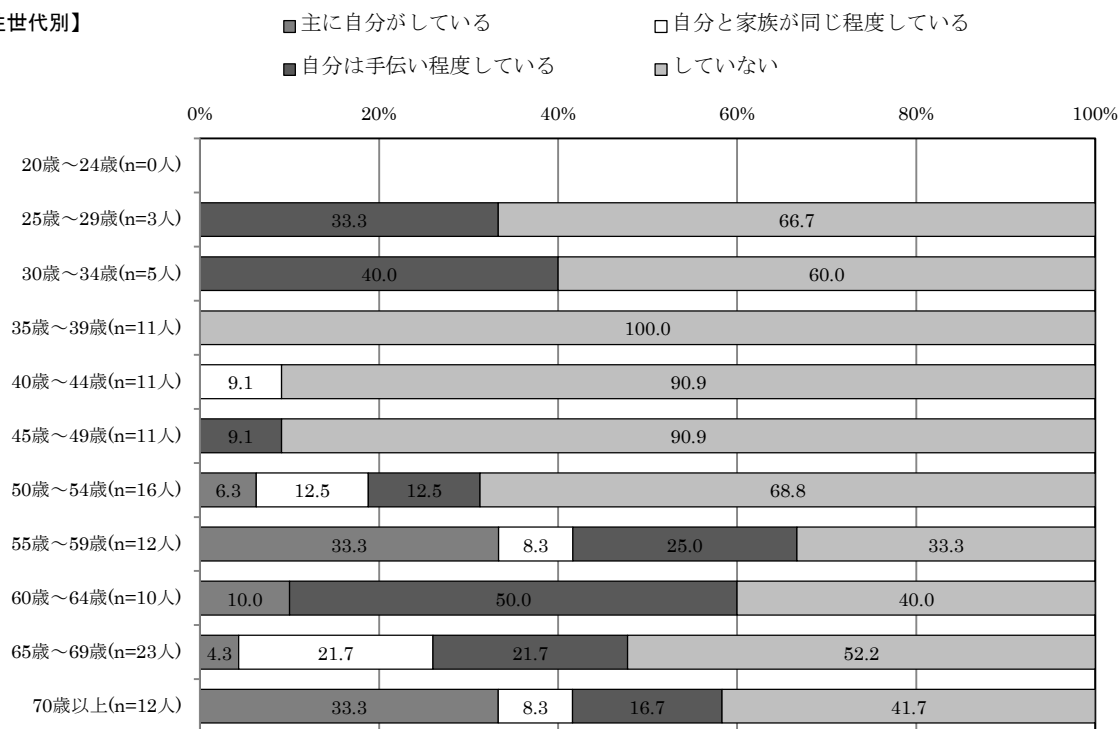


女性 (n=213人)

2 介護

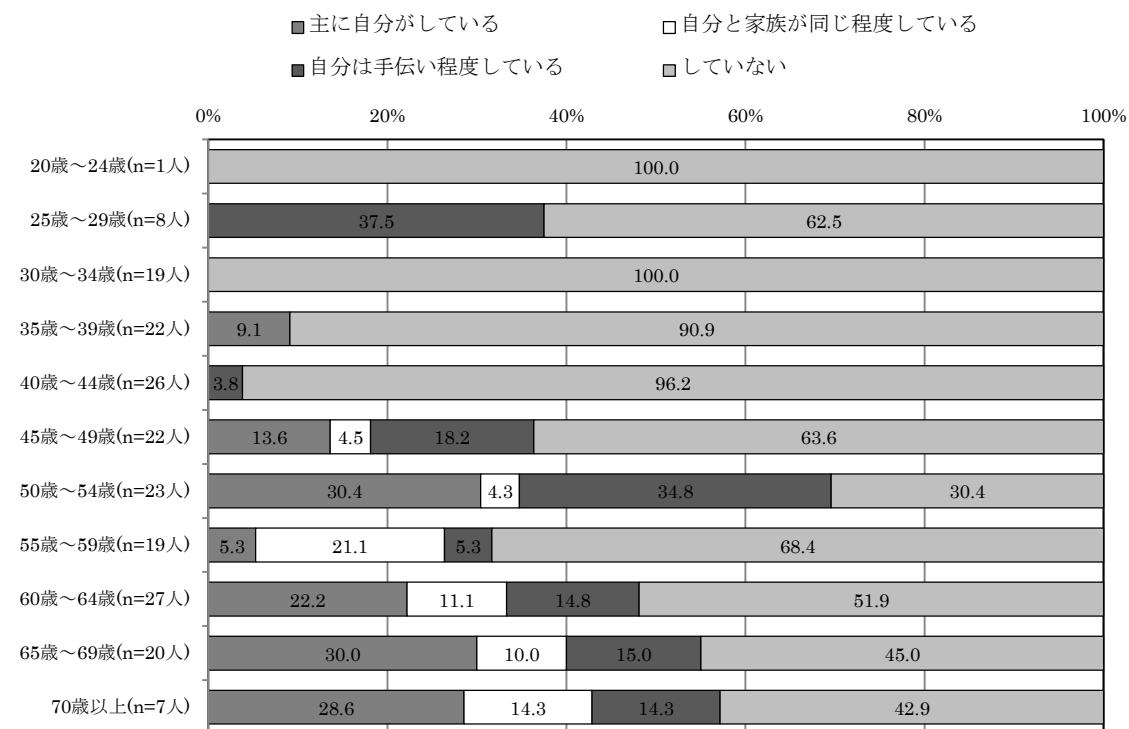
- ・性別で見ると、男性は55歳以上の年代から、女性は45歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっており、「主に自分がしている」という回答が男性に比べ女性の方が多くなっている。ただし、55歳～59歳では「主に自分がしている」という回答割合が、男性33.3%、女性5.3%と男性の回答割合が高くなっている。

【男性世代別】



男性 (n=114人)

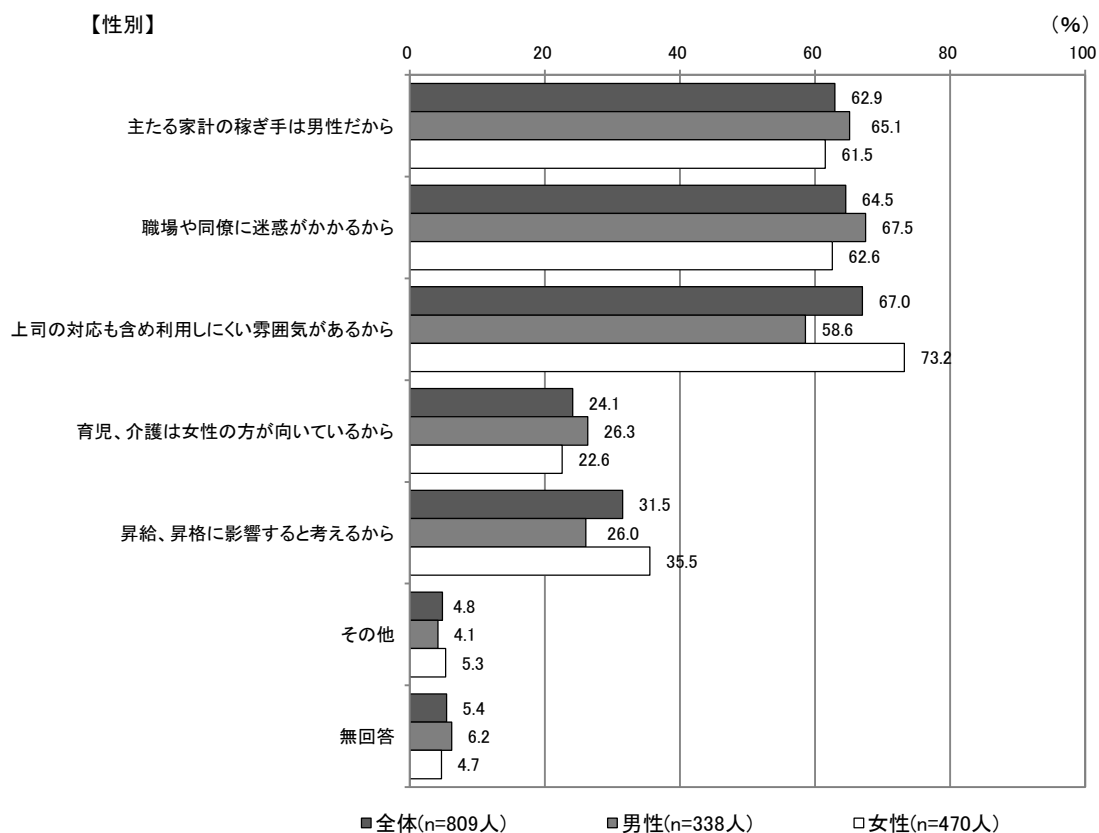
【女性世代別】



女性 (n=194人)

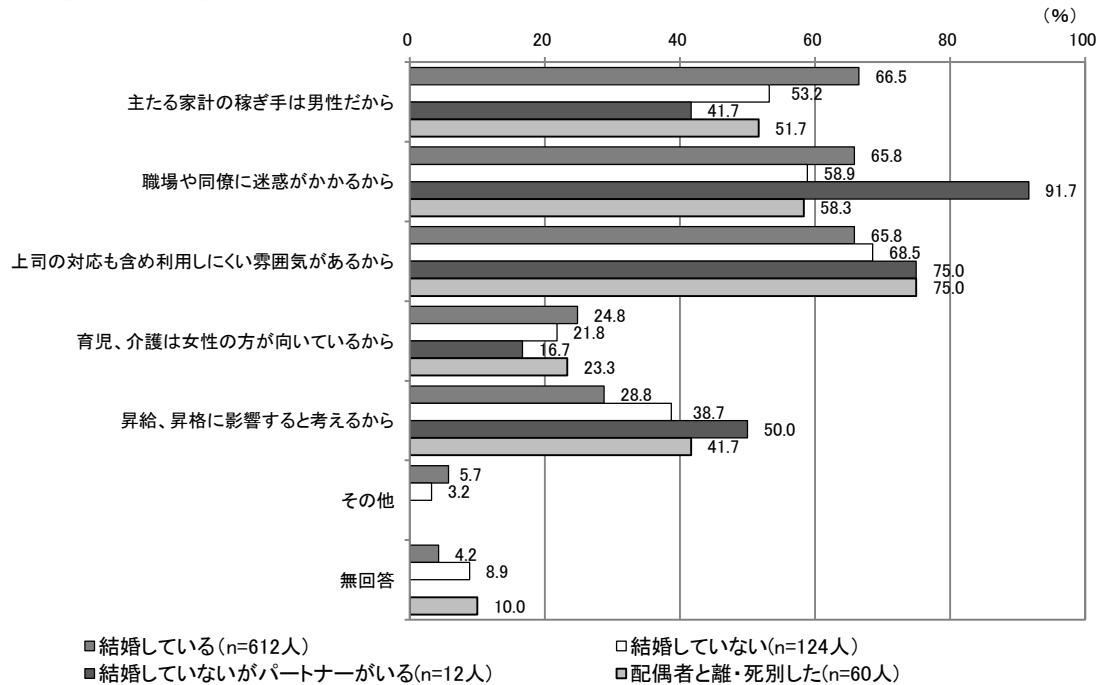
問 24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(67.0%)で、約7割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(64.5%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(62.9%)となっている。
- ・性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」(67.5%)、次いで「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(65.1%)、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(58.6%)となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(73.2%)が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(62.6%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(61.5%)となっている。

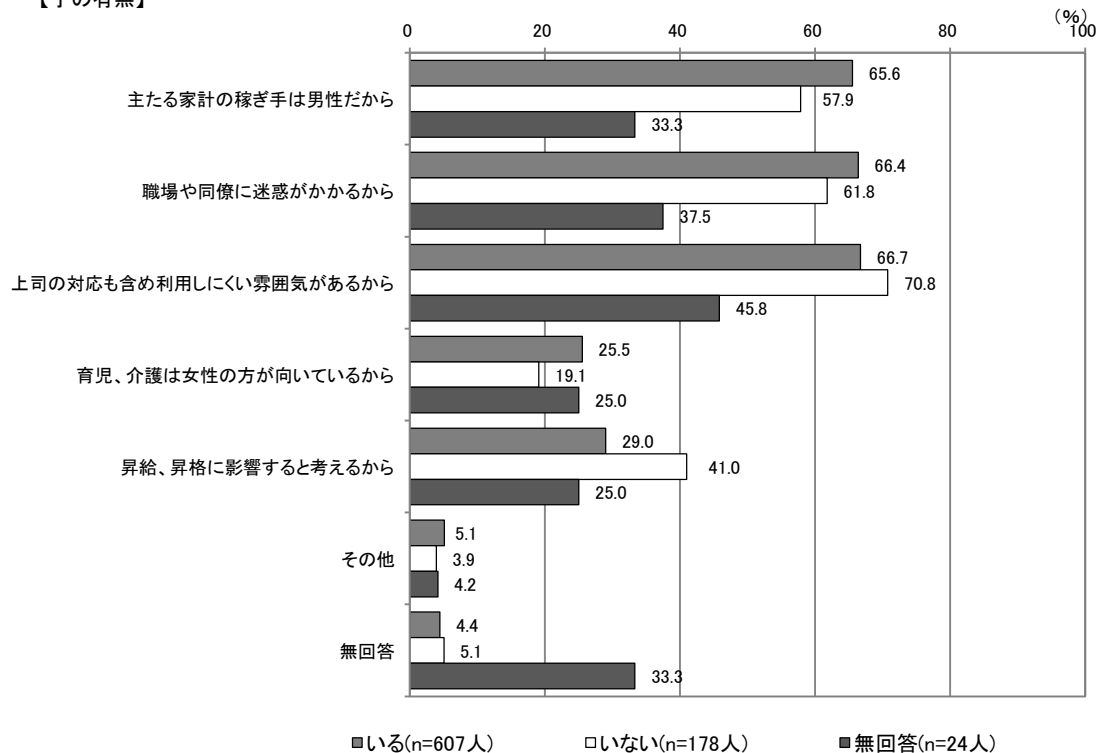


- ・配偶者の有無でみると、「職場や同僚に迷惑がかかるから」という回答が、「結婚していないがパートナーがいる」で91.7%となっており、他より回答割合が高い傾向となっている。
- ・子の有無でみると、「昇給、昇格に影響すると考えるから」という回答では、「いない」が41.0%となり、「いる」では29.0%と意識に差がある。

【配偶者の有無】

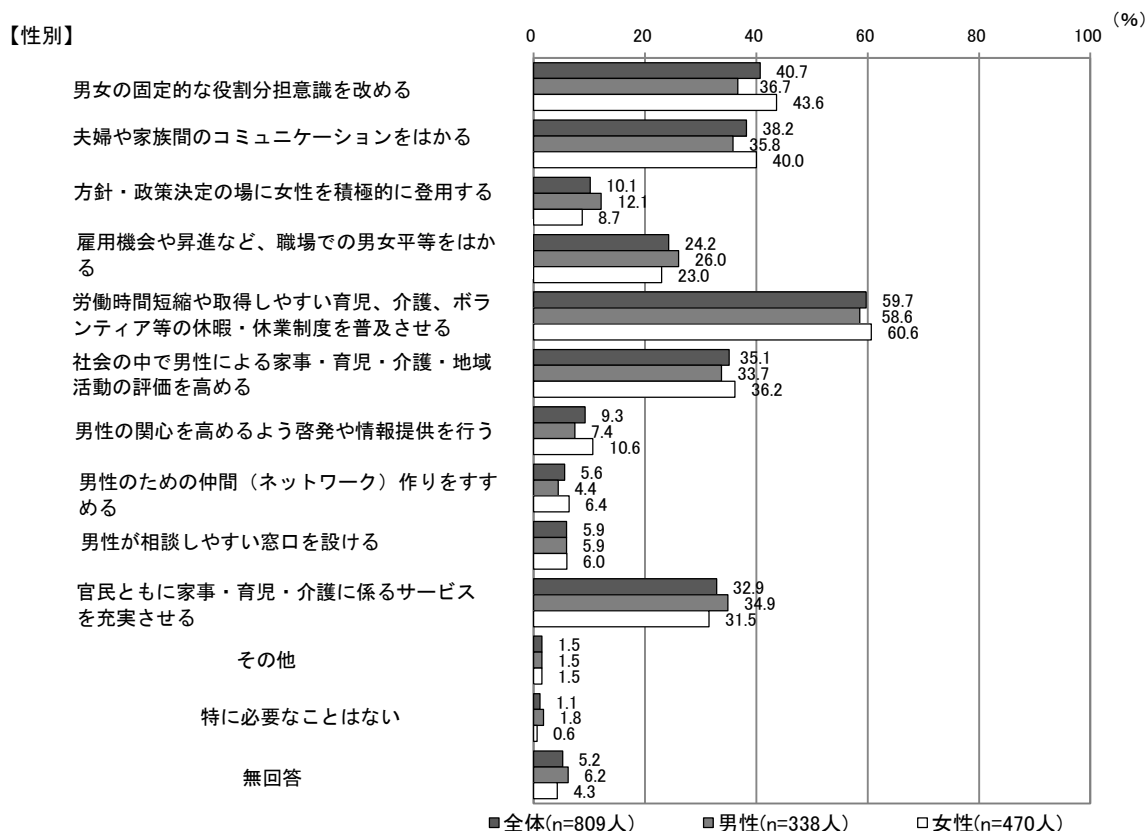


【子の有無】



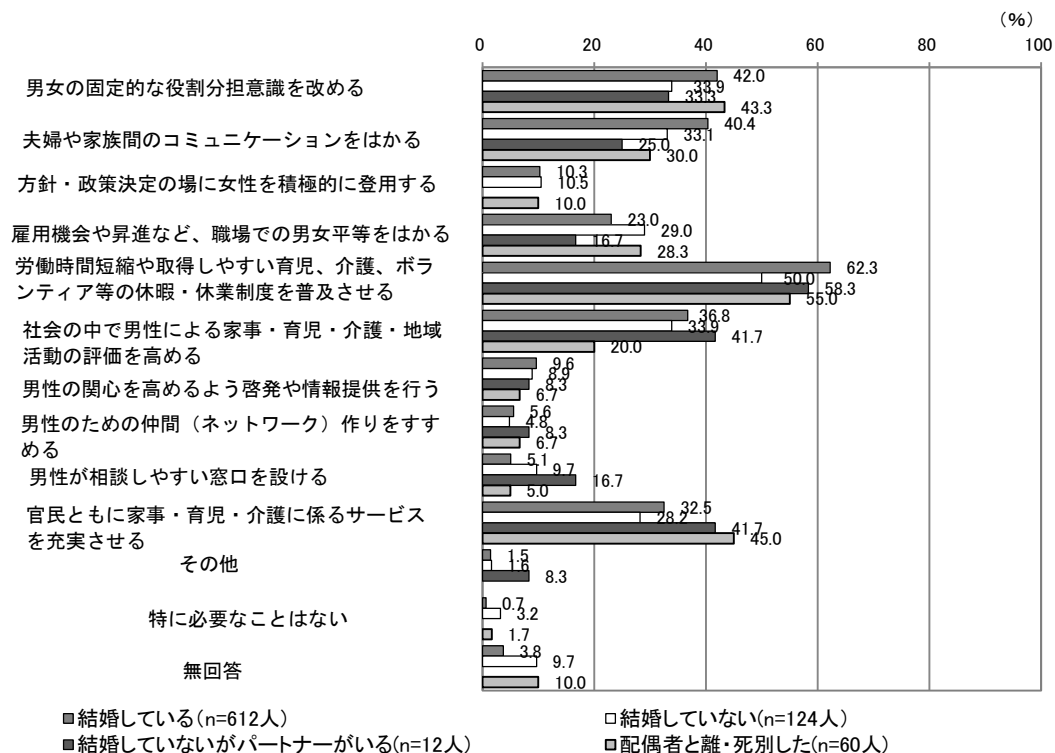
問 25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(59.7%)が最も多く、約6割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(40.7%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(38.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(35.1%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(32.9%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(58.6%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(36.7%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(35.8%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(34.9%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(33.7%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(60.6%)という回答が最も多い。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(43.6%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(40.0%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(36.2%)の順となっている。

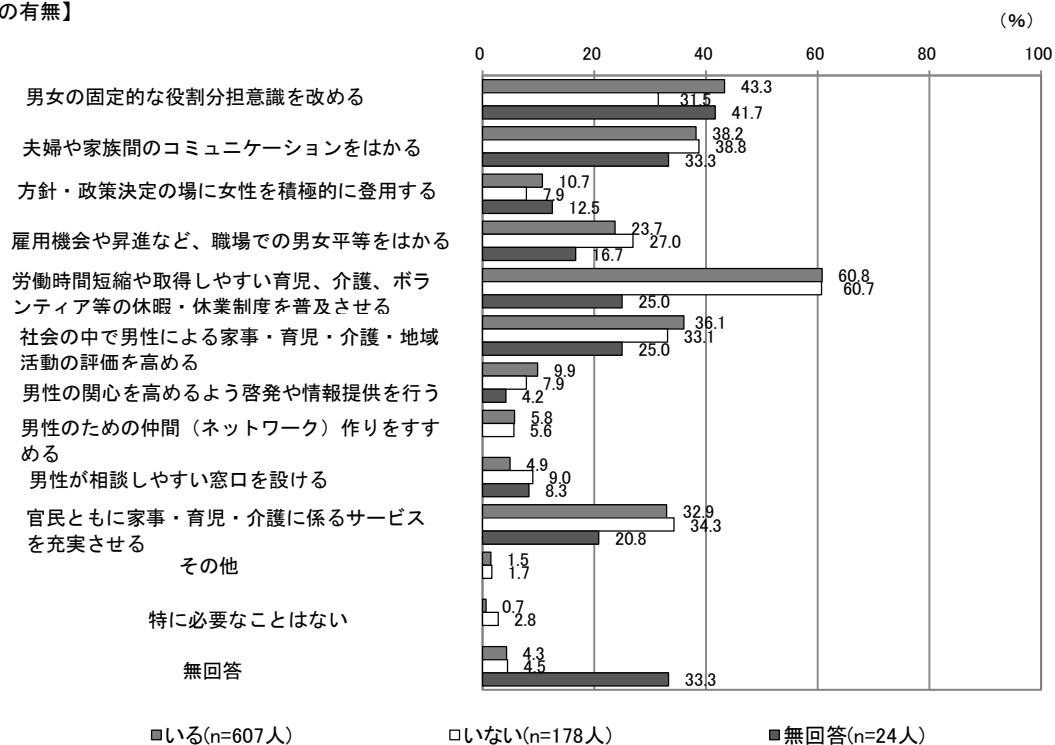


- ・配偶者の有無でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、「結婚している」で62.3%と6割を超え、高い回答割合となっている。
- ・子の有無でみると、「男女の固定的な役割分担意識を改める」という回答では、「いる」では43.3%、「いない」では31.5%と意識に差がある。

【配偶者の有無】



【子の有無】

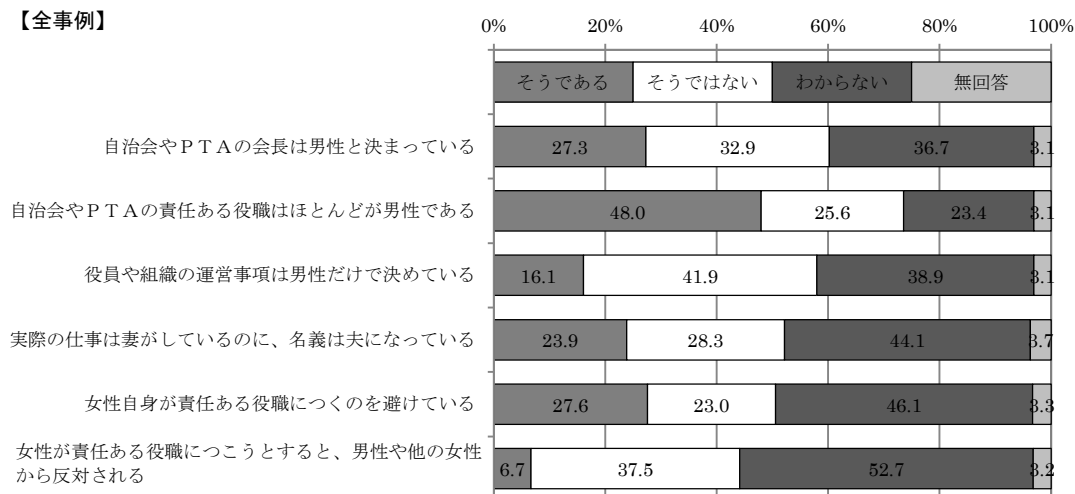


地域社会に関することについて

問 26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（48.0%）となっている。次に、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（27.6%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（27.3%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（41.9%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（37.5%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（32.9%）と続いている。

【全事例】

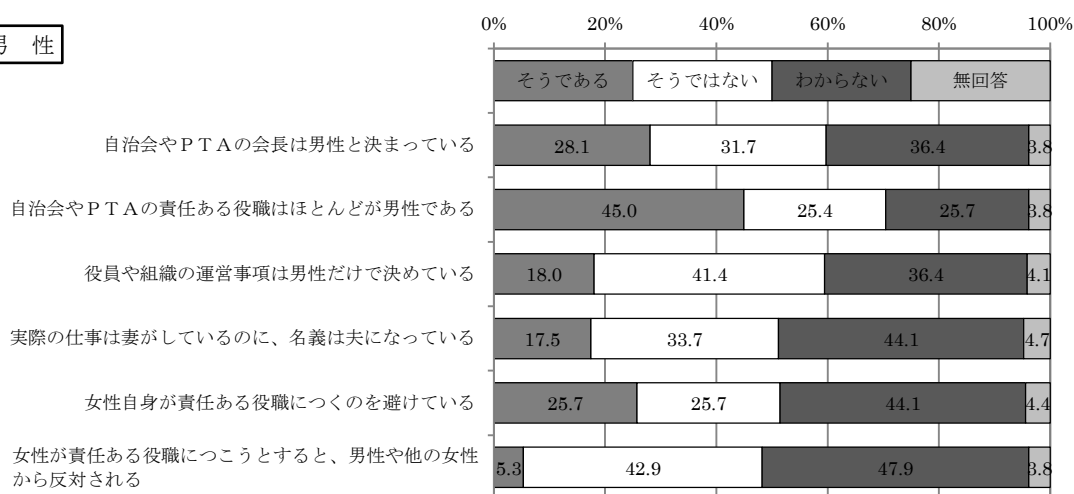


全体 (n=809 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

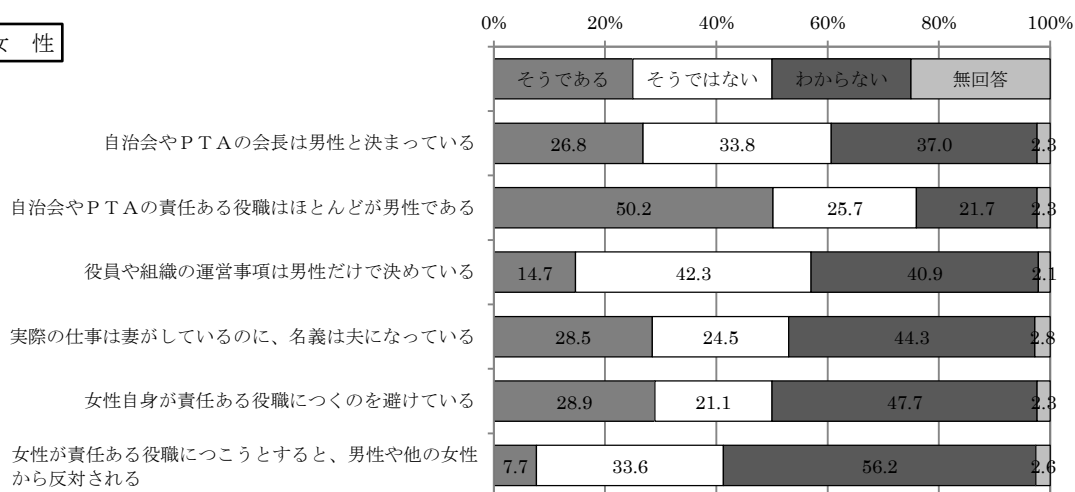
【性別】

男性



男性 (n=338 人)

女性

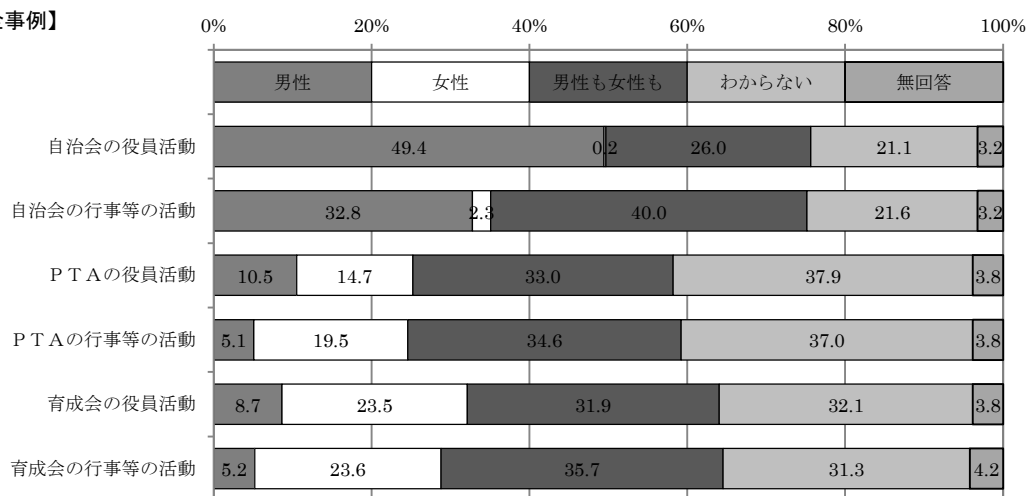


女性 (n=470 人)

問 27 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約5割（49.4%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（32.8%）、「PTAの役員活動」（10.5%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の行事等の活動」（23.6%）が最も多く、約2割となっている。次いで、「育成会の役員活動」（23.5%）、「PTAの行事等の活動」（19.5%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（40.0%）が最も多く、約4割となっている。次に「育成会の行事等の活動」（35.7%）、「PTAの行事等の活動」（34.6%）と続いている。

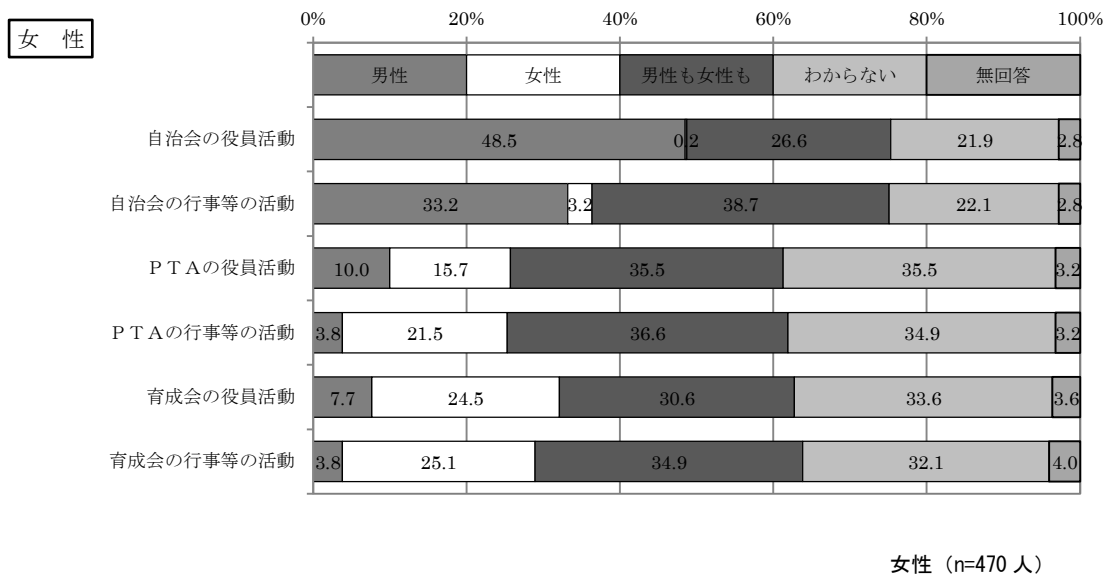
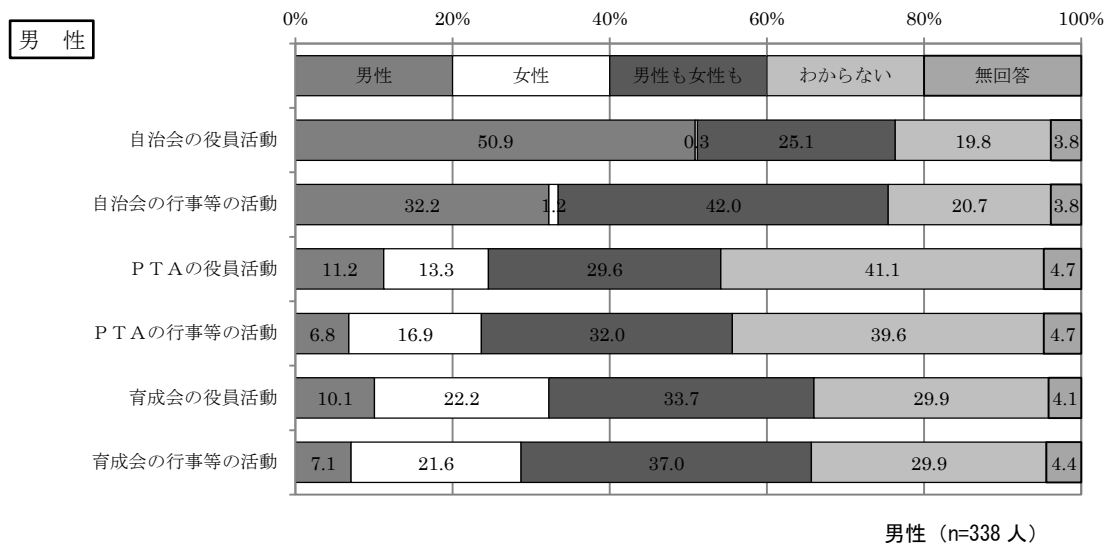
【全事例】



全体 (n=809 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

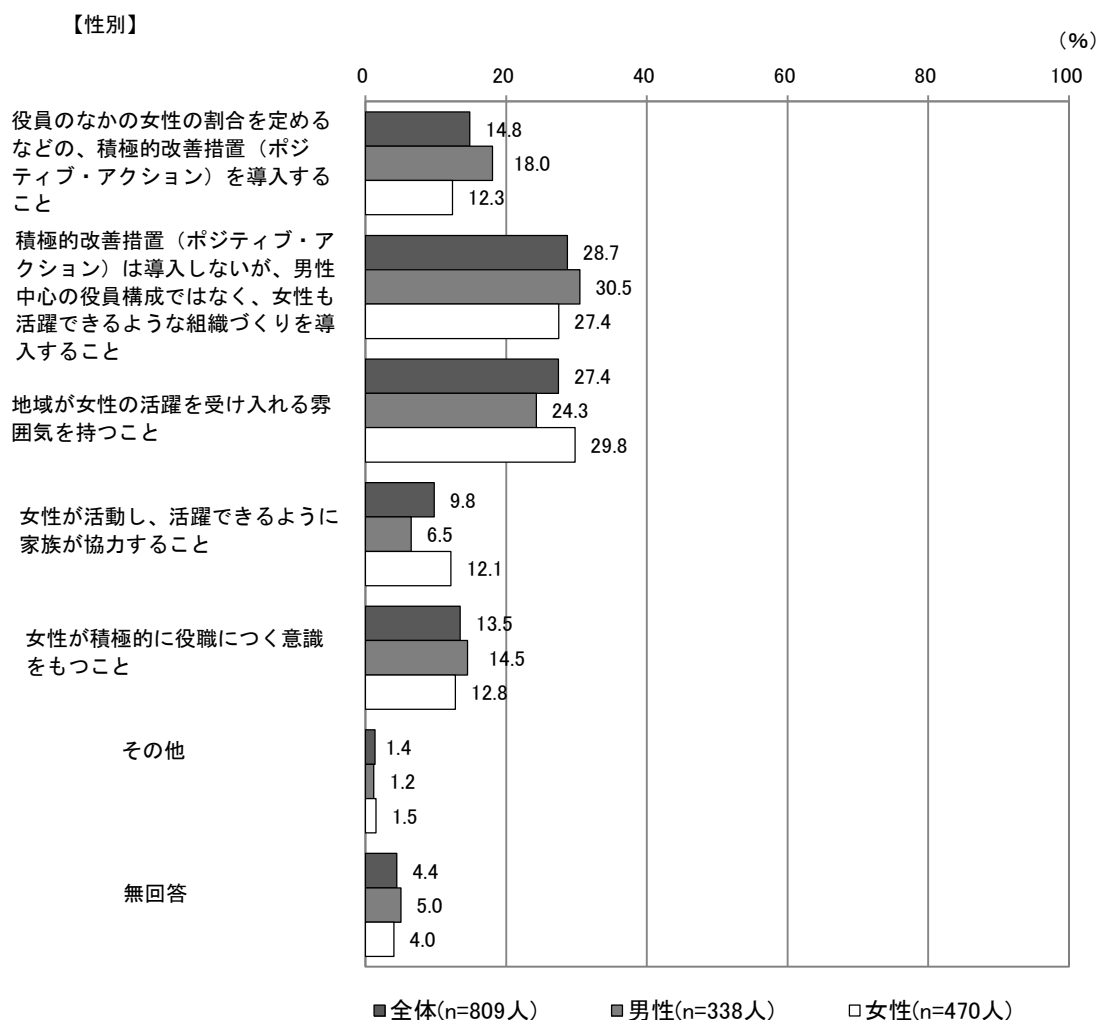
【性別】



問 28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

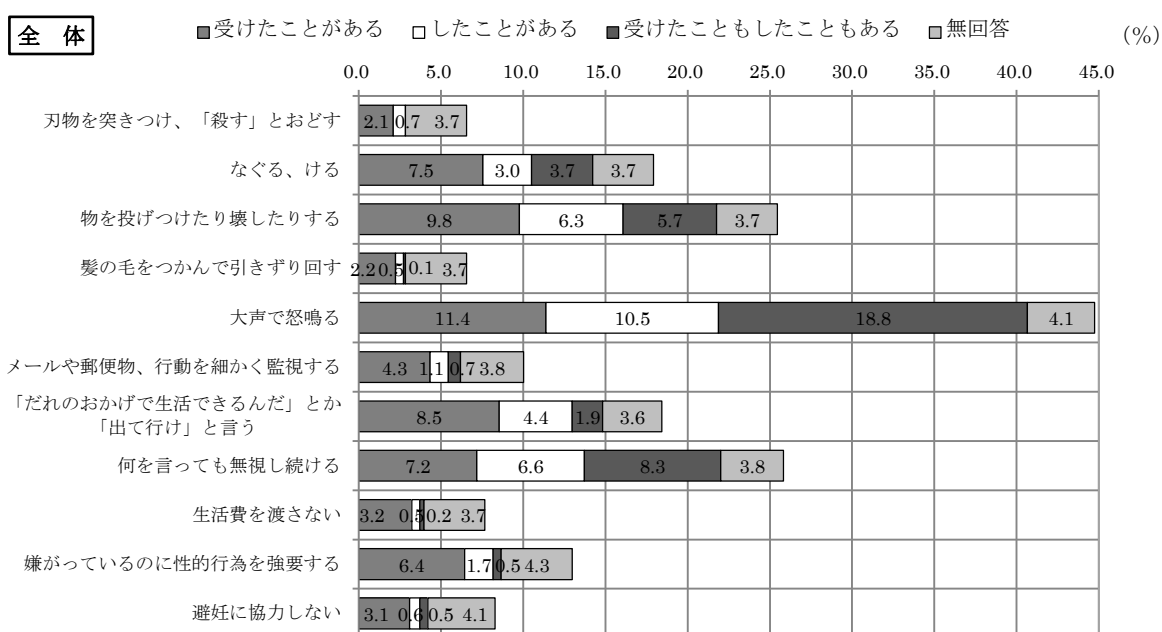
- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、約3割（28.7%）となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気をもつこと」（27.4%）、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（14.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男性では「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、30.5%と3割を超えている。一方女性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」という回答が最も多く約3割（29.8%）となっている。



男女の人権に関することについて

問 29 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- 全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(11.4%) が最も多くなっており、次いで「物を投げたり壊したりする」(9.8%)、『「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う』(8.5%) と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(10.5%) が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(6.6%)、「物を投げつけたり壊したりする」(6.3%) と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(18.8%) が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(8.3%)、「物を投げつけたり壊したりする」(5.7%) と続いている。

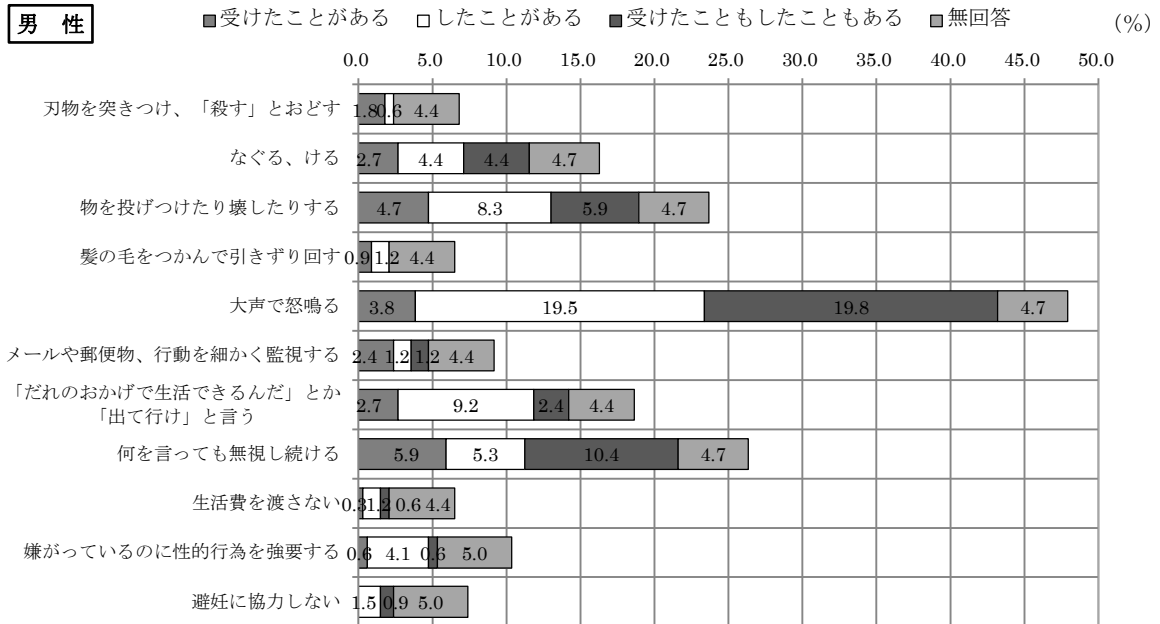


全体 (n=809人)

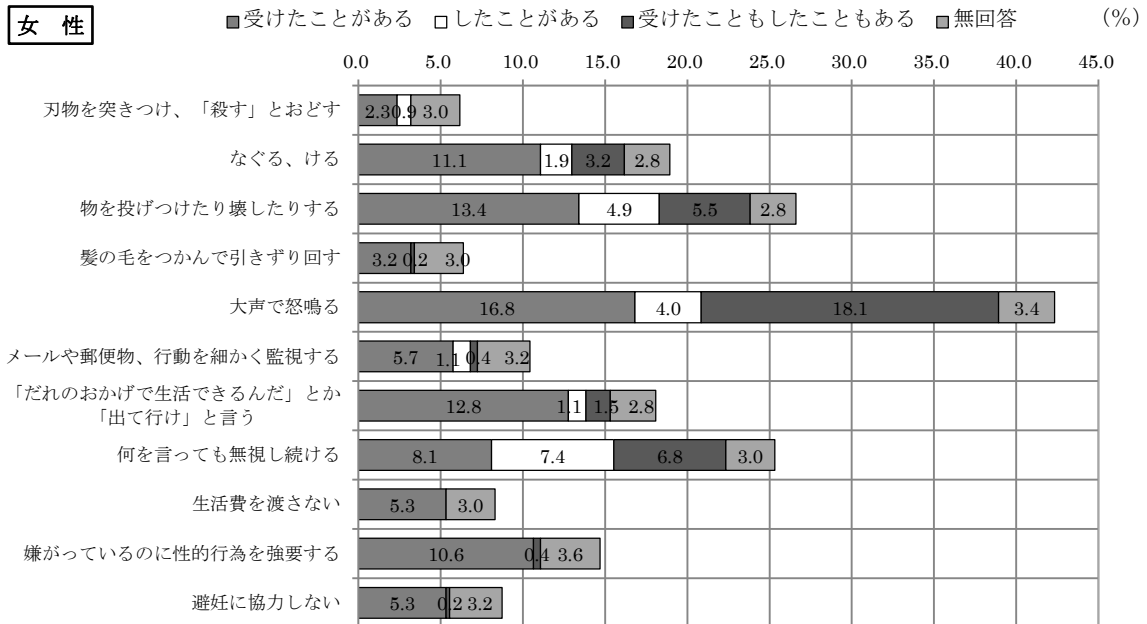
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

【性別】



男性 (n=338 人)



女性 (n=470 人)

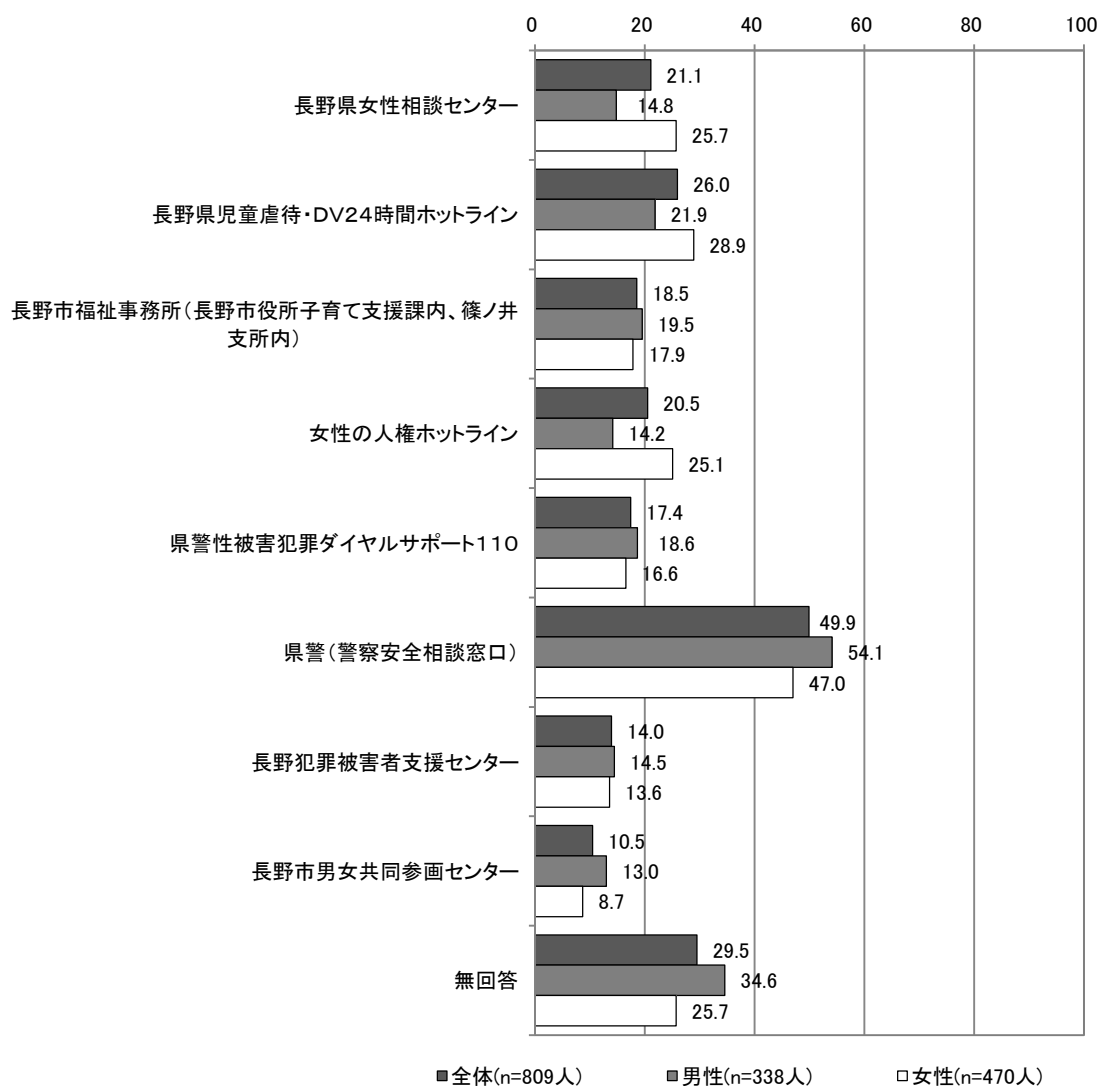
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 30 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（49.9%）で、約5割となっている。次いで、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（26.0%）、「長野県女性相談センター」（21.1%）、「女性の人権ホットライン」（20.5%）、「長野市福祉事務所」（18.5%）と続いている。
- ・性別で見ると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（54.1%）が5割を超えて最も多くなっている。次に、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（21.9%）、「長野市福祉事務所」（19.5%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（47.0%）、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（28.9%）、「長野県女性相談センター」（25.7%）となっており、上位3番目が男性の回答とは認知度に差がある。

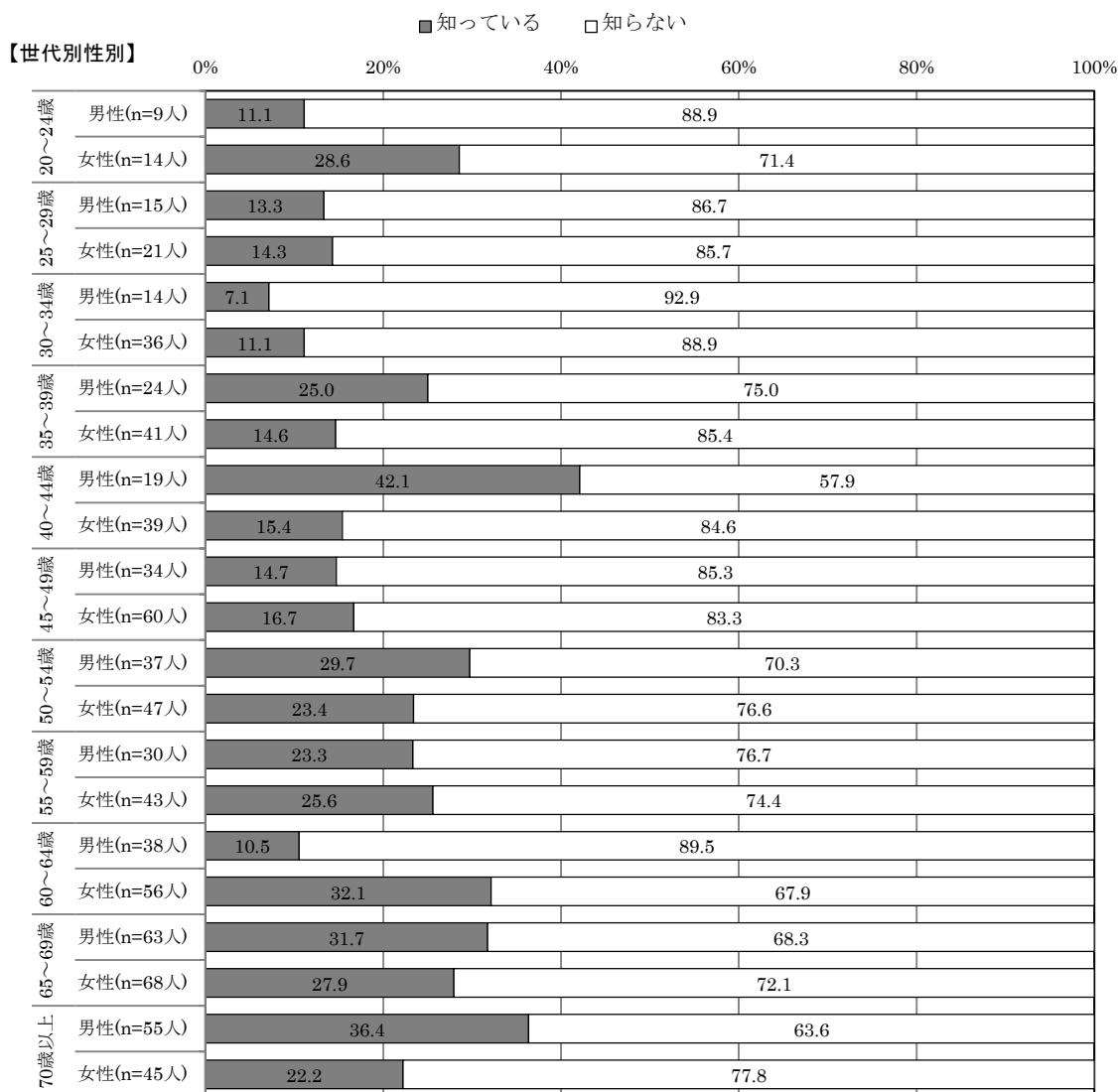
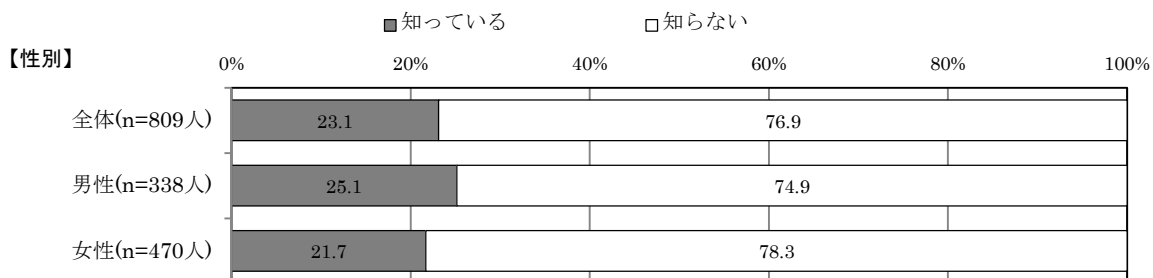
【性別】

(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 30 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、2割（23.1%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」の方が「女性」よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、40歳～44歳の年代において認知度が4割を超えている。一方、女性は60歳～64歳の年代において認知度が3割を超えている。

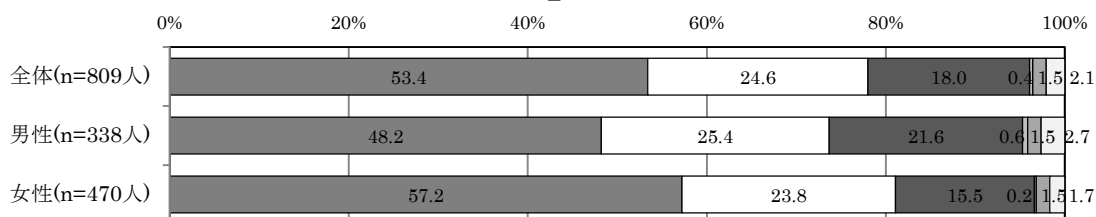


問 31 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのは
 どれですか。次の中から1つお選びください。

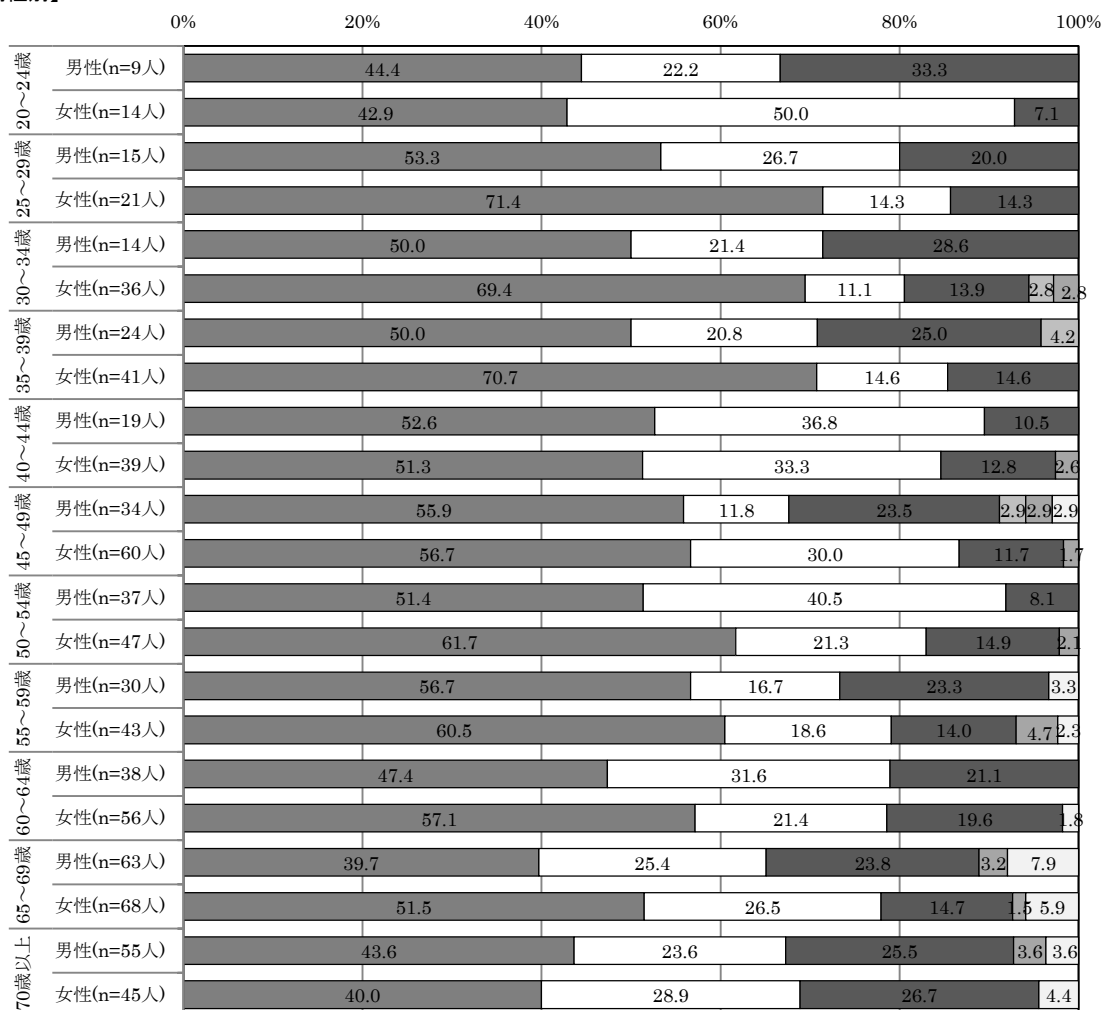
- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（53.4%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（24.6%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（18.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」という回答で、男性では55歳～59歳で56.7%が最も多い回答となっており、約6割となっている。女性では、25歳～29歳で71.4%が最も多い回答となっており、7割を超えている。

【性別】

- どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- わからない
- どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたるとは思わない
- 無回答



【世代別性別】

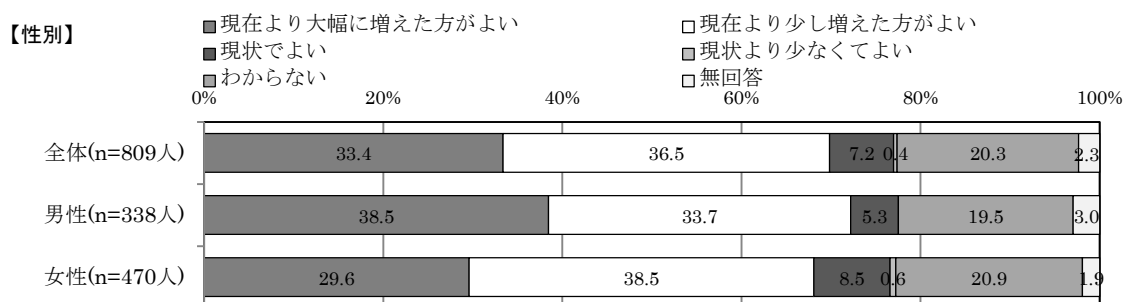


男女共同参画施策に関するについて

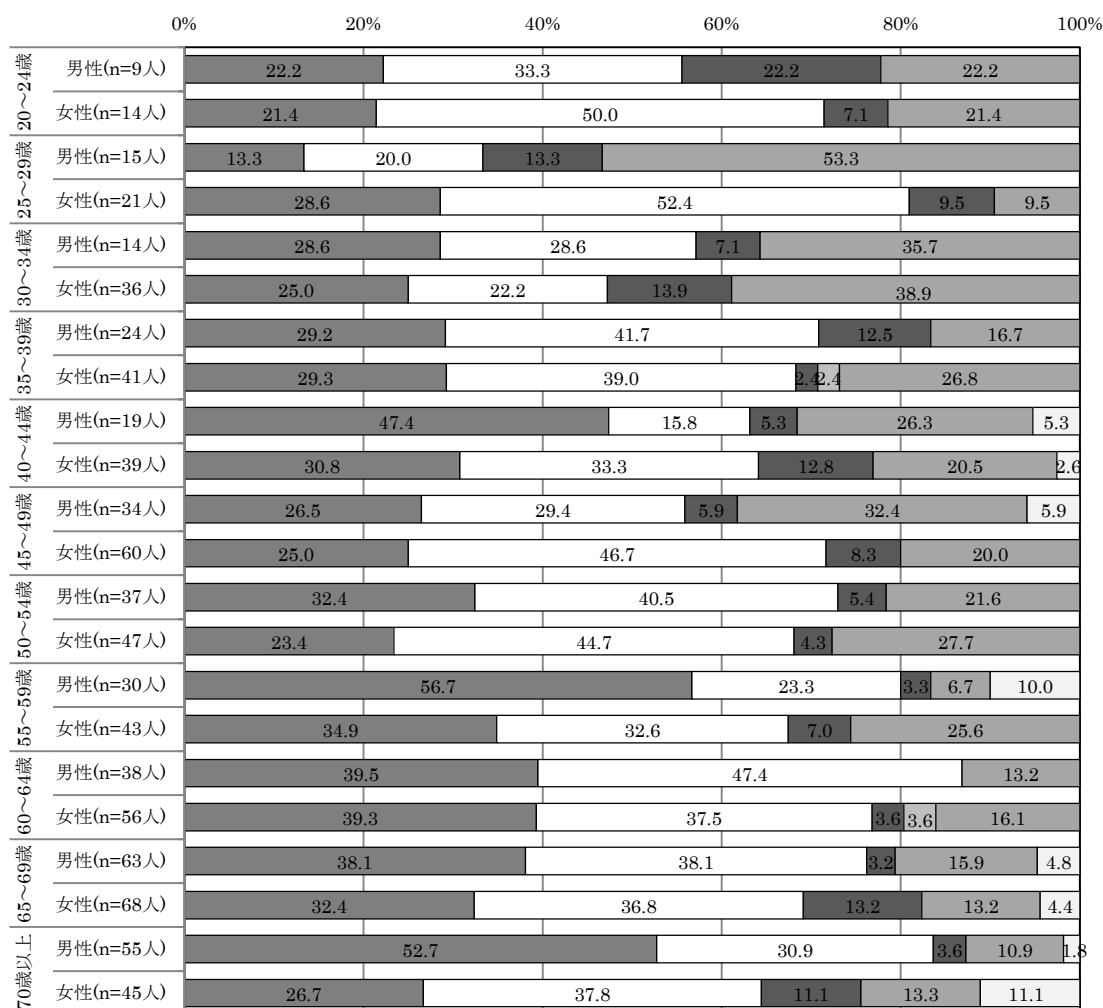
問 32 平成 30 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数（割合）は 7 人（17.9%）、平成 30 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数（割合）は 417 人（16%）となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを 1 つお選びください。

- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」（33.4%）及び「現在より少し増えた方がよい」（36.5%）という回答割合の合計は、約 7 割（69.9%）となっている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性 72.2%、女性 68.1%で、男性の方がやや高い。
- ・世代別性別でみると、25 歳～29 歳の女性と、60 歳～64 歳、70 歳以上の男性で、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計が 8 割を超えている。



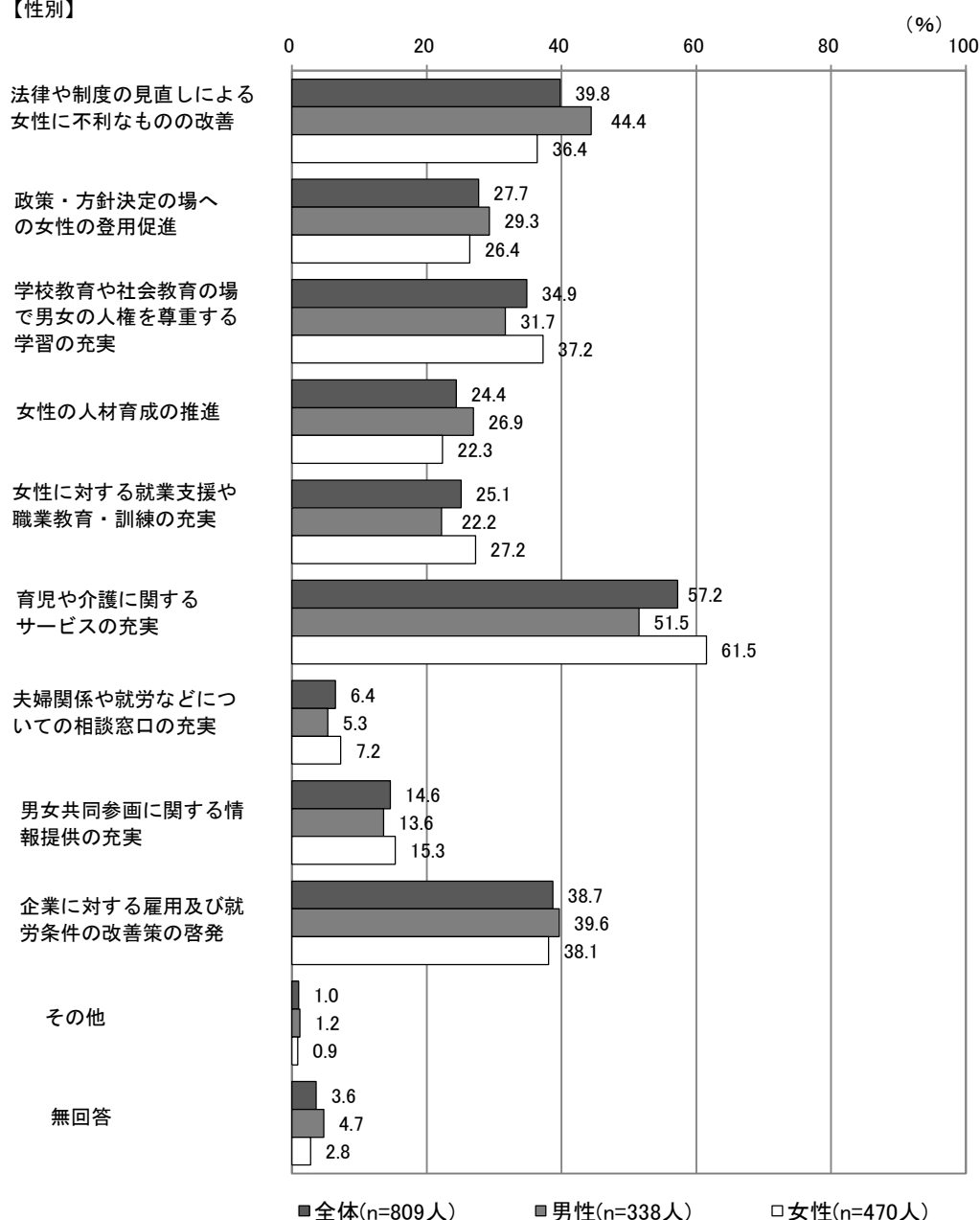
【世代別性別】



問33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(57.2%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(39.8%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(38.7%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.5%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(44.4%)、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(39.6%)となる。女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(61.5%)という回答が最も多くなっており、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発」(38.1%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(37.2%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	809	40.5%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	338	41.8%
②女性	470	58.1%
無回答	1	0.1%
合計	809	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	23	2.8%
②25歳～29歳	36	4.4%
③30歳～34歳	50	6.2%
④35歳～39歳	65	8.0%
⑤40歳～44歳	58	7.2%
⑥45歳～49歳	94	11.6%
⑦50歳～54歳	84	10.4%
⑧55歳～59歳	73	9.0%
⑨60歳～64歳	94	11.6%
⑩65歳～69歳	131	16.2%
⑪70歳以上	101	12.5%
合計	809	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	29	3.6%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	20	2.5%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	12	1.5%
④会社役員・経営者	37	4.6%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	262	32.4%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	198	24.5%
⑦家事専業者	136	16.8%
⑧学生	9	1.1%
⑨無職	97	12.0%
⑩その他	8	1.0%
無回答	1	0.1%
合計	809	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	80	9.9%
②一世代世帯(夫婦のみ)	212	26.2%
③二世代世帯(親と子)	420	51.9%
④三世代世帯(親と子と孫)	88	10.9%
⑤その他	8	1.0%
無回答	1	0.1%
合計	809	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	612	75.6%
②結婚していない	124	15.3%
③結婚していないがパートナーがいる	12	1.5%
④配偶者と離・死別した	60	7.4%
無回答	1	0.1%
合計	809	100.0%

F 結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規社員)	275	44.1%
②いる(非正規(勤務時間は正規社員と同じ))	41	6.6%
③いる(非正規(パート))	101	16.2%
④いない	178	28.5%
⑤その他	25	4.0%
無回答	4	0.6%
合計	624	100.0%

G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	607	75.0%
②いない	178	22.0%
無回答	24	3.0%
合計	809	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。

それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	275	34.0%
②女性が優位	89	11.0%
③平等である	361	44.6%
④わからない	75	9.3%
無回答	9	1.1%
合計	809	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	129	15.9%
②女性が優位	36	4.4%
③平等である	414	51.2%
④わからない	217	26.8%
無回答	13	1.6%
合計	809	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	503	62.2%
②女性が優位	16	2.0%
③平等である	173	21.4%
④わからない	107	13.2%
無回答	10	1.2%
合計	809	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	472	58.3%
②女性が優位	29	3.6%
③平等である	197	24.4%
④わからない	91	11.2%
無回答	20	2.5%
合計	809	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	338	41.8%
②女性が優位	30	3.7%
③平等である	272	33.6%
④わからない	157	19.4%
無回答	12	1.5%
合計	809	100.0%

6 習慣・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	632	78.1%
②女性が優位	16	2.0%
③平等である	74	9.1%
④わからない	74	9.1%
無回答	13	1.6%
合計	809	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	670	82.8%
②女性が優位	2	0.2%
③平等である	62	7.7%
④わからない	64	7.9%
無回答	11	1.4%
合計	809	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	592	73.2%
②女性が優位	14	1.7%
③平等である	89	11.0%
④わからない	103	12.7%
無回答	11	1.4%
合計	809	100.0%

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	379	46.8%
②聞いたことがある	295	36.5%
③知らない	127	15.7%
無回答	8	1.0%
合計	809	100.0%

2 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	81	10.0%
②聞いたことがある	235	29.0%
③知らない	485	60.0%
無回答	8	1.0%
合計	809	100.0%

3 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	98	12.1%
②聞いたことがある	190	23.5%
③知らない	513	63.4%
無回答	8	1.0%
合計	809	100.0%

4 女性活躍推進法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	120	14.8%
②聞いたことがある	253	31.3%
③知らない	426	52.7%
無回答	10	1.2%
合計	809	100.0%

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	435	53.8%
②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	197	24.4%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	542	67.0%
④男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	622	76.9%
⑤男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	469	58.0%
⑥その他	9	1.1%
無回答	15	1.9%
対象数	809	-

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	23	2.8%
②どちらかといえば賛成	256	31.6%
③どちらかといえば反対	331	40.9%
④反対	186	23.0%
無回答	13	1.6%
合計	809	100.0%

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚するまでは職業をもつ方がよい	23	2.8%
②子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	35	4.3%
③子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	380	47.0%
④子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	265	32.8%
⑤その他	97	12.0%
無回答	9	1.1%
合計	809	100.0%

女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。

問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	487	60.2%
②どちらかといえば必要だと思う	286	35.4%
③必要ないと思う	23	2.8%
無回答	13	1.6%
合計	809	100.0%

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	153	27.0%
②女性の方が優遇されている	1	0.2%
③平等である	287	50.7%
④わからない	85	15.0%
無回答	40	7.1%
合計	566	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	222	39.2%
②女性の方が優遇されている	11	1.9%
③平等である	198	35.0%
④わからない	95	16.8%
無回答	40	7.1%
合計	566	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	120	21.2%
②女性の方が優遇されている	62	11.0%
③平等である	267	47.2%
④わからない	78	13.8%
無回答	39	6.9%
合計	566	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	101	17.8%
②女性の方が優遇されている	8	1.4%
③平等である	334	59.0%
④わからない	83	14.7%
無回答	40	7.1%
合計	566	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が優遇されている	157	27.7%
②女性の方が優遇されている	2	0.4%
③平等である	285	50.4%
④わからない	81	14.3%
無回答	41	7.2%
合計	566	100.0%

問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①積極的に推進している	150	26.5%
②積極的とは言えないが推進している	250	44.2%
③推進しているとは言えない	117	20.7%
無回答	49	8.7%
合計	566	100.0%

問9 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	71	23.7%
②やや思う	119	39.8%
③あまり思わない	71	23.7%
④思わない	14	4.7%
無回答	24	8.0%
合計	299	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	58	19.4%
②やや思う	128	42.8%
③あまり思わない	58	19.4%
④思わない	31	10.4%
無回答	24	8.0%
合計	299	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	97	32.4%
②やや思う	122	40.8%
③あまり思わない	48	16.1%
④思わない	8	2.7%
無回答	24	8.0%
合計	299	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	69	23.1%
②やや思う	91	30.4%
③あまり思わない	84	28.1%
④思わない	31	10.4%
無回答	24	8.0%
合計	299	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	21	7.0%
②やや思う	51	17.1%
③あまり思わない	87	29.1%
④思わない	115	38.5%
無回答	25	8.4%
合計	299	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	15	5.0%
②やや思う	33	11.0%
③あまり思わない	78	26.1%
④思わない	142	47.5%
無回答	31	10.4%
合計	299	100.0%

問10 現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	207	25.6%
②まあ重要だと思う	361	44.6%
③重要だと思わない	100	12.4%
④わからない	44	5.4%
無回答	97	12.0%
合計	809	100.0%

2 女性職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	285	35.2%
②まあ重要だと思う	323	39.9%
③重要だと思わない	61	7.5%
④わからない	43	5.3%
無回答	97	12.0%
合計	809	100.0%

3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	400	49.4%
②まあ重要だと思う	235	29.0%
③重要だと思わない	50	6.2%
④わからない	30	3.7%
無回答	94	11.6%
合計	809	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	425	52.5%
②まあ重要だと思う	229	28.3%
③重要だと思わない	28	3.5%
④わからない	32	4.0%
無回答	95	11.7%
合計	809	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	494	61.1%
②まあ重要だと思う	172	21.3%
③重要だと思わない	28	3.5%
④わからない	22	2.7%
無回答	93	11.5%
合計	809	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	471	58.2%
②まあ重要だと思う	205	25.3%
③重要だと思わない	19	2.3%
④わからない	19	2.3%
無回答	95	11.7%
合計	809	100.0%

問11 離職されている女性の方におたずねします。

再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①正規社員	25	14.7%
②非正規社員	11	6.5%
③パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)	74	43.5%
無回答	60	35.3%
合計	170	100.0%

問12 問11で2または3を選ばれた方におたずねします。

その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児で家族の協力や理解が得られないから	16	10.4%
②正規社員で雇用する企業が少ないから	12	7.8%
③仕事より家庭生活を優先したいから	57	37.0%
④時間外勤務や休日出勤があるから	35	22.7%
⑤積極的に仕事に就くつもりがないから	23	14.9%
⑥その他	9	5.8%
無回答	2	1.3%
対象数	154	-

問13 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚・出産	230	54.4%
②家事・育児	120	28.4%
③介護・看護	64	15.1%
④転職・起業	99	23.4%
⑤配偶者の転勤	50	11.8%
⑥健康上の理由	84	19.9%
⑦給料が少ない	65	15.4%
⑧解雇等職場の都合	56	13.2%
⑨特に理由はない	30	7.1%
⑩その他	46	10.9%
対象数	423	-

問14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児と仕事の両立が難しい	671	82.9%
②女性が就ける仕事に限られている	187	23.1%
③活躍したいと思える仕事がない	54	6.7%
④活躍を望む女性が少ない	130	16.1%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	81	10.0%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	464	57.4%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	322	39.8%
⑧家族の理解が不十分	201	24.8%
無回答	37	4.6%
対象数	809	-

問15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	140	17.3%
②能力開発、自己啓発	137	16.9%
③働き方改革の推進	237	29.3%
④福利厚生の実施	247	30.5%
⑤賃金の男女平等	155	19.2%
⑥非常勤職員の正規職員化	116	14.3%
⑦家族の理解や協力	279	34.5%
⑧職場の理解や協力	371	45.9%
⑨女性自身の意識改革	164	20.3%
⑩育児・介護に関する制度の実施	377	46.6%
⑪ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	17	2.1%
⑫その他	6	0.7%
無回答	39	4.8%
対象数	809	-

問16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	515	63.7%
②求人情報や就職ガイダンスの実施	105	13.0%
③就職に関する相談体制の実施	188	23.2%
④再就職のための講座やセミナーの実施	114	14.1%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	720	89.0%
⑥保育所などの保育施設の実施	525	64.9%
⑦その他	17	2.1%
無回答	36	4.4%
対象数	809	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することおたずねします。

問17 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	278	34.4%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	273	33.7%
③知らない	239	29.5%
無回答	19	2.3%
合計	809	100.0%

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	29	3.6%
②「家庭生活」優先	159	19.7%
③「地域活動・個人の生活」優先	25	3.1%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	277	34.2%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	27	3.3%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	60	7.4%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	207	25.6%
無回答	25	3.1%
合計	809	100.0%

問19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	207	25.6%
②「家庭生活」優先	216	26.7%
③「地域活動・個人の生活」優先	29	3.6%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	182	22.5%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	35	4.3%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	66	8.2%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	45	5.6%
無回答	29	3.6%
合計	809	100.0%

問20 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	395	48.8%
②自分と家族が同じ程度している	150	18.5%
③自分は手伝い程度している	184	22.7%
④していない	59	7.3%
無回答	21	2.6%
合計	809	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	392	48.5%
②自分と家族が同じ程度している	105	13.0%
③自分は手伝い程度している	152	18.8%
④していない	138	17.1%
無回答	22	2.7%
合計	809	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	365	45.1%
②自分と家族が同じ程度している	205	25.3%
③自分は手伝い程度している	168	20.8%
④していない	50	6.2%
無回答	21	2.6%
合計	809	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	401	49.6%
②自分と家族が同じ程度している	84	10.4%
③自分は手伝い程度している	161	19.9%
④していない	141	17.4%
無回答	22	2.7%
合計	809	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	383	47.3%
②自分と家族が同じ程度している	147	18.2%
③自分は手伝い程度している	174	21.5%
④していない	83	10.3%
無回答	22	2.7%
合計	809	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	345	42.6%
②自分と家族が同じ程度している	154	19.0%
③自分は手伝い程度している	159	19.7%
④していない	126	15.6%
無回答	25	3.1%
合計	809	100.0%

問21 あなたは平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	256	31.6%
②1～2時間未満	171	21.1%
③2～3時間未満	143	17.7%
④3～5時間未満	119	14.7%
⑤5時間以上	93	11.5%
無回答	27	3.3%
合計	809	100.0%

問22 あなたは休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	170	21.0%
②1～2時間未満	188	23.2%
③2～3時間未満	152	18.8%
④3～5時間未満	147	18.2%
⑤5時間以上	123	15.2%
無回答	29	3.6%
合計	809	100.0%

問23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	100	29.7%
②自分と家族が同じ程度している	56	16.6%
③自分は手伝い程度している	96	28.5%
④していない	85	25.2%
合計	337	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	38	12.3%
②自分と家族が同じ程度している	22	7.1%
③自分は手伝い程度している	46	14.9%
④していない	202	65.6%
合計	308	100.0%

問24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。

主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	509	62.9%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	522	64.5%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	542	67.0%
④育児、介護は女性の方が向いているから	195	24.1%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	255	31.5%
⑥その他	39	4.8%
無回答	44	5.4%
対象数	809	-

問25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、
どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	329	40.7%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	309	38.2%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	82	10.1%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	196	24.2%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	483	59.7%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	284	35.1%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	75	9.3%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	45	5.6%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	48	5.9%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	266	32.9%
⑪その他	12	1.5%
⑫特に必要なことはない	9	1.1%
無回答	42	5.2%
対象数	809	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において
次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	221	27.3%
②そうではない	266	32.9%
③わからない	297	36.7%
無回答	25	3.1%
合計	809	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	388	48.0%
②そうではない	207	25.6%
③わからない	189	23.4%
無回答	25	3.1%
合計	809	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	130	16.1%
②そうではない	339	41.9%
③わからない	315	38.9%
無回答	25	3.1%
合計	809	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	193	23.9%
②そうではない	229	28.3%
③わからない	357	44.1%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	223	27.6%
②そうではない	186	23.0%
③わからない	373	46.1%
無回答	27	3.3%
合計	809	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	54	6.7%
②そうではない	303	37.5%
③わからない	426	52.7%
無回答	26	3.2%
合計	809	100.0%

問27 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	400	49.4%
②女性	2	0.2%
③男性も女性も	210	26.0%
④わからない	171	21.1%
無回答	26	3.2%
合計	809	100.0%

2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	265	32.8%
②女性	19	2.3%
③男性も女性も	324	40.0%
④わからない	175	21.6%
無回答	26	3.2%
合計	809	100.0%

3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	85	10.5%
②女性	119	14.7%
③男性も女性も	267	33.0%
④わからない	307	37.9%
無回答	31	3.8%
合計	809	100.0%

4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	41	5.1%
②女性	158	19.5%
③男性も女性も	280	34.6%
④わからない	299	37.0%
無回答	31	3.8%
合計	809	100.0%

5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	70	8.7%
②女性	190	23.5%
③男性も女性も	258	31.9%
④わからない	260	32.1%
無回答	31	3.8%
合計	809	100.0%

6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	42	5.2%
②女性	191	23.6%
③男性も女性も	289	35.7%
④わからない	253	31.3%
無回答	34	4.2%
合計	809	100.0%

問28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入	120	14.8%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	232	28.7%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	222	27.4%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	79	9.8%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	109	13.5%
⑥その他	11	1.4%
無回答	36	4.4%
合計	809	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問29 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	17	2.1%
②したことがある	6	0.7%
③受けたこともしたこともある	0	0.0%
④受けたこともしたこともない	756	93.4%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	61	7.5%
②したことがある	24	3.0%
③受けたこともしたこともある	30	3.7%
④受けたこともしたこともない	664	82.1%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	79	9.8%
②したことがある	51	6.3%
③受けたこともしたこともある	46	5.7%
④受けたこともしたこともない	603	74.5%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	18	2.2%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	756	93.4%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	92	11.4%
②したことがある	85	10.5%
③受けたこともしたこともある	152	18.8%
④受けたこともしたこともない	447	55.3%
無回答	33	4.1%
合計	809	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	35	4.3%
②したことがある	9	1.1%
③受けたこともしたこともある	6	0.7%
④受けたこともしたこともない	728	90.0%
無回答	31	3.8%
合計	809	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	69	8.5%
②したことがある	36	4.4%
③受けたこともしたこともある	15	1.9%
④受けたこともしたこともない	660	81.6%
無回答	29	3.6%
合計	809	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	58	7.2%
②したことがある	53	6.6%
③受けたこともしたこともある	67	8.3%
④受けたこともしたこともない	600	74.2%
無回答	31	3.8%
合計	809	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	26	3.2%
②したことがある	4	0.5%
③受けたこともしたこともある	2	0.2%
④受けたこともしたこともない	747	92.3%
無回答	30	3.7%
合計	809	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	52	6.4%
②したことがある	14	1.7%
③受けたこともしたこともある	4	0.5%
④受けたこともしたこともない	704	87.0%
無回答	35	4.3%
合計	809	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	25	3.1%
②したことがある	5	0.6%
③受けたこともしたこともある	4	0.5%
④受けたこともしたこともない	742	91.7%
無回答	33	4.1%
合計	809	100.0%

問30 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	171	21.1%
②長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	210	26.0%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	150	18.5%
④女性の人権ホットライン	166	20.5%
⑤県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	141	17.4%
⑥県警(警察安全相談窓口)	404	49.9%
⑦長野犯罪被害者支援センター	113	14.0%
⑧長野市男女共同参画センター	85	10.5%
無回答	239	29.5%
対象数	809	-

問31 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	432	53.4%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	199	24.6%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	146	18.0%
④人権侵害にあたるとは思わない	3	0.4%
⑤わからない	12	1.5%
無回答	17	2.1%
合計	809	100.0%

「男女共同参画施策」に関することとおたずねします。

問32 平成30年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は7人(17.9%)、平成30年4月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は417人(16%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	270	33.4%
②現在より少し増えた方がよい	295	36.5%
③現状でよい	58	7.2%
④現状より少なくてよい	3	0.4%
⑤わからない	164	20.3%
無回答	19	2.3%
合計	809	100.0%

問33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	322	39.8%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	224	27.7%
③学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	282	34.9%
④女性の人材育成の推進	197	24.4%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	203	25.1%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	463	57.2%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	52	6.4%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	118	14.6%
⑨企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発	313	38.7%
⑩その他	8	1.0%
無回答	29	3.6%
対象数	809	-

問34 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	106	13.1%
②文章回答無し	703	86.9%
合計	809	100.0%

自由意見

問34 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
女性	20歳～24歳	正規雇用者	自分の職場では男女の区別なく仕事をしているが、自分は女性であるため力仕事などは積極的に周りの男性が手伝ってくれている。得意なことは個人や性別によって違うので、全く均等にする必要はあるとは思わないが、性別を理由に分けるのは個人の能力を考慮していないのでやめた方が良いと思う。また、あまり過剰に「女性を登用」などしすぎると、それも性別で待遇を区別しているのではないかと思う。
男性	25歳～29歳	自営業（農・林・漁業）	どのような男女共同参画が適切かは、個人の事情によって異なるため、政治が統一的・全体的・公的にそれを適切に実現することはできないと考えます。大切なことは自由に任せることであり、民間に任せることです。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	確かに一昔前は男尊女卑であったかもしれないが、今はそれを是正しようとし過ぎて、女性はそれを盾に女尊男卑に導いている。このアンケートも男尊女卑を前提に作られている気がする。もう解消が進んでいます。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	私自身の話ですが、出産前は正職員として働き、産休・育休取得後に育児時間の制約があるために、職場の決まりでパートになりました。子どもの関係で急に仕事を休む等、勤務時間の優遇はありますが、正職員からパートになったことで生活の面で不安なことがあったり…、子育てをしながら仕事を続けることの難しさ、社会制度の不十分さを感じます。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	女性の積極採用はmustではなく、見合った優秀な人材を採用していくべきだと思う。女性の割合の数値目標は設けるべきではないと思う。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	社会で活躍したいと思っている女性、それに向け勉強や努力をしている女性を、能力以外の理由で排除するのはダメなことだと思うが、今の日本で、本当に政治や会社内で重要なポストに就き、活躍したいと思っている女性がどれだけののだろうか疑問に思う。自分の周りを見てもそういった女性は少ない。女性の社会進出を高らかに訴えるノイジーマイノリティーの意見だけでなく、本当の意味で女性・男性が共同して活躍できる社会になればと願います。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	機会の均等がイコール男女同数になるという考え方では、男性の機会を減らす方向になってしまうので、女性の必要とされるポジションと、意欲につながる制度づくりを期待します。
男性	30歳～34歳	非正規雇用者	職場や制度、特に各々の認識に「男か？男のくせに、男だから」というのもおうおうにあると思う。女性の背中を推すことはとても大事だが、男女や職場等の意識改革も大事だと思う。男女や個人の特性で「公平」にできると良いと思う。女性から、男にやらせろよ（面倒なこと等）もある。以前の職場で結婚した男性社員が、長野市から一番遠い支社への転勤があり、奥さん側の仕事の都合や希望を無視して、「奥さんには仕事を辞めてもらって、付いてきてもらえ」ということが何度もありました。国や企業にも協力してもらって、相談や配慮ができると良いと思う。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	男女共同参画の名の下に、無理に女性に下駄を履かせて登用するのは違うと思います。現状社会で発言できる女性とできない女性では、同じ女性であっても全く違うとも思います。大切なのは男とか女とかすら別として、誰でもが自分の希望を口にし、実現できるように努力できる社会を作ることだと思います。
女性	30歳～34歳	家事専業者	女性自身の考え方として、男性が重要な役割のポジションに付くことを受け入れていることの方が良いと思う。それが良い悪いということはないが、根本的にその考え方が変わらないと、現状は変わらないと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30歳～34歳	学生	「男性だから」「女性だから」ではなく、「その人だから」必要とされる社会の実現が必要だと思います。子は地域や社会の宝として、皆で育てていく意識が必要と考えます（子どもがいない人でも納税や地域参加で、“子育て”に役立っているという意識、子どもは将来自分たちを支える力となることを理解する）。
女性	30歳～34歳	無職	性別に関わらず、その仕事に見合った能力のある人が選ばれるべきであって、単なる数字の上での帳尻合わせでしかないのなら、本来の目的からは大きく外れていると思う。男女問わず、能力もないのに議員や管理職に登用されても満足な仕事もできず、結局現場を混乱させるだけのような気がする。無能な上司など迷惑極まりない。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	何より男性の働き方を変えることが重要。労働時間が短くなったことで、家族とのコミュニケーション・地域活動・子どもの保育への参加に充てられる時間とするよう（できるよう）、促していくことが大切ではないでしょうか。長い目で見て、ワークライフバランスを考えられる働き方をしていきたいと思う。定年や古い労働雇用慣行の改善を求めたい。
女性	35歳～39歳	自営業（農・林・漁業以外）	平等とはいえ実際男性と同じように仕事ができるかと言ったら、家庭があつて子どもがいたら絶対に無理だと思う。地域の役なども男性にやってもらった方が正直助かる（女性は家事などある）。昔ながらの働きの方が職場・家庭に無理がないのではと思ってしまう。何人女性を役員にするとかではなく、女性も尊重できる人がリーダーになるべきではないかと思う。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	子育て・介護しやすい環境が整えば、自然に社会における女性の活躍も増えると思う。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	家庭における女性の負担が圧倒的に重いと思う。男性は仕事・女性は家事育児という古い考え方を改めないで、本当の意味で女性が活躍するのは難しい。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	「女性活躍」として管理職を増やしていますが、「下駄」を履かせているという印象になっています。職種によっては、男性・女性の待遇差は仕方ないのかもしれませんが。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	男女という性別でなく、個人として見てほしいと思う。人それぞれ向き不向きがあると思うので、何割か女性でないで！！という考えが、かえって困らせることにも繋がるのではないのでしょうか？
女性	35歳～39歳	家事専業者	働きたいのに働けなく、育児・家事をしている女性はたくさんいます。私もその一人ですが、子どもは小さい、手伝ってくれる人はいない、預けられる場所もありません。主人は仕事が忙しく相談もできない。相談できる人もいません。
女性	35歳～39歳	家事専業者	男女それぞれに向いていることがあると思う。社会で働く、家庭で家事・育児をする、男女それぞれが自分の向いていることができると生活できれば、住みやすい社会になるのではと感じる。男だから女だからではなく、それぞれがいろんな能力に長けているので、その能力を最大限に活かせる社会であればと願うばかりである。結婚・出産・育児・介護等が足かせになるのではなく、どんな人も活躍できる社会作りを常に考えていただけると、子どもたちの未来がより明るくなるはずだと思う。子どもは県・国の宝です。
女性	35歳～39歳	家事専業者	体力的には男性優位、しかし精神力は弱い。体力的には女性は優位ではないが、精神力は強い。全てにおいて平等にすることは難しいので、過度な意識改革まではいらないと思うが、男女とも生活しやすい世の中になれば良いと思う。過度な意識とは「“男女”ではなく“女男”と呼ぶべき！」など。
女性	35歳～39歳	家事専業者	男性も積極的に育児ができるような労働環境や社会を望みます。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	議会・行政が最も男尊女卑の考え方。民間企業はもう変化している。市役所遅れすぎてる。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	40歳～44歳	正規雇用者	取り組む姿勢は女性の方が低い感じがする。女性は優遇されている気がします。
女性	40歳～44歳	自営業（農・林・漁業以外）	年齢が上の世代（60代～）の男性の固定観念がすごいと思います（男が偉い、女は後ろから付いてきて言うことを聞けというようなイメージ）。あと街中の人よりも田舎の方の方が、しきたりや男性優位を強く思っているようにも思います。男性も女性ももっと思いやりを持つ社会にしていっていただけたらと思います。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	育児のサポートが欲しい。児童センターやプラザの充実、また民間でも児童センターやプラザのような場所がないか知りたいです。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	平等（ひらたく同じ）ではなく、対等（二者間に優劣がない）が大事だと思います。男女間にはそもそも体力差・筋力差等の元の状態や、妊娠・出産等体の機能も違うのに、「平等」で同じ労働・家事分担・地域への参加を目指すのが、そもそも女性に負担が大きいことを気付いてもらいたい。全てにおいて、女性側が2割少ないくらいでやっと「対等」の負担割合なのでは。なので、平等ではなく対等で進めてほしい。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	法律や制度も大切ですが、未だに家の家事・学校行事・地域活動（名前だけ夫）等、妻である女性がしているという現状を、どうにかしないと変わらないと思います。まだまだ昔ながらの考えの親世代がたくさんいるので、そこを変えないと意味がないような…。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	このままではいけないとは思いますが、今さら「男女共同参画」と言われても、私自身この暮らしを変えたくないという思いがある。男女・年齢に関わらずに、自由に発言できる環境は、社会に出ると先進外国に比べてほぼ無いと思う。自分の頭で考え発言し行動するよう、小学生くらいから教育し、何十年もかけて成果を出すようにするしかないように思う。
女性	40歳～44歳	家事専業者	男女共同参画も大切なこととは思いますが、子育てをしている女性は何よりも我が子への教育を優先とすべきではないのかと思います。様々な情報に振り回されるこの時代、いかに人間らしい道德心のある人間として育て上げるかが大事（母親の義務）ではないかと考えます。私のこのような考えは古いのでしょうか。
女性	40歳～44歳	家事専業者	「男女共同参画」難しいことだと思います。このことを考え、実際やろうと思っている方達が、まず自分たちの考えを変えていかなければ、男女が平等に共同をとることはなかなかできないことなのではと考えます。今の社会はまだまだ男性優位に感じます。女性が主についていう環境はごくごく一部で、しかも学歴やら何やらがないと上には立てない。一市民が何かをしたくても声すら届かない。子どもたち未来のためにも、早急に変えてあげなければならない世の中だと思う。
女性	40歳～44歳	無職	男がフルタイム、女がパートというのではなく、逆もありと堂々と言える社会で良いのでは（例えば男性が半日働いて、家事の大半を引き受け、女性がフルタイムでバリバリ働くという、昔では考えられないスタイルの肯定化）。
男性	45歳～49歳	自由業	能力のある人を男女に関わらず（採用・登用）することが重要で、単に数を合わせることは不適切である。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	男性でも女性でも適性のある方がリーダーシップを取ってもらいたい。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	女性の活躍することに異論はないですが、女性という権利を言う前に、人として平等に行動すれば良いと思う。もちろん男も同様で。議員も人として活躍できる人なら、自ずと当選していくと思う。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	全てを女性のために行うみたいな考え方になっているが、男性の築き上げた経済等、事実についても女性は認めるべきであり、感謝の心を忘れるべきではないと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	45歳～49歳	無職	管理職の女性の割合をただ頭数だけ揃えるような方針には反対だ。男女関係なく能力・人間性の優れた人間を登用すべきだ。理想論かもしれないが…。今は男の管理職でも自分の仕事を知らずに部下に丸投げ、部下は大変苦勞している。固定観念で男性を優位・昇格させる社会・企業は問題であるが、要はその社会・企業で平等に査定する土壌がないのは確か。上に立つ人間においても自分より能力のある人間を恐怖視して、あえて評価しない（自分の立場が危くなるため）ことが日本の企業には多いのではないか。能力があってやる気のある女性がいた場合、その女性が管理職を希望するなら、それを実現させてあげるだけの経営者の度量・懐の深さが必要なのではないか。希望する女性にも、能力と共に人間性が伴われていなければならないが。議員についても本人が望むなら積極的に出ていってもらいたいが、強制的に数を揃えようとするのはいかがなものか。やはりその方の資質・能力・人間性で、平等に評価されるような社会にしてほしいです。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	ずっと働き続けていますが、やめる勇気もありませんでした。キャリアよりも家庭を大切にしたいと思う毎日です。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	「女性の登用推進」が、返って女性蔑視・女性差別につながることもあると考えます。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	実際問題として、女性の方も少なからず「男の人に任せておけば」ということもあるし、男性が役職の上に立っていてそれで話がスムーズに行ったということもあったりするのですが、共同参画をするなら私たち女性も意識を変えなければいけないと思います。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	社会人になって初めて有給を使用した翌日、先輩が「有給ありがとうございます」と言うのと良いよと教えてくれた。当然使用できるものを使って、何でそんなことを言わなくてはいけなのかな？とその時は思ったが、今はとても良く分かる。育休や介護休暇を取得する法があっても、感謝の気持ちを持って行なうのと当然と思っで行なうのでは、周りの感じ方が違う。当然の権利ではあるが、周りにも認められて「良かったね休めて」となるようなコミュニケーションが取れると浸透しやすいかもしれない。人は感情の生き物なので、受け入れやすいようコミュニケーションの行動の教育も必要だと思う。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	育児も介護も家庭での生活活動もできる上での職場で働ける職場づくり。育児もしながら働けないのなら子どもも作れないと思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	女性が重要な役割に就くのはとても大事だと思いますが、今の現状は何かを犠牲にしないとできないことだと思います。特に結婚し子どもがいると、頼れる人がいればまだ良いけれど、いない人たちはとても困っていると思います。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	長野県は保守的な方が多いようなので、男女共同参画という言葉が浸透するとは思えません。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	就業に対しての「男女共同参画」という考えや疑問・問題については、多くの課題があると考えています。しかしながら男性が女性への理解をする必要があることはもちろん、恵まれた環境にある女性が、なかなか職場復帰できないような女性に対しての偏見や差別も多く見られます。男性も、働きやすい女性への理解や優遇はあるが、再就職への理解が乏しいと思います。男女共同参画社会基本法が進まない背景の一つに、競争社会の中で女性同士の理解や協力する気持ち、意識の低さも少なからず影響しているのではと感じています。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	45歳～49歳	家事専業者	「男女共同参画」がどれだけ社会に浸透しているのか、専業主婦のせいなのか肌で感じることはありません。身近なところだと、PTA会長は暗黙の了解のように男性から選出をされてますし、自治会も男性のお年寄りの集まりに見えます。せっかくの良い基本法があっても市民の意識改革が必要に思えます。女性というだけで優遇されても男性から反感を買ってしまうでしょうし、女性にとっても迷惑な場合もあると思うので、男女関係なく昇給・昇進・仕事内容等、能力・実績・結果等で決められると良い。
女性	45歳～49歳	家事専業者	学校では男女平等の教育を受け、性差を思いやった上での平等な毎日を過ごしたものの、職場や結婚において理不尽な思いを随分してきた。「嫁＝もらった物」との考えに、時代錯誤も甚だしい、と戦ったこともあったが…、現在は諦め、自分の感情を無にして接している。男尊女卑の考えを持った古い世代には男女共同参画の考えなど届かないことを日々実感しつつ、我が子には本で歴史を学びながら各世代の考え方の差を丁寧に説明し、共に考えながら過ごしている。大切なのは「互いを思う気持ち」、「慮る気持ち」なのだという事を痛感しつつ、各世代に男女共同参画社会の考えが行き渡るよう日々願っている。
女性	45歳～49歳	家事専業者	家制度の名残から脱却するためにも夫婦別姓を進めるべき（法律を改正する）。男性より女性の進学率が低いので、社会の意識を変えるべき。女性にも学問は必要（DVに負けないため、出産後の再就職のためにも）。父親に協力する気持ちがあっても、会社への負担を考えてできない。ワークシェアを活用できないかと思う（※ワークシェアは育児中の女性の就業にも有効だと思う）。子ども的人数に応じて有給を増やしてほしい（3人分のPTA・学校行事・体調不良に対応しきれず離職）。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	男性・女性の「性差」はあると思う。完全に同じと考えるのではなく、適材適所でうまく社会参画できるようになると良い。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	男女を意識しない、このようなアンケートが実施されない、個人を生かす社会になってほしい。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	自治会等の役員選出の場においても、女性の役員登用を促す声も聞こえるが、多くの女性が家庭の中におり、役員等の役割を自ら断るケースが多いと感じる。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	とにかく意識改革が必要。特に男性と40～50代以上の男女。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	基本的に自分の生活が安定しないと、こういった課題は進展しないのではないかと思います。行政においても将来の安定（年金・福祉・安全）を確実にすること、そう思わせることが必要なのでは…（具体的でないが）。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	女性が社会に参画するのは賛成だが、子を産むことは女性にしかできない。まずは女性が安心して産み育てる意識・気持ちを、周りがどれだけ理解し、サポートできる環境を作ることが最優先だと思う。あまり男女平等にこだわると、子どもが良い環境の中で育てられない場合があると思う。子どもが母親に求めている役割は、父親にはできないものもある。母親が無理なく子育てができるように、職場の労働環境や父親の仕事の調整ができることが、女性が無理なく参画できるといことであり、男女平等に仕事をするということに固執せず、女性が柔軟に働ける環境を整えることが一番だと思います。
女性	50歳～54歳	家事専業者	男尊女卑の強い考えの親のもと育てられた男性は、家族や社会の中で男は優位と思い横暴に振る舞う。本来人は平等であり、どちらが優位ということはある得ない。学校や社会の中で、人権の平等・尊重を正しく教育することがとても大切だと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50歳～54歳	家事専業者	若いときは男女平等が当然で当たり前と思って育った。大人になってもそうだった。だが年を取ってくると同じではない。男女の差に気付いてくる。体力にしても能力にしても充実する男性に比べると、女性は反比例のように落ちていく。平等というものの内容を良く考え、お互いを思いやることのできるような男女共同参画にならなければいけないと思う。ただ女性の地位を上げるだけを目指すのは、必要ではないと思う。
男性	55歳～59歳	非正規雇用者	平等に意識・意欲を持たせる制度や教育等が必要
女性	55歳～59歳	正規雇用者	病気になった子どもを預かって見てくれる保育園が必要。仕事はなかなか休めないなので、子育てをサポートしてくれる体制が必要です。介護の場合も同じです。介護施設を増やして入所しやすい状況にしてほしい。
女性	55歳～59歳	正規雇用者	男女が全て同じではないということを、男性にも女性にも感じてほしいと思う。それぞれの良さを生かし個々を尊重することが、必要なのではと思う。熊本市議会で乳児を議場に連れてきて退席を迫られた女性議員が話題となったが、やむにやまれない状況でのことだと思う。女性が男性と対等であることと、女性ならではの違いや環境を認めることは、別物だと思えます。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	少子化が進む中で、男だ女だと言っていられなくなるのではないかな。そうなる前に学校教育の場で、また家庭で、コミュニケーション・人権尊重等の教育が必要。女子校・男子校はどうなのかな。そうは言っても男女の得意分野があるので、そこが一番の尊重分野だと思います。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	子育てから離れ、成人した子どもたちを持つ年代からすれば、男女共同参画の実現に、申し訳ありませんがあまり関心がなく申し訳なく思います。
女性	55歳～59歳	家事専業者	社会の中でいろんな制度を作っても、雇用する側の理解がないとなかなか利用できないと思う。男性の育休も当たり前になれるようにしたいと思います。
女性	55歳～59歳	家事専業者	高齢化が進み、介護しながら家庭生活を送る期間が長くなってきています。自分の時間を持ちたいと思いつつも、そうもいかず日々を過ごしています。介護なんて一人でやれるほど甘いもんじゃなく、人並みに生活するには二人が必要。社会で活躍するには負担が大きいのかもしれません（特に地区の役や行事等）。自分も日々やれないこと、できづらくなっていると感じています。これからの若い人々が思いやりを持って、生き生き生活できることを願っています。
女性	55歳～59歳	家事専業者	一番は本人の考え方や意識の問題のように思う。自治会などは、やらなくて良いものなら誰でもやりたくないものだ。まして女性ともなれば余計そうだろう。PTAも同じだ。小学校からのジェンダー教育が社会全体に浸透するのは、あと10年くらいはかかるかなと思う。
女性	55歳～59歳	無職	ほとんど全ての事柄・習慣・しきたりにおいて、「男性優位」を感じます。「職場」でも同じです。女性は家事・育児・介護にとっても忙しく、男性の理解も少なく疲れています。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	一部の人だけの「男女共同参画」にならないよう、自己満足的な施策にならないようにしてほしい。研修会も良いが、担当課の皆さんは地域に出ていただければと思う。
男性	60歳～64歳	その他	行政・民間を問わず、女性活用の掛け声ばかりで実態が伴っていない。行政においてこの状態を率先して改善し、女性の声がより社会に反映されるようすべきだと思います。このアンケートを通じ、身近なところから自分も実践していかなくてはと改めて考える良い機会になりました。男社会などという言葉が使われなくなる日がくれば良いと思います。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業以外）	男女に限らず長時間労働をなくし、休みを取りやすくしないと過労死する働き方を変えてほしい。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	かなり進んでいると思う。女性の登用はすごく増えている。能力のある人（男女に関わらず）が登用されれば良い。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	女性が強くなり、色々なことが変わってきていると思う。家族ということの大事さ、結婚しない人の多さ、もっと子孫を残して家というものの大事さを考えてほしい。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	どんなに法律や制度が改善しても（改善することが必要ではあるが）、女性の特性が担わなければならない面がある。男性・女性という前に人間として、誰もが（特に女性）尊重される制度やサービス・施設等の充実と同時に実施されていかないと、絵に描いた餅になってしまう。長いスパンの中で、市政の重要な柱として具体策に取り組んでいただきたい。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	「男女共同参画」について知ってもらえることに、力を尽くしていただきたいと思います。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	自分は進んで何か実行に移すタイプではないが、縁の下の方力持ちまではできなくとも人様のお役に立ちたいという気持ちで生活している。皆がウィンウィンの関係になればと願っている。どうしたら相手に喜んでもらえるか、という目線で仕事をしていきたい。
女性	60歳～64歳	家事専業者	「男女共同参画」の言葉はよく耳にしますが、実際どのような具体的活動をしているのか知る機会がない。
女性	60歳～64歳	家事専業者	女性の社会進出を促しているようにも思えるが、特に子育て・育児・家庭のこと、子どもにとっても家庭での在り方・生活は大切だと思う。男性女性ともに、こう暮らしたい・こう働きたいという生活のしやすさ、生き甲斐を共に持てる社会であってほしいと思う。地域社会の自治の在り方も、高齢者には難しい問題が出てきているところのようです。
男性	66歳～69歳	会社役員・経営者	男女平等は行政側の言う理想論です。現実には神代の時代より日本は男社会です。しかし欧米の文化・社会規範等が終戦後雪崩のように流れ込み、従来の日本人の素晴らしさ等が良きにつけ悪しきにつけドブに捨ててしまいました。その結果日本女性の女性としての優しさ・行儀・所作・動作全てがアメリカ等の真似文化になりました。こんなことではアメリカの望むアメリカの1州になります、と心ある人は考えてますよ。
男性	66歳～69歳	非正規雇用者	関係機関が多くて、皆別々の予算で行動しているのは良くない。機関を減らして相談できるようにすべき。
男性	66歳～69歳	非正規雇用者	この件一番悩むところ、若い年代層が地区において激減している。役員や参画されている方の若い時代は、上記のようなことを気にすることはなかったと思う。この感覚で色々組織を企画しても、改善しても、気持ちが伴わない。家事のことで体力も考えながらのことになってしまいます。私の方からお聴きします。高齢化地区にどう対応すればよろしいのでしょうか。
男性	66歳～69歳	無職	「男と女は平等に」を強要するのではなく、男と女が違う（身体的にも精神的にも）を前提に、共同で互いを尊重するという考えが必要だと思います。
女性	66歳～69歳	自由業	私はもうリタイア同然ですが、子どもたちは各々共働きで育児真ただ中。女性が（もちろん男性も）子育てをしながら働きやすい環境は、制度上はかなりできてきていますが、実際の職場環境に十分理解浸透しているかは疑問です。管理職・中間管理職への理解の徹底が必要だと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	66歳～69歳	家事専業者	まだまだ女性の家事の負担が重い現状があると思います。女性が働くには、仕事・家事・育児の全面的負担があります。特に子どもが病気の場合は、おじいちゃん・おばあちゃんに見てもらえない人は仕事を休んだり、早退しなくてはならず、職場の風当たりが強いのが現状です。病気の時に見てもらえるベビーシッターさん等や、病児病後児保育の充実が望ましいと思います。介護保険制度による介護士さん派遣のように、子ども保険制度のような形でベビーシッターさんや見守りの方の派遣制度があったらと思います。
女性	66歳～69歳	家事専業者	女性の社会進出を言うけれど、女性がどこまで、女であることに甘えずに生きていけるかというところが、キーポイントだと思います。まず女性が自立し、男性にこびず、甘えずに生きていくんだと強く考えていけば、育児も合理的にできると思います。
女性	66歳～69歳	家事専業者	住民自治協議会の役員こそ、半数は女性であるべきと考えます。
女性	66歳～69歳	無職	子どもの行事などは女性が行くものと、女性自身が決めつけているところがあるのかなと思います。自分のしている仕事の重要性の認識が少し低いように思います。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	行政自らが先頭に立って行うべき。副市長に女性を登用すべきである。
男性	70歳以上	非正規雇用者	企業・政治家等、世の中の高齢な男性リーダーの意識改革が重要だと思います。
男性	70歳以上	非正規雇用者	育児・介護を男性も分担してやること。
男性	70歳以上	無職	県や市での啓発活動の推進。相談窓口等での個別対応の推進
男性	70歳以上	無職	無理矢理に上から女性の参画・登用を進めると、実力・能力のない女性をただ単に上に飾ってしまう恐れあり。在職中、女性幹部を増やすという方針で、能力もない女性が登用され、全く機能しなかったことがある。
男性	70歳以上	無職	男女共に意識改革が必要
男性	70歳以上	無職	共同参画は進めていく必要はあるが、数または量ではなく、本当に適材であるということが基本だ！！
男性	70歳以上	無職	自治協議会としても大いに理解していただき、ことあるごとにPRして、男女とも参画するよう推進していただく必要がある。
女性	70歳以上	家事専業者	昔、女性の職場に託児所を作ると働きやすいという動きがありました。なるほど…と思ったのですが、送り迎えも女性。子どもが具合悪くなって引き取り帰るのも女性になるので、反対という意見がありました。一人一人生活環境が違うので、これをすればというのではないと思います。女性も能力があっても、賃金や家庭とのバランスが取れていればこれで良いと思う人もいます。男性と同じように残業・転勤があるとと思うと難しい。
女性	70歳以上	家事専業者	男社会はまだまだ続いているようですね。改善されていくことを祈っております。

調査票

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 習慣・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
3 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	
4 女性活躍推進法	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 5 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 6 その他 ()

問3

次ページもございます

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問4

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうか考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 2 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 3 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 4 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 5 その他 ()

問5

女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。

問6 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうか考えですか。次の中から1つお選びください。

- 1 必要だと思う
- 2 どちらかといえば必要だと思う
- 3 必要ないと思う

問6

問7 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	わからない		問7
1 賃金	1	2	3	4	→	
2 昇進や昇格	1	2	3	4	→	
3 仕事の内容	1	2	3	4	→	
4 研修の機会や内容	1	2	3	4	→	
5 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	→	

問8 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 積極的に推進している
- 2 積極的とは言えないが推進している
- 3 推進しているとは言えない

問8

問9 現在職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そう 思う	やや 思う	あまり思 わない	思わ ない		問9
1 あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	→	
2 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	→	
3 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	→	
4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	→	
5 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	→	
6 退職して仕事に就かない	1	2	3	4		

問10 職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。
女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	とても 重要だ と思う	まあ重 要だ と思う	重要だ と思わ ない	わか らな い		問10
1 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4	→	
2 女性職員の採用拡大	1	2	3	4	→	
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善	1	2	3	4	→	
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4	→	
5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4	→	
6 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4		

問11 離職されている女性の方におたずねします。
再就職される場合の雇用形態について希望されるものを
次の中から1つお選びください。

- 1 正規社員
- 2 非正規社員
- 3 パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）

問11

問12 問11で2または3を選ばれた方におたずねします。
その理由を次の中からあてはまるものを2つまでお選びください。

- 1 家事や育児で家族の協力や理解が得られないから
- 2 正規社員で雇用する企業が少ないから
- 3 仕事より家庭生活を優先したいから
- 4 時間外勤務や休日出勤があるから
- 5 積極的に仕事に就くつもりがないから
- 6 その他（)

問12

次ページもごさいます

問 13 離職経験のある方におたずねします。

離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- | | | |
|----------|------------|-----------|
| 1 結婚・出産 | 2 家事・育児 | 3 介護・看護 |
| 4 転職・起業 | 5 配偶者の転勤 | 6 健康上の理由 |
| 7 給料が少ない | 8 解雇等職場の都合 | 9 特に理由はない |
| 10 その他 | [] | |

問 13

問 14 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

- 1 家事・育児と仕事の両立が難しい
- 2 女性が就ける仕事に限られている
- 3 活躍したいと思える仕事がない
- 4 活躍を望む女性が少ない
- 5 お手本となる「活躍する女性」が身近にいない
- 6 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い
- 7 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分
- 8 家族の理解が不十分

問 14

問 15 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が重要だと思いますか。

該当するものを3つまでお選びください。

- | | | |
|-----------------------------------|-------------|---------------|
| 1 女性の積極的登用 | 2 能力開発、自己啓発 | 3 働き方改革の推進 |
| 4 福利厚生の実施 | 5 賃金の男女平等 | 6 非常勤職員の正規職員化 |
| 7 家族の理解や協力 | 8 職場の理解や協力 | 9 女性自身の意識改革 |
| 10 育児・介護に関する制度の実施 | | |
| 11 ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） | | |
| 12 その他 | [] | |

問 15

問 16 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。該当するものを3つまでお選びください。

- 1 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること
- 2 求人情報や就職ガイダンスの実施
- 3 就職に関する相談体制の実施
- 4 再就職のための講座やセミナーの実施
- 5 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備
- 6 保育所などの保育施設の実施
- 7 その他 []

問 16

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することにおたずねします。

問 17 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問 17

--

次ページもごさいます

問 18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問 18

問 19 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問 19

問 20 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない		問 20
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの 買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問 21 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
あてはまる番号を1つお選びください。

- 1 0～1時間未満
- 2 1～2時間未満
- 3 2～3時間未満
- 4 3～5時間未満
- 5 5時間以上

問 21

問 22 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つお選びください。

- 1 0～1時間未満
- 2 1～2時間未満
- 3 2～3時間未満
- 4 3～5時間未満
- 5 5時間以上

問 22

問 23 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。
 あなたは育児または介護をどの程度していますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分が している	自分と家族 が同じ程度 している	自分は手伝 い程度して いる	していない	
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→
2 介護	1	2	3	4	→

問 23

問 24 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
 主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
- 4 育児、介護は女性の方が向いているから
- 5 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 6 その他(具体的に

問 24

問 25 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していく
 ためには、どのようなことが重要だと思いますか。
 次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

問 25

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 26 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうで ある	そうで はない	わから ない		問 26
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問 27 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性	女性	男性も 女性も	わから ない		問 27
1 自治会の役員活動	1	2	3	4	→	
2 自治会の行事等の活動	1	2	3	4	→	
3 PTAの役員活動	1	2	3	4	→	
4 PTAの行事等の活動	1	2	3	4	→	
5 育成会の役員活動	1	2	3	4	→	
6 育成会の行事等の活動	1	2	3	4	→	

問 28 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
- 4 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 5 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 6 その他（具体的に _____）

問 28

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

次ページもごさいます

男女の「人権」に関することでおたずねします。

※2

問 29 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問 29
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問 30 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（警察安全相談窓口）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 30	

次ページもごさいます

問 31 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 31

--

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 32 平成 30 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は7人(17.9%)、
平成 30 年 4 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は417人(16%)
となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 32

--

問 33 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会
を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。
特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 企業に対する雇用及び就労条件の改善策の啓発
- 10 その他(具体的に

問 33

--

--

--

問 34 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

--

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ10月15日(月)までにポスト
へご投函ください。

平成30年12月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5032(直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター